

# 第4章 大学キャリアセンター教職員等へのアンケート調査

## 第1節 大学アンケート調査のフレームワーク

### 調査の概要

本章ではわが国の大学におけるインターンシップ、特に長期インターンシップの現状と課題について、大学キャリアセンター教職員等に実施したアンケート調査の結果を報告する。対象としたのは文部科学省が設けている「大学等におけるインターンシップの届出制

表4-1. 「大学キャリアセンター教職員等へのアンケート調査」対象大学

設置者	対象大学				
国立大学 (42校)	秋田大学 大阪大学 岐阜大学 神戸大学 電気通信大学 徳島大学 奈良女子大学 福島大学 琉球大学	茨城大学 岡山大学 九州大学 佐賀大学 東京大学 豊橋技術科学大学 新潟大学 北海道大学 和歌山大学	宇都宮大学 鹿児島大学 九州工業大学 滋賀大学 東京海洋大学 長岡技術科学大学 一橋大学 宮崎大学	愛媛大学 金沢大学 京都大学 静岡大学 東京工業大学 長崎大学 広島大学 山形大学	大分大学 鹿屋体育大学 熊本大学 筑波大学 東北大学 名古屋大学 福井大学 山梨大学
公立大学 (12校)	会津大学 下関市立大学 福山市立大学	秋田公立美術大学 富山県立大学 山口県立大学	岩手県立大学 長崎県立大学	大阪府立大学 名古屋市立大学	公立千歳科学技術大学 広島市立大学
私立大学 (115校)	愛知工業大学 医療創生大学 大阪国際大学 大手前大学 金沢工業大学 北里大学 京都文教大学 久留米大学 神戸学院大学 札幌大谷大学 十文字学園女子大学 聖学院大学 仙台大学 中央大学 東京医療保健大学 東京電機大学 東北公益文科大学 豊橋創造大学 日本工業大学 兵庫大学 福井工業大学 法政大学 ものづくり大学 流通経済大学	愛知淑徳大学 浦和大学 大阪産業大学 岡山商科大学 関西外国語大学 京都産業大学 杏林大学 敬愛大学 神戸松蔭女子学院大学 山陽学園大学 成城大学 創価大学 中京学院大学 東京工科大学 東京都市大学 東北生活文化大学 長浜バイオ大学 日本文理大学 弘前学院大学 福岡学院大学 北翔大学 横浜商科大学 早稲田大学	朝日大学 桜花学園大学 大阪商業大学 岡山理科大学 関西福祉科学大学 京都精華大学 近畿大学 恵泉女子学園大学 静岡理工科大学 尚綱学院大学 星城大学 玉川大学 中部大学 東京工芸大学 東京富士大学 東北福祉大学 名古屋経済大学 日本経済大学 広島経済大学 福山大学 武蔵野大学 立教大学	亜細亜大学 追手門学院大 大阪体育大学 嘉悦大学 関西学院大学 京都橘大学 金城大学 工学院大学 神戸薬科大学 四天王寺大学 椋山女学園大学 清泉女学院大学 千葉経済大学 筑波学院大学 東京国際大学 同志社女子大学 東洋大学 名古屋文理大学 日本大学 広島修道大学 富士大学 明海大学 立正大学	跡見学園女子大学 大阪経済大学 大阪電気通信大学 神奈川工科大学 神田外語大学 京都ノートルダム女子大学 熊本学園大学 甲南大学 相模女子大学 芝浦工業大学 駿河台大学 専修大学 千葉商科大学 帝京大学 東京聖栄大学 東邦音楽大学 苫小牧駒澤大学 西九州大学 八戸工業大学 広島文教女子大学 佛教大学 明治学院大学 流通科学大学

(設置者別アイウエオ順)

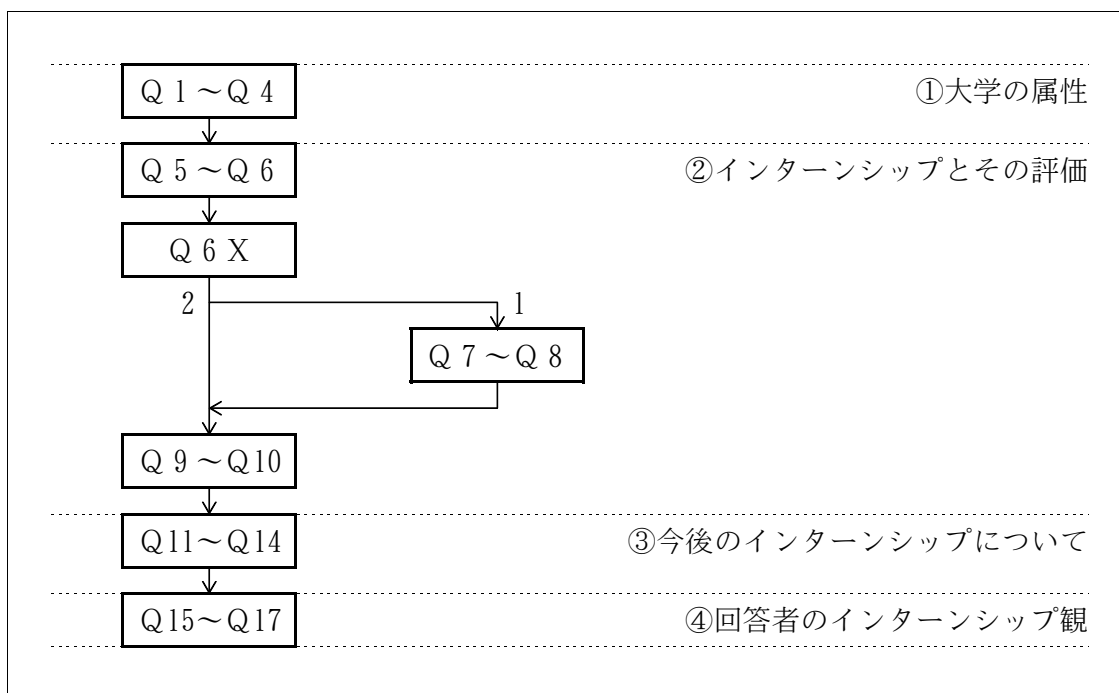
度」で平成30（2018）年度に届け出た大学 164校（短大、高専を除く）に旧帝大 5 校を加えた 169校である。調査票は文部科学省高等教育局学生・留学生課が把握する各大学のキャリアセンター等の関係先に配信された。送付先の 169校を表 4 - 1 に示す。

本アンケート調査の調査票は主として文部科学省において作成した。その調査票（原稿版）を本章末に収録する。調査票は図 4 - 1 に示すように、

- ① 大学の属性
- ② インターンシップとその評価
- ③ 今後のインターンシップについて
- ④ 回答者のインターンシップ観

の 4 ブロック18問から成る（最後の設問番号がQ17であるのは、最終段階の設問追加を番号への記号付加で処理したため）。「資料 3」に基礎集計の結果を収め、重要ポイントに絞って第 2 節以下の記述を進める。

図 4 - 1 . 「大学アンケート調査」の設問構造



### 調査の手順

本調査の実施にあたっては、株式会社クロス・マーケティング（東京都新宿区）が提供する Web アンケートサービス「ASP」（図 4 - 2 参照）を利用した。これは同社のサーバー上にジャンプ先の制御機能を備えた電子調査票を設置し、回答者に URL を案内して回答を促すもので、多めの質問項目にも負担感は少なく、もって回収率を上げることができる。

調査票は株式会社クロス・マーケティングを交えた協議により 2020 年 2 月 6 日に完成し、同日にサーバー上にインストールされて、翌 7 日に文部科学省から配信された。第 5 章で

扱う学生アンケート調査（同じ 169大学で実施）と同時の実施で、締切は 2月29日23時59分に設定された（回答可能状態は 3月 8日まで維持）。本報告書末尾の「資料 1. 文部科学省から大学に送付した依頼文書」にその際の依頼文等を収録する。大学としての回答を得るため、1大学 1票とした。

図 4-2. 「ASP」の概念図



（株式会社クロス・マーケティング提供）

締切処理は 3月 2日10時00分に行なわれた。その時点で届いていたのは 105票で、その後到着した 1票も加えたが、自由記述欄の記述から二重送信であることが判明した 1票については最初のを削除した。その結果、分析対象は 105票（回収率62.1%）となった。分析には統計パッケージ「IBM SPSS Statistics 26」および株式会社クロス・マーケティングの分析ツール「CrossFinder 2」を使用した。回答にご協力いただいた各大学の関係者に深謝申し上げる。

## 第 2 節 分析結果

### 回答大学の属性

調査票に回答した 105大学の属性を表 4-2 に示す。大学の設置者（Q 1）は国立大学 33校、公立大学 4校、私立大学 68校で、回収率はそれぞれ 78.6%、33.3%、59.1%であった。所在地（Q 3）はいわゆる旧帝大を擁する北海道、宮城、東京、愛知、京都、大阪、福岡の 7 都道府県と交通至便な隣接県である神奈川、兵庫の 9 都道府県を「都市圏」、それ以外を「地方圏」とした。都市圏の大学と地方圏の大学はほぼ半数ずつである。

文系理系は学部、学科や大学院研究科、専攻の設置状況（Q 2）から、文部科学省の指定に従って、人文科学（教養含む）、社会科学（国際関係含む）、家政、教育、芸術、その他を置く場合に「文系フラグ」、理学、工学、農学、医学・歯学・看護学、薬学、保健（医学・歯学・看護学・薬学以外）、商船を置く場合に「理系フラグ」を立て、これらか

表 4 - 2 . 回答大学の属性

Q 1		度数	%
設置者	国立大学	33	31.4%
	公立大学	4	3.8%
	私立大学	68	64.8%
計		105	100.0%

Q 2		度数	%
文系理系	文系	38	36.2%
	文系+理系	54	51.4%
	理系	13	12.4%
計		105	100.0%

Q 3		度数	%
所在地	都市圏	55	52.4%
	地方圏	50	47.6%
計		105	100.0%

Q 4		度数	%
学生数	100人未満	2	1.9%
	100人以上500人未満	27	25.7%
	500人以上1000人未満	17	16.2%
	1000人以上2000人未満	27	25.7%
	2000人以上4000人未満	20	19.0%
	4000人以上	12	11.4%
計		105	100.0%

Q 15		度数	%
中心的回答者	役員	1	1.0%
	教員	13	12.4%
	キャリアコンサルタント	4	3.8%
	事務職員	84	80.0%
	その他	3	2.9%
計		105	100.0%

[その他]教員と事務職員/文系・理系で回答者の職種が異なる/教員と事務職員

ら「文系理系」という新しい変数を作成した。文系だけの大学は「文系」、両系ある大学は「文系+理系」、理系だけの大学は「理系」とした。大学数はそれぞれ38校、54校、13校である。後の質問で文系学生に関してセンター職員の見るところを問う場合は「文系」と「文系+理系」、理系学生の場合は「文系+理系」と「理系」の大学を対象とする。こうした場合の大学数は前者92校、後者67校であった。学生数（Q 4）は 1,000人未満が46校、1,000人以上が59校である。調査票の中心的回答者（Q 15）は大半が事務職員であり、大学としての回答が得られているものと思われる。

データ分析においては条件をなるべく多重に設定することが望ましいが、カテゴリーごとのサンプル数とのバランスも考えなければならない。以下ではまず国立大学と公立大学を統合して「国公立大学」とし、また文系理系での学修における実態上の相違が指摘されていることから文系理系の相違に注目する。設置者と文系理系のクロス集計結果は表 4 - 3 に示すとおりで、私立大学は文系に重心があることがわかる。

表 4 - 3 . 設置者別の文系理系分布

Q 1 * Q 2		文系理系			計	
		文系	文系+理系	理系		
設置者	国公立	度数	2	29	6	37
		%	5.4%	78.4%	16.2%	100.0%
	私立	度数	36	25	7	68
		%	52.9%	36.8%	10.3%	100.0%
計		度数	38	54	13	105
		%	36.2%	51.4%	12.4%	100.0%

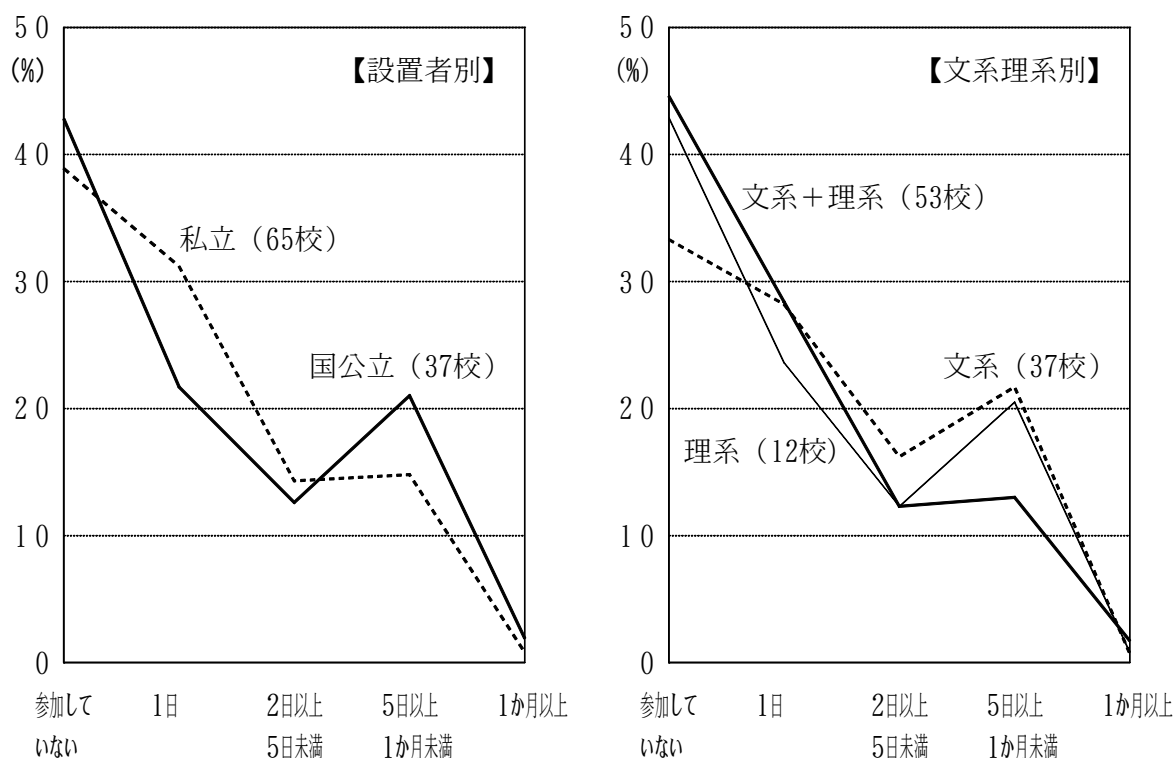
### 推測されるインターンシップ参加期間

本調査票ではまず、「何%の学生がどの程度の期間のインターンシップに参加しているか」を問うている(Q5)。「参加していない」「1日」「2日以上5日未満」「5日以上1か月未満」「1か月以上」の5カテゴリーを設け、当該大学の学生の何%ずつが当該のインターンシップに参加しているかキャリアセンター教職員等に問うもので、間接的ではあるが、ある程度の傾向はつかめると思われる。

設問は上記5カテゴリーの合計が100%である場合のみ通過できる設定になっており、したがって5カテゴリーへの回答の平均値の合計も必ず100%になる。105票のうち、回答できないと自由記述欄に明記したうえ、そうとわかるダミーデータを記入した調査票1票、Q6 Xへの回答で「正課に位置づけられた5日以上インターンシップ」を実施していると回答する一方、Q5でインターンシップに「参加していない」者が100%となっていた2票は除いた。こうして得られた102票で集計した結果を設置者別、文系理系別にグラフ化したものが図4-3である(グラフの数値は「資料2」参照)。すなわちキャリアセンター教職員等が推測するところでは、61%の学生が何らかのインターンシップ経験を持つが、その半数近くはいわゆるワンデーインターンシップである。5日以上インターンシップ参加経験のある学生は国公立23%、私立16%程度で、全般に国公立大学が長めである。国公立大学の「5日以上1か月未満」は私立大学より約6%、逆に私立大学の「1日」は国公立大学より約10%高くなっており、これらはある程度実情を反映していると思われる。

文系理系に関しては全般に文系大学がより長期にわたる傾向が認められるが、これが実態を反映しているのか、文系大学の職員がこのように見る傾向があるためかは不明である。「5日以上1か月未満」は理系大学も高くなるが、なぜそうなるかは不明である。国公立、

図4-3. 大学キャリアセンター教職員等が推測する学生のインターンシップ参加期間 (Q1\*Q5)



私立ごとに文系理系別を見ることも考えられるが、少ないサンプル数によるフラクチュエーションが予想されるため控えておきたい。

#### インターンシップで学生は成長するか

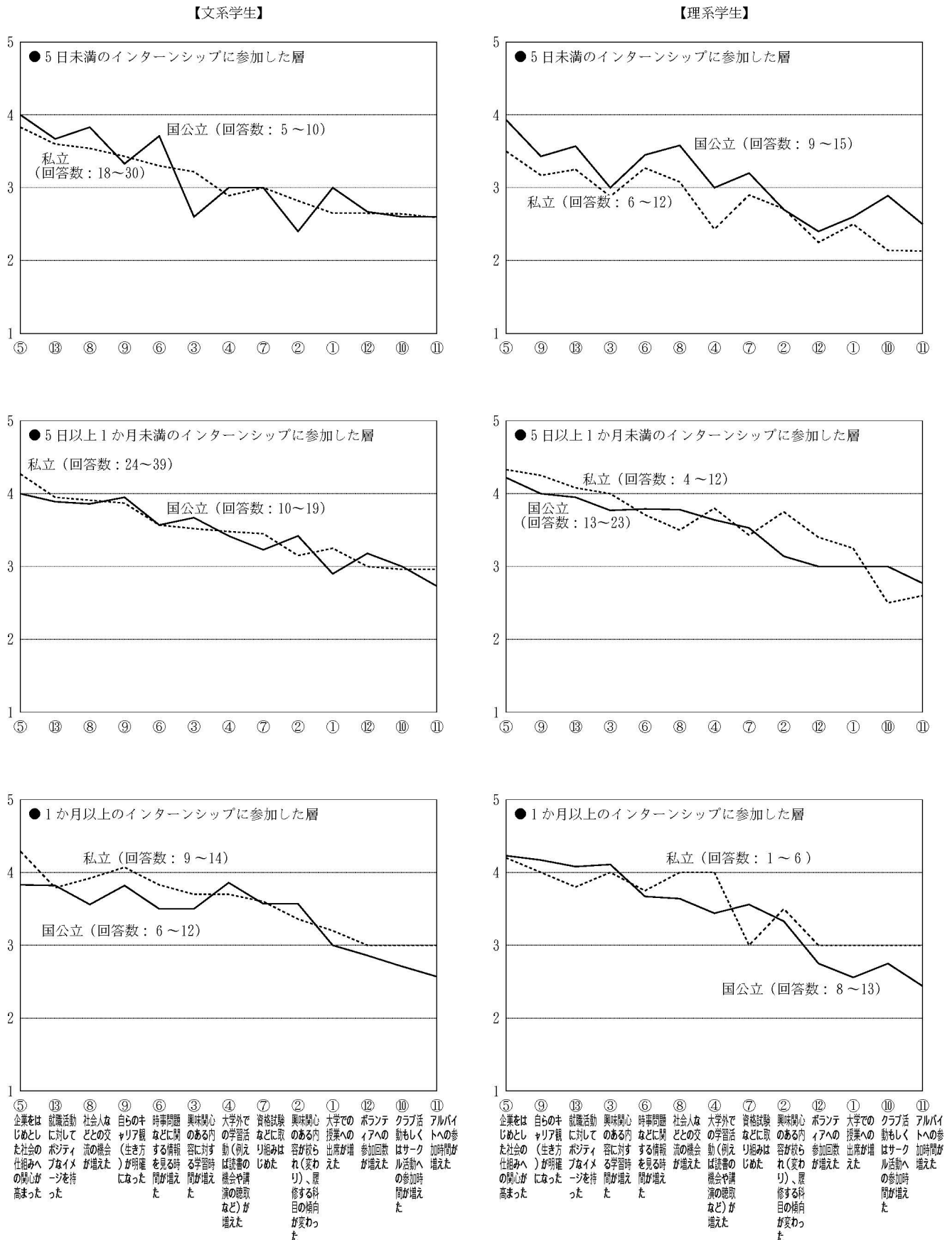
インターンシップ参加で学生が成長するかどうかは重要な問題である。本調査票ではインターンシップ後に期待される学修行動変化として13項目を提示し、「5日未満」「5日以上1か月未満」「1か月以上」の各インターンシップごとに「あてはまる／ややあてはまる／どちらともいえない／ややあてはまらない／あてはまらない」の5段階評価を求めた(Q6)。設問は「文系学生」「理系学生」それぞれについて行なっている(文系だけの大学が理系学生について、理系だけの大学が文系について回答しないよう画面制御した)。ただし、本設問では個々の設問ごとに「把握していない」とすることを許容した結果、回答率は文系学生に関しては平均33.4%、理系学生に関しては平均28.5%となった。分析はQ5と同じ102票で、ただし設定した3つの期間について該当する学生が0%でない場合に回答可能とした。

図4-4はその結果を集約したもので、ある程度安定した結果が得られている。横軸は学修行動13項目の変化、縦軸は上記した5段階評価に低い方から高い方へ1~5を対応させて、該当する回答者の平均値を置いたものである。横軸の順序は文系学生、理系学生ごとに「5日以上1か月未満」におけるものを使用した(グラフの数値は「資料2」参照)。縦軸の数値が3.0を越えると、キャリアセンター教職員等は学生の変化を認めていることになる。国公立大学、私立大学別の平均値の折れ線グラフから言えることは次のとおりである。

- ① 学修行動変化の上位6項目は文系、理系で共通である(順序は異なる)。列挙すると、「⑤企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった」「⑬就職活動に対してポジティブなイメージを持った」「⑧社会人などとの交流の機会が増えた」「⑨自らのキャリア観(生き方)が明確になった」「⑥時事問題などに関する情報を見る時間が増えた」「③興味関心のある内容に対する学習時間が増えた」である。
- ② 「5日以上1か月未満」のインターンシップは、他のそれより学修行動のポジティブな変化が高めである。
- ③ 理系学生の5日未満のインターンシップに関しては、私立大学職員による効果の評価が全般に低い。私大の理系学生が質の良くないインターンシップに遭遇しがちであることを示唆するのかもしれない。
- ④ 「1か月以上のインターンシップに参加した層」ではやや一貫性に欠ける数値が表れており、回答者の疲れによるホワイトノイズ化の可能性がある。サンプル数が非常に少ない項目もあり、この2枚のグラフは重視しない方がよいと思われる。

図4-4はあくまで職員の見るところを示したものであり、それが何に規定されているかは明らかではない。以上の結果だけを根拠として「5日以上1か月未満のインターンシップ」を推奨することは困難だが、傍証の一つにはなるだろう。

図4-4. 大学キャリアセンター教職員等が見たインターンシップ参加後の学修行動変化 (Q1\*Q6)



「教育課程に位置付けられた5日以上のインターンシップ」

調査票のQ6 Xは「教育課程に位置付けられた5日以上のインターンシップ」を実施しているかどうかを問うもので、回答を寄せた105校のうち101校(96.2%)まで「実施している」との回答であった。表4-4はそれらの大学に「特に工夫している点」(Q7)を問い、各項目について「あてはまる」と回答した大学の占めるパーセンテージを全大学のほか設置者別、文系理系別に算出した結果である。全体の「あてはまる」率の高い順に並べた。

回答した大学でおしなべて実施されているのは、「⑦事前・事後の学習の組み込み」と「①授業の単位として積極的に認定している」である。これに続く中位の項目である「②企業との連絡などを行う専任職員の配置」「⑥担当教職員等が巡回指導を行うフォローアップ体制の構築」は私立大学が高く、低位の項目である「③学外アドバイザーなどの活用」「④学生への経済的支援(交通費やプロジェクト実施経費等)」は国公立大学が高い。文系だけの大学で「⑤学生と密なコミュニケーションがとれる体制」が低いのは需要が少ないことが一因と思われるが、理系だけの大学で「⑧インターンシップ参加前後の成果の見える化」が低い理由は不詳である。理系では何らかの理由でもともとその必要が少ない、あるいはこの言葉が独得の意味を持っているなどの事情があるのかもしれない。

表4-4. 「教育課程に位置付けられた5日以上のインターンシップ」実施にあたり工夫していること(%)

Q1*Q7 Q2*Q7	全大学 (101)	設置者		文系理系		
		国公立 (37)	私立 (64)	文系 (37)	文系+理系 (52)	理系 (12)
⑦ 事前・事後の学習の組み込み	98.0	94.6	100.0	100.0	98.1	91.7
① 授業の単位として積極的に認定している	96.0	97.3	95.3	97.3	98.1	83.3
② 企業との連絡などを行う専任職員の配置	70.3	59.5	76.6	70.3	73.1	58.3
⑥ 担当教職員等が巡回指導を行うフォローアップ体制の構築	64.4	54.1	70.3	70.3	61.5	58.3
⑧ インターンシップ参加前後の成果の見える化	61.4	59.5	62.5	62.2	65.4	41.7
⑤ 学生と密なコミュニケーションがとれる体制(サイトなどの活用)の構築	52.5	59.5	48.4	37.8	61.5	58.3
③ 学外アドバイザーなどの活用	25.7	35.1	20.3	18.9	30.8	25.0
④ 学生への経済的支援(交通費やプロジェクト実施経費等)	16.8	35.1	6.3	8.1	23.1	16.7

[その他] 報告会、体験報告会の実施(4件) / 委員(代表教員)による運営 / 教員主導の企業開拓 / 参加者との個人面談 / インターンシップ科目履修前後の成果の見える化 / 地域企業との関係性づくり、報告書の作成・公開 / インターンシップ受入(候補)企業間の情報交換会、ワークショップ開催など / 事前協議を行っている



次に教育課程に位置付けられた5日以上インターンシップを実施するにあたっての課題(Q8)を問うた結果が表4-5である。課題として多くの大学が訴えるのは「⑪担当教員・事務担当者の負担が大きい」「①受入企業の開拓が難しい」の2点である。後者は11項目の中で私立大学最大の課題であり、「②プログラム内容を企業側に要求できない」「⑥当初の想定していた内容と違う」が国公立大学よりかなり高いことと合わせて、地域社会における大学のポジショニングの問題に還元できるかもしれない。一方で国公立大学には11%程度ながらまだ残る「⑤教員からの反対が強い」は、私立で0%である。

文系理系別は解釈が難しいものもあるが、理系だけ大学の特徴はかなり明らかなので、受入企業の開拓は相対的に問題が少なく、学生も専門を活かせるようである。「③学生の参加意欲が低い」が少ないのも当然であろう。逆に理系で「⑩学生の経済的負担が大きい」が高いのはインターンシップの内容から期間中のアルバイトが難しい、受入可能企業が限定されるために交通費を要するなどが考えられるが、判然としない。

表4-5. インターンシップを実施、運営する際の課題(%)

Q1*Q8 Q2*Q8	全大学 (101)	設置者		文系理系		
		国公立 (37)	私立 (64)	文系 (37)	文系+理系 (52)	理系 (12)
⑪ 担当教員・事務担当者等の負担が大きい	72.3	75.7	70.3	66.7	75.0	75.0
① 受入企業の開拓が難しい(企業の負担が大きいと受け入れてもらえない)	68.3	62.2	71.9	73.0	67.3	58.3
④ 企業の知名度によって希望が大きく偏る	56.4	59.5	54.7	43.2	63.5	66.7
② 受入企業数を確保するために、プログラム内容を企業側に要求できない(企業に内容をお任せになる)	53.5	45.9	57.8	48.6	55.8	58.3
⑩ 学生の経済的負担が大きい	38.6	43.2	35.9	27.0	42.3	58.3
③ 学生の参加意欲が低い	31.7	32.4	31.3	37.8	30.8	16.7
⑧ 学生の専門性が活かせるプログラムが少ない	30.7	24.3	34.4	16.2	42.3	25.0
⑦ インターンシップ開催後の企業のフォローアップがない	20.8	18.9	21.9	18.9	25.0	8.3
⑥ 当初の想定していた内容と違う内容のインターンシップが行われていた	18.8	8.1	25.0	16.2	25.0	0.0
⑤ 学生がインターンシップ参加によって学業に阻害があることから、教員からの反対が強い	4.0	10.8	0.0	0.0	3.8	16.7
⑨ インターンシップ実施期間における安全対策や事故発生時への対応、協定書への理解が得られない	2.0	2.7	1.6	0.0	3.8	0.0

[その他] 海外実習学生の危機管理

## 学生に対する支援

各大学のキャリアセンターはインターンシップに関連してどのような学生支援を行なっているのだろうか。「貴学で実施しているインターンシップ参加支援のプログラム」（Q9）で8項目の有無を問い、あると回答した大学の占める割合を示したのが表4-6である。この設問は「オリエンテーション」「企業の個社説明会」「企業の合同説明会」「個別相談」の4項目を卒業年次との関係で問うており、それを表の項目配置に反映させた。

表4-6によれば、卒業年次前の学年でオリエンテーションを実施することは、ほぼ全大学に定着している。これはインターンシップが卒業年次前に実施されることも意味しているであろう。私立大学の合同説明会は国公立大学より少なめで、それを個別説明会が補う傾向も見えて取れる。卒業年次に個別相談が増えるのは、一般的な就職相談の文脈でインターンシップも話題になることが多いためと思われる。

インターンシップに関連して学生から寄せられる相談の内容（Q10）を示すのが表4-7である。上位2項目である「⑤インターンシップの面接やエントリーシートに関する内容について」「⑧インターンシップと採用選考の関係について」は定番と言えるが、中位の項目では設置者別、文系理系別で特徴が出てくる。まず、国公立大学では講義やゼミとの両立が問題になることが私立大学より多い。文系学部、理系学部をともに置く大学では「⑥インターンシップの仕事内容や人間関係について」「②研究室・ゼミナールとの両立について」「④インターンシップにかかる金銭的負担について」がかなり多くなっている。理由は不明であるが、相対的に大きな大学では環境条件の複雑さの中で学生の問題意識が高まったり、スタッフの充実が逆に相談を活性化している面があるかもしれない。所在地が都市圏か地方圏かで文化ないし学生の行動様式が異なる面もありうるだろう。

そこで文系、理系学部をともに置く54大学だけで学生数が「1,000人未満」か「1,000人以上」か、所在地が本章冒頭で定義した「都市圏」か「地方圏」かに分けて相談内容の

表4-6. インターンシップ参加支援のプログラム（%）

Q1*Q9 Q2*Q9		設置者			文系理系		
		全大学 (105)	国公立 (37)	私立 (68)	文系 (38)	文系+理系 (54)	理系 (13)
【卒業年次前】	①オリエンテーション	94.3	94.6	94.1	92.1	96.3	92.3
	④個別相談	82.9	81.1	83.8	78.9	88.9	69.2
	③開催企業の合同説明会	42.9	59.5	33.8	34.2	50.0	38.5
	②開催企業の個社説明会	21.9	18.9	23.5	23.7	18.5	30.8
【卒業年次】	⑤オリエンテーション	31.4	35.1	29.4	13.2	42.6	38.5
	⑧個別相談	47.6	43.2	50.0	50.0	50.0	30.8
	⑦開催企業の合同説明会	17.1	32.4	8.8	5.3	25.9	15.4
	⑥開催企業の個社説明会	7.6	10.8	5.9	5.3	9.3	7.7

出現率を見たのが表4-8である。やはり相対的に大きい大学において相談内容の全項目で「あり」の率がかかなり多くなっている。所在地についてはおおむね都市圏の方が高めに出るが、学生数の場合ほど大きな相違ではない。なぜこのようになるかについては上記し

表4-7. インターンシップに関連して学生から寄せられる相談内容(%)

Q1*Q10 Q2*Q10		設置者		文系理系			
		全大学 (105)	国公立 (37)	私立 (68)	文系 (38)	文系+理系 (54)	理系 (13)
⑤	インターンシップの面接やエントリーシートに関する内容について	87.6	89.2	86.8	84.2	88.9	92.3
⑧	インターンシップと採用選考の関係について	74.3	75.7	73.5	73.7	77.8	61.5
①	大学の講義との両立について	54.3	64.9	48.5	44.7	59.3	61.5
⑥	インターンシップの仕事内容や人間関係について	46.7	54.1	42.6	44.7	51.9	30.8
②	研究室・ゼミナールとの両立について	45.7	64.9	35.3	34.2	53.7	46.2
④	インターンシップにかかる金銭的負担について	44.8	51.4	41.2	34.2	53.7	38.5
⑦	インターンシップ後の振り返りについて	35.2	45.9	29.4	34.2	38.9	23.1
③	部活動・サークル活動との両立について	34.3	32.4	35.3	28.9	44.4	7.7

[その他] インターンシップ先の選び方について/希望するプログラムの相談/インターンシップ参加の必要性について/採用試験が行われた/アルバイトとの両立について

表4-8. インターンシップに関連して学生から寄せられる相談内容(%) (「文系+理系」のみ)

Q4*Q10 Q3*Q10		学生数		所在地		
		文系+理系 (54)	1,000人 未満(11)	1,000人 以上(43)	地方圏 (29)	都市圏 (25)
⑤	インターンシップの面接やエントリーシートに関する内容について	88.9	72.7	93.0	79.3	100.0
⑧	インターンシップと採用選考の関係について	77.8	54.5	83.7	75.9	80.0
①	大学の講義との両立について	59.3	36.4	65.1	51.7	68.0
⑥	インターンシップの仕事内容や人間関係について	51.9	36.4	55.8	48.3	56.0
②	研究室・ゼミナールとの両立について	53.7	27.3	60.5	55.2	52.0
④	インターンシップにかかる金銭的負担について	53.7	36.4	58.1	51.7	56.0
⑦	インターンシップ後の振り返りについて	38.9	27.3	41.9	41.4	36.0
③	部活動・サークル活動との両立について	44.4	27.3	48.8	31.0	60.0

[その他] 希望するプログラムの相談/インターンシップ参加の必要性について/アルバイトとの両立について

表4-9. 大学キャリアセンター教職員等が望ましいと考えるインターンシップ時期

①Q1*Q12		望ましいインターンシップ時期（学部生）						計	
		大学1年生	大学2年生	大学3年生 4～6月	大学3年生 7～9月	大学4年生 1～3月	授業のない期間 ならいつでも		
設置者	国公立	度数	4	8	1	14	1	9	37
		%	10.8%	21.6%	2.7%	37.8%	2.7%	24.3%	100.0%
	私立	度数	5	32	2	15	0	14	68
		%	7.4%	47.1%	2.9%	22.1%	0.0%	20.6%	100.0%
計	度数	9	40	3	29	1	23	105	
	%	8.6%	38.1%	2.9%	27.6%	1.0%	21.9%	100.0%	

②Q1*Q12		望ましいインターンシップ時期（大学院生）						計	
		大学院1年生 4～6月	大学院1年生 7～9月	大学院1年生 10～12月	大学院1年生 1～3月	大学院2年生 7～9月	授業のない期間 ならいつでも		
設置者	国公立	度数	3	23	0	1	0	10	37
		%	8.1%	62.2%	0.0%	2.7%	0.0%	27.0%	100.0%
	私立	度数	5	33	1	0	1	19	59
		%	8.5%	55.9%	1.7%	0.0%	1.7%	32.2%	100.0%
計	度数	8	56	1	1	1	29	96	
	%	8.3%	58.3%	1.0%	1.0%	1.0%	30.2%	100.0%	

③Q2*Q12		望ましいインターンシップ時期（学部生）						計	
		大学1年生	大学2年生	大学3年生 4～6月	大学3年生 7～9月	大学4年生 1～3月	授業のない期間 ならいつでも		
文系理系	文系	度数	2	18	1	8	0	9	38
		%	5.3%	47.4%	2.6%	21.1%	0.0%	23.7%	100.0%
	文系+理系	度数	6	19	2	15	0	12	54
		%	11.1%	35.2%	3.7%	27.8%	0.0%	22.2%	100.0%
	理系	度数	1	3	0	6	1	2	13
		%	7.7%	23.1%	0.0%	46.2%	7.7%	15.4%	100.0%
計	度数	9	40	3	29	1	23	105	
	%	8.6%	38.1%	2.9%	27.6%	1.0%	21.9%	100.0%	

④Q2*Q12		望ましいインターンシップ時期（大学院生）						計	
		大学院1年生 4～6月	大学院1年生 7～9月	大学院1年生 10～12月	大学院1年生 1～3月	大学院2年生 7～9月	授業のない期間 ならいつでも		
文系理系	文系	度数	1	14	1	1	1	12	30
		%	3.3%	46.7%	3.3%	3.3%	3.3%	40.0%	100.0%
	文系+理系	度数	6	32	0	0	0	15	53
		%	11.3%	60.4%	0.0%	0.0%	0.0%	28.3%	100.0%
	理系	度数	1	10	0	0	0	2	13
		%	7.7%	76.9%	0.0%	0.0%	0.0%	15.4%	100.0%
計	度数	8	56	1	1	1	29	96	
	%	8.3%	58.3%	1.0%	1.0%	1.0%	30.2%	100.0%	

⑤Q1*Q12 (Q2 = 「文系+理系」のみ)		望ましいインターンシップ時期（学部生）						計	
		大学1年生	大学2年生	大学3年生 4～6月	大学3年生 7～9月	大学4年生 1～3月	授業のない期間 ならいつでも		
設置者	国公立	度数	4	7	1	9	0	8	29
		%	13.8%	24.1%	3.4%	31.0%	0.0%	27.6%	100.0%
	私立	度数	2	12	1	6	0	4	25
		%	8.0%	48.0%	4.0%	24.0%	0.0%	16.0%	100.0%
計	度数	6	19	2	15	0	12	54	
	%	11.1%	35.2%	3.7%	27.8%	0.0%	22.2%	100.0%	

た仮説の範囲を出ることはできないが、所在地とは比較的無関係な大規模総合大学に特有の現象であると考えうるだろう。

### これからのインターンシップ

調査票では大学キャリアセンター教職員等に今後のインターンシップのあり方をいくつかの設問で問うた。まず、学生の学修に良い影響をもたらすうえで望ましいインターンシップの開始時期（Q12）である（良い影響については「大学で学んだ内容をインターンシップで活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定する」という注釈が付けられた）。学部生、大学院生それぞれについての回答の分布は表4-9のとおりである。大学によっては大学院の併設がなく、その場合を欠損値に指定して集計した（学部が置かれていない大学は調査対象には含まれていない）。

表4-9①によれば、学部生に関しては「大学2年生」と「大学3年生7～9月」にピークがあるが（各38%、28%）、「授業のない期間ならいつでもいい」も22%見られる。②の大学院生に関しては「大学院1年生7～9月」が58%であるが、学部生の場合より高い30%が「いつでもいい」である。学部生の望ましい時期を設置者別に見ると、国公立は3年生7～9月にピークがあるのに対して私立は2年生が望ましいとされることが多く、そのパーセンテージは3年生の全時期を合計したものより大きい。文系理系で見ると（表4-9③）、文系が2年生に重心があるのに対して理系は3年生である。私立は文系の大学が多いことがわかっており（表4-3参照）、国公立と私立の比較は文系理系をコントロールして行なうべきである。このため文系理系を第3変数とする三重クロス集計を実施した。

表4-10. 大学キャリアセンター教職員等が望ましいと考えるインターンシップ期間

Q1*Q13		望ましいインターンシップ期間					計	
		3～4日	5日以上 10日未満	10日以上 1か月未満	1か月以上 3か月未満	3か月以上		
設置者	国公立	度数	2	22	11	1	1	37
		%	5.4%	59.5%	29.7%	2.7%	2.7%	100.0%
	私立	度数	6	40	15	5	2	68
		%	8.8%	58.8%	22.1%	7.4%	2.9%	100.0%
計	度数	8	62	26	6	3	105	
	%	7.6%	59.0%	24.8%	5.7%	2.9%	100.0%	

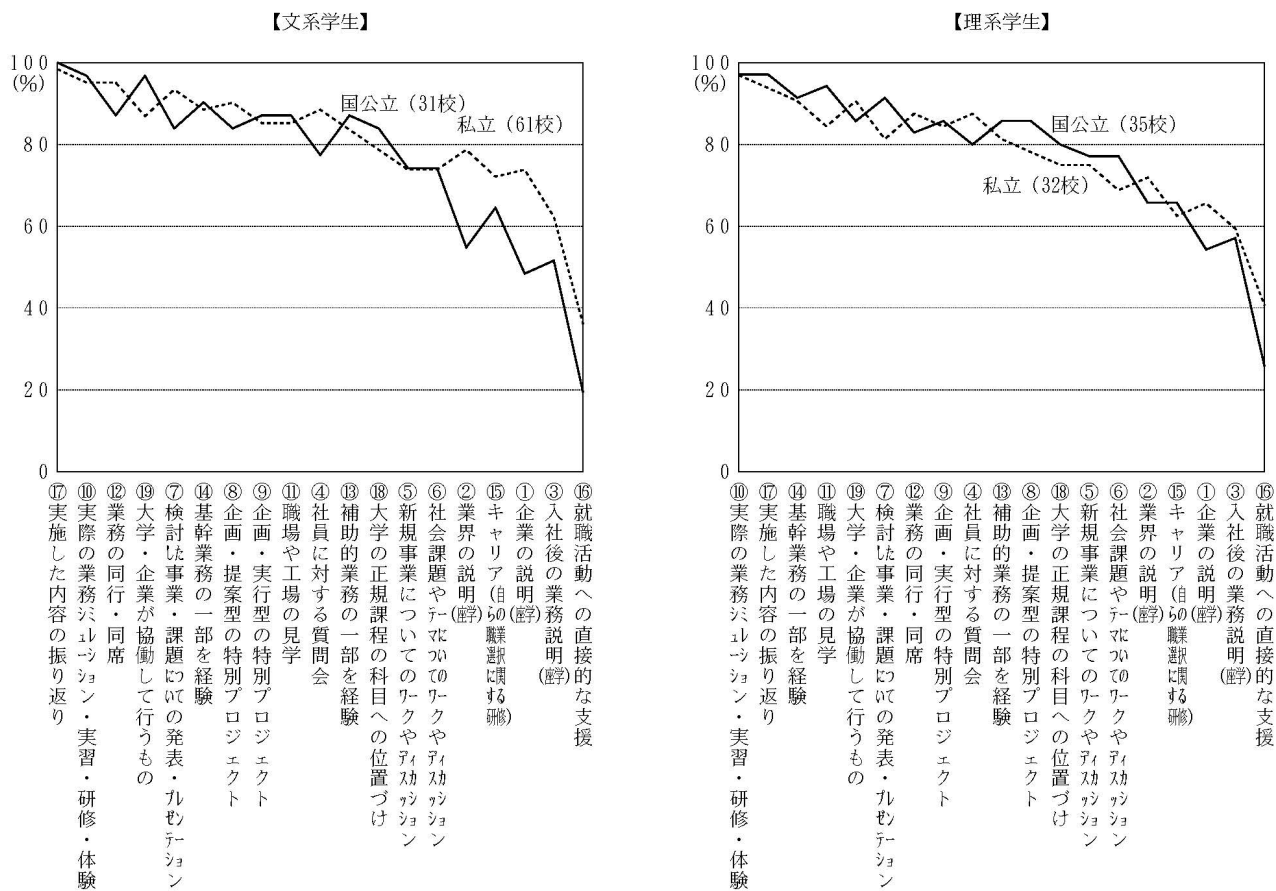
Q2*Q13		望ましいインターンシップ期間					計	
		3～4日	5日以上 10日未満	10日以上 1か月未満	1か月以上 3か月未満	3か月以上		
文系理系	文系	度数	2	23	9	2	2	38
		%	5.3%	60.5%	23.7%	5.3%	5.3%	100.0%
	文系+理系	度数	4	31	16	2	1	54
		%	7.4%	57.4%	29.6%	3.7%	1.9%	100.0%
	理系	度数	2	8	1	2	0	13
		%	15.4%	61.5%	7.7%	15.4%	0.0%	100.0%
計	度数	8	62	26	6	3	105	
	%	7.6%	59.0%	24.8%	5.7%	2.9%	100.0%	

残念ながらサンプル数の関係で理系だけ、文系だけの大学では設置者別の分析は不可能と判断されたが、文系理系の両方がある総合大学のみで調べると（表4-9⑤）、やはり国公立は3年生夏休み、私立は2年生に中心があった。国公立、私立が置かれた何らかの社会的要因が関係しているか、「ワンデーインターンシップ」に対抗して早めのインターンシップを実施する動きが私立大学で始まろうとしている可能性があると思われる。

インターンシップの望ましい期間（Q13）は表4-10にまとめた。設置者に関わらず60%弱が「5日以上10日未満」を適切とし、25%程度が「10日以上1か月未満」である。文系理系に関しては理系大学のキャリアセンター教職員等が長めを支持し、その15%は「1か月以上3か月未満」をあげている。ただし、理系大学を含めて3か月を超えるインターンシップを支持する職員は非常に少ない。逆に2日以下が望ましいとする職員も皆無であった。現場の知恵として、大勢は「5日以上10日未満」で固まっているように思われる。

さて、そのようにして実施されるインターンシップについて、大学キャリアセンター教職員等は内容がどうあるべきだと考えているだろうか。Q11は19項目（その他を除く）に「あてはまる」「あてはまらない」の回答を求めた設問で、文系学生、理系学生別に支持の大きい順でグラフを作成した（数値は資料編参照）。回答したのは文系フラグ、理系フラグの立った各92校、67校である（54校が共通するが、対象については前述のように「文系学生」「理系学生」を分けている）。

図4-5. 大学キャリアセンター教職員等が望ましいと考えるインターンシップ内容（Q1\*Q11）



[その他] 異なる年度の学生間の交流/学生のアウトプット・取組姿勢に対する社員からのフィードバック/企業側からの個別フィードバック

[その他] 異なる年度の学生間の交流/学生のアウトプット・取組姿勢に対する社員からのフィードバック/企業側からの個別フィードバック/大学での研究内容と一致したプログラム

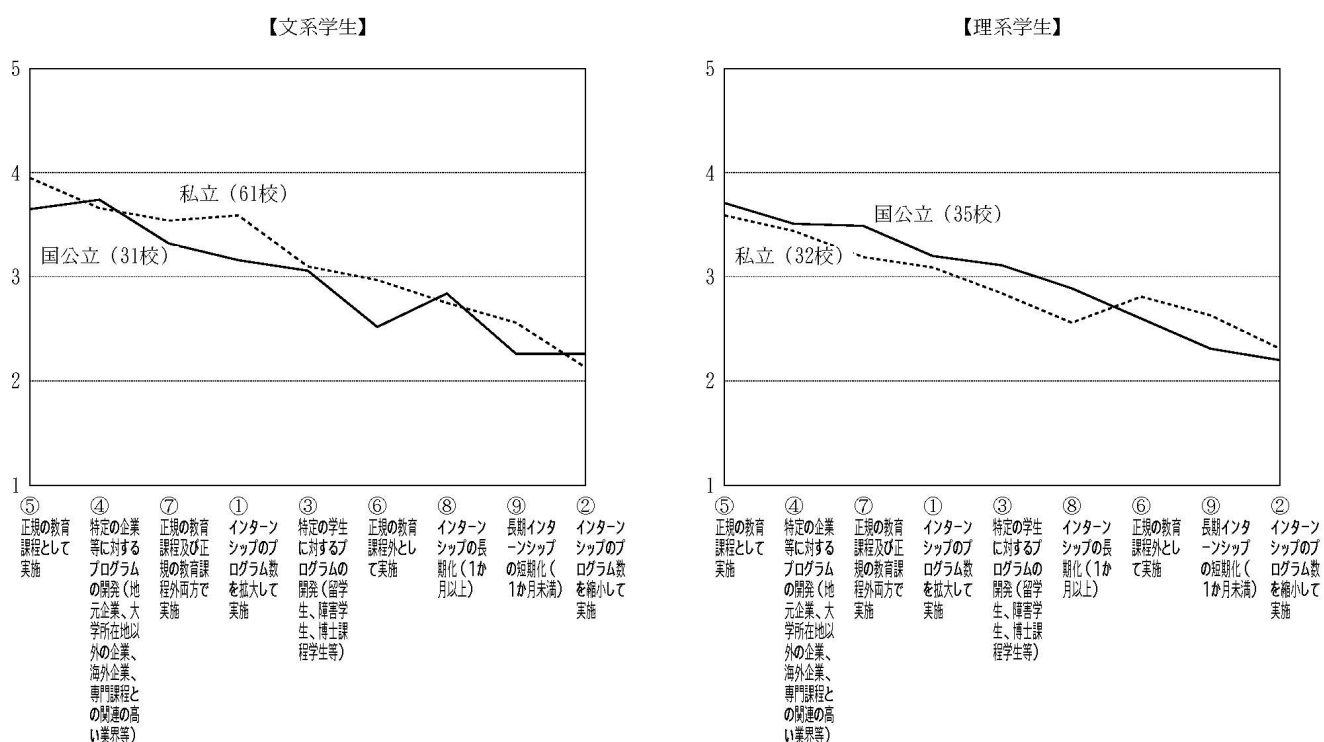
図4-5の諸項目は、文部科学省の担当課で長年にわたる調査や各大学との接触の積み重ねで得られたものと思われるが、実際の回答は100%ないしそれに近いものから20%程度までのコントラストがついており、広範かつ十分なものである。文系と理系で上位6項目のうち5項目までは共通で、文系の「⑫業務の同行・同席」が理系の「⑪職場や工場の見学」に置き換わっているのは職場の性質を反映するものであろう。

ここでセンター職員があるべきと考えるインターンシップに関するストーリーを構成すれば、「⑭基幹業務の一部経験」を含めて「⑩実際の業務シミュレーション」を経験し、「⑰内容の振り返り」で深めるものであって、それを「⑲大学・企業が協働して行う」。これに職場見学や業務同行が伴い、「⑦検討した事業・課題についての発表・プレゼンテーション」も歓迎される。⑧⑨の提案型、実行型の各「特別プロジェクト」も80%前後の支持を得ているが、上位5項目ほどではない。「⑤新規事業ワーク」「⑥社会課題ワーク」や関連するディスカッションがやや低いのは、これらがいっそう高度であると考えられるためかもしれない。座学による「①企業の説明」「②業界の説明」が私立大学の文系で高めに出ているのは、現状でそれが不十分であるという認識を反映するのであろうか。

以上の大学キャリアセンター教職員等の構想は非常に意欲的で、彼らがいかに真剣に学生に接し、業務に向き合っているかを示すが、それをどのようにして「5日以上10日未満のインターンシップ」で実現すればいいのだろうか。企業の立場で考えれば内実ある「業務シミュレーション」は一般に困難で、実現するとしても非常にコストを要する。そこは「大学・企業が協働して」考えることになると思われるが、その具体的方策を問うのがQ14（今後どのような方向に重点を置いていくか）の9項目である。この設問は連続変数になっているため、平均値を算出してグラフ化した（数値は資料編参照）。

図4-6では3.0以上の数値を示す項目が肯定的に捉えられていることを意味する。文系、理系とも「⑤正規の教育課程」として「④特定の企業等に対するプログラム」が開発

図4-6. 大学キャリアセンター教職員等が想定する今後のインターンシップ手法（Q1\*Q14）



される方向であるが、それは設問にあるように「地元企業、大学所在地以外の企業、海外企業、専門課程との関連の高い業界等」を想定するものであり、当然、「①インターンシップのプログラム数を拡大して実施」しなければならない。ゆえに結果的に「⑦正規の教育課程及び正規の教育課程外両方で実施」することが想定されるのであろう。

なお、「②インターンシップの縮小」は最も考えられておらず、「⑧インターンシップの1か月以上への長期化」も「⑨長期インターンシップの1か月未満への短期化」も相対的に求められていない。「⑥正規の教育課程外としての実施」も同様である。「③特定の学生に対するプログラムの開発（留学生、障害学生、博士課程学生等）」は中位にあり、強く推進はされないが、否定もされない状況にある。

国公立と私立で大きな違いはないが、上位の項目に関して文系学生に関しては私立、理系学生に関しては国公立のスコアが高い傾向がある。一方でほとんどすべての項目に関して回答は1～5に分布し、回答者（または大学）による相違も小さくない。

### 職員の就職支援観

本調査においては大学キャリアセンター教職員等の就職支援観を問う設問も設けた（Q16）。第3章でまとめたヒアリング調査で聞かれた代表的な意見を集約したもので、「①就職支援やインターンシップの効果的な推進には大学当局の一層のリーダーシップが必要だ」などの8項目について、あてはまるか否かを5段階で問うている。その結果を支持の

表4-11. 大学キャリアセンター教職員等の就職支援観

Q1*Q16 Q2*Q16	全大学 (105)	設置者		文系理系		
		国公立 (37)	私立 (68)	文系 (38)	文系+理系 (54)	理系 (13)
⑤ インターンシップは学生の社会性涵養に効果的である	4.50	4.49	4.50	4.50	4.48	4.54
② 就職支援やインターンシップの効果的な推進には、教員の一層の理解が必要だ	4.34	4.32	4.35	4.32	4.43	4.08
① 就職支援やインターンシップの効果的な推進には、大学当局の一層のリーダーシップが必要だ	4.05	4.03	4.06	4.18	4.07	3.54
⑦ キャリア教育の深化には、初等中等教育を含めて教育のあり方を考え直すことが必要だ	4.01	3.89	4.07	4.11	3.98	3.85
⑥ 4年生9月以前の内定や内々定には法的根拠がないことを、国が企業に対して明確にしてほしい	3.63	3.62	3.63	3.55	3.67	3.69
④ 就職支援やインターンシップの促進に照らすと、就職エージェントの学生接触のあり方には問題がある	3.49	3.41	3.53	3.55	3.43	3.54
③ 就職支援やインターンシップの促進に向けて、就職エージェントを適宜活用していきたい	2.84	2.78	2.87	2.82	2.96	2.38
⑧ 大卒者のかなりの部分が早々に転職するのは事実上のインターンシップであり、評価できる面もある	1.90	1.70	2.00	2.08	1.74	2.00



大きい順に表4-11にまとめた。

大学キャリアセンター教職員等は総じて「インターンシップは学生の社会性涵養に効果的」として、これへの支持を示す。その推進には教員や大学当局の「一層の理解」が必要だが、その一方で「キャリア教育の深化には初等中等教育を含めて教育のあり方を考え直すことが必要だ」とする傾向が強い。これに「4年生9月以前の内定や内々定には法的根拠がないことを国が企業に対して明確にしてほしい」「就職エージェントの学生接触のあり方には問題がある」などの意見が続く。ヒアリング調査では大学として就職エージェントを活用することもある、大卒者のかなりの部分が早々に転職するのは事実上のインターンシップであり必ずしも否定されるべきではないという意見も聞いたが、アンケート調査の結果では否定的評価が多かったと言える。社会的要因との関連性はほとんど見られない。

次にこの8設問への回答に因子分析を適用する。ある対象から得られた相互に関連のある多くの変数を同時に取り扱い、要約したり将来の数値を予測する手法を総称して多変量解析というが、「因子分析」はその一種である。複数の変数間の背後にある少数の要因を抽出し（例えば数学と物理の得点の背後に「理系因子」、国語と社会の得点の背後に「文系因子」を想定してそれらのスコアを算出する）、設問を分類したり、個々の調査対象者がそれぞれの因子をどれだけ持っているか（因子得点）を計算して、類型化あるいは他の設問への回答を説明するのに用いることができる。因子の性質の発見に使われるのが、因

表4-12. 大学キャリアセンター教職員等の就職支援観の因子分析結果（因子負荷量）

Q16	因子負荷量		
	第1因子	第2因子	第3因子
⑤ インターンシップは学生の社会性涵養に効果的である	0.549	-0.027	-0.005
② 就職支援やインターンシップの効果的な推進には、教員の一層の理解が必要だ	0.812	0.074	0.150
① 就職支援やインターンシップの効果的な推進には、大学当局の一層のリーダーシップが必要だ	0.598	0.085	0.161
⑦ キャリア教育の深化には、初等中等教育を含めて教育のあり方を考え直すことが必要だ	0.358	-0.007	0.554
⑥ 4年生9月以前の内定や内々定には法的根拠がないことを、国が企業に対して明確にしてほしい	-0.004	-0.040	0.473
④ 就職支援やインターンシップの促進に照らすと、就職エージェントの学生接触のあり方には問題がある	-0.065	-0.667	0.046
③ 就職支援やインターンシップの促進に向けて、就職エージェントを適宜活用していきたい	0.001	0.677	0.142
⑧ 大卒者のかなりの部分が早々に転職するのは事実上のインターンシップであり、評価できる面もある	-0.036	0.091	0.191
	本格度	外注度	懐疑度

子得点と個々の設問の相関係数である「因子負荷量」である。

この手法では直感を追認する結果が得られることが多いが、それまで意識されていなかった新しい傾向を発見できることもある。因子分析でキャリアセンター教職員等の就職支援観がどのような次元で構成されているかを明らかにした結果が表4-12である（主因子法、固有値 1.0以上で因子数を確定し、バリマックス法による因子軸回転後の因子負荷量）。検出されたのは3因子で、関係の深い設問の特徴に基づいてこれらを以下のように命名した。第1因子はインターンシップの社会性涵養効果を高く評価し、教員や大学当局の理解を求める度合と考え、その意味で「本格度」と命名した。第2因子は就職エージェントの活用に積極的であり（就職エージェントの否定にも批判的であり）、「外注度」とした。第3因子は現場から距離を置いて考える傾向と見て「懐疑度」と名付けた。因子得点で表された3つの傾向は互いに独立で、例えば本格度も懐疑度も高い回答者、片方だけ高い回答者、両方とも高くない回答者などがあることになる（ただしこれらのスコアは標準化されており、あくまで相対的なものである）。

因子分析は相関関係に基づいて行なわれており、因子としての抽出は全体における賛成度の高低と無関係であるが、その因子と関係の深い設問の特徴を読み取ることはできる。「外注度」「懐疑度」の設問は賛成者が相対的に少ないが、いわば少数派としての存在感を因子分析が示していることになる。

#### 「インターンシップの工夫」とそれを規定するもの

最後に5日以上インターンシップを実施するにあたって工夫していることを問うたQ7に注目したい。これに因子分析を適用すると、どのような次元が浮かびあがってくるだろうか。また、その因子得点は本章で扱ってきた設置者や文系理系、所在地、学生数といった社会的要因で規定されるのか。「インターンシップの工夫」がどのようなセクターで試みられているかは今後の参考になるかもしれない。その際に上記の就職支援観も投入することで、総合的な分析になる。なおQ7は二値変数であり、正確には因子分析の適用には問題があるが、試行的に行なうことにした。まず主成分分析で固有値 1.0以上をもって因子数を確定し、バリマックス法による因子軸回転で得られた因子分析結果は表4-13のとおりである（分析対象は表4-4と同じ101票）。設問の並びは表4-4にそろえた。

表4-13からわかるのは、8設問が②⑥⑦、①④⑧、③⑤⑧という3群に分類できることである（⑧は重複して関与）。第1因子が人的配置の充実を中心とする組織整備（⑦の因子負荷量の高さは人的充実があれば可能になることを意味するだろう）、第2因子がインターンシップの学内制度化、第3因子は学生とのコミュニケーションを中心とする機動性の程度を示すのではないかと思われる。その意味で第1因子から順に「組織性」「正課性」「機動性」と命名した。

ここで「工夫」の3因子の因子得点の説明に適用するのが一般線型モデルである。一般線型モデルこれは変数を目的変数と説明変数に分けられる場合に適用される多変量解析で、前者に対する後者の規定度を算出する手法である。従来、説明変数が質的変数である場合は分散分析、量的変数である場合は重回帰分析が行なわれ、前者は従属変数のグループ間の平均の差の検定、後者は従属変数の予測・説明に使われてきたが、これらが数学的に共通のフレームワークで扱えることがわかって以降、一般線形モデルの名称が定着した。表

表 4-13. 「キャリアセンターの工夫」の因子分析結果（因子負荷量）

Q 7	因子負荷量		
	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子
⑦ 事前・事後の学習の組み込み	0.595	0.001	0.062
① 授業の単位として積極的に認定している	-0.196	0.808	-0.205
② 企業との連絡などを行う専任職員の配置	0.747	-0.003	-0.033
⑥ 担当教職員等が巡回指導を行うフォローアップ体制の構築	0.625	0.141	0.088
⑧ インターンシップ参加前後の成果の見える化	0.125	0.632	0.535
⑤ 学生と密なコミュニケーションがとれる体制（サイトなどの活用）	0.323	0.295	0.551
③ 学外アドバイザーなどの活用	-0.097	-0.189	0.833
④ 学生への経済的支援（交通費やプロジェクト実施経費等）	0.175	0.421	0.059
	組織性	正課性	機動性

表 4-14. 一般線型モデルによる「キャリアセンターの工夫」の分析 I（F 値）

「工夫」の 3次元	設置者	文系理系	所在地	学生数	設置者 *文系理系	設置者 *所在地	設置者 *学生数	文系理系 *所在地	文系理系 *学生数	所在地 *学生数
組織性	4.811*	0.988	0.039	2.678	4.808**	0.003	2.588	0.341	2.929	0.254
正課性	1.748	0.963	0.822	0.452	0.120	0.691	0.011	1.930	0.200	0.225
機動性	0.132	0.446	0.696	0.011	0.396	0.002	0.001	0.207	0.734	0.850

[3次以上の相互作用項は除外した]

\* : 5%水準、\*\* : 5%水準

表 4-15. 一般線型モデルによる「キャリアセンターの工夫」の分析 II（F 値）

「工夫」の 3次元	設置者	文系理系	設置者 *文系理系	回答者の就職支援観		
				本格度	外注度	懐疑度
組織性	4.065*	0.641	2.890	0.130	1.534	0.663
正課性	1.521	1.856	0.176	0.868	4.683*	8.506**
機動性	0.376	1.269	1.782	4.503*	0.654	0.414

[共変量をめぐる相互作用項は除外した]

\* : 5%水準、\*\* : 1%水準

4-13の因子分析から得られた3つの因子得点を「設置者」「文系理系」「所在地」「学生数」およびそれらの相互作用（3次以上の相互作用は除外）で分析した結果が表4-14である。

この表からわかるのは、「工夫」を設置者等の社会的要因で説明することはほとんど不可能ということである。一方で「組織性」に関してのみならず、「設置者」とその「文系理系」との相互作用が有意であった（私立大学で「組織性」が高めになることは表4-4から予想された）。そこでこの2要因を中心的な説明変数とし、回答者の就職支援観を加えたモデルで分析を行なった。「組織性」「正課性」「機動性」を組織の性質と考え、これらを調査票に回答するなどキャリアセンターで中心的役割を果たしている回答者の「本格度」「外注度」「懐疑度」によってある程度説明できるのではないかというのがこの分析の仮説である。実際には組織の構造を測定したわけではなく、同じ回答者の「世界」の中のことであり、その認識が逆に就職支援観に影響を与えている可能性も否定できないが、それでも何らかの示唆は得られるだろう。分析の結果が表4-15である。

まず、「組織性」に関して「設置者」が有意であり、かつ分析1で「設置者」と「文系理系」の相互作用が有意だったことから、「設置者」と「文系理系」の各水準別の推定周辺平均（さまざまな要因で説明できる部分を落とした後に得られる推定平均）を調べた結果が図4-7である。特に理系だけの大学において国公立と私立の差が開いているが、理由は不明である。国公立の理工系における教員の学生の就職における役割の大きさが反映しているのかもしれないし、インターンシップが要するコストが特に理系で大きく、私立ではそれが必ずしもカバーされないゆえに「工夫」が意識にのぼるのかもしれない。しかし、具体的なリソースやワークロードに関するデータがない状態では憶測の域を出ない。

次に表4-16は「工夫」の3次元に対する就職支援観の効果の重回帰分析（従属変数、説明変数がいずれも連続変数である場合に適用される手法）の結果である。表4-15と同じ傾向が見られるが、表4-16に表示されている標準化偏回帰係数は相互に比較可能であ

図4-7. 「組織性」に関する設置者と文系理系の統計的相互作用（推定周辺平均）

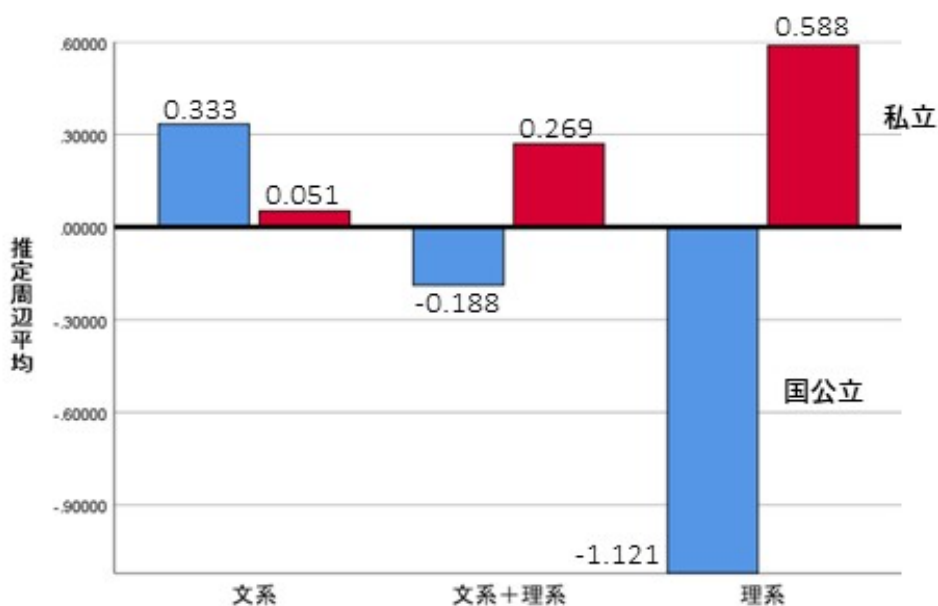


表 4-16. 「工夫」の3次元の就職支援観による重回帰分析（標準化偏回帰係数）

「工夫」の3次元	回答者の就職支援観		
	本格度	外注度	懐疑度
組織性	0.052	-0.124	-0.074
正課性	-0.066	0.214*	0.277**
機動性	0.210*	-0.065	-0.064

\* : 5%水準、\*\* : 1%水準

る。「正課性」に対する「外注度」「懐疑度」の効果のうち、「外注度」に関しては単位認定や見える化が必要とする客観的根拠への志向性が外部機関である就職エージェントの活用と親和性を有するのかもしれない。「懐疑度」に関しては大学の本質が単位認定を通じた人材選抜の場であるという認識が逆に人間観、社会観を拡張している可能性、「機動性」に関しては「本格度」で表わされる状況が学生との一層のコミュニケーションを必要とする可能性が感じられるが、いずれも憶測であり、しかし将来の調査への手がかりになるかもしれない。

キャリアセンターの工夫の「組織性」「正課性」「機動性」は大学の設置者、文系理系、所在地、学生数とほとんど関係なく、その教職員等の就職支援観とも関連性が薄い。さまざまな環境条件の中で現場職員の創意工夫が生まれているものと考えられる。

#### 自由記述欄から

自由記述欄に記載があったのは105票中31票であった（「特になし」等を除く）。それぞれ真摯な内容で、大学あるいは個人のプライバシーに抵触する内容もないと思われたことから、分類のうえ、表4-17にすべてを収録する。ただし1回答に複数分類にわたる記載があった場合は適宜分割し、明らかな誤字は訂正した。句読点や助詞も若干変更した。

### 第3節 小括

本章では調査研究の一環として実施された大学キャリアセンター教職員等を対象とするアンケート調査（1大学1票）で回収された105票（国立大学33票、公立大学4票、私立大学68票）の分析を行なった。結果は次のようにまとめられる。

- ① 大学キャリアセンター教職員等の推測によれば61%の学生が何らかのインターンシップ経験を持つが、その半数近くはいわゆるワンデーインターンシップである。5日以上のインターンシップ参加経験のある卒業年次学生は国公立23%、私立16%程度である。
- ② 多くの大学キャリアセンター教職員等はインターンシップ参加で学生の学修行動がポジティブな方向に変化すると見ている。「企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった」「自らのキャリア観が明確になった」などが上位に来るが、「興味関

表4-17. 大学キャリアセンター教職員等の自由記述

<p>1. ワンデーインターンシップは望ましくない。「インターンシップ」名称の変更も考えられる</p> <p>1) 実際の仕事内容を体験または理解が出来るインターンシップは、学生の就業観の醸成に役立つものと考えます。しかし、ワンデイや企業の業務内容とは関係のないワークショップ型、社員の講話のみのインターンシップについては、本来のインターンシップとは分けるべきだと感じています。採用活動の過熱化、早期化により、学生が参加するインターンシップは上記のものが中心となり、企業側も採用活動の一部として利用している側面があり、本来のインターンシップの意味合いが薄れているのが現状です。</p> <p>2) ワンデーインターンシップの名称の変更および従来からの就業体験型と活用方法を明確に区別すべき。</p> <p>3) 「1dayインターンシップ」等は、OJTではないので、インターンシップと呼ぶのは相応しくない。</p> <p>4) 現状のインターンシップの期間(1day~5day)では、職業観涵養を促進する効果的なインターンシップとは言えないと思う。また、採用に直結するインターンシップという説明会の場合、名称を変更し、区別するべきである。採用とは直結しない、実践的教育的効果の高い有償である長期インターンシップを推進した方が良いと思う。</p> <p>5) 文部科学省が掲げる「インターンシップ」という用語の用い方が、社会通念からも、世界で実施されているインターンシップの概念からも離れているように思う。企業のいわゆる「1Dayインターンシップ」が「インターンシップ」と呼ぶに値しないのはその通りだが、文部科学省も「インターンシップ」という用語を使わない方がよいと思う。</p> <p>6) 1dayインターンシップと称する会社説明会がなぜ認められているのか疑問。授業のある期間にも関わらず日程が設定されるが、実質就職活動に大きく関わってくるため一律に参加を制限するわけにもいかず、授業運営に支障が出ているケースもある(毎週、特定の曜日が重なってしまう等)。</p>
<p>2. 企業の指導、規制強化を。守らない企業にはペナルティを</p> <p>7) 海外先進諸国の企業が実施するインターンシップは本来の目的のものであり、インターンシップ後にそのまま就職先を選ぶほど重要な位置づけです。これを国内で統制できるのは、文科省のみだと思います。就職支援会社、民間企業に対して、文科省を主軸とした統制を図らない限り、学生にとって本来の意味をもつ有意義なインターンシップへの改革は不能だと思われれます。</p> <p>8) 「1Dayインターンシップ」の名称不使用を徹底。</p> <p>9) 就業体験が伴っていないものでも「インターンシップ」と呼称して学生を集める手法について、規制が必要と考えます。</p> <p>10) 学生個人情報の目的外使用への罰則規程の強化。</p> <p>11) 経団連主導から政府主導に切り替わったが、スケジュール自体はこれまでと同じ6月解禁を守るよう各経済団体に要請しているにも関わらず、解禁時期を早めている企業が散見される。経団連加盟企業のみならず全ての企業において開始時期を遵守していただき、学生が就職活動準備のスケジュールを計画しやすい環境を整えていただきたい。</p> <p>12) 学生の職業意識の涵養を主眼とせず、就業体験を伴わないインターンシップを実施している企業名を公開する等、何らかのペナルティが必要であると考えます。</p> <p>13) ルールを守れない企業は、企業名の公表等のペナルティを与えてほしい。自社、自大学だけがいいという視点でなく、我が国の若者の人材育成のあり方を考える中で、就職活動やインターンシップの位置づけを明確にし、推進を行ってほしい。</p> <p>14) ①1dayインターンシップが主流となり、本来の趣旨が失われていると考える。文部科学省からも是正するよう指導いただきたい。②就活ルールが守られていないため、文部科学省からも是正するよう指導いただきたい。</p> <p>15) 短期インターンシップで就業体験が出来ないプログラムはインターンシップとはしないこと。およびインターンシップと採用選考を関係させないことに規制等が全くない状態では、今年度の状況から今後も更に増加すると思われますので、本来のインターンシップとしてあるべき姿に戻すことができるように、今後の文部科学省の関連施策には大いに期待しているところです。</p>
<p>3. 文部科学省へのその他の要望</p> <p>16) 社会情勢が刻々と変化していく中で、次々と新たな取組を始める企業に比べて、文科省の対応は遅いように感じる時がある。</p> <p>17) 長期有給インターンシップの推進等の関連施策は、先進的な諸外国の制度も参考にして立案・実施されていると思いますが、参考にした国の制度・現状・問題の情報や説明も私共に伝えて頂ければ施策の妥当性・効果も更に理解できると考えます。よろしくお願ひします。</p> <p>18) 経団連、経済産業省、それぞれへの発言力強化。</p>

- 19) 就職活動とインターンシップは切り離すことが困難であり、関連施策もそのバランスを見ながら、実状に沿うかたちで策定する必要があると思います。
- 20) 学生が学業に専念し、多様な経験ができる環境づくりのためインターンシップの意義・在り方や、採用活動のスケジュールに関する考え方をより一層強く発信していただきたいです。
- 21) インターンシップの推進にあたっての基本的考え方（以下、「基本的考え方」という）は実態に即さない内容があることから、学生を主体として考え、学生に働くイメージを持たせること（基本的考え方2①）に主眼をおいてはどうか。学生の職業意識を高め、職場への適応力や定着率の向上を図り、働くイメージを持った上で就職することで離職者が減り、企業のメリットにもなる。全体で共有できるルール作りのイニシアチブを期待したい。
- 22) 学生の本分である学業に障害がないインターンシップの開催時期及び就業体験プログラム内容を、大学での学修へ良い影響をもたらすためには、インターンシップ科目担当の教員と協働することを希望するBusiness to Businessの中小企業と大学に対して、文部科学省の関連施策で予算的に後押しすることもあるべき姿と考えます。

#### 4. 諸意見、アイデア

- 23) 1dayインターンシップの内容について議論があるが、実質企業説明会になっているものも進路選択をする上で貴重な機会であると考えます。ただし、本来のインターンシップと実質企業説明会が混同しないような名称を設けた方が良いと思います。
- 24) 近年、インターンシップの在り方は多種多様な状況にあるが、現在本学で授業として実施しているもの（5日以上）については、依然として学生にとって就労体験の機会として意味のあるものと考えている。
- 25) 短期のインターンシップだけではなく、1週間以上のインターンシップが学生の成長に役立つと思うため、この充実をお願いしたい。
- 26) 就業体験としてのインターンシップは学休期間に1週間くらいのものへの参加でそれなりの効果があると思います。もっと深く業界への見識を深めようとするれば長期のものとなり、授業や資格の実習などとの両立が難しく、効果はあるが在学中の参加は困難だと思います。
- 27) インターンシップと就職活動をリンクさせるべきではない。社会全体で人材を育成するという視点でインターンシップを行うべき。
- 28) 社会科学系大学がインターンシップを正規授業に取り込むことに難しさがある。受入れ企業を探す、申し出る企業は採用を前提にしたインターンシップでしか対応してもらえない。
- 29) 高校普通科の生徒に、商業教育、例えば金融取引などを学修する機会を増やす必要があると思います。高校時代から社会体験や地域コミュニティとの接触のある大学生は大学時代を通じて自分のキャリアを自発的に磨くことができると思います。

#### 5. 決意表明

- 30) “社会においてコンプライアンスの必要性や重要性が叫ばれている中で、決めたことは守り、守れない決まりは作らない”という観点からも、就職ルール等で国が提示したルールについて、決めたことを守るといった模範を大人が学生に示したい。
- 31) キャリア教育とする位置づけを明確化するとともに「型にはめ込み式」ではなく、学生が『自ら考え、自ら行動する』内容の比重を高くする。そうすることで、プログラムも学生にとってより良い充実した内容となり、各大学の学部学科の特性が生かされ、新・社会人基礎力（就業力）に結び付くのではないかと考えている。
- 32) インターンシップの職種や期間等に対する学生のニーズの把握に努め、企業とのよりよいマッチングを一層図ることが必要と思われる。
- 33) 就職支援における課題は大学の行事と就活のバッティングである。学生の本分は勉学で、学生が望んで入学した以上、勉学後の余暇時間を有意義に過ごしてほしいが、学生は勉学の時間をふいにしても就活をしている。そもそも勉学に励まずとも卒業できる大学にも問題はあ。無理に出席せずとも卒業できる学部の授業一回と、将来に大きな影響を及ぼす就活から、就活を選ぶ学生への理解もできる。望めば入学できる現代で大学の学生へ果たす役割が学位授与のみに思える。これを変えるには、大卒者を受け入れる側の認識として学位の意味合いを高め、大学はそれだけの質のある指導をすることが必要である。新卒一括採用制度は卒業後のブランクが悪影響を及ぼしやすくこの両立の足枷となる。まずは勉学に励んで卒業をした上で、会得した能力を示す学位で就活をし、そのための時間をマイナスにとらえない社会とその間の学生への経済的なフォローが必要になると考えている。
- 34) 1～2年次にキャリア教育に基づくインターンシップを重視することで、学生の自律した学修姿勢を涵養させたいと考えます。

心のある内容に対する学習時間が増えた」も続く。

- ③ 「教育課程に位置付けられた5日以上インターンシップ」はほとんどの大学が何らかの形で実施しており、そのための工夫としては単位認定のほか、事前・事後の学習の組み込みが一般的である。企業との連絡などを行う専任職員の配置も国公立60%、私立77%に及ぶ。学外アドバイザーの活用や学生への経済的支援は国公立が私立より高いが、全般に社会的要因による大きな差はない。大学側のオリエンテーション、個別相談の多くは卒業年次以前に行なわれており、その年次にインターンシップも行われていると思われる。
- ④ インターンシップ実施上の最大の課題は担当教員、事務担当者の負担が大きいことであるが、受入企業の開拓が難しいことの訴えも高い率を示す。学生が知名度が低い企業には消極的という問題もある。
- ⑤ 大学キャリアセンター教職員等が望ましいとするインターンシップ期間は「5日以上10日未満」が59%、「10日以上1か月未満」が25%である。時期は国公立の職員が3年生の夏休みを中心に考えるのに対し、私立では2年生が多い。あるべきインターンシップと考えられているのは「基幹業務の一部」や「業務シミュレーション」を経験し、終了後の「内容の振り返り」で深めるもので、それを「大学・企業が協働して行う」ことである。新しいプログラムの開発を行ったり、正規の教育課程として実施するべく、インターンシッププログラムの拡大も想定されている。
- ⑥ 大学キャリアセンター教職員等の就職支援観の分析から、彼らの多くはインターンシップが学生の社会性涵養に役立つが、教員や大学当局の一層の協力が必要と考えていることがわかった。因子分析では「本格度」「外注度」「懐疑度」と命名しうる因子が発見されたが、社会的要因との関連はほとんどなく、個人的要素が大きいと思われた。
- ⑦ 「教育課程に位置付けられた5日以上インターンシップ」実施にあたってのキャリアセンターの工夫への回答に因子分析を適用したところ、「人的配置の充実などの組織整備」「インターンシップの学内制度化」「学生とのコミュニケーションを中心とする機動性確保」という3因子が浮かびあがった（「組織性」「正課性」「機動性」と命名）。社会的要因との関連はあまり大きくないが（上記③と整合的）、「組織性」のみ理系の私立大学で高く、国公立大学で低い。国立大学工学部における教員の学生の就職における役割の大きさが反映しているのかもしれない。キャリアセンター教職員等の就職支援観とも若干の関係性が見られるが、明確な解釈には材料不足である。
- ⑧ 自由記述欄ではワンデーインターンシップが望ましくないという認識が共有されていることが明らかとなった。国による指導や規制強化を求めるものが少なくなく、その一環として、「インターンシップ」の名称を変更する提案もあった。1～2年次にキャリア教育に基づくインターンシップを実施し、学生に自律的な学修姿勢を涵養したいという決意表明も見られた。

アンケート調査の結果は大学キャリアセンター教職員等の真摯な取り組みを示すものであった。さまざまな環境条件の中で生まれている現場職員の創意工夫には、今後共有が期待されるモデルも含まれているであろう。



## 就職・採用活動の一環として実施されるインターンシップの実態に関するアンケート（大学向け）

文部科学省高等教育局学生・留学生課  
 独立行政法人日本学生支援機構  
 （調査委託先）株式会社シー・ディー・アイ

## 《本アンケートの目的》

インターンシップの望ましいあり方については、文部科学省、厚生労働省及び経済産業省の三省が合同で「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」において示しているところですが、実際のあり方は多種多様な状況にあります。ことにいわゆる「ワンデーインターンシップ」等、事実上は企業説明会もしくは実質的に採用選考過程となっているものも多く存在し、このため就職活動の一環としてインターンシップに参加する学生が存在することが想定されます。

こうした現状を踏まえ、就職・採用活動に関連して実施されているインターンシップについて、実態等を把握し、今後の時代にふさわしい学生と企業の就職・採用について検討を行うための参考資料とさせていただきたく、本アンケートを実施いたします。回答は2月29日（土）23時59分に締切ります。

- ※ 本アンケートでは、回答者の個人名は一切把握されません。したがってそれらが公表、公開されることはありません。統計的に処理した結果を公開することはあります。
- ※ 各設問についての回答は、実態を理解している者が記入（または記載担当者が各担当部署の教職員に確認した上で記入）をお願いします。

まず、Q1～Q4で貴学についておたずねします。

Q1. 貴学の学校種別について、該当する番号を1つ選んでください。

1. 国立大学
2. 公立大学
3. 私立大学

Q2. 貴学のすべての学部、学科や大学院研究科、専攻について、以下のそれぞれに該当するものが設置されているかどうか回答してください。

	ある	ない
1. 人文科学（教養含む）	1	0
2. 社会科学（国際関係含む）	1	0
3. 理学	1	0
4. 工学	1	0
5. 農学	1	0
6. 医学、歯学、看護学	1	0
7. 薬学	1	0
8. 保健（医学、歯学、看護学、薬学以外）	1	0

9. 商船	1	0
10. 家政	1	0
11. 教育	1	0
12. 芸術	1	0
13. その他	1	0

※ 「人文科学」「社会科学」「家政」「教育」「芸術」「その他」を設置していると回答いただいた大学等については、後ほどの設問で「文系」について、「理学」「工学」「農学」「医学、歯学、看護学」「薬学」「保健（医学、歯学、看護学、薬学以外）」「商船」を設置していると回答いただいた大学等については、後ほどの設問で「理系」についてご回答ください。両方がある大学は両方に回答していただくよう画面制御されます。

Q 3. 貴学の所在地（本部事務局の所在地）の都道府県を記入してください。

（            ）都道府県

Q 4. 卒業対象学年の学生数について、1つ選んでください。大学院を設置する大学については「学部生＋大学院生（修士課程・専門職学位課程・博士前期課程）」の卒業・修了対象学年の学生数で回答してください。

1. 100人未満
2. 100人以上 500人未満
3. 500人以上 1,000人未満
4. 1,000人以上 2,000人未満
5. 2,000人以上 4,000人未満
6. 4,000人以上

Q 5～Q10では、貴学におけるインターンシップとその運営についておたずねします。以下では「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」で示されている教育的効果を目的としたインターンシップだけではなく、インターンシップという名称で実施されている活動についてご記入ください。ただし、本調査での「インターンシップ」には、教育実習や看護実習といった特定の資格取得を目的としたそれは対象に含みません。

Q 5. 貴学の卒業年次の学生について、何%の学生がどの程度の期間のインターンシップに参加しているか、合計が 100%になるように記入してください。複数参加している者については、最も長いものを想定してください。厳密なものではなく結構ですので、観察の結果を回答してください。

- |             |              |           |
|-------------|--------------|-----------|
| ① 参加していない   | (        ) % | } 合計 100% |
| ② 1日        | (        ) % |           |
| ③ 2日以上5日未満  | (        ) % |           |
| ④ 5日以上1か月未満 | (        ) % |           |
| ⑤ 1か月以上     | (        ) % |           |

Q 6. 貴学の学生はインターンシップに参加することで、学修行動などが変化する傾向がありますか。①～

⑬の各項目について、次の6つのいずれに該当するか回答してください。文系、理系両方の学部がある場合には両者を分けて1つずつ選んでください。

5. あてはまる
4. ややあてはまる
3. どちらともいえない
2. ややあてはまらない
1. あてはまらない
- .....
0. 把握していない

文系学生

学生の変化	インターンシップ期間																	
	5日未満のインターンシップに参加した層		5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層		1か月以上のインターンシップに参加した層													
① 大学での授業への出席が増えた	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
② 興味関心のある内容が絞られ(変わり)、履修する科目の傾向が変わった	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
③ 興味関心のある内容に対する学習時間が増えた	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
④ 大学外での学習行動(例えば読書の機会や講演の聴取など)が増えた	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑤ 企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑥ 時事問題などに関する情報を見る時間が増えた	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑦ 資格試験などに取り組みはじめた	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑧ 社会人などとの交流の機会が増えた	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑨ 自らのキャリア観(生き方)が明確になった	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0
⑩ クラブ活動もしくはサークル活動へ	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0	5	4	3	2	1	0

の参加時間が増えた			
⑪ アルバイトへの参加時間が増えた	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
⑫ ボランティアへの参加回数が増えた	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
⑬ 就職活動に対してポジティブなイメージを持った	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0

理系学生

インターンシップ期間 学生の変化	5日未満のインターンシップに参加した層	5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層	1か月以上のインターンシップに参加した層
① 大学での授業への出席が増えた	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
② 興味関心のある内容が絞られ（変わり）、履修する科目の傾向が変わった	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
③ 興味関心のある内容に対する学習時間が増えた	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
④ 大学外での学習行動（例えば読書の機会や講演の聴取など）が増えた	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
⑤ 企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
⑥ 時事問題などに関する情報を見る時間が増えた	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
⑦ 資格試験などに取り組みはじめた	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
⑧ 社会人などとの交流の機会が増えた	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
⑨ 自らのキャリア観（生き方）が明確になった	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
⑩ クラブ活動もしくはサークル活動へ	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0

の参加時間が増えた			
⑪ アルバイトへの参加時間が増えた	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
⑫ ボランティアへの参加回数が増えた	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0
⑬ 就職活動に対してポジティブなイメージを持った	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0	5 4 3 2 1 0

Q 6 X. 貴学において教育課程に位置付けられた 5 日以上のインターンシップを実施していますか。

1. 実施している ⇒ Q 7 に進んでください
2. 実施していない ⇒ Q 9 に進んでください

Q 7. 【Q 6 X に「1」と回答した方のみ】貴学において教育課程に位置づけられた 5 日以上のインターンシップを行うにあたり、特に工夫されている点について、以下の各項目があてはまるどうか回答してください。

	あてはまる	あてはまらない
① 授業の単位として積極的に認定している	1	0
② 企業との連絡などを行う専任職員の配置	1	0
③ 学外アドバイザーなどの活用	1	0
④ 学生への経済的支援（交通費やプロジェクト実施経費等）	1	0
⑤ 学生と密なコミュニケーションがとれる体制（サイトなどの活用）	1	0
の構築		
⑥ 担当教職員等が巡回指導を行うフォローアップ体制の構築	1	0
⑦ 事前・事後の学習の組み込み	1	0
⑧ インターンシップ参加前後の成果の見える化	1	0
⑨ その他（ ）	1	0

Q 8. 【Q 6 X に「1」と回答した方のみ】前問のインターンシップを実施、運営する際の課題等について、以下の各項目があてはまるかどうか回答してください。

	あてはまる	あてはまらない
① 受入企業の開拓が難しい（企業の負担が大きいと受け入れてもらえない）	1	0
② 受入企業数を確保するために、プログラム内容を企業側に要求できない（企業に内容をお任せになる）	1	0
③ 学生の参加意欲が低い	1	0
④ 企業の知名度によって希望が大きく偏る	1	0
⑤ 学生がインターンシップ参加によって学業に障害があることから、教員からの反対が強い	1	0

⑥ 当初の想定していた内容と違う内容のインターンシップが行われていた	1	0
⑦ インターンシップ開催後の企業のフォローアップがない	1	0
⑧ 学生の専門性が活かせるプログラムが少ない	1	0
⑨ インターンシップ実施期間における安全対策や事故発生時への対応、協定書への理解が得られない	1	0
⑩ 学生の経済的な負担が大きい	1	0
⑪ 担当教員・事務担当者等の負担が大きい	1	0
⑫ その他 ( )	1	0

Q 9. 貴学で実施しているインターンシップ参加支援のプログラムについて、下記それぞれの有無を回答してください。

	ある	ない
① 卒業年次より前の学生を対象とした、インターンシップ参加オリエンテーション	1	0
② 卒業年次より前の学生を対象とした、インターンシップ開催企業の個社説明会	1	0
③ 卒業年次より前の学生を対象とした、インターンシップ開催企業の合同説明会	1	0
④ 卒業年次より前の学生に対する、インターンシップに向けた個別相談	1	0
⑤ 卒業年次の学生を対象とした、インターンシップ参加オリエンテーション	1	0
⑥ 卒業年次の学生を対象とした、インターンシップ開催企業の個社説明会	1	0
⑦ 卒業年次の学生を対象とした、インターンシップ開催企業の合同説明会	1	0
⑧ 卒業年次の学生を対象とした、インターンシップに向けた個別相談	1	0

Q10. インターンシップに関し、学生から寄せられる相談内容のうち、下記の各項目にあてはまるものが顕著かどうか回答してください。

	あてはまる	あてはまらない
① 大学の講義との両立について	1	0
② 研究室・ゼミナールとの両立について	1	0
③ 部活動・サークル活動との両立について	1	0
④ インターンシップにかかる金銭的負担について	1	0
⑤ インターンシップの面接やエントリーシートに関する内容について	1	0
⑥ インターンシップの仕事内容や人間関係について	1	0
⑦ インターンシップ後の振り返りについて	1	0
⑧ インターンシップと採用選考の関係について	1	0
⑨ その他 ( )	1	0

Q11～Q14では貴学における今後のインターンシップについておたずねします。

Q11. 学生にとって教育的効果の高いインターンシップとはどのような内容を有するべきとお考えですか。  
文系、理系両方の学部がある場合には、それぞれについてあてはまるかどうかを回答してください。

文系学生	あてはまる	あてはまらない
① 企業の説明（座学）	1	0
② 業界の説明（座学）	1	0
③ 入社後の業務説明	1	0
④ 社員に対する質問会	1	0
⑤ 新規事業についてのワークやディスカッション	1	0
⑥ 社会課題やテーマについてのワークやディスカッション	1	0
⑦ 検討した事業・課題についての発表・プレゼンテーション	1	0
⑧ 企画・提案型の特別プロジェクト	1	0
⑨ 企画・実行型の特別プロジェクト	1	0
⑩ 実際の業務シミュレーション・実習・研修・体験	1	0
⑪ 職場や工場の見学	1	0
⑫ 業務の同行・同席	1	0
⑬ 補助的業務の一部を経験	1	0
⑭ 基幹業務の一部を経験	1	0
⑮ キャリア（自らの職業選択）に関する研修	1	0
⑯ 就職活動への直接的な支援	1	0
⑰ 実施した内容の振り返り	1	0
⑱ 大学の正規課程の科目への位置づけ	1	0
⑲ 大学・企業が協働して行うもの	1	0
⑳ その他（ ）	1	0

理系学生	あてはまる	あてはまらない
① 企業の説明（座学）	1	0
② 業界の説明（座学）	1	0
③ 入社後の業務説明	1	0
④ 社員に対する質問会	1	0
⑤ 新規事業についてのワークやディスカッション	1	0
⑥ 社会課題やテーマについてのワークやディスカッション	1	0
⑦ 検討した事業・課題についての発表・プレゼンテーション	1	0
⑧ 企画・提案型の特別プロジェクト	1	0
⑨ 企画・実行型の特別プロジェクト	1	0
⑩ 実際の業務シミュレーション・実習・研修・体験	1	0
⑪ 職場や工場の見学	1	0
⑫ 業務の同行・同席	1	0
⑬ 補助的業務の一部を経験	1	0
⑭ 基幹業務の一部を経験	1	0

⑮ キャリア（自らの職業選択）に関する研修	1	0
⑯ 就職活動への直接的な支援	1	0
⑰ 実施した内容の振り返り	1	0
⑱ 大学の正規課程の科目への位置づけ	1	0
⑲ 大学・企業が協働して行うもの	1	0
⑳ その他（            ）	1	0

Q12. 大学での学修に良い影響（大学で学んだ内容をインターンシップで活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定する）をもたらすうえで、望ましいインターンシップの参加開始時期はいつでしょうか。学部生、大学院生それぞれについて番号を1つずつ選んでください。

学 部

1. 大学1年生
2. 大学2年生
3. 大学3年生4～6月
4. 大学3年生7～9月
5. 大学3年生10～12月
6. 大学3年生1～3月
7. 大学4年生4～6月
8. 大学4年生7～9月
9. 大学4年生10～12月
10. 大学4年生1～3月
11. 卒業後
12. 授業のない期間ならいつでもよい
13. 学部を設置していない

大学院

1. 大学院1年生4～6月
2. 大学院1年生7～9月
3. 大学院1年生10～12月
4. 大学院1年生1～3月
5. 大学院2年生4～6月
6. 大学院2年生7～9月
7. 大学院2年生10～12月
8. 大学院2年生1～3月
9. 卒業後
10. 授業のない期間ならいつでもよい
11. 大学院を設置していない

Q13. 大学での学修へ良い影響（大学で学んだ内容をインターンシップで活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定する）をもたらすために、インターンシップの期間はどのくらいが望ましいとお考えですか。番号を1つ選んでください。

1. 1日



2. 2日
3. 3～4日
4. 5日以上10日未満
5. 10日以上1か月未満
6. 1か月以上3か月未満
7. 3か月以上

Q14. 貴学のインターンシップについて、今後どのような方向に重点を置いていこうとお考えですか。次のそれぞれについて、番号を1つずつ選んでください。文系、理系両方の学部がある場合には、それぞれについて回答してください。

文系学生	あてはまる	やや	どちらでも	やや	あてはまらない
		あてはまる	ない	あてはまらない	
① インターンシップのプログラム数を拡大して実施	5	4	3	2	1
② インターンシップのプログラム数を縮小して実施	5	4	3	2	1
③ 特定の学生に対するプログラムの開発（留学生、障害学生、博士課程学生等）	5	4	3	2	1
④ 特定の企業等に対するプログラムの開発（地元企業、大学所在地以外の企業、海外企業、専門課程との関連の高い業界等）	5	4	3	2	1
⑤ 正規の教育課程として実施	5	4	3	2	1
⑥ 正規の教育課程外として実施	5	4	3	2	1
⑦ 正規の教育課程及び正規の教育課程外両方で実施	5	4	3	2	1
⑧ インターンシップの長期化（1か月以上）	5	4	3	2	1
⑨ 長期インターンシップの短期化（1か月未満）	5	4	3	2	1

理系学生	あてはまる	やや	どちらでも	やや	あてはまらない
		あてはまる	ない	あてはまらない	
① インターンシップのプログラム数を拡大して実施	5	4	3	2	1
② インターンシップのプログラム数を縮小して実施	5	4	3	2	1
③ 特定の学生に対するプログラムの開発（留学生、障害学生、博士課程学生等）	5	4	3	2	1
④ 特定の企業等に対するプログラムの開発（地元企業、大学所在地以外の企業、海外企業、専門課程との関連の高い業界等）	5	4	3	2	1
⑤ 正規の教育課程として実施	5	4	3	2	1
⑥ 正規の教育課程外として実施	5	4	3	2	1
⑦ 正規の教育課程及び正規の教育課程外両方で実施	5	4	3	2	1
⑧ インターンシップの長期化（1か月以上）	5	4	3	2	1
⑨ 長期インターンシップの短期化（1か月未満）	5	4	3	2	1

Q15以降は回答された方のインターンシップにするお考えをおたずねします。

Q15. 本アンケートを中心となって記載した方の職種を1つ選んでください。

1. 役員
2. 教員
3. キャリアコンサルタント
4. 事務職員
5. その他 ( )

Q16. ご回答くださった方の就職支援やインターンシップに関するお考えをおたずねします。以下の各項目について、あなたの考えに最も近い番号を選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	ややあてはまらない	あてはまらない
① 就職支援やインターンシップの効果的な推進には、大学当局の一層のリーダーシップが必要だ	5	4	3	2	1
② 就職支援やインターンシップの効果的な推進には、教員の一層の理解が必要だ	5	4	3	2	1
③ 就職支援やインターンシップの促進に向けて、就職エージェントを適宜活用していきたい	5	4	3	2	1
④ 就職支援やインターンシップの促進に照らすと、就職エージェントの学生接触のあり方には問題がある	5	4	3	2	1
⑤ インターンシップは学生の社会性涵養に効果的である	5	4	3	2	1
⑥ 4年生9月以前の内定や内々定には法的根拠がないことを、国が企業に対して明確にしてほしい	5	4	3	2	1
⑦ キャリア教育の深化には、初等中等教育を含めて教育のあり方を考え直すことが必要だ	5	4	3	2	1
⑧ 大卒者のかなりの部分が早々に転職するのは事実上のインターンシップであり、評価できる面もある	5	4	3	2	1

Q17. 学生の就職活動やインターンシップおよび文部科学省の関連施策のあるべき姿について、自由にご回答ください。

ご協力ありがとうございました。

## 第5章 卒業年次学生を対象とするアンケート調査

### 第1節 学生アンケート調査のフレームワーク

#### 調査の概要

本章では2019年2月時点で四年制大学や大学院修士課程の卒業年次に在学している学生（学部4年生、修士2年生）を対象に、就職活動とインターンシップ参加経験に関して実施したアンケート調査の結果をまとめる。対象者の在学先は第4章で扱った大学キャリアセンター教職員等調査の調査先と同じ169大学で、その調査票URLを送付した2月7日に、学生調査の調査票URLの学生向け配信あるいはWeb掲出も依頼した。

対象169大学の卒業年次学生の合計は約40万人と推定されたが、社会調査においてはその全数を対象とする必要はなく、調査票サイトの容量限界という問題もあったため、各大学に2%の無作為抽出を依頼した。抽出が不可能な場合は教務系Webサイトへの案内文掲出方式も可とし、それぞれの文案サンプルも付して参考にしていただいた。その際の関係文書は本報告書末尾の「資料1. 文部科学省から大学に送付した依頼文書」に収録する。

調査票については文部科学省側で用意した原案に対し、調査委託先の株式会社シー・ディー・アイとして改訂を提案し、両者協議して確定した。その調査票（原稿版）を本章末に収録する。調査票は図5-1に示すように、

- ① 回答者の属性、職業観と就職活動の状況
- ② インターンシップ参加経験
- ③ 最も長いインターンシップについて
- ④ 回答者の就職観、インターンシップ観

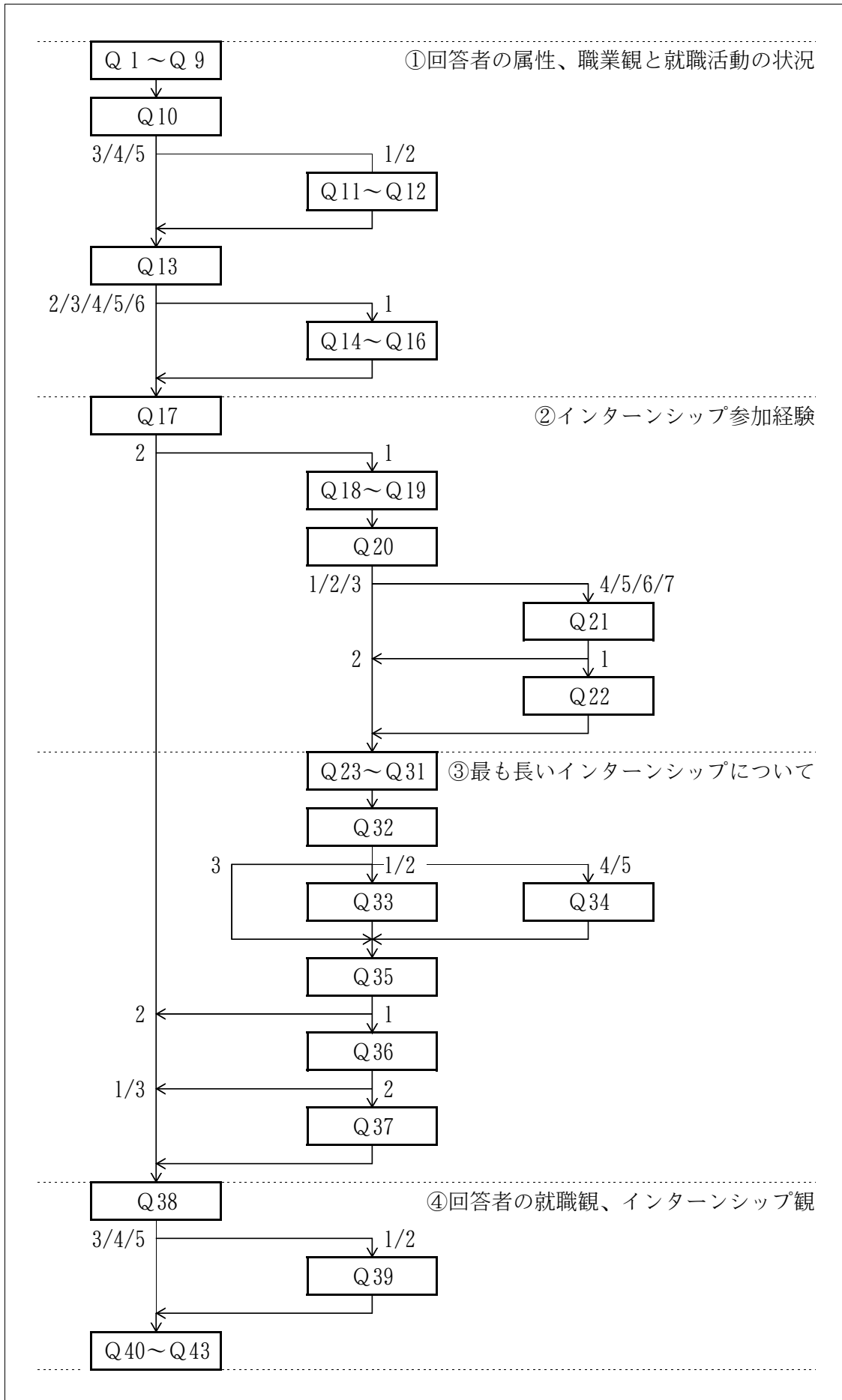
の4ブロック44問からなる（最後の設問番号がQ43であるのは、最終段階の設問追加を番号への記号付加で処理したため）。

調査票は大学アンケートと同様、株式会社クロス・マーケティングを交えて2020年2月6日に完成し、同日に同社のサーバーにインストールされて、3月8日まで回答可能状態が維持された。締切は2月29日23時59分に設定したが、締切処理が行なわれたのは3月2日10時00分で、回収は1,373票に達した。各大学が2%抽出した場合は約8,000名への案内が行なわれたことになるが、それに対する回収率は約17%と算出される。

調査票サイトは上限5,000票を設定しており、締切日までにそれを越えなかったことから、周知タイミングのズレによるバイアスの発生は防ぐことができた。一方、各大学の配信先はセンターが日常的に接触する学生に偏った可能性がある。大学側で配信が困難な場合は上記のようにWeb掲出にとどめていただいたこととあいまって、回答者が「センターとの接触が多い学生」「就職活動を成功裏に終えた学生」にやや偏っていることが否定できない。分析にあたってはそのことを念頭に、過度な一般化を避けるよう努めた。今後の調査に向けてバイアスを回避する方法を第6章で提案する。

分析には統計パッケージ「IBM SPSS Statistics 26」およびクロス・マーケテ

図 5 - 1. 「学生アンケート調査」の設問構造



ィング株式会社の分析ツール「CrossFinder 2」を使用した。調査にご協力くださった各大学の関係先に深謝申し上げます。

### 問題意識と分析手順

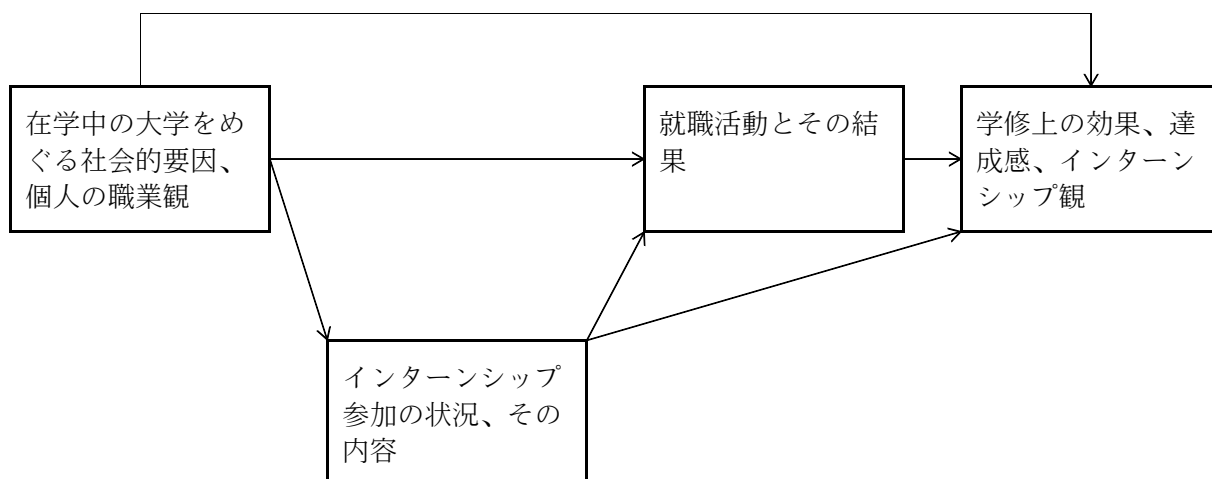
本調査研究の目標はインターンシップを含む学生の就職活動の実態と学修上の効果・逆効果を明らかにすることである。そのために次の手順で分析を進める。

- ① 学生の就職活動とその結果としての内定時期、内定先企業の属性等を把握する。学生の就職活動の規模や範囲は大きく異なるはずで、それらを本人の置かれた社会的状況（学部、大学所在地、性別、偏差値による大学群等）や個人の職業観と関連するかどうかを確認する。
- ② 学生のインターンシップ活動（時期、期間、地域等）を把握し、社会的要因や個人の職業観の観点から分析して類型化する。
- ③ 学生がインターンシップに参加したことで就職活動に何らかの影響があったか、どのような影響だったかを①②の結果をふまえて分析する。ポイントは相対的に長いインターンシップに参加した者とそうでない者の比較であるが、インターンシップにもさまざまな側面があり、効果も一様ではないかもしれない。また、インターンシップに効果があったように見えても、実は社会的要因や職業観が背後に存在するかもしれないことに留意する。
- ④ 以上を念頭に、インターンシップの学修上の効果や達成感、インターンシップ観を総合的に検討する。

以上はさまざまな資質を持つ学生が大学からの指導や機会提供のもとにインターンシップを含む就職活動を行なった結果、何らかの成長を遂げることを基本想定としている。以上を因果モデルとしてまとめたのが図5-2である。本章の分析は上記のポイントに絞って実施するため、必ずしも調査票の全項目は扱わない。全項目については、「資料4」に基礎集計の結果を収める。

手法的には第4章と同様、説明対象の変数を時間的にさきがける要因で説明する一般線

図5-2. 「学生アンケート調査」の因果モデル



型モデルおよび重回帰分析の適用を基本とする。特定の設問群の全体構造をあらかじめ把握する必要がある場合は因子分析も用いる。

## 第2節 分析結果

### 回答者の属性

アンケート調査では回収票のうち、調査研究の趣旨に照らして適切でないものを分析対象からはずすことがある。今回は所属学部が「医学、歯学、看護学」である者、学年の記入がない者、記入されていても学部の3年生以下あるいは留年していることが明らかな者、大学院では修士1年生あるいは修士3年生以上もしくは博士課程在学中の者、合格した入試カテゴリーに関する設問から外国人留学生であることがわかった者、短期大学部の学生、就職内定年に西暦が記してあり、それが1990年代であることから判明した中年の社会人学生、および重要項目についてデータとしてありえない内容が記入されていたごく少数の回答を除外した。その結果、分析対象は到着した1,373票から177票減って1,196票となった。

分析対象の属性は表5-1に示すとおりである。所在地は第4章の大学アンケート調査と同様、旧帝大を擁する北海道、宮城、東京、愛知、京都、大阪、福岡の7都道府県に交通至便な隣接県である神奈川、兵庫を加えた9都道府県を「都市圏」、それ以外を「地方圏」とした。文系理系は「人文科学（教養含む）」「社会科学（国際関係含む）」「家政」「教育」「芸術」「その他」を文系、「理学」「工学」「農学」「薬学」「保健（医学、歯学、看護学、薬学以外）」「商船」を理系としたが、これも大学調査と同様である。

在学中の大学は83大学に及び、最多の大学は201票、それに続く大学が105票で、これら2大学で25%を占めることになった。また、大学名の記載がないものは51票であった。偏差値による大学群判定は株式会社イトクロが公表している「みんなの大学情報」掲載のものを利用して高いほうからA群、B群、C群に分けた。本調査研究において、偏差値はあくまで社会的要因の指標として用いられ、その意味で変数名を「大学群」とした。

### 就職活動の実態

【就職内定先と応募数、面接数】以下ではまず、調査票に回答した学生たちの就職活動を追う。Q10とQ13のクロス集計表（表5-2）から就職活動の内容とその首尾を概観すると、まず全体1,196名の76%にあたる909名（企業への就職活動のみの756名と公務員・教員試験も受験した153名の合計）の学生が企業への就職活動にあたり、全体の23%にあたる270名（上記の153名と公務員・教員試験のみの117名の合計）が公務員試験、教員試験も受験したことがわかる。その首尾はどうだっただろうか。

まず企業だけを志望した学生は、その91%が企業から内定を得た。公務員・教員試験だけの者は、財団法人、社団法人、学校法人等を含めて86%が内定を獲得している。両方を狙った者の内定先は民間企業と官公庁・自治体がほぼ41%ずつで、財団法人等と合わせて92%がいずれかに内定した。就職活動をしなかった者も7%は内定を得た。企業に内定した752名がいかなる業種のどのような規模の企業に勤めるかを示したのが表5-3である。パーセンテージは行方向、列方向ともに算出した。

表 5 - 1 . 回答者の属性

Q 1		度数	%
性別	男	656	54.8%
	女	528	44.1%
	答えたくない	11	0.9%
	その他	1	0.1%
計		1196	100.0%

Q 4		度数	%
分野	文系	678	56.7%
	理系	518	43.3%
計		1196	100.0%

Q 2		度数	%
学年	4 年生	886	74.1%
	修士 1 年生	310	25.9%
計		1196	100.0%

Q 5		度数	%
大学群	A群	291	24.3%
	B群	577	48.2%
	C群	277	23.2%
	大学名不詳	51	4.3%
計		1196	100.0%

Q 3		度数	%
設置者	国立大学	570	47.7%
	公立大学	22	1.8%
	私立大学	604	50.5%
計		1196	100.0%

Q 6		度数	%
所在地	都市圏	789	66.0%
	地方圏	407	34.0%
計		1196	100.0%

Q 3		度数	%
課程	学部	886	74.1%
	大学院	310	25.9%
計		1196	100.0%

表 5 - 2 . 就職活動とその結果

Q10 * Q13		内定先						計	
		民間企業	官公庁、 自治体	財団法人、 社団法人、 学校法人等	NPO、 NGO	就職しない	その他		
就職活動	企業だけに就職活動した	度数	684	2	28	2	30	10	756
		%	90.5%	0.3%	3.7%	0.3%	4.0%	1.3%	100.0%
	企業への就職活動をする とともに公務員・教員採用 試験を受験した	度数	62	64	14	0	5	8	153
		%	40.5%	41.8%	9.2%	0.0%	3.3%	5.2%	100.0%
	公務員・教員採用試験の 受験のみ行なった	度数	0	88	12	0	11	6	117
		%	0.0%	75.2%	10.3%	0.0%	9.4%	5.1%	100.0%
	就職活動はしなかった	度数	4	1	3	2	135	5	150
		%	2.7%	0.7%	2.0%	1.3%	90.0%	3.3%	100.0%
	その他	度数	2	1	4	0	4	9	20
		%	10.0%	5.0%	20.0%	0.0%	20.0%	45.0%	100.0%
計	度数	752	156	61	4	185	38	1196	
	%	62.9%	13.0%	5.1%	0.3%	15.5%	3.2%	100.0%	

公益財団法人日本求人情報協会が2018年度卒業生の就職動向を調べてWebに発表しており、これに掲載されている就職先企業の規模別分布を本調査における学部学生と大学院生の比で重みづけると、同じ規模カテゴリーに対して小さい方から 9.5%、14.6%、16.3%、31.4%、28.1%となる。本調査の各カテゴリーの割合を「わからない」除外のうえであらためて計算すると、10.3%、13.6%、19.9%、24.1%、32.1%で、厳密な照合はできないが（もとより調査時期の2年のズレもあるが）、おおむね一致していると思われる。一方、本調査では業種で「IT・メディア・広告」が20%を超えており、これは『学校基本調査』における2019年3月卒業生の「卒業後の進路」で「情報通信業」が11%程度であることと比べるとかなり大きく、データの偏りを示唆する可能性がある。なお、民間企業

表 5 - 3 . 民間企業就職者の就職先

業種	Q14X * Q14	規模						計
		99人以下	100~299人	300~999人	1000~4999人	5000人以上	わからない	
技術ベンチャー	度数	4	1	0	3	0	2	10
	業種の%	40.0%	10.0%	0.0%	30.0%	0.0%	20.0%	100.0%
	規模の%	5.6%	1.1%	0.0%	1.8%	0.0%	3.2%	1.3%
金融	度数	0	5	11	11	22	3	52
	業種の%	0.0%	9.6%	21.2%	21.2%	42.3%	5.8%	100.0%
	規模の%	0.0%	5.3%	8.0%	6.6%	10.0%	4.8%	6.9%
建設・不動産	度数	8	6	11	13	7	5	50
	業種の%	16.0%	12.0%	22.0%	26.0%	14.0%	10.0%	100.0%
	規模の%	11.3%	6.4%	8.0%	7.8%	3.2%	7.9%	6.6%
物流・運送	度数	1	3	7	6	13	3	33
	業種の%	3.0%	9.1%	21.2%	18.2%	39.4%	9.1%	100.0%
	規模の%	1.4%	3.2%	5.1%	3.6%	5.9%	4.8%	4.4%
エネルギー・資源	度数	1	1	0	5	11	0	18
	業種の%	5.6%	5.6%	0.0%	27.8%	61.1%	0.0%	100.0%
	規模の%	1.4%	1.1%	0.0%	3.0%	5.0%	0.0%	2.4%
自動車・機械	度数	2	5	10	9	45	2	73
	業種の%	2.7%	6.8%	13.7%	12.3%	61.6%	2.7%	100.0%
	規模の%	2.8%	5.3%	7.3%	5.4%	20.4%	3.2%	9.7%
電機・精密	度数	5	6	15	12	34	5	77
	業種の%	6.5%	7.8%	19.5%	15.6%	44.2%	6.5%	100.0%
	規模の%	7.0%	6.4%	10.9%	7.2%	15.4%	7.9%	10.2%
食品	度数	4	4	3	12	8	4	35
	業種の%	11.4%	11.4%	8.6%	34.3%	22.9%	11.4%	100.0%
	規模の%	5.6%	4.3%	2.2%	7.2%	3.6%	6.3%	4.7%
小売・卸売	度数	7	6	6	15	8	6	48
	業種の%	14.6%	12.5%	12.5%	31.3%	16.7%	12.5%	100.0%
	規模の%	9.9%	6.4%	4.4%	9.0%	3.6%	9.5%	6.4%
アパレル	度数	0	1	0	1	2	0	4
	業種の%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%
	規模の%	0.0%	1.1%	0.0%	0.6%	0.9%	0.0%	0.5%
その他製造	度数	3	7	11	19	17	3	60
	業種の%	5.0%	11.7%	18.3%	31.7%	28.3%	5.0%	100.0%
	規模の%	4.2%	7.4%	8.0%	11.4%	7.7%	4.8%	8.0%
IT・メディア・広告	度数	23	29	33	29	28	11	153
	業種の%	15.0%	19.0%	21.6%	19.0%	18.3%	7.2%	100.0%
	規模の%	32.4%	30.9%	24.1%	17.5%	12.7%	17.5%	20.3%
専門サービス(弁護士・ 会計士・コンサルタント 事務所等)	度数	0	7	3	2	3	0	15
	業種の%	0.0%	46.7%	20.0%	13.3%	20.0%	0.0%	100.0%
	規模の%	0.0%	7.4%	2.2%	1.2%	1.4%	0.0%	2.0%
飲食	度数	0	0	1	1	1	1	4
	業種の%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%
	規模の%	0.0%	0.0%	0.7%	0.6%	0.5%	1.6%	0.5%
娯楽・レジャー	度数	3	0	3	4	2	3	15
	業種の%	20.0%	0.0%	20.0%	26.7%	13.3%	20.0%	100.0%
	規模の%	4.2%	0.0%	2.2%	2.4%	0.9%	4.8%	2.0%
介護・福祉	度数	1	2	3	1	0	2	9
	業種の%	11.1%	22.2%	33.3%	11.1%	0.0%	22.2%	100.0%
	規模の%	1.4%	2.1%	2.2%	0.6%	0.0%	3.2%	1.2%
生活関連サービス(洗濯・ 理容・美容・浴場業、 家事サービス業等)	度数	0	1	1	1	0	0	3
	業種の%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
	規模の%	0.0%	1.1%	0.7%	0.6%	0.0%	0.0%	0.4%
その他サービス	度数	5	6	9	15	7	6	48
	業種の%	10.4%	12.5%	18.8%	31.3%	14.6%	12.5%	100.0%
	規模の%	7.0%	6.4%	6.6%	9.0%	3.2%	9.5%	6.4%
その他	度数	4	4	10	7	13	7	45
	業種の%	8.9%	8.9%	22.2%	15.6%	28.9%	15.6%	100.0%
	規模の%	5.6%	4.3%	7.3%	4.2%	5.9%	11.1%	6.0%
計	度数	71	94	137	166	221	63	752
	業種の%	9.4%	12.5%	18.2%	22.1%	29.4%	8.4%	100.0%
	規模の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



就職者 752名中の 742名 (98.7%) が「正社員」としての就職であった。

さて、ここに至るまでの学生の就職活動を Q11、Q12 で見ることにしたい。752名 (欠損値が生じているため回答は 746名) がエントリーシートを送るなど応募した企業は 0社から 107社に及び、その平均値は 13.7社であった。一方、面接を受けたのは 0社~60社で平均値は 8.3社である。したがって、応募先から面接に呼ばれる率は 60%程度ということになる。応募数 (Q11)、面接数 (Q12) の相関係数は 0.862 でかなり高いが、関係が直線的であるかどうかの確認のため両者の散布図を作成したところ、図 5-3 が得られた。面接数が応募数とほぼ同数、あるいは面接数の方が多き者もあり、何をもって応募、面接とするかの認識の差が広がり始めているのかもしれない。

【大学群と内定時期】 調査票の Q16 は企業に就職した 752名に対し、就職を予定している企業から内定が出たのは何年生の何月かを問うたものである。最も早い学生は学部学生が 3年生の 4月で、大学院生では学部 3年生の 3月に決まったとする者がいた。この人物を含めて大学院生で大学院入学前に内定した者は 223名中 4名おり、入学直後の 4~6月にも計 14名の小さなピークがある。

図 5-3. 応募数と面接数の散布図 (学部+大学院/企業就職)

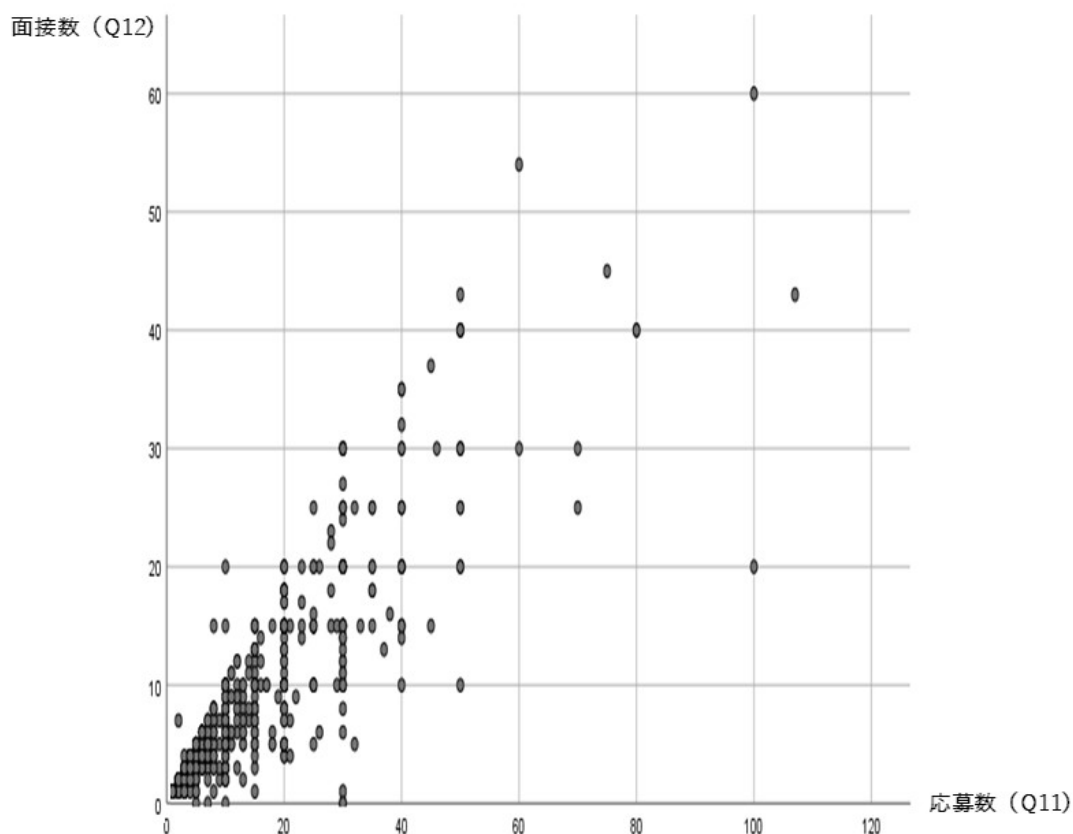


図5-4はこの内定時期と大学群との関係を示す。第2章で見た濱中(2010)と同様、学部3年生2月から学部4年生10月まで(大学院生は修士1年生2月から修士2年生10月まで)の累積内定率を追ったもので、大学群との関係が見て取れる。濱中は経済・経営・商学系学部の男子学生を扱っており、直接の比較はできないが、少なくともある程度は群間の差が認められる。濱中が示したようなA群の学生が極端に早い時期に就職が決まる傾向は見られないが、これが実際の状況を反映しているのかデータの偏りによるものかは判断できない。一般線型モデルによる分析結果が表5-4である。被説明変数は学部生は1年生の4月を「1」、4年生の3月を「48」とする入学後の月数で、大学院生は学部3年生の4月を「1」としている(グラフの数値は「資料2」参照)。

モデル1~5でわかるのは、大学群以外にも設置者、課程、分野が内定時期に関わることである。推定周辺平均を見ると、例えばA群はC群より内定が3か月半早い一方で(表5-5)、大学群と設置者、大学群と課程、大学群と分野をそれぞれ同時に投入した場合に結果が不安定化することもわかった(表5-4のモデル6~8)。これは説明変数間の関係が深いことの結果で、両要因の効果を統計的には確定できないことを意味する。図5-4の上図と下図を比べるとA群の学生は大半が修士課程修了者である。すなわちA群学生の就職に至るルートに大学院が組みこまれ、ゆえに効果が一体化していると見ることができる。その結果がモデル7になる。

図5-4. 大学群別累積内定率(企業就職) (Q5 \* Q16)

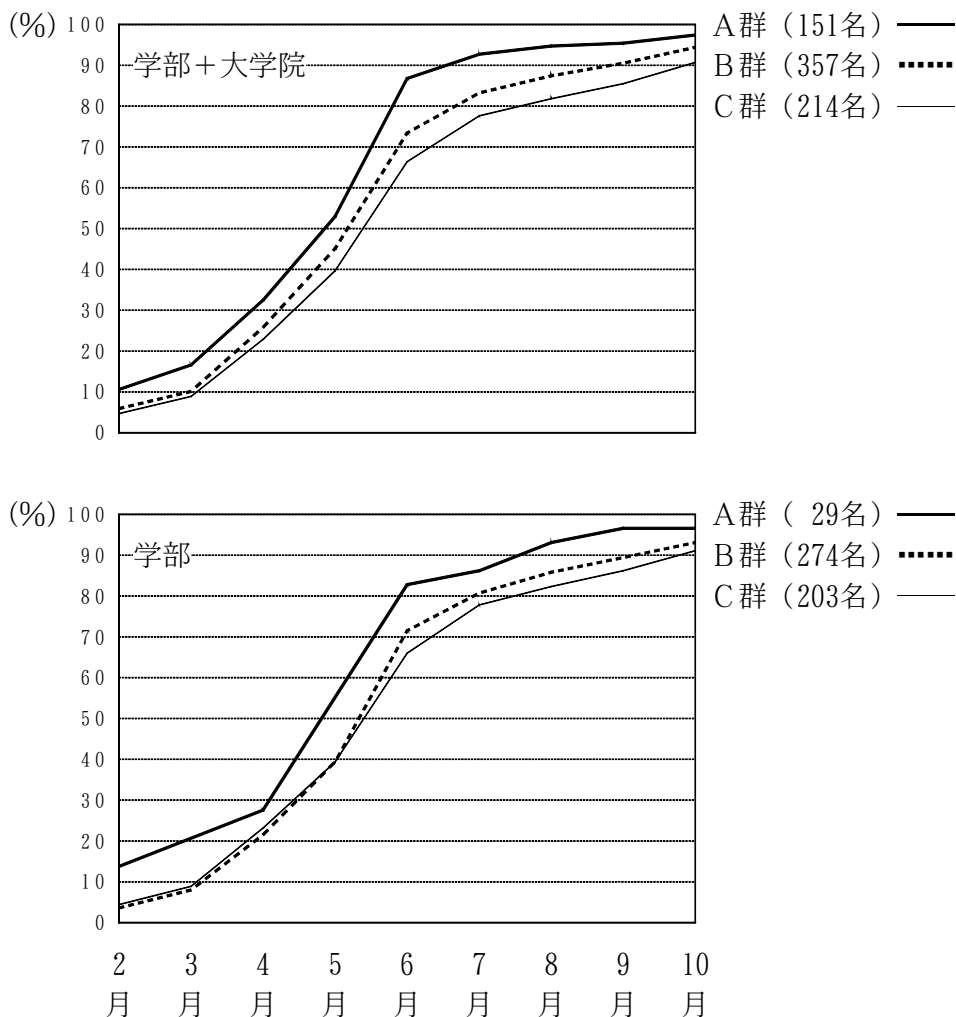


表 5 - 4 . 一般線型モデルによる内定時期規定要因の分析（学部+大学院/企業就職）（F 値）

モデル	大学群	設置者	課程	分野	所在地	大学群*設置者	大学群*課程	大学群*分野	大学群*所在地	設置者*課程	課程*所在地	
モデル 1	8.271**											
モデル 2	18.841**											
モデル 3	36.831**											
モデル 4	42.139**											
モデル 5	0.277											
モデル 6	0.929	1.397				0.030						
モデル 7	0.863			7.073**				1.591				
モデル 8	1.762				38.971**			0.703				
モデル 9	3.115*				0.106					2.158		
モデル 10	4.224*		11.789**								2.806	
モデル 11				44.598**	1.027							7.715**

\* : 5%水準、\*\* : 1%水準

表 5 - 5 . 一般線型モデルによる内定時期規定要因の分析（学部+大学院/企業就職）（推定周辺平均）

モデル	変数	カテゴリー	推定周辺平均（月）	全平均（月）
モデル 1 (722名)	大学群	A 群	37.662	38.471
		B 群	38.597	
		C 群	39.154	
モデル 2 (752名)	設置者	国公立	37.875	38.453
私立	39.030			
モデル 3 (752名)	課程	学部	39.051	38.187
大学院	37.323			
モデル 4 (752名)	分野	文系	39.275	38.426
理系	37.577			
モデル 5 (752名)	所在地	都市圏	38.491	38.567
		地方圏	38.643	

\* : 5%水準、\*\* : 1%水準（F 値が有意の場合のみ検定）

次に要因間相互作用（ある要因のカテゴリ次第で別の要因の効果が変わること）については、大学群が関与するもので有意なものはないが、すべての主効果の組み合わせの中で相互作用が有意に近かった（9.4%）のが設置者と課程で説明するモデル10、1%水準で有意だったのが課程と所在地で説明するモデル11である。これらについて推定周辺平均を求めた結果が図 5 - 5 である。表 5 - 5 では国公立の内定が私立より早いことがわかってきたが、図 5 - 5 左図はそれが修士課程修了者に起きていることを示す。右図は特に地方圏において修士が希少価値を持つことを意味するのかもしれない。過去のデータと比較する必要があるが、大学院出身者が評価される時代の到来を示唆する結果である。

相互作用が課程に関して起きる傾向があることから、学部学生に限定して就職活動を分

図 5 - 5 . 内定時期に関する統計的相互作用（学部+大学院/企業就職）（推定周辺平均）

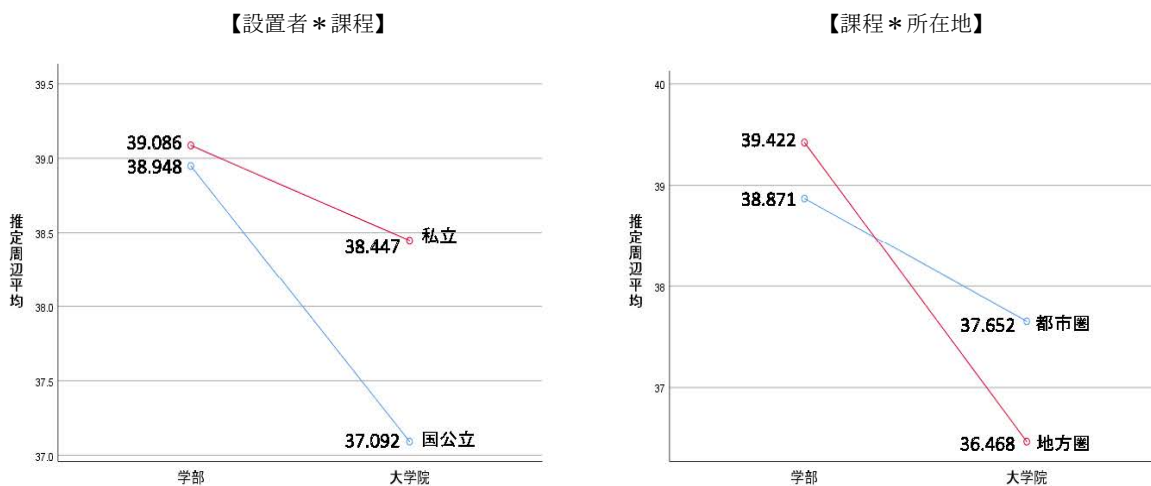


表 5 - 6 . 一般線型モデルによる就職活動の分析 I（学部/企業就職）（F 値）

被説明変数	説明変数					
	大学群	分野	所在地	大学群*分野	大学群*所在地	分野*所在地
応募数	6.658**	9.039**	2.427	0.572	1.168	0.032
面接数	6.586**	11.682**	2.462	1.482	0.848	0.004
内定時期	0.472	9.675**	0.038	1.493	0.055	0.009

[ 3 次以上の相互作用項は除外した ]

\* : 5 %水準、\*\* : 1 %水準

表 5 - 7 . 一般線型モデルによる就職活動の分析 I（学部/企業就職）（推定周辺平均）

変数	カテゴリー	応募数 (件) ( 502名)	面接数 (件) ( 502名)	内定時期 (月) ( 506名)
大学群	A群	14.198	9.223	37.402
	B群	14.619	8.836	38.885
	C群	8.992	5.594	38.851
分野	文系	16.264	10.306	39.148
	理系	8.941	5.463	37.611
所在地	都市圏	16.375	10.095	38.283
	地方圏	8.831	5.674	38.476
全平均		12.603	7.884	38.379

\* : 5 %水準、\*\* : 1 %水準（F 値が有意の場合のみ検定）

析したのが表5-6である。指標としては内定時期のほかに応募数（エントリーシート提出数）、面接数を取りあげた。一般線型モデル分析の結果が表5-6、表5-7である。まず、内定時期に関しては大学群の効果は有意にならない。理系学生は文系学生より1か月半ほど内定が早い、大学群による差はそれに及ばない。状況は図5-4にも示されているところで、特にB群とC群の差はわずかである。

応募数、面接数に関しては回答者の学部生は平均12~13社に応募し、その6割程度で面接を受けている。表5-7によれば文系の応募数は理系の1.8倍、都市圏の応募数は地方圏の1.9倍である。大学群ではA群B群がC群の1.6倍程度になるが、面接に呼ばれる率は60~65%でほぼ変わらず、分野、所在地のいかんに関しても同様である。表の作成は省略したが、都市圏の文系学生は平均19.9社に応募し、12.5社の面接を受けた。地方圏の理系学生は応募5.0社、面接3.2社で、都市圏の理系学生、地方圏の文系学生はこれらの中間である。むろん個人差も大きく、最多の応募数は前述のように107社、最多の面接数は60社であった（これらが必ずしも突出値と言えないことは図5-3に示されている）。このようにして彼らは1社ないし数社の内定を獲得しつつ、最終的に入社することになる企業のそれを学部学生はおおむね大学入学38~40か月目、大学院生は14~16か月目にあたる卒業年度の5~7月までに得て、当面の進路を決意するのである。

#### インターンシップ参加状況

【インターンシップ参加は64.8%】さて、この学生たちはどのようなインターンシップを経験しているのだろうか。まず、回答者1,196名中のインターンシップ参加者（Q17、ワンデーインターンシップを含む）は775名（64.8%）であった。この比率は文部科学省調査（2016年実施、本報告書p.19~20）の大学4~6年生38.5%、大学院生38.7%より高く、内閣府調査（2019年実施、本報告書p.20）の73.4%よりやや低い。ただし内閣府調査は就職活動を行なった者での比率であり、本調査で就職活動を行なわなかったと回答した150名を分母から除いて算出すると74.1%となってほぼ一致する。いくつかの社会的要因や属性による参加率の相違を見た結果が表5-8で、国公立-私立間、大学群間で10%程度の差はあるが、大きな差はないと言えるだろう。

表5-8. インターンシップ参加率（%）

性別		設置者		課程		分野		所在地		大学群		
男性	女性	国立	私立	学部	大学院	文系	理系	都市圏	地方圏	A群	B群	C群
(656名)	(528名)	(592名)	(604名)	(886名)	(310名)	(678名)	(518名)	(789名)	(407名)	(291名)	(577名)	(277名)
61.4	68.9	58.6	70.9	64.6	65.5	65.8	63.5	66.0	62.4	60.5	64.3	70.8

インターンシップに参加した学生の参加企業数を問うたのがQ18で、回答は1社から70社に及んだ。その分布を見たのが図5-6である。一方で調査票では入学後（大学院生は大学院入学後）のインターンシップ参加日数の合計を問うている（Q19）。両設問のクロス集計結果が表5-9である。

図 5 - 6 . インターンシップ参加数の分布 (学部+大学院 / IS 参加)

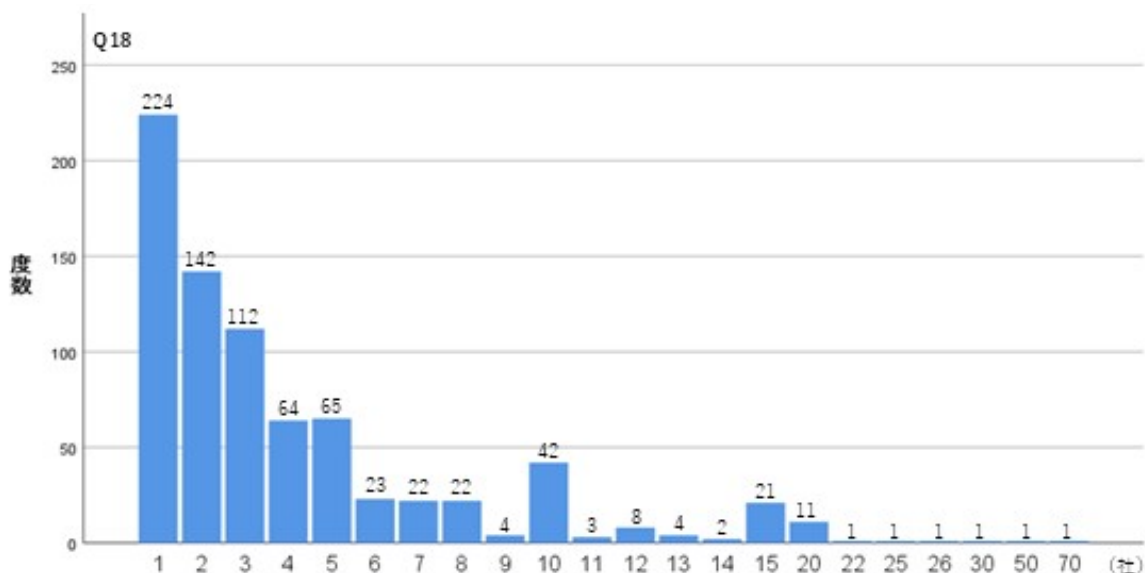


表 5 - 9 . インターンシップ参加数と合計日数のクロス集計 (学部+大学院 / IS 参加)

Q18 * Q19		合計インターンシップ日数							計
		1日	2日	3~4日	5日以上 10日未満	10日以上 1か月未満	1か月以上 3か月未満	3か月以上	
インターンシップ 参加数	1	71	13	28	71	36	2	3	224
	2	4	38	28	38	24	7	3	142
	3	4	2	40	33	29	3	1	112
	4	2	0	12	20	24	5	1	64
	5	1	0	0	30	27	6	1	65
	6	0	0	0	7	12	2	2	23
	7	1	0	0	8	12	0	1	22
	8	1	0	0	3	14	2	2	22
	9	0	0	1	1	2	0	0	4
	10	0	0	0	6	29	5	2	42
	11	0	0	0	0	2	1	0	3
	12	0	0	0	1	3	4	0	8
	13	0	0	0	0	4	0	0	4
	14	0	0	0	0	1	1	0	2
	15	0	0	0	1	12	6	2	21
	20	0	0	0	1	4	5	1	11
	22	0	0	0	0	0	1	0	1
	25	0	0	0	0	0	1	0	1
	26	0	0	0	0	0	1	0	1
	30	0	0	0	0	1	0	0	1
50	1	0	0	0	0	0	0	1	
70	0	0	0	0	0	1	0	1	
計		85	53	109	220	236	53	19	775

合計参加日数が1日で企業数は1社という者は71名で、ワンデーインターンシップに1回参加したという回答者が全体の1割近くを占めていることになる。1日で50社に参加したという者もいるが、これはイベント参加をそのように解釈した結果であろう。調査票では参加した最も長いインターンシップも問うているが(Q20)、そのスケールはQ19と同じであるため扱いやすい。クロス集計結果を表5-10に示す。

表5-10. 合計インターンシップ日数と最長インターンシップ日数のクロス集計（学部+大学院/IS参加）

Q19*Q20		最長インターンシップ日数							計
		1日	2日	3~4日	5日以上10日未満	10日以上1か月未満	1か月以上3か月未満	3か月以上	
合計インターンシップ日数	1日	85	0	0	0	0	0	0	85
	2日	39	14	0	0	0	0	0	53
	3~4日	55	20	34	0	0	0	0	109
	5日以上10日未満	31	29	33	127	0	0	0	220
	10日以上1か月未満	6	14	29	103	84	0	0	236
	1か月以上3か月未満	0	2	1	13	23	14	0	53
	3か月以上	0	0	0	0	0	1	18	19
計		216	79	97	243	107	15	18	775

表5-10では両指標に矛盾した回答はなく、参加したインターンシップの件数が1件である者は左上から右下への対角線上に並ぶ。ゆえに1日、2日または3~4日のインターンシップに1回だけ参加した133名（17.2%）、5日以上インターンシップに1回だけ参加した243名（31.4%）、5日未満とはいえ複数のインターンシップに参加した259名（33.4%）、5日以上インターンシップに参加のうえ、その他のインターンシップにも参加した140名（18.1%）を識別することができる。なお、上記の「243名」には複数回参加した者も含まれるが、参加数は相対的に少ないであろう。1日で50社のインターンシップを経験したという先の学生は「5日未満1回」組で、やはり1回のイベント参加での接触をインターンシップと受けとめているのであろう。

【5日以上インターンシップは満足度が高い】この分類を「インターンシップタイプ」として、参加した最長のインターンシップへの満足度（Q32）との関連を見たのが表5-11である。これによれば1回~少数回に参加した場合も複数回に参加した場合も、最長が5日以上である者の満足度が高いことがわかる。後者のうち、複数回参加した者では「非常によかった」が特に高まっており、比較によって良さを確信することも示唆される。

調査票では5日以上インターンシップに参加した学生383名に5日以下のインターンシップにも参加したかどうかを問い（Q21）、該当した250名に対して比較満足度（Q22）を問うている。表5-12はこれをインターンシップタイプ（定義上「5日以上1回」「5日以上複数回」の比較になる）とクロスしたもので、横軸は5日以上インターンシップと5日未満インターンシップでどちらの満足度が高かったかを示す。参加が1回か複数回か

表5-11. インターンシップタイプと参加満足度のクロス集計（学部+大学院/IS参加）

インターンシップタイプ*Q32		参加満足度					計	
		非常によく なかった	よくなかつ た	どちらとも いえない	よかった	非常に よかった		
インターンシップ タイプ	5日未満1回 (少数回参加を含む)	度数	4	6	16	63	44	133
		%	3.0%	4.5%	12.0%	47.4%	33.1%	100.0%
	5日以上1回 (少数回参加を含む)	度数	4	7	15	101	116	243
		%	1.6%	2.9%	6.2%	41.6%	47.7%	100.0%
	5日未満複数回	度数	6	8	32	129	84	259
		%	2.3%	3.1%	12.4%	49.8%	32.4%	100.0%
	5日以上複数回	度数	2	3	9	49	77	140
		%	1.4%	2.1%	6.4%	35.0%	55.0%	100.0%
計	度数	16	24	72	342	321	775	
	%	2.1%	3.1%	9.3%	44.1%	41.4%	100.0%	

で満足度に差はなく、むしろ5日以上インターンシップに参加した者の3分の2がそれに満足していることが重要であろう。しかし短い方が良いという者も7%程度見られる。以下では「どちらも変わらない」者を短い方が満足度が高いとする者と統合して指標とする。

表5-12. インターンシップタイプと比較満足度のクロス集計（学部+大学院 / IS参加）

インターンシップタイプ* Q22			比較満足度					計
			長>>短	長>短	長=短	長<短	長<<短	
インターンシップ タイプ	5日以上1回 (少数回参加を含む)	度数	35	51	31	5	3	125
		%	28.0%	40.8%	24.8%	4.0%	2.4%	100.0%
	5日以上複数回	度数	34	49	33	6	3	125
		%	27.2%	39.2%	26.4%	4.8%	2.4%	100.0%
計	度数	69	100	64	11	6	250	
	%	27.6%	40.0%	25.6%	4.4%	2.4%	100.0%	

### 5日以上インターンシップの内容と満足度、学修行動変化

【インターンシップの内容】調査票のQ23～Q37はインターンシップを経験したと回答する775名に、その最長のインターンシップを念頭に置かせて回答を求めたものである。それが5日未満の者と5日以上との違いはあるだろうか。また、5日以上と5日未満の両方を経験した250名のうち、相対的に満足度の高い3分の2と低い3分の1で経験した内容に差はあるだろうか。表5-13はインターンシップの内容項目に対し、「含まれていた」という回答のパーセンテージをカテゴリーごとに算出したものである。5日以上の層における該当率が5日未満のそれに比べて10%以上高い場合、比較満足度が高い者と低い者と該当率に7%以上差がついた場合に「<」を付した。

表5-13における2つの比較はほとんど同じ結果を示している。5日以上のインターンシップは、要するに「職場や工場の見学」をふまえて「業務同行・同席」「業務シミュレーション・実習・研修・体験」（業務シミュレーションはインターンシップ先で異なるはずだが、ロールプレイのようなものを想起させる）や「補助的業務の一部を経験」する機会を与えられ、企業側が「内容の振り返り」を通してその解説を施すものである。定番であろう業界、企業や業務の説明あるいは社員への質問会が5日以上でやや少ないが、実際にそれらが乏しいとは考えにくく、おそらく相対的に少ない時間が割り当てられた結果、印象に残りづらかったのであろう。

最長インターンシップの長短比較、比較満足度の高低の双方で検出された4項目のうち、特に開きの大きいのは「職場や工場の見学」と「業務シミュレーション・実習・研修・体験」である。これらの有無が満足度の高低を分けている可能性が高いが、ここには個人的要素も深く関与するだろう。「職場や工場の見学」が満足度に結びつくのは、見学時に見えているものの意味が理解できるからのはずで、これを第1のポイントとすれば、そのうえで補助的業務経験や業務シミュレーションで自己効力感が得られるかどうか第2のポイントではないだろうか。インターンシップ前に十分な学力がついているかどうかインターンシップの現場で自己効力感に転換され、増幅されるメカニズムがここに見られるのかもしれない。

【満足度とインターンシップ内容の因子構造】さて、満足度には構造的要因も関与してい



表 5-13. 最長日数の長短別、比較満足度の高低別のインターンシップ内容 (%) (学部+大学院/IS参加)

Q29*Q20 Q29*Q22	最長インターンシップ			比較満足度		
	5日未満 (392名)	5日以上 (383名)	計 (775名)	満足度低 (81名)	満足度高 (169名)	計 (250名)
① 企業の説明 (座学)	98.2	89.3	93.8	90.1	92.9	92.0
④ 社員に対する質問会	92.3	75.7	84.1	76.5	81.7	80.0
② 業界の説明 (座学)	88.5	74.2	81.4	81.5	78.1	79.2
③ 事業の説明	81.4	67.9	74.7	71.6	72.2	72.0
⑪ 職場や工場の見学	59.9	< 80.9	70.3	72.8	< 85.2	81.2
⑩ 実際の業務シミュレーション・実習・研修・体験	47.4	< 79.1	63.1	74.1	< 85.8	82.0
⑰ 実施した内容の振り返り (企業で実施するもの)	56.4	< 70.0	63.1	76.5	79.3	78.4
⑦ 検討した事業・課題についての発表・プレゼンテーション	63.0	57.7	60.4	61.7	65.7	64.4
⑤ 新規事業についてのワークやディスカッション	52.8	43.1	48.0	45.7	45.6	45.6
⑥ 社会課題やテーマについてのワークやディスカッション	48.5	45.2	46.8	49.4	49.1	49.2
⑫ 業務の同行・同席	21.4	< 66.8	43.9	59.3	< 66.3	64.0
⑬ 補助的業務の一部を経験	15.6	< 61.4	38.2	53.1	< 60.4	58.0
⑧ 企画・提案型の特別プロジェクト	35.2	34.2	34.7	42.0	40.8	41.2
⑱ 大学で実施する、インターン前後のフォローアップ	10.7	< 39.2	24.8	37.0	38.5	38.0
⑯ 就職活動への直接的な支援 (面接対策など)	23.5	23.0	23.2	25.9	24.3	24.8
⑮ キャリア (自らの職業選択) に関する研修	18.6	25.8	22.2	29.6	30.8	30.4
⑭ 基幹業務の一部を経験	10.2	< 32.4	21.2	32.1	36.1	34.8
⑨ 企画・実行型の特別プロジェクト	16.6	21.4	19.0	18.5	24.9	22.8

る可能性がある。ここで満足度の変数として、①比較満足度のオリジナル項目 (Q22)、②参加満足度 (Q32) をそれぞれ連続変数と見なして一般線型モデルによる分析を行ないたい。ただし、これらは満足度が高いほど低い数値になるよう設定されているため、「6」から引くことで方向が逆になる変数をそれぞれ設け、これに対するインターンシップ先の企業規模 (Q23)、本社所在地 (Q25)、インターンシップ主催者 (Q26) の影響を見た。企業規模は実際の分布をふまえて「99人以下」「100～999人」「1000～4999人」「5000人以上」に統合した。本社所在地は大学のそれと同じ「都市圏」「地方圏」、主催者も一部統合して「正課として大学が調整」「非正課で大学が紹介」「企業・自治体の主催」の3カテゴリとした。比較満足度は250名から得られているが、企業規模には「わからない」、主催者には「その他」という選択肢があり、いずれかでそれを選んだサンプルを除外した結果、比較満足度は202票での分析となった。参加満足度は何らかのインターンシップに参加した775名が対象となるが、やはり欠損値の関係で実際には598票であった。以上の分析の結果を表5-14、表5-15に示す。

比較満足度は企業規模、所在地が5%水準、主催者が1%水準の有意で、企業規模では「1000～4999人」、所在地は「都市圏」(2カテゴリのため多重比較検定は行なわなくてもカテゴリ間で有意な差がある)が高い。都市圏が高くなるのは一般的であると思われるが、中堅企業で満足度が高いのは「1000～4999人」層の切実さとインターンシップに投じうるリソースの大きさが関係するのかもしれない。一方、「非正課で大学が紹介」し

表 5-14. 一般線型モデルによる I S 満足度の分析 I (学部+大学院 / I S 参加) (F 値)

被説明変数	説明変数					
	企業規模	本社所在地	主催者	企業規模*本社所在地	企業規模*主催者	本社所在地*主催者
比較満足度	2.963*	4.267*	5.484**	1.349	0.762	3.312*
参加満足度	1.022	5.024*	1.346	0.438	1.092	3.757*

[3 次の相互作用項は除外した]

\* : 5 % 水準、\*\* : 1 % 水準

表 5-15. 一般線型モデルによる I S 満足度の分析 I (学部+大学院 / I S 参加) (推定周辺平均)

変数	カテゴリー	比較満足度 (202名)	参加満足度 (598名)
企業規模	99人以下	3.375	4.057
	100~999人	3.671	4.221
	1000~4999人	4.043	4.282
	5000人以上	3.401	4.123
本社所在地	都市圏	3.813	4.295
	地方圏	3.431	4.047
主催者	正課として大学が調整	3.854	4.162
	非正課で大学が紹介	3.156	4.082
	企業・自治体の主催	3.856	4.269
全平均		3.622	4.171

\* : 5 % 水準、\*\* : 1 % 水準 (F 値が有意の場合のみ検定)

た 5 日以上インターンシップの満足度が低い、所在地と主催者の相互作用まで見たところ、「非正課で大学が紹介」した「地方圏」に本社のある企業でインターンシップをする場合が極端に低いことがわかった。有意とはいえ当該セルのサンプル数が 8 であるため判断に迷うが、ここで参加満足度を見ると所在地と主催者の相互作用がやはり存在する (図 5-7)。サンプル数も少なくないため、地方圏の企業で大学の関与が弱いインターンシップは、たとえ 5 日以上であっても相対的にクオリティが低いことを示唆するものと思われる。なお、本社所在地に代えてインターンシップを経験した事業所の所在地 (都市圏 / 地方圏) を投入した分析も行なったが、本社所在地の場合ほど鋭い結果は得られなかった。

表 5-13 に示したインターンシップの内容 18 項目を因子分析に供した結果が表 5-16 である。これらは実際に提供されたそれと回答者の認識が合成されたものであるが、結果は妥当であり、因子を「業務系」「発表系」「説明系」「支援系」と命名した。表 5-13 から、満足度と最も関係が深いのは「業務系」であることが予想される。

【学修行動変化と満足度】続いて学生の学修行動変化 (Q31) に注目したい。実際の学修行動を観察した結果ではなく、満足度と同様の主観的な評価であるが、より詳細な情報が

図5-7. IS満足度に関する所在地と主催者の統計的相互作用（学部+大学院/IS参加）（推定周辺平均）

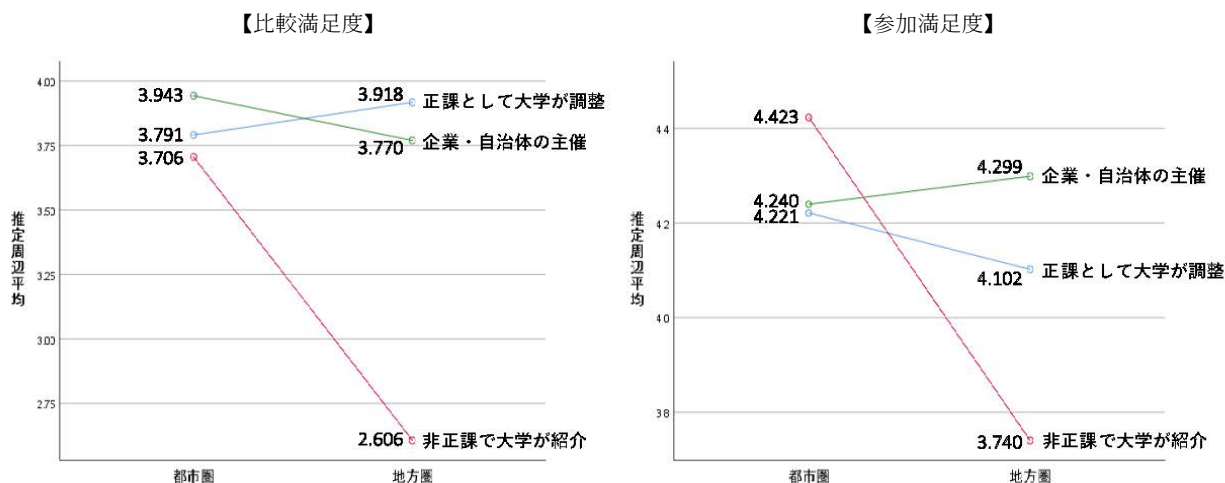


表5-16. インターンシップ内容の因子分析結果（学部+大学院/IS参加）（因子負荷量）

Q29	因子負荷量			
	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
① 企業の説明（座学）	-0.073	0.084	0.617	-0.034
④ 社員に対する質問会	-0.124	0.144	0.597	0.018
② 業界の説明（座学）	-0.098	0.070	0.592	0.105
③ 事業の説明	0.026	0.063	0.486	0.060
⑪ 職場や工場の見学	0.427	-0.013	0.134	-0.012
⑩ 実際の業務シミュレーション・実習・研修・体験	0.561	-0.117	-0.015	0.061
⑰ 実施した内容の振り返り（企業で実施するもの）	0.173	0.242	0.183	0.245
⑦ 検討した事業・課題についての発表・プレゼンテーション	-0.106	0.673	0.153	0.019
⑤ 新規事業についてのワークやディスカッション	-0.119	0.499	0.163	0.083
⑥ 社会課題やテーマについてのワークやディスカッション	-0.066	0.453	0.187	0.155
⑫ 業務の同行・同席	0.776	-0.079	-0.123	-0.069
⑬ 補助的業務の一部を経験	0.750	-0.069	-0.252	0.103
⑧ 企画・提案型の特別プロジェクト	-0.054	0.673	0.027	0.149
⑱ 大学で実施する、インターン前後のフォローアップ	0.314	0.078	-0.099	0.254
⑯ 就職活動への直接的な支援（面接対策など）	-0.018	0.215	0.090	0.546
⑮ キャリア（自らの職業選択）に関する研修	0.184	0.200	0.083	0.363
⑭ 基幹業務の一部を経験	0.472	0.020	-0.152	0.197
⑨ 企画・実行型の特別プロジェクト	0.123	0.429	-0.093	0.205
	業務系	発表系	説明系	支援系

得られる可能性がある。まず因子分析で学修行動の要因を探索し、その因子得点と参加満足度の関係を見る。13項目の因子負荷量（主因子法、バリマックス回転、固有値 1.0以上）は表 5-17のとおりである。項目は全体の平均値順に並べた。

表 5-17. 学修行動変化の因子分析結果（学部+大学院/IS参加）（因子負荷量）

Q31	因子負荷量	
	第 1 因子	第 2 因子
⑤ 企業をはじめとする社会の仕組みへの関心が高まった	0.705	0.089
⑨ 自らのキャリア観（生き方）が明確になった	0.619	0.170
⑥ 時事問題などに関する情報を見る時間が増えた	0.669	0.256
⑬ 就職活動に対してポジティブなイメージを持った	0.523	0.167
③ 興味関心のある内容に対する学習時間が増えた	0.609	0.439
⑧ 社会人などとの交流の機会が増えた	0.553	0.333
④ 大学外での学習行動（例えば読書の機会や講演聴講など）が増えた	0.660	0.377
⑦ 資格試験などに取組みはじめた	0.482	0.443
② 興味関心のある内容が絞られ（変わり）、履修する科目の傾向が変わった	0.401	0.613
⑪ アルバイトへの参加時間が増えた	0.176	0.695
① 大学での授業への出席が増えた	0.287	0.719
⑩ クラブ活動やサークル活動への参加時間が増えた	0.198	0.741
⑫ ボランティアへの参加回数が増えた	0.217	0.744
	関心深化	行動活性化

学修行動変化は社会の仕組みへの関心が深まり、関連する情報行動が増える（第 1 因子）、人的交流が増加する（第 2 因子）の 2 つの方向性で考えることから、前者を「関心深化」、後者を「行動活性化」と命名したい。問題はこれらと先の満足度との関係である。満足度はどちらの要素と関係が深いのか。ここで先の一般線型モデルの 3 つの説明変数に関心深化、行動活性化の 2 つを共変量として加えた新しいモデルを設定する。結果は表 5-18のとおりである。

「関心深化」の比較満足度、参加満足度に対する偏回帰係数はむろん両者ともプラスである（0.318、0.451）。一方、ここで重要な点は関心深化を投入したことで、表 5-14の分析 I と比べ、本社所在地の効果がかなり失われていることである。企業規模や主催者の効果もおおむね弱まっている。これらは構造要因であるが、その効果の消失は学生が自らの関心にフィットした企業をインターンシップ先として選んでいるとすれば十分理解でき

表 5-18. 一般線型モデルによる I S 満足度の分析 II (学部+大学院 / I S 参加) (F 値)

被説明変数	説明変数							
	企業規模	本社所在地	主催者	企業規模*所在地	企業規模*主催者	所在地*主催者	関心深化 行動活性化	
比較満足度	2.842*	2.501	4.515*	1.515	1.054	3.102*	14.155**	0.961
参加満足度	0.196	3.403	2.133	0.346	0.412	3.495*	156.024**	0.303

[ 3 次以上の相互作用項は除外した ]

\* : 5 % 水準、\*\* : 1 % 水準

る。しかし、そのことを論証できる設問は調査票には設けられていない。

#### インターンシップは就職活動やその結果に影響しているか

【インターンシップと就職活動】では、かかるインターンシップを経験したことは就職活動にどのような意味を持つのだろうか。調査票の設問に即せば 5 日未満あるいは 5 日以上のインターンシップに参加したことで応募数や面接数、内定時期はどのような影響を受けるのか、さらに内定先企業の規模が大きくなるなどの効果が生じているかどうかのポイントである。内定先企業規模 (Q14X) は、表 5-3 で示したように企業規模を「99 人以下」「100~299 人」「300~999 人」「1000~4999 人」「5000 人以上」の区分で問うており、これに 1~5 を対応させて尺度として用いる (「わからない」は欠損値として分析から除外)。インターンシップ参加に関しては参加したかどうか (Q17) に加え、最長インターンシップが 5 日以上である否かから「非参加」「5 日未満」「5 日以上」の 3 カテゴリーからなる「I S 参加」という変数を設けた。本分析は民間企業に就職した学部学生 529 名を対象にするが (非参加 123 名、5 日未満 213 名、5 日以上 193 名)、大学名や企業規模の欠損値の関係、応募数や面接数に誘導する設問の設定の関係で、実際には応募数 502 名、面接数 502 名、内定時期 506 名、内定先企業規模 459 名の分析となった。

表 5-19、表 5-20 は表 5-6 の被説明変数に内定先企業規模を含め、説明変数から所在地を削除のうえにインターンシップ参加 (I S 参加) を加えた一般線型モデルで分析した結果である。応募数、面接数に対する大学群と分野の、内定先企業規模に対する分野のそれぞれ強い効果は表 5-6 と同様である。インターンシップが応募数や面接数を圧迫す

表 5-19. 一般線型モデルによる就職活動の分析 II (学部 / 企業就職) (F 値)

被説明変数	説明変数					
	大学群	分野	I S 参加	大学群*分野	大学群*I S 参加	分野*I S 参加
応募数	6.879**	9.224**	1.304	0.222	0.594	0.069
面接数	7.987*	11.798**	1.477	0.872	0.993	0.107
内定時期	0.641	10.525**	3.186*	1.373	1.295	1.745
内定先企業規模	0.985	0.001	3.182*	4.089*	1.903	0.991

[ 3 次の相互作用項は除外した ]

\* : 5 % 水準、\*\* : 1 % 水準

表 5-20. 一般線型モデルによる就職活動の分析 II (学部/企業就職) (推定周辺平均)

変数	カテゴリー	応募数 (社) (502名)	面接数 (社) (502名)	内定時期 (月) (506名)	内定先企業規模 (459名)
大学群	A群	17.054 *	11.599 **	38.095	3.483
	B群	14.952 **	8.940 **		
	C群	9.705 **	5.916 **		
分野	文系	17.532 **	11.746 **	39.353 **	3.324
	理系	10.277 **	6.460 **	37.829 **	3.330
I S 参加	非参加	11.226	7.257	39.526 *	2.843 **
	5日未満	14.494	9.054	38.069 *	3.540 **
	5日以上	15.989	10.143	38.178	3.598 **
全平均		13.905	8.818	38.591	3.327

\* : 5%水準、\*\* : 1%水準 (F値有意の場合のみ検定)

る懸念があったが、表 5-20はそれを否定する。5日以上インターンシップ参加者が5日未満の者に比べて活動が少ないということもない。むしろこれはアクティビティの高い者がインターンシップに参加し、応募数したがって面接数も多くなるという疑似相関と思われるが、これらの指標に関するかぎり、インターンシップがネガティブな効果を持たないことも確認されたと言える。

【内定時期の早期化と内定先企業規模の押し上げ】さて、その一方でインターンシップ参加は内定時期を早める。もともと理系は文系より1か月半程度内定が早い。インターンシップ非参加と参加でも同程度の相違がある。その効果は内定先企業規模にも及ぶが、大学群や分野が無関係ではないことが両者の統計的相互作用に見て取れる。実態を示したのが図 5-8で、ここからわかるのはもっぱら文系で大学群による効果が大きいことである。この相互作用にインターンシップ参加が介入する可能性があると思われたことから3次の相互作用まで含めたモデルを試した。逆に相互作用項を除外して大学群の効果に還元するモデルも設けた。その結果が表 5-21である。

図 5-8. 内定先企業規模に関する大学群と文系理系の統計的相互作用 (学部/企業就職)

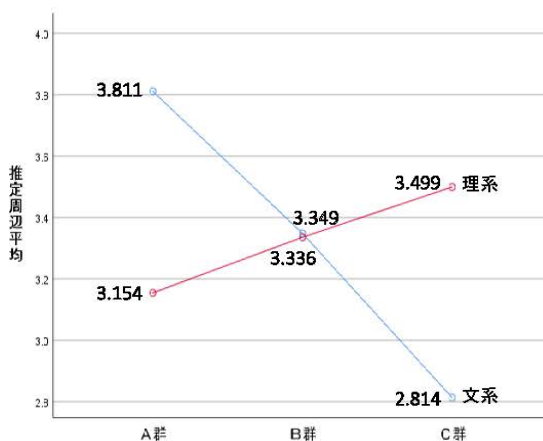


表5-21. 一般線型モデルによる就職活動の分析Ⅲ（学部／企業就職）（F値）

被説明変数 (モデル)	説明変数						
	大学群	分野	I S 参加	大学群*分野	大学群*IS参加	分野*IS参加	大学群*分野*IS参加
内定先企業規模 (モデルA)	0.985	0.001	3.182*	4.089*	1.903	0.991	
内定先企業規模 (モデルB)	0.883	0.426	4.126*	5.138**	1.980	0.248	0.667
内定先企業規模 (モデルC)	1.772	0.093	7.283**	4.279*			
内定先企業規模 (モデルD)	7.479**	1.850	7.198**				
内定先企業規模 (モデルE)	7.318**		6.868**				

\* : 5%水準、\*\* : 1%水準

表5-22. 大学群、I S参加、内定先企業規模の三重クロス集計（学部／企業就職）

Q5 * Q17 * Q14X			内定先企業規模					計		
			99人以下	100 ~299人	300 ~999人	1000 ~4999人	5000人 以上			
大学群	A群	非参加	度数	1	1	0	0	1	3	
			%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	100.0%	
		I S参加	5日未満	度数	0	0	2	3	3	8
				%	0.0%	0.0%	25.0%	37.5%	37.5%	100.0%
			5日以上	度数	1	1	2	3	10	17
				%	5.9%	5.9%	11.8%	17.6%	58.8%	100.0%
	計	度数	2	2	4	6	14	28		
		%	7.1%	7.1%	14.3%	21.4%	50.0%	100.0%		
	B群	非参加	度数	8	17	14	8	11	58	
			%	13.8%	29.3%	24.1%	13.8%	19.0%	100.0%	
		I S参加	5日未満	度数	9	14	24	37	32	116
				%	7.8%	12.1%	20.7%	31.9%	27.6%	100.0%
			5日以上	度数	6	12	19	17	22	76
				%	7.9%	15.8%	25.0%	22.4%	28.9%	100.0%
	計	度数	23	43	57	62	65	250		
		%	9.2%	17.2%	22.8%	24.8%	26.0%	100.0%		
	C群	非参加	度数	8	10	6	9	5	38	
			%	21.1%	26.3%	15.8%	23.7%	13.2%	100.0%	
		I S参加	5日未満	度数	16	9	17	13	9	64
				%	25.0%	14.1%	26.6%	20.3%	14.1%	100.0%
5日以上			度数	10	10	21	16	22	79	
			%	12.7%	12.7%	26.6%	20.3%	27.8%	100.0%	
計	度数	34	29	44	38	36	181			
	%	18.8%	16.0%	24.3%	21.0%	19.9%	100.0%			
計	非参加	度数	17	28	20	17	17	99		
		%	17.2%	28.3%	20.2%	17.2%	17.2%	100.0%		
	I S参加	5日未満	度数	25	23	43	53	44	188	
			%	13.3%	12.2%	22.9%	28.2%	23.4%	100.0%	
		5日以上	度数	17	23	42	36	54	172	
			%	9.9%	13.4%	24.4%	20.9%	31.4%	100.0%	
計	度数	59	74	105	106	115	459			
	%	12.9%	16.1%	22.9%	23.1%	25.1%	100.0%			

表5-21のモデルAは表5-19の最下行と同じものである。これに3次の相互作用項を加えたモデルBでその相互作用は認められず、インターンシップ参加が大学群と分野の相互作用を緩和させる状況はないことがわかった。そこで逆に有意でない相互作用を除外したのがモデルC、大学群と分野の相互作用を大学群および分野の主効果に還元したのがモデルD、分野の主効果が有意でなかったことからこれも除外したのがモデルEである。モデルD、Eの結果は大学群とインターンシップ参加が同程度の規定力があることを示す。表5-22のクロス表は大学群別にインターンシップ参加と内定先企業規模の関係を見たもので（趣旨的には表5-21のモデルEと同じ）、参加の効果が明らかに認められる。ただし、インターンシップの効果と見えるものが実は野心的な学生がインターンシップに、特に5日以上のに参加する「自己選抜」の結果であれば、この効果は疑似相関である。その検証はパネル調査を待たなければならない。

【インターンシップ先に就職するか】調査票のQ23～Q37は何らかのインターンシップを経験した者を対象としているが、回答にあたって念頭に置いた最も長いインターンシップ先の企業から内定を得たかどうか、就職するかどうかについて大学群別インターンシップ期間別に比率を計算した結果が表5-23である。インターンシップに参加したうえで企業に就職する学生（学部+大学院）は572名だが、このうち大学群が判明している548名を対象とした。その45.8%にあたる251名がインターンシップ先から内定を得ているが、うち202名（80.5%）が内定先への就職を決意しており、結果的にインターンシップに参加した学生の36.9%がそのインターンシップ先の一つに就職することになる。この数値は第2章で言及した亀野（2019）の同趣旨調査における「28.2%」よりやや高い。ただし、インターンシップ参加が当該企業への応募の意味をこの1年間にも強める傾向にあるとした

表5-23. インターンシップ参加と当該企業内定、就職（学部+大学院/企業就職/IS参加）

大学群	インターンシップ期間	インターンシップ先への内定率		その内定先への就職率		最終就職率
		回答数	内定率	回答数	就職率	
A群	5日未満	54名	35.2%	19名	68.4%	24.1%
	5日以上	62名	50.0%	31名	77.4%	38.7%
	小計	116名	43.1%	50名	74.0%	31.9%
B群	5日未満	156名	45.5%	71名	83.1%	37.8%
	5日以上	113名	47.8%	54名	79.6%	38.1%
	小計	269名	46.5%	125名	81.6%	37.9%
C群	5日未満	77名	54.5%	42名	85.7%	46.8%
	5日以上	86名	39.5%	34名	79.4%	31.4%
	小計	163名	46.6%	76名	82.9%	38.7%
計		548名	45.8%	251名	80.5%	36.9%



ら、インターンシップ先への就職率が高まるのも当然だろう。

なお表5-23によれば、インターンシップ先企業に内定する率はA群よりB群C群がわずかながら高く（43.1%→46.5%→46.6%）、内定を得た者が当該企業に就職する率も同様である（74.0%→81.6%→82.9%）。この結果が本調査に特有のデータバイアスによるものか、一般的な傾向であるかは不明である。C群では5日未満より5日以上の方が内定率が低く（54.5%→39.5%）、理由は判然としないが、やや長めのインターンシップによる双方の可視性上昇が影響しているかもしれない。一方、C群の学生でインターンシップ参加が企業規模の上昇に貢献しており（表5-22）、インターンシップがその就職活動に裨益している可能性がある。どのようなインターンシップが学生の成長を可能にし、それによっていかなる結果が生じているかを業種を含めて明らかにすることで、これらの現象が意味するところも自ずと解明されるであろう。

【地域性の問題】インターンシップの意義性に関しては、第3章で訪問した山形大学で、地方大学においてはインターンシップが学生の視点を適性の有無に関わらず地域に向かわせる効果があるのではないかとの懸念が表明された。上記のようにインターンシップ先に就職する者が多いことはその可能性を示唆する。そこで限られたデータではあるが、在籍している大学の所在地（都市圏/地方圏）とインターンシップ先事業所の所在地（都市圏/地方圏）の組み合わせごとに、内定先の企業規模分布を見た結果が図5-9である（数値は資料2参照、内定先の本社所在地は設問しなかった）。

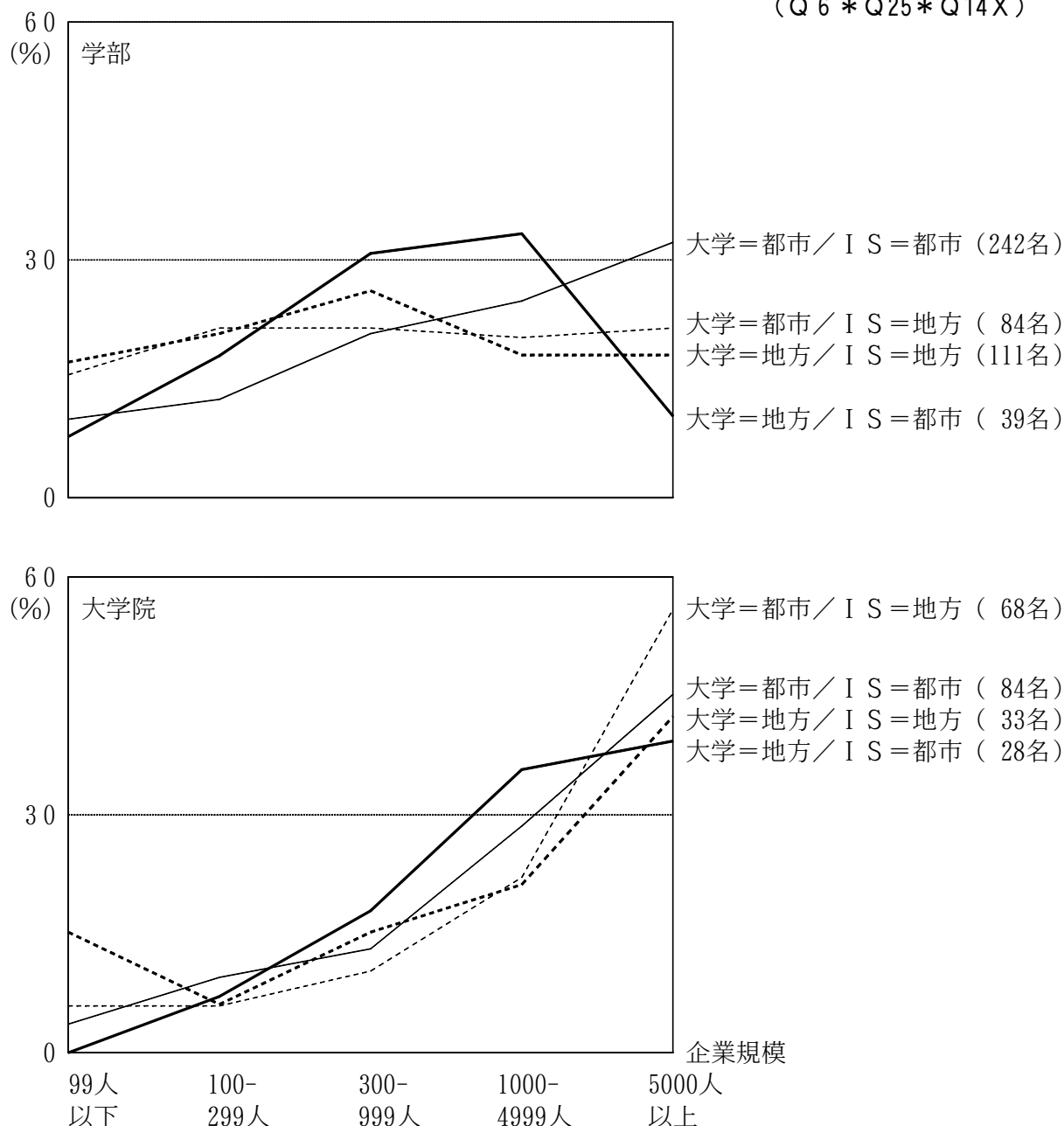
図5-9からわかるのは学部卒業者と大学院修了者の大きな違いである。大学院生は培った学識を活かす場を大手企業に求め、企業側もそれを歓迎する。学部生の場合、地方圏の学生が地方圏でインターンシップ経験を持つと内定先企業規模が平準化し、同様の傾向がわずかながら大学院生にも見られる。インターンシップ先をどこにするかは学生の進路希望を背景にするはずで、そこに今まで何度も言及してきた「自己選抜」が関与すると思われるが、インターンシップ経験が進路形成の契機になっていることも明らかだろう。

#### インターンシップ参加を規定するもの

【インターンシップ参加を規定するもの】さて、そもそもインターンシップ参加を規定しているものは何か。これについては先に一応の分析を行ない、社会的要因や属性による差異はほとんどないことがわかっている。ここで最長のインターンシップ参加を「5日未満」と「5日以上」に分けて3段階とし、ここまで使用してきたインターンシップ参加を連続変数とみなして、大学群と分野で説明する一般線型モデル分析を行なう。ここで新たに導入するのが学生の職業観である。

学生の職業観は酒井（2016）が提唱する7項目の表現を多少変更し、1項目（自分の郷土に貢献したい）を追加したうえで、それぞれにあてはまるかどうかを5段階で設問したQ8を用いる。これを因子分析（主因子法、固有値1.0以上、バリマックス回転）にかけた結果が表5-24である。3つの因子が得られており、各設問の因子負荷量から、各因子を「貢献志向」「ベンチャー志向」「安定志向」と命名した。「貢献志向」は会社のため、社会のため役に立ちたい、やりがいのある仕事をしたいなどの因子で、健全なサラリーマン性を示すものと思われる。「ベンチャー志向」は経営者になりたい、リスクがあってもやりたいことをやりたいなどと関連の深い因子である。「安定志向」は高い因子負荷量を

図 5-9. 大学所在地、インターンシップ先所在地別の内定先企業規模分布 (企業職/IS参加)  
(Q6 \* Q25 \* Q14X)



示すのが「安定した職について無難に生きていきたい」1項目のみであるが、できるなら働かずに生きたい、郷土に貢献したいなどとの関わりも多少認められる。まず大学群と分野および両者の相互作用のモデルX、これに3つの職業観因子を投入したモデルYの分析結果を表5-25に示す。

モデルYの結果から明らかであるのは、「貢献志向」が大きい効果を持つことである。それが大きい者はインターンシップに積極的である。「安定志向」もやや大きい効果があるが(有意水準 7.9%)、効果の方向を示す偏回帰係数は 0.102、-0.018、-0.078で、安定志向はインターンシップ参加にマイナスに働いている。ベンチャー志向や安定志向の効果がないかマイナスに働くことは、学生の職業観がインターンシップを機にその社会生活を規定する局面を示すものと言える。インターンシップ参加が内定先企業規模の上昇などに貢献する理由を明らかにするうえで、「貢献志向」の存在はヒントを提供するであろう。

表 5-24. 職業観の因子分析結果（学部+大学院）（因子負荷量）

Q 8	因子負荷量		
	第 1 因子	第 2 因子	第 3 因子
⑧ 社会の役に立ちたい	0.814	0.054	-0.014
⑦ 自分が働く会社の役に立ちたい	0.652	-0.007	0.004
① 安定した職について無難に生きていきたい	0.042	-0.416	0.783
⑤ 生きることはやりがいのある仕事をする事だ と思う	0.497	0.378	0.036
③ できるなら働かずに生きていきたい	-0.429	-0.056	0.284
② リスク（収入が少なくなる可能性）があっても 自分のやりたいことをやっていきたい	0.120	0.471	-0.213
④ 自分の郷土に貢献したい	0.295	0.157	0.173
⑥ 雇われるより自分が経営者・事業主になりたい	0.018	0.509	-0.069
	貢献志向	ベンチャー志向	安定志向

表 5-25. 一般線型モデルによるインターンシップ参加の分析（学部/企業就職）（F 値）

被説明変数（モデル）	説明変数					
	大学群	分野	大学群*分野	貢献志向	ベンチャー志向	安定志向
I S 参加（モデル X）	2.461	0.706	0.072			
I S 参加（モデル Y）	2.425	0.319	0.002	6.757**	0.122	3.091

\* : 5%水準、\*\* : 1%水準

【職業観とインターンシップ参加の目的】以上から現在のインターンシップが「貢献志向」と親和性が高いことが明らかであるが、「ベンチャー志向」「安定志向」の学生にはどのようなインターンシップがフィットするのだろうか。この点を明らかにするため、3つの志向とインターンシップ参加の目的（Q28）の相関関係を表5-26で見ておく。

表5-26では学生の志向性によって求めるものが異なることがわかる。現在のインターンシップで基本になっている業界や会社の事業、具体的な業務内容は貢献志向の学生に評価される。ベンチャー志向は自身の能力開発を中心に据えており、職場の雰囲気の把握には興味を持たない傾向がある。自分自身のキャリア観の明確化は貢献志向とベンチャー志向のいずれにも求められる傾向があり、これを軸としつつも、インターンシップの内容を多様化して様々な学生にアプローチすることは期待されるが、安定志向に関しては対応が難しいだろう。なお、これらの因子の特定のもの強く持つ人物は存在するが、因子はそれぞれ独立の因子であり（その前提で相関行列の固有ベクトルを求めた結果が因子負荷量）、誰もそれぞれの要素を正または負の方向で持っているとは理解される。

表 5-26. 学生の職業観とインターンシップ参加目的（相関係数）（学部+大学院 / IS 参加）

Q28	職業観		
	貢献志向	ベンチャー志向	安定志向
① 業界の理解	0.004	-0.056	0.063
② 企業の事業内容の理解	0.118**	-0.029	0.021
③ 入社後実際に携わる具体的な業務内容の理解	0.076*	0.005	-0.020
④ 企業・職場の雰囲気の把握	0.108**	-0.079*	0.033
⑤ 仕事の理解	0.055	0.037	-0.038
⑥ 自分のスキル見極め	-0.025	0.018	-0.015
⑦ 自身の能力開発のため	0.043	0.171**	-0.093**
⑧ 自分自身のキャリア観の明確化	0.073*	0.096**	-0.070
⑨ 参加企業の内定獲得（採用直結）	-0.051	0.006	-0.083*
⑩ 社会人との人脈構築	0.042	0.009	0.001
⑪ 他の就職活動生との人脈構築	0.057	0.067	-0.045
⑫ 大学等の単位取得	-0.116**	-0.066	0.098**
⑬ 報酬	0.019	0.013	0.057
⑭ 就職活動を体験したいため	-0.076*	0.006	0.005
⑮ 就職活動で不利にならないため	-0.084*	-0.041	0.062
⑯ みんなが参加するため	-0.101**	-0.120**	0.091*
⑰ 特になし	-0.247**	-0.014	-0.065

\* : 5%水準、\*\* : 1%水準

#### パス解析で探るインターンシップ

【残されたテーマ】本章のここまでの分析では、まず大学生の就職活動の実態とそれをさまざまな社会的要因が規定している状況を見た。取り扱った要因は偏差値ランクを反映した大学群（A群 / B群 / C群）、設置者（国公立大学 / 私立大学）、分野（文系 / 理系）、所在地（都市圏 / 地方圏）である。課程（学部 / 大学院）に関しては大学群と一体化している可能性が高いことから、今回のデータの範囲で両者の効果を統計的に区別することは難しいことがわかった。ゆえにそれ以降の分析でも学部学生を中心にした。

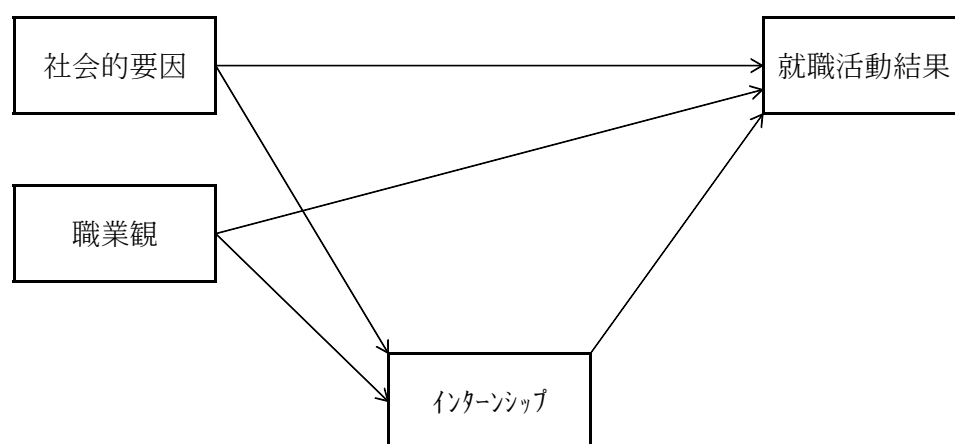
インターンシップには学生のほぼ3分の2が何らかの参加をしており、その半数はいわゆる5日以上インターンシップへの参加者である。それらの内容で特に多いのは「職場や工場の見学」「業務同行・同席」「補助的業務の一部を経験」「業務シミュレーション・実習・研修・体験」で、5日以上インターンシップの満足度が高い層においてもこれらの項目が印象に残っていることがわかった。一方でインターンシップ参加は最終的な就職活動の結果にも影響しており、内定先の企業規模を明らかに押し上げている。これはA群B群C群に共通である。大きい企業が就職先として望ましいという意味ではないが、インターンシップ参加の結果として重視すべき現象である。

すると残されたテーマは、①学生の「就職構造」に「インターンシップ」はどのように位置づけられ、いかなる意味を持つかであり、②インターンシップが内定先の企業規模を押し上げるのはなぜかである。前者は歴史学的、社会学的な観点から取り扱われるべき問題で、後者はよりミクロな観点から、むしろ厳密な仮説設定や観測の工夫を伴って推進さ

れるべき研究テーマであろう。そもそも就職活動の成果とは何なのかという問題もある。しかし、本調査で扱っているデータの範囲でも多少のヒントが提供できる可能性があり、これを最後に検討したい。

【インターンシップの役割】インターンシップが始まってすでに20年以上の年月が経過しており、それを含めて現在の就職構造が成立していると考えられる。一方で就職構造もインターンシップも日々変転しており、そのありさまをデータに基づいて捉えていくことも必要である。以下では「パス解析」を導入して、就職構造におけるインターンシップの位置づけを行なう。

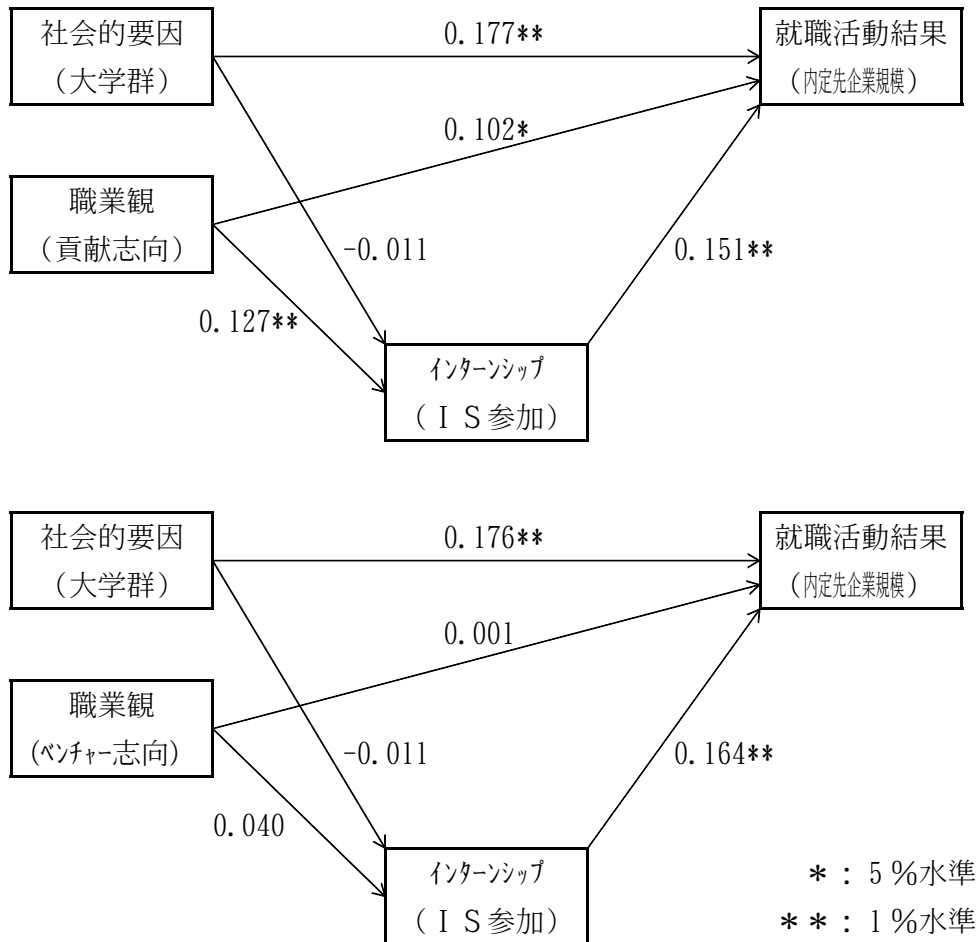
図5-10. 就職活動におけるインターンシップの役割をめぐるパスダイアグラム



パス解析とは変数間の因果関係や相関関係を矢印で表したパスダイアグラム（本調査の場合の一例を図5-10に示す）を用いて変数間の関係を明らかにする手法である。重回帰分析では各説明変数から目的変数への因果関係のみを仮定するのに対し、パス解析ではこれを組み合わせ、変数間に自由に因果関係を仮定して、より複雑なモデルを分析することができる。矢印に対応するパス係数は重回帰分析における標準化偏回帰係数であり、矢印の方向に沿ったパス係数の積は当該ルートの相対的規定力を表わす。ただし説明変数、被説明変数とも連続変数であることが必要である。このため大学群に「C群」=1、「B群」=2、「A群」=3の数値を与えた。インターンシップ参加（IS参加）については「非参加」=1、「5日未満」=2、「5日以上」=3とし、内定先企業規模は「99人以下」「100~299人」「300~999人」「1000~4999人」「5000人以上」に1~5を対応させた。職業観、インターンシップ内容、学修行動変化はそれぞれ因子得点を用いる。分析に供するのは学部卒で企業就職した529名のうち、大学群と内定先企業規模が判明している459名である。

図5-11は職業観として「貢献志向」「ベンチャー志向」をそれぞれ用いた場合のパス解析結果である。上図は就職活動結果（内定先企業規模）を社会的要因（大学群）、職業観（貢献志向）、インターンシップ（IS参加）の3変数で説明する重回帰分析において、最も規定力が大きいのは社会的要因（大学群）であることを示す。それにインターンシップ（IS参加）、職業観（貢献志向）が続くが、いずれも有意である。もともと就職活動結果は個人の希望度や能力、それに対する評価、さらにさまざまな偶然的要因で決まって

図 5-11. インターンシップの役割に関するパス解析 (学部/企業就職)



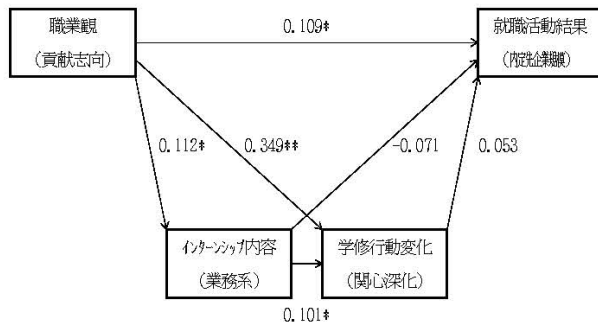
いると考えられ、その直接観察ができない状況で、これらの3要因が有意であったことは重要な意味がある。ここで仮にI S参加が大学群によって強く規定されていたら、I S参加の内定先企業規模の規定力が大きかったとしても、実は大学群がインターンシップを介して効果を及ぼしていることになるが、大学群からI S参加へのパス係数は0.000であり、ここまでの分析から予想されることながらまったく関係がない。これはかなり重大な結果で、大学群にほぼ匹敵する効果をI S参加が独自に持ち、すなわち偏差値ランクに拮抗していることを意味する。職業観の効果に関しては貢献志向の内定先企業規模への効果が認められ、それが企業側から評価されていることをうかがわせるが、インターンシップを介した間接効果もある。その大きさ(0.127\*0.151=0.019)の直接効果(0.102)に対する比(18.6%)は大きいものではなく、やはりインターンシップの独自の役割を示すものと言えるだろう。企業から歓迎されるある種の特性を持つ学生がインターンシップにも積極的であるなどの「自己選抜」の存在も否定できない。

職業観としてベンチャー志向を取り上げた場合、それはI S参加とも内定先企業規模とも無関係である。すなわちベンチャー志向の強弱がインターンシップへの参加や大企業入社に影響しているわけではない。

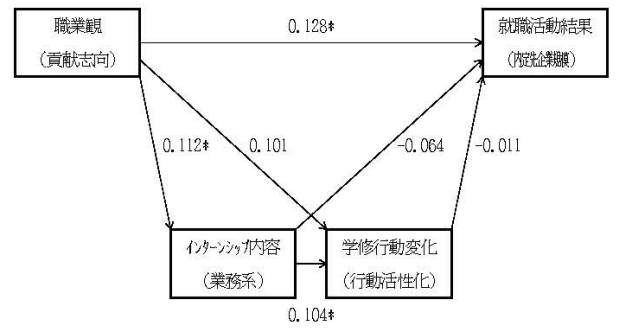
【インターンシップが就職活動結果に影響するメカニズム】では、インターンシップはなぜ内定先企業規模を押し上げるのか。前述のようにその究明には観察結果のモデル化や指

図5-12. インターンシップが就職活動結果に影響するメカニズムのパス解析 (学部/企業就職/IS参加)

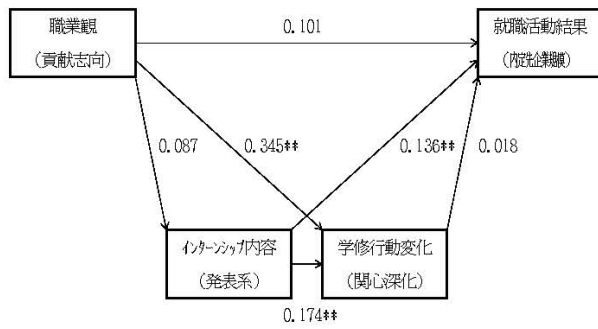
●モデル1



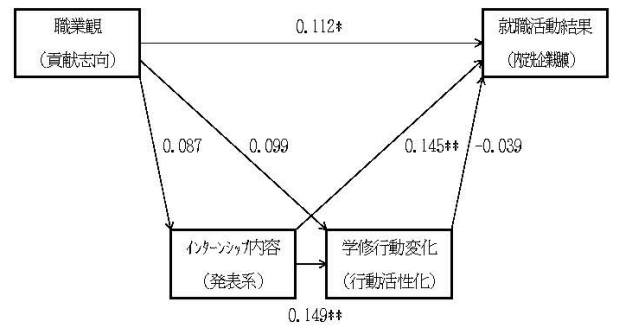
●モデル2



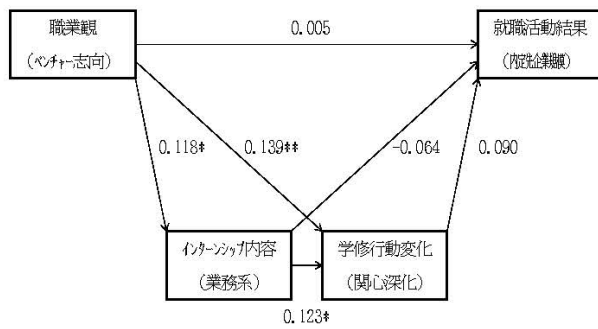
●モデル3



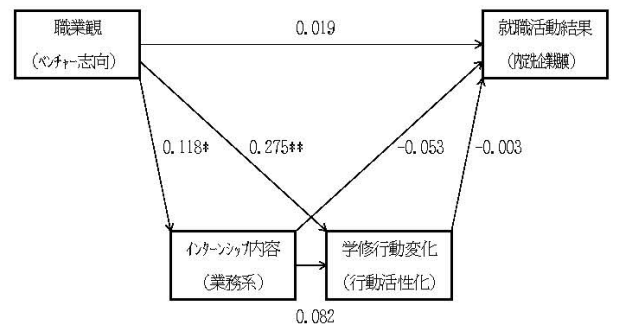
●モデル4



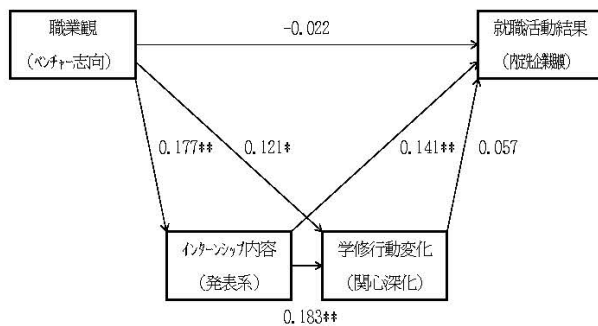
●モデル5



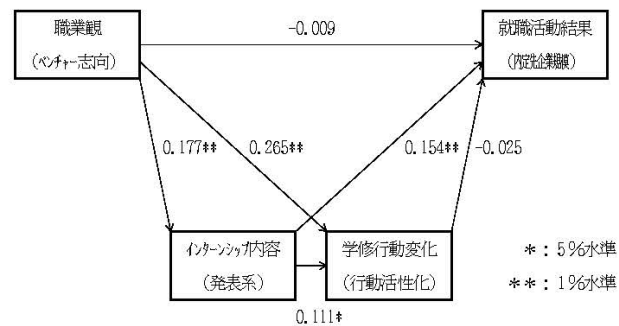
●モデル6



●モデル7



●モデル8



\* : 5%水準

\*\* : 1%水準

標の設計、サンプリングや計測を厳密な計画立案のもとに実行することが必要である。しかしながら本調査のデータで予備的な検討を行なうことも可能である。本調査報告では、ここにパス解析を適用する。

この分析の対象は何らかのインターンシップを体験して企業に就職する学部学生 406名のうち、内定先企業規模がわかっている 375名である。その大半は図 5-11のパス解析に供した 459名に含まれているが、これに含まれない大学群不詳者も取り込んでいる。まず焦点に置くのはインターンシップ内容(Q29)とインターンシップ後の学修行動変化(Q31)である。いずれも本人の報告によるものであるが、少なからず実際の内容も反映しているだろう。もう一つの焦点は本人の職業観(Q8)である。生起順序は職業観→インターンシップ内容→学修行動変化となり、またこれらが最終的に内定先企業規模を規定するというモデルを設定した。職業観は3因子のうち「貢献志向」と「ベンチャー志向」、インターンシップ内容は4因子のうち「業務系」と「発表系」、学修行動変化は「関心深化」と「行動活性化」を用いる。これらの組み合わせで構成される8つのパスダイアグラムにパス係数を書き込んだものが図 5-12である。同図と表 5-27(比較満足度 132名、参加満足度 375名)、表 5-28(375名)から読み取れるのは次の諸点である。

- ① 学修行動変化には本人の職業観が大きく関与している。特に社会や会社の役に立ちたいという「貢献志向」が、社会の仕組みへの関心が深まり、自らのキャリア観が明確化したなどの自覚を意味する「関心深化」に強く影響する。一方で「ベンチャー志向」は「行動活性化」に結びつきやすい。インターンシップ内容の影響もないわけではないが、むしろ本人の職業観がそれにフィットしたインターンシップを選ばせたり、内容の解釈に関与するのであろう。
- ② しかし、このような学修行動変化は内定先企業規模にはほとんど影響しない。影響するのはインターンシップ内容のうち、新規事業についてのワークやディスカッション、プロジェクト従事、発表やプレゼンテーションを中心とする「発表系」の経験である。これらは業務系の内容ほど満足度に結びつかないが(表 5-27参照)、企業側に評価されるスキルを身につける機会になっている可能性がある。
- ③ 内定先企業規模を貢献志向で説明する単回帰分析の結果、0.120という標準化偏回帰係数が得られているが、ここでインターンシップ関係の間接効果の和が占める比率は最も高い場合で15.3%であり(表 5-28参照)、インターンシップ参加が貢献志向の効果を媒介しているとは言えない。

学生自身は業務系の内容を特に歓迎するが、企業がその学びを評価しているわけではない。その中で発表系を経験していることの独自効果が見出されたことは、今後の実験的研究へのヒントを与えるだろう。

#### 結論：後輩への推奨を規定するもの

回答者のインターンシップへの満足度をトータルに表現する設問として、後輩への推奨度(Q38)がある。これはインターンシップ不参加者も対象としており、大学生、大学院生の一般的な評価とみなせる。その分布は図 5-13のとおりで(満足度が高いほど大きな



表 5-27. インターンシップ満足度に関する重回帰分析（学部／企業就職／IS参加）（標準化偏回帰係数）

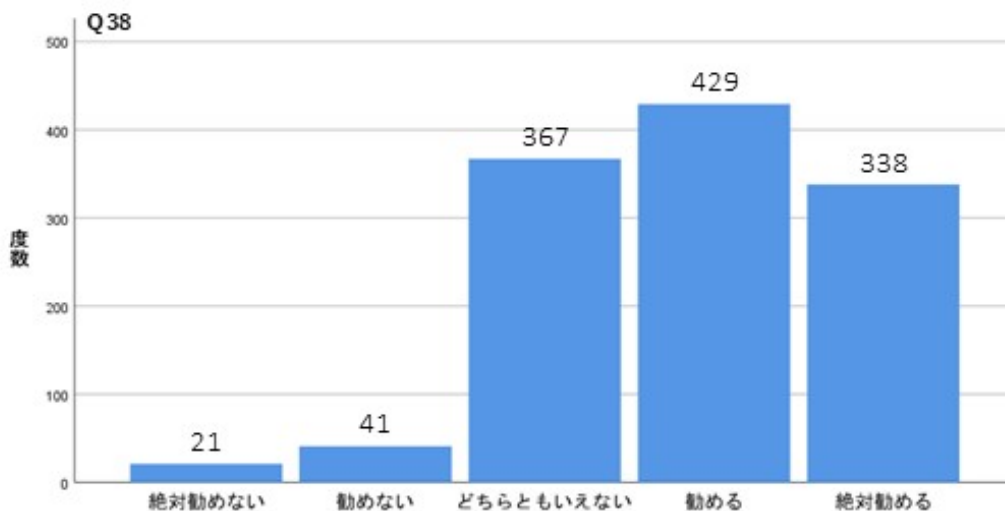
被説明変数	説明変数			
	業務系	発表系	説明系	支援系
比較満足度	0.135	0.010	0.192*	-0.024
参加満足度	0.194**	0.129*	0.134**	0.096

\*：5%水準、\*\*：1%水準

表 5-28. 「貢献志向」の「内定先企業規模」に対する効果のパス解析

モデル	単回帰分析 における標準化偏回帰 係数 (A)	直接効果 (B)	間接効果 (C)			B/A	C/A
			インターンシップ内容 経由	学修行動変化経由	インターンシップ内容 ・学修行動変化経由		
モデル 1	0.120	0.109	-0.007952	0.018497	0.000600	90.8%	9.3%
モデル 2	0.120	0.128	-0.007168	-0.001111	-0.000128	106.7%	-7.0%
モデル 3	0.120	0.101	0.011832	0.006210	0.000272	84.2%	15.3%
モデル 4	0.120	0.112	0.012615	-0.003861	-0.000506	93.3%	6.9%

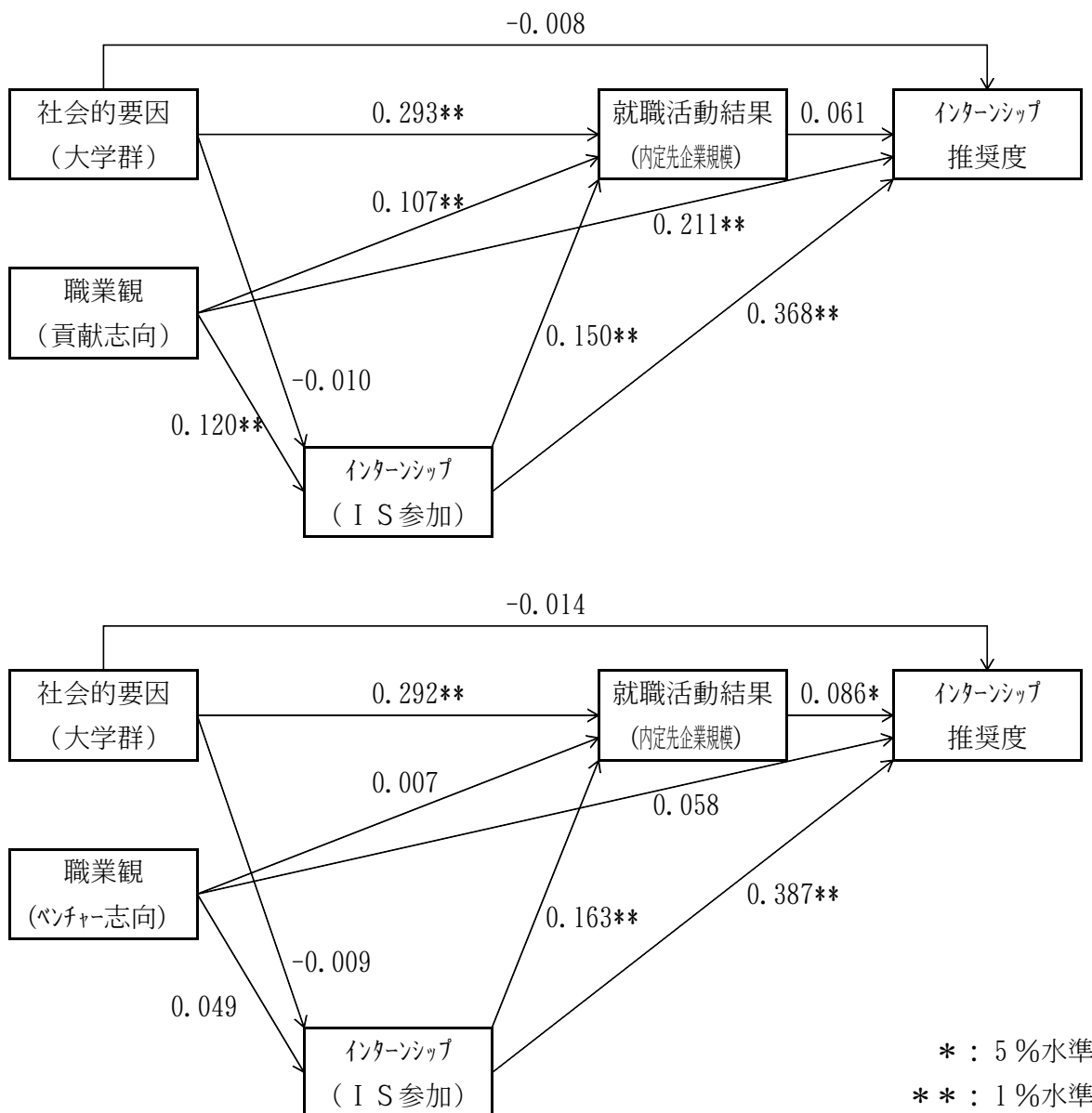
図 5-13. 後輩にインターンシップを推奨するか（学部+大学院）



数値となるよう 6 から値を引いた）、インターンシップは確かに学生から歓迎されていると言える。この推奨度を最終的なターゲットとし、企業に就職する学部学生、大学院生の全データを用いた総合的なパス解析の結果を図 5-14 に示す。該当は 752 名であるが、大学群、内定先企業規模に欠損値があるデータを除外したため、分析対象は 665 名となった。

図 5-14 から読み取れることは、まず大学群の内定先企業規模への影響は、図 5-11 に示された学部学生だけの場合より大きいことである。これは「大学院」がわが国の人材選

図5-14. インターンシップ推奨度に関するパス解析（学部+大学院/企業就職）



抜システムに本格的に組みこまれてきたことの反映と思われるが、インターンシップ参加の効果も十分認められる。次に内定先企業規模はインターンシップ推奨度に影響していない。よって大学群の影響は遮断されている。その一方でインターンシップ参加自体が推奨度を高める方向であり、すなわち学生は功利的な意味でインターンシップを推奨しているのではない。一方で背後に職業観が存在することも確かで、先に「健全なサラリーマン性」と表現した因子である「貢献志向」が大きく働いており、その一部がインターンシップ参加で媒介されていることがわかる。現在のインターンシップが総じて貢献志向と矛盾しない内容を提供していることは明らかである。

インターンシッププログラム開発の観点から考えれば、貢献志向の低い学生にどうアプローチするかは重要であろう。その中にはベンチャー志向が高い者がおり、それらの人々に響く内容としては個人の能力開発やキャリア観の明確化に資する内容が期待されることは表5-26で指摘した。

インターンシップ参加、特に長めのインターンシップ参加が就職活動の全般的抑制をも

表5-29. 学生が希望するインターンシップ時期（学部+大学院）

Q3*Q41 Q4*Q41		設置者		課程		分野		計	
		国公立	私立	学部	大学院	文系	理系		
望ましい時期	大学1年生	度数	30	20	34	16	26	24	50
		%	5.1%	3.3%	3.8%	5.2%	3.8%	4.6%	4.2%
	大学2年生	度数	107	127	191	43	156	78	234
		%	18.1%	21.0%	21.6%	13.9%	23.0%	15.1%	19.6%
	大学3年生4~6月	度数	61	98	135	24	111	48	159
		%	10.3%	16.2%	15.2%	7.7%	16.4%	9.3%	13.3%
	大学3年生7~9月	度数	140	200	292	48	206	134	340
		%	23.6%	33.1%	33.0%	15.5%	30.4%	25.9%	28.4%
	大学3年生10~12月	度数	26	41	62	5	47	20	67
		%	4.4%	6.8%	7.0%	1.6%	6.9%	3.9%	5.6%
	大学3年生1~3月	度数	21	32	44	9	32	21	53
		%	3.5%	5.3%	5.0%	2.9%	4.7%	4.1%	4.4%
	大学4年生4~6月	度数	4	4	4	4	6	2	8
		%	0.7%	0.7%	0.5%	1.3%	0.9%	0.4%	0.7%
	大学4年生7~9月	度数	5	5	8	2	4	6	10
		%	0.8%	0.8%	0.9%	0.6%	0.6%	1.2%	0.8%
	大学4年生10~12月	度数	2	3	3	2	2	3	5
		%	0.3%	0.5%	0.3%	0.6%	0.3%	0.6%	0.4%
	大学4年生1~3月	度数	2	0	0	2	1	1	2
		%	0.3%	0.0%	0.0%	0.6%	0.1%	0.2%	0.2%
	大学院1年生4~6月	度数	6	0	2	4	1	5	6
		%	1.0%	0.0%	0.2%	1.3%	0.1%	1.0%	0.5%
	大学院1年生7~9月	度数	70	9	14	65	12	67	79
		%	11.8%	1.5%	1.6%	21.0%	1.8%	12.9%	6.6%
	大学院1年生10~12月	度数	19	4	2	21	6	17	23
		%	3.2%	0.7%	0.2%	6.8%	0.9%	3.3%	1.9%
	大学院1年生1~3月	度数	14	2	5	11	4	12	16
		%	2.4%	0.3%	0.6%	3.5%	0.6%	2.3%	1.3%
大学院2年生4~6月	度数	7	1	1	7	3	5	8	
	%	1.2%	0.2%	0.1%	2.3%	0.4%	1.0%	0.7%	
大学院2年生7~9月	度数	8	0	1	7	3	5	8	
	%	1.4%	0.0%	0.1%	2.3%	0.4%	1.0%	0.7%	
大学院2年生10~12月	度数	0	0	0	0	0	0	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
大学院2年生1~3月	度数	1	0	0	1	0	1	1	
	%	0.2%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.2%	0.1%	
卒業後	度数	10	7	9	8	7	10	17	
	%	1.7%	1.2%	1.0%	2.6%	1.0%	1.9%	1.4%	
わからない	度数	59	51	79	31	51	59	110	
	%	10.0%	8.4%	8.9%	10.0%	7.5%	11.4%	9.2%	
計	度数	592	604	886	310	678	518	1196	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表5-30. 学生が希望するインターンシップ期間（学部+大学院）

Q3*Q42 Q4*Q42		設置者		課程		分野		計	
		国公立	私立	学部	大学院	文系	理系		
望ましい期間	1日	度数	68	120	155	33	119	69	188
		%	11.5%	19.9%	17.5%	10.6%	17.6%	13.3%	15.7%
	2日	度数	82	85	126	41	93	74	167
		%	13.9%	14.1%	14.2%	13.2%	13.7%	14.3%	14.0%
	3~4日	度数	223	205	326	102	251	177	428
		%	37.7%	33.9%	36.8%	32.9%	37.0%	34.2%	35.8%
	5日以上10日未満	度数	125	143	201	67	135	133	268
		%	21.1%	23.7%	22.7%	21.6%	19.9%	25.7%	22.4%
	10日以上1カ月未満	度数	62	30	47	45	50	42	92
		%	10.5%	5.0%	5.3%	14.5%	7.4%	8.1%	7.7%
	1カ月以上3カ月未満	度数	21	15	21	15	16	20	36
		%	3.5%	2.5%	2.4%	4.8%	2.4%	3.9%	3.0%
	3カ月以上	度数	11	6	10	7	14	3	17
		%	1.9%	1.0%	1.1%	2.3%	2.1%	0.6%	1.4%
計	度数	592	604	886	310	678	518	1196	
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

たらずことも考えられたが、その懸念は表5-19、表5-20の分析で否定された。学生の就職行動が全体として縮小気味であることは関西学院大学のヒアリング対象者が就職情報会社の調査結果として言及していたが（本報告書p. 57）、それがインターンシップの普及と関係している可能性もあり、決して応募数や面接数が多いければよいというわけではないが、学生の全面的な行動変容が起きている可能性もある。これは「就職構造」をめぐる歴史的、社会的分析のテーマとなるだろう。

なお、回答者の学生には参加経験をふまえた望ましい実施時期、期間の回答を求めており、その結果が表5-29、表5-30である。時期に関しては大学3年生の夏休みを適切とするものが国公立、私立にわたって最多で、大学アンケート調査で見られた私立大学における早期移行の方向性は見取れないが、学生としては当然であろう。期間に関しては、学生の希望は設置者、課程、分野に関わらず、「3～4日」が「5日以上10日未満」を上回る。一方で5日以上インターンシップの評価が高いことと合わせると、学生の希望は内容を維持したまま日数を短縮することなのだろう。ただ、長めのインターンシップを希望する回答者も決して少なくない。特に理系学生は望ましいインターンシップ期間が長めにシフトする。さらに文系、理系を問わず4～5%の学生は1か月以上のインターンシップを適切としており、提供できるリソースの範囲でインターンシップの多様性を検討することも考えられるであろう。

### 第3節 小括

本章の分析で判明した事項の主なものは次のとおりである。サンプルの偏りは否定できず、過度な一般化は避けなければならないが、一応一貫した結果は出ている。

#### 【就職の基本構造】

- ① 本調査への回答者の4分の3は民間企業を目指した就職活動にあたり、その一部を含む全体の4分の1程度が公務員試験・教員試験を受験した。民間企業だけ志望の者は9割が、公務員・教員等だけ志望の者も財団法人やNPOを含めてやはり9割がそれを実現した。企業と公務員・教員を両方ねらった者は半々に分かれ、回答者全体の就職率は9割であった（回答者には進学、留学などで就職活動しなかった者を含む）。
- ② 民間企業を志望する学生は平均して12～13社に応募し、その6割程度で面接を受ける。ただし都市圏の学生の応募数は地方圏の学生の2倍以上で、面接数も2倍近い。また、個人差は非常に大きい。
- ③ 学生の置かれた社会的条件次第で就職活動の結果は異なってくる。偏差値に基づいて「大学群」（偏差値の高い方からA群、B群、C群）を設定したところ、先行研究の濱中（2010）と同様、内定時期の差が見出された。同論文に示された15年前の状況と比べると群間の差が縮まっているが、実際を反映しているのかデータの偏りによるのかは不明である。なお、大学群は内定先企業規模にも影響を及ぼしている。

#### 【インターンシップと学修行動変化】

- ④ 調査対象者でインターンシップに参加した者は3分の2近くに及んだ。しかし、ワ

ンデーインターンシップに1回だけ参加した者が全体の1割を占め、「5日以上」のそれに参加しているのはインターンシップ参加者の半数程度である。5日以上のインターンシップに参加している者は、5日未満の者に比べて満足度が高い。

- ⑤ 5日以上インターンシップの参加者が経験した内容を5日未満のそれと比べると、「職場や工場の見学」「業務シミュレーション・実習・研修・体験」「業務同行・同席」「補助的業務の一部を経験」が顕著に多い。因子分析の結果、インターンシップ内容はこれらを中心とする「業務系」、プロジェクト従事やディスカッション、プレゼンテーションなどの「発表系」、企業や業務の説明などの「説明系」、面接対策などの「支援系」から成ることがわかった。満足度は業務系の経験との関係が深い。
- ⑥ 学生の満足度は規模が「1000～4999人」、本社所在地が「都市圏」の企業のインターンシップに参加した場合に高くなる。一方、地方圏の企業でインターンシップ内容に大学の関与が乏しい場合は満足度が特徴的に低い。そのようなインターンシップのクオリティに問題があることを示唆するものであろう。
- ⑦ インターンシップ参加後の学修行動変化に関する回答を因子分析すると、認知レベルの「関心深化」（キャリア観が明確になった、社会の仕組みへの関心が高まったなど）、行動レベルの「行動活性化」（履修科目の傾向が変わった、ボランティアへの参加回数が増えたなど）の2因子が確認された。関心深化が高い者は満足度も高くなる。満足度を説明する一般線型モデルに関心深化の因子得点を投入すると本社所在地の満足度への効果が消失するが、これはインターンシップで関心深化が高まる傾向のある学生があらかじめしかるべきインターンシップを選択していることを示唆する。
- ⑧ インターンシップ参加が社会的要因、属性に左右されない一方で、個人の職業観とは関わりがある。職業観を構成する「貢献志向」「ベンチャー志向」「安定志向」の3因子のうち、社会の役に立ちたい、仕事は生きがいなど健全なサラリーマン性を示すと思われる「貢献志向」の高い者はインターンシップに積極的な傾向がある。
- ⑨ 「貢献志向」は学修行動変化の「関心深化」に強く影響し、「ベンチャー志向」は「行動活性化」に結びつきやすい。しかし、このような変化は内定先企業規模にはほとんど影響しない。影響するのはインターンシップ内容のうち、新規事業についてのワークやディスカッション、プロジェクト従事、発表やプレゼンテーションを中心とする「発表系」の経験である。それは「業務系」の経験ほど満足度に関係しないが、企業側に評価されるスキルを身につける機会になっている可能性がある。

#### 【就職活動中のインターンシップ】

- ⑩ インターンシップ参加が応募数や面接数を抑制することはない。一方で内定時期を早める。もともと理系は文系より1か月半程度内定が早い。インターンシップ参加者は非参加者より同じ程度早い。また、インターンシップ参加は内定先企業規模を上昇させる。その効果は大学群の効果をやや下回る程度である。
- ⑪ 何らかのインターンシップを体験して企業に就職した548名の45.8%はインターンシップ先から内定を得ており、その80.5%は当該企業に就職する。結果的にインターンシップ参加学生の36.9%がその参加先企業の一つに就職するが、インターンシップが応募の意味を強める傾向にあるとしたら、この率が高くなるのは当然であろう。

- ⑫ 地方大学の学生が地方圏でインターンシップを経験した場合、都市圏で経験した場合と比べて大手企業の内定も小企業の内定も増加する平準化の傾向が見られる。大学院生は大手企業に集中するが、当該カテゴリーの学生の平準化傾向も読み取れる。

#### 【大学群に拮抗するインターンシップ】

- ⑬ 総合的なパス解析によればインターンシップ参加は内定先企業規模を押し上げ、その効果は大学群（偏差値ランク）にはほぼ匹敵するが、大学群はインターンシップ参加を左右しておらず、すなわちインターンシップは独自の効果で偏差値ランクに拮抗しているといえる。ただし、企業から歓迎されるある種の特徴を持つ学生がインターンシップにも積極的であるなどの「自己選抜」の存在も否定できない。
- ⑭ 以上は学部生だけの分析結果で、大学院生を含む全回答者の分析では大学群の効果がインターンシップのそれより大きくなる。A群の回答者の80%は大学院生であり、わが国の人材選抜システムに「大学院」が組みこまれてきたことを意味するものと思われる。

#### 【今後に向けて】

- ⑮ 学生が望ましいとするインターンシップ期間は「3～4日」が「5日以上10日未満」を上回る。おそらく現在の内容の密度を高めて短縮する余地があると考えているのであろう。それでも1か月以上のインターンシップを適しているとする学生も4～5%おり、学生の志向性に即してインターンシップの多様化を視野に入れることも考えられる。
- ⑯ 「貢献志向」の職業観は企業や事業の理解、職場の雰囲気の把握などをインターンシップ参加の目的とする傾向との関連がやや強い。一方で「ベンチャー志向」は相対的に自己の能力開発への期待と結びつきやすい。スコアが高くなることで両者共通に求める傾向が強まるのはキャリア観の明確化である。これらは今後のプログラム開発の参考になるだろう。

以上から見えるのは、インターンシップ参加が大学群に匹敵するインパクトを学生の就職活動やその成果に与えていることである。それは大学群の効果を媒介するものではない。むしろパネル調査ではない1回だけの調査では効果なのか疑似相関なのか、特に「自己選抜」なのかを明らかにできないが、学生の職業観やインターンシップ内容の関与をうかがわせる結果も得られており、それは今後のプログラム開発へのヒントを与えるものだろう。

## 就職・採用活動の一環として実施されるインターンシップの実態に関するアンケート（学生向け）

文部科学省高等教育局学生・留学生課  
独立行政法人日本学生支援機構  
(調査委託先) 株式会社シー・ディー・アイ

### 《本アンケートの目的》

文部科学省では大学生のみなさんの今後の就職活動のあり方について検討しています。このたびは特にインターンシップについての学生のみなさんの率直なお考えをうかがいたく、本アンケート調査を実施いたします。よろしくご協力ください。回答は2月29日（土）23時59分に締切ります。

※ 本アンケートでは個人情報収集されません。アンケートの回答は統計的に処理されて、その結果が公開されることはありません。

まず、Q1～Q16であなたご自身と就職活動の状況についておたずねします。

Q1. あなたの性別を回答してください。

1. 男
2. 女
3. 答えたくない
4. その他

Q2. あなたの学年を回答してください。大学院（修士課程、博士前期課程）の方は「大学院2年生」などとしてください。

( ) 年生

Q3. あなたが在籍している大学の種類は以下のどれですか。1つだけ選んでください。

1. 国立大学（学部）
2. 国立大学（大学院）
3. 公立大学（学部）
4. 公立大学（大学院）
5. 私立大学（学部）
6. 私立大学（大学院）
7. その他（ ）

Q4. あなたが在籍している学部・研究科の種類は以下のどれですか。1つだけ選んでください。

1. 人文科学（教養含む）
2. 社会科学（国際関係含む）

3. 理学
4. 工学
5. 農学
6. 医学、歯学、看護学
7. 薬学
8. 保健（医学、歯学、看護学、薬学以外）
9. 商船
10. 家政
11. 教育
12. 芸術
13. その他（            ）

Q 5. あなたが在籍している大学名を記入してください。無記入でもかまいませんが、大学を評価対象にするわけではありません。重要な設問ですので、できるだけご協力ください。

（            ）大学

Q 6. あなたが通学している大学のキャンパスが所在する都道府県を記入してください。

（            ）都道府県

Q 7. あなたが卒業する（大学院生の場合は卒業した）大学に合格した際、どのような入学試験を受験しましたか。1つだけ選んでください。

1. 一般入試
2. 推薦入試
3. AO入試
4. その他（            ）

Q 8. あなたの職業観をおたずねします。下記の各設問について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	ややあてはまらない	あてはまらない
① 安定した職について無難に生きていきたい	5	4	3	2	1
② リスク（収入が少なくなる可能性）があっても自分のやりたいことをやっていきたい	5	4	3	2	1
③ できるなら働かずに生きていきたい	5	4	3	2	1
④ 自分の郷土に貢献したい	5	4	3	2	1
⑤ 生きることはやりがいのある仕事をする事だと思う	5	4	3	2	1
⑥ 雇われるより自分が経営者・事業主になりたい	5	4	3	2	1
⑦ 自分が働く会社の役に立ちたい	5	4	3	2	1
⑧ 社会の役に立ちたい	5	4	3	2	1

Q 9. あなたの就職活動の現在の状況は次のどれでしょうか。最も近いものを1つだけ選んでください。



1. 内定を得て、就職活動を終了した（複数企業内定で選択中を含む）
2. 内定を得たが、就職活動を続けている
3. 内定を得たが、就職しないことにした
4. 内定を得ておらず、就職活動を続けている
5. 内定を得ていないが、就職活動を終了した
6. 就職活動はしなかった（大学院進学、留学、留年等）
7. その他（                    ）

Q10. あなたのこれまでの就職活動について、1つだけ選んでください。

- |                                    |   |               |
|------------------------------------|---|---------------|
| 1. 企業のみ就職活動した                      | } | ⇒ Q11に進んでください |
| 2. 企業への就職活動をするるとともに公務員・教員採用試験を受験した |   |               |
| 3. 公務員・教員採用試験の受験のみ行なった             | } | ⇒ Q13に進んでください |
| 4. 就職活動はしなかった                      |   |               |
| 5. その他（                    ）       |   |               |

Q11. 【Q10に「1」「2」と回答した方のみ】あなたは何社の企業等に応募（エントリーシートや履歴書の送付）をしましたか。

（                    ）社

Q12. 【Q10に「1」「2」と回答した方のみ】あなたは何社の企業の面接を受けましたか。公務員・教員試験の面接は含みません。

（                    ）社

Q13. 内定先について、1つだけ選んでください。複数の内定先がある人は、就職を予定している企業・団体について回答してください。

- |                              |   |               |               |
|------------------------------|---|---------------|---------------|
| 1. 民間企業                      | } | ⇒ Q14に進んでください |               |
| 2. 官公庁・自治体                   |   |               |               |
| 3. 財団法人、社団法人、学校法人等           |   | }             | ⇒ Q17に進んでください |
| 4. NPO、NGO                   |   |               |               |
| 5. 就職しない                     |   |               |               |
| 6. その他（                    ） |   |               |               |

Q14. 【Q13に「1」と回答した方のみ】内定先の企業の業界について、1つだけ選んでください。複数の内定先がある人は、就職を予定している企業・団体について回答してください。

1. 技術ベンチャー
2. 金融
3. 建設・不動産
4. 物流・運送
5. エネルギー・資源
6. 自動車・機械
7. 電機・精密
8. 食品

9. 小売・卸売
10. アパレル
11. その他製造
12. IT・メディア・広告
13. 専門サービス（弁護士・会計士・コンサルタント事務所等）
14. 飲食
15. 娯楽・レジャー
16. 介護・福祉
17. 生活関連サービス（洗濯・理容・美容・浴場業、家事サービス業等）
18. その他サービス
19. その他（            ）

Q14X. 【Q13に「1」と回答した方のみ】あなたが内定している企業の規模（従業員数）について、1つだけ選んでください。

1. 99人以下
2. 100～299人
3. 300～999人
4. 1000～4999人
5. 5000人以上
6. わからない

Q15. 【Q13に「1」と回答した方のみ】就職先におけるあなたの身分について、1つだけ選んでください。

1. 正社員
2. 非正社員、契約社員（人材派遣会社の登録社員を含む）
3. アルバイト、パートタイマー
4. その他（            ）

Q16. 【Q13に「1」と回答した方のみ】あなたが就職を予定している会社から内定（内々定を含む）が出たのはいつですか。

（            ）年生（            ）月

Q17からはインターンシップに関する質問です。大学が正課として提供するインターンシップのほか、企業等がワンデーインターンシップなどの名称で募集・実施している短期のものについても、回答してください。なお、教育実習や看護実習など特定の資格取得を目的としたインターンシップは対象外です。

Q17. あなたは大学に入学したあと（大学院生は大学院に進学したあと）、インターンシップに参加しましたか（ワンデーインターンシップを含む）。下記から1つだけ選んでください。

1. インターンシップに参加した            ⇒ Q18に進んでください
2. インターンシップに参加していない    ⇒ Q38に進んでください

Q18. 【Q17に「1」と回答した方のみ】あなたは大学に入学したあと（大学院生は大学院に進学したあと）、全部で何社のインターンシップに参加しましたか。その企業数を回答してください。

(            )社

Q19. 【Q17に「1」と回答した方のみ】あなたが大学に入学したあと（大学院生は大学院に進学したあと）、参加したインターンシップの日数は合計で何日になりますか。下記から1つだけ選んでください。

1. 1日
2. 2日
3. 3～4日
4. 5日以上10日未満
5. 10日以上1か月未満
6. 1か月以上3か月未満
7. 3か月以上

Q20. 【Q17に「1」と回答した方のみ】あなたが参加したインターンシップの中で最も日数が長かったものについて、その日数を下記から1つだけ選んでください。

- |               |   |               |
|---------------|---|---------------|
| 1. 1日         | } | ⇒ Q23に進んでください |
| 2. 2日         |   |               |
| 3. 3～4日       |   |               |
| 4. 5日以上10日未満  | } | ⇒ Q21に進んでください |
| 5. 10日以上1か月未満 |   |               |
| 6. 1か月以上3か月未満 |   |               |
| 7. 3か月以上      |   |               |

Q21. 【Q20に「4」「5」「6」「7」と回答した方のみ】あなたは他企業の1～4日間のインターンシップにも参加しましたか。

1. 参加した            ⇒ Q22に進んでください
2. 参加していない   ⇒ Q23に進んでください

Q22. 【Q21に「1」と回答した方のみ】学生時代に参加したインターンシップのうち最も長い期間のインターンシップを、1～4日の期間のインターンシップと比較した際の満足度を回答してください。

1. 最も長い期間のインターンシップの方が、とても満足度が高い
2. 最も長い期間のインターンシップの方が、満足度が高い
3. どちらも変わらない
4. 最も長い期間のインターンシップの方が、満足度が低い
5. 最も長い期間のインターンシップの方が、とても満足度が低い

Q23～Q37は、あなたが参加した最も長いインターンシップについておたずねします。1～2日の短期のものでも、それが最も長かった場合は、特定企業のインターンシップを念頭に回答してください。インターンシップに参加しなかった人は、Q38に進んでください。

Q23. あなたが参加した最も長いインターンシップを提供した企業の規模（従業員数）について、1つだけ選んでください。

1. 99人以下
2. 100～299人
3. 300～999人
4. 1000～4999人
5. 5000人以上
6. わからない

Q24. その企業の本社所在地はどこですか。わからない場合は「わからない」と書いてください。

( ) 都道府県

Q25. あなたがインターンシップをした場所はどこですか。複数の都道府県にわたる場合は最も滞在時間が長かった場所を回答してください。

( ) 都道府県

Q26. そのインターンシップの形態について、あてはまるものを1つだけ選んでください。

1. 正課科目として、大学が調整した企業
2. 正課科目ではないが、大学が紹介する企業に個人として参加
3. 自治体等主催のインターンシップに参加した
4. 企業主催のインターンシップを独自に探した
5. その他 ( )

Q27. そのインターンシップに参加した時期を回答してください。

( ) 年生 ( ) 月から ( ) 年生 ( ) 月まで

Q28. あなたがインターンシップに参加した目的は何ですか。あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。また、最も近いものを1つだけ選んでください。

- ① 業界の理解
- ② 企業の事業内容の理解
- ③ 入社後実際に携わる具体的な業務内容の理解
- ④ 企業・職場の雰囲気の把握
- ⑤ 仕事の理解
- ⑥ 自分のスキル見極め
- ⑦ 自身の能力開発のため
- ⑧ 自分自身のキャリア観の明確化
- ⑨ 参加企業の内定獲得（採用直結）
- ⑩ 社会人との人脈構築
- ⑪ 他の就職活動生との人脈構築
- ⑫ 大学等の単位取得

- ⑬ 報酬
- ⑭ 就職活動を体験したいため
- ⑮ 就職活動で不利にならないため
- ⑯ みんなが参加するため
- ⑰ 特になし
- ⑱ その他 ( )

近いもの 

--	--	--

最も近いもの 

--

Q29. そのインターンシップにはどのような内容が含まれていたでしょうか。それぞれ回答してください。

含まれていた    含まれていない

① 企業の説明（座学）	1	0
② 業界の説明（座学）	1	0
③ 入社後の業務説明	1	0
④ 社員に対する質問会	1	0
⑤ 新規事業についてのワークやディスカッション	1	0
⑥ 社会課題やテーマについてのワークやディスカッション	1	0
⑦ 検討した事業・課題についての発表・プレゼンテーション	1	0
⑧ 企画・提案型の特別プロジェクト	1	0
⑨ 企画・実行型の特別プロジェクト	1	0
⑩ 実際の業務シミュレーション・実習・研修・体験	1	0
⑪ 職場や工場の見学	1	0
⑫ 業務の同行・同席	1	0
⑬ 補助的業務の一部を経験	1	0
⑭ 基幹業務の一部を経験	1	0
⑮ キャリア（自らの職業選択）に関する研修	1	0
⑯ 就職活動への直接的な支援（面接対策など）	1	0
⑰ 実施した内容の振り返り（企業で実施するもの）	1	0
⑱ 大学で実施する、インターン前後のフォローアップ	1	0
⑲ その他 ( )	1	0

Q30. Q29で最も中心的だった内容はどれでしょうか。番号を1つだけ選んでください。

( )

Q31. そのインターンシップに参加することで、大学でのあなたの学修行動などは変化しましたか。下記の各設問に関し、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

やや                  どちらでも    やや  
 あてはまる    あてはまる    ない                  あてはまらない    あてはまらない

① 大学での授業への出席が増えた	5	4	3	2	1
② 興味関心のある内容が絞られ（変わり）、履修する科目の傾向が変わった	5	4	3	2	1
③ 興味関心のある内容に対する学習時間が増えた	5	4	3	2	1
④ 大学外での学習行動（例えば読書の機会や講演聴講など）が増えた	5	4	3	2	1
⑤ 企業をはじめとする社会の仕組みへの関心が高まった	5	4	3	2	1
⑥ 時事問題などに関する情報を見る時間が増えた	5	4	3	2	1
⑦ 資格試験などに取組みはじめた	5	4	3	2	1
⑧ 社会人などとの交流の機会が増えた	5	4	3	2	1
⑨ 自らのキャリア観（生き方）が明確になった	5	4	3	2	1
⑩ クラブ活動やサークル活動への参加時間が増えた	5	4	3	2	1
⑪ アルバイトへの参加時間が増えた	5	4	3	2	1
⑫ ボランティアへの参加回数が増えた	5	4	3	2	1
⑬ 就職活動に対してポジティブなイメージを持った	5	4	3	2	1

Q32. そのインターンシップに参加してよかったと思いますか。1つだけ選んでください。

1. 非常によかった       ⇒ Q33に進んでください
2. よかった
3. どちらともいえない      ⇒ Q35に進んでください
4. よくなかった                   ⇒ Q34に進んでください
5. 非常によくなかった

Q33. 【Q32に「1」「2」と回答した方のみ】それはなぜですか。理由について、下記のそれぞれに回答してください。

	あてはまる	あてはまらない
① 将来のキャリアプランが明らかになったから	1	0
② 自分がやりたいことがわかったから	1	0
③ 社会で達成したい具体的な目標ができたから	1	0
④ 興味のある業界・企業・職種の絞り込みができたから	1	0
⑤ 自分の強み・弱みを知ることができたから	1	0
⑥ 自分の適性が分かったから	1	0
⑦ 会社の社風を知ることができたから	1	0
⑧ 内定獲得に直結したから	1	0
⑨ 学業に良い影響があったから	1	0
⑩ フィードバックが十分にあったから	1	0
⑪ 社員と密接にコミュニケーションができたから	1	0
⑫ 自分の専門性を活かすことができたから	1	0
⑬ その他（                      ）	1	0

Q34. 【Q32に「4」「5」と回答した方のみ】それはなぜですか。理由について、下記のそれぞれに回答してください。

あてはまる      あてはまらない

① 業界・企業について詳しく知ることができなかったから	1	0
② 将来のキャリアプランが明確にならなかったから	1	0
③ 興味のある業界・企業・職種を絞り込みできなかったから	1	0
④ 自分の強み・弱みを把握できなかったから	1	0
⑤ 企業が広報していた内容と違っていたから	1	0
⑥ 採用との結びつきの強いインターンシップだったから	1	0
⑦ 採用との結びつきの弱いインターンシップだったから	1	0
⑧ 就業体験がなく業務内容が十分に理解できる内容ではなかったから	1	0
⑨ 社員とコミュニケーションが十分とれるものではなかったから	1	0
⑩ 当初の想定よりも負担（時間、労力、お金）がかかったから	1	0
⑪ 他の参加者との関係がうまくいかなかったから	1	0
⑫ 企業の雰囲気当初の想像と違ったから	1	0
⑬ フィードバックが十分にならなかったから	1	0
⑭ 自分の専門性を活かせなかったから	1	0
⑮ 企業説明会と変わらなかったから	1	0
⑯ 働き手として使われ、アルバイトと変わらないものだったから	1	0
⑰ 学業に取り組む時間が削られたから	1	0
⑱ その他（ ）	1	0

Q35. ここで念頭に置いている企業からあなたに内定は出ましたか。

- 1. 内定が出た ⇒ Q36に進んでください
- 2. 内定は出なかった ⇒ Q38に進んでください
- 3. まだ結果が出ていない }

Q36. 【Q35に「1」と回答した方のみ】その企業に就職しますか。

- 1. 就職する ⇒ Q38に進んでください
- 2. 就職しない ⇒ Q37に進んでください
- 3. わからない ⇒ Q38に進んでください

Q37. 【Q36に「2」と回答した方のみ】なぜインターンシップの参加企業を就職先としなかったのですか。理由について、下記のそれぞれに回答してください。

	あてはまる	あてはまらない
① 業界・企業について詳しく知ることができなかったから	1	0
② 元々志望している企業や業界とは異なっていた	1	0
③ 会社の内容が分かったことで興味がなくなった	1	0
④ 事業の内容がわかったことで業界への関心が薄れた	1	0
⑤ 就職活動中に他業種に関心が移った	1	0
⑥ 希望したが内定を得られなかった	1	0
⑦ その他（ ）	1	0

Q38以降ではインターンシップについてのご意見をうかがいます。インターンシップに参加していない方を含めて、全員回答してください。

Q38. 後輩にインターンシップへの参加を勧めますか。

- |              |   |   |             |
|--------------|---|---|-------------|
| 1. 強く勧める     | ] | ⇒ | Q39に進んでください |
| 2. 勧める       |   |   |             |
| 3. どちらともいえない | ] | ⇒ | Q40に進んでください |
| 4. 勧めない      |   |   |             |
| 5. 絶対勧めない    |   |   |             |

Q39. 【Q38が「1」「2」の方のみ】インターンシップを勧めるのはなぜですか。理由について、それぞれに回答してください。

	あてはまる	あてはまらない
① 将来のキャリアプランが明らかになるから	1	0
② 自分がやりたいことがわかるから	1	0
③ 社会で達成したい具体的な目標ができたから	1	0
④ 興味のある業界・企業・職種の絞り込みができるから	1	0
⑤ 自分の強み・弱みを知ることができるから	1	0
⑥ 自分の適性が分かるから	1	0
⑦ 会社の社風を知ることができるから	1	0
⑧ 内定獲得に直結するから	1	0
⑨ 学業に良い影響があるから	1	0
⑩ フィードバックが十分にあるから	1	0
⑪ 社員と密接にコミュニケーションできるから	1	0
⑫ 自分の専門性を活かすことができるから	1	0
⑬ その他 ( )	1	0

Q40. あなたが改めてインターンシップ参加を検討するとして、どのようなインターンシップなら参加しますか。下記のそれぞれに回答してください。

	あてはまる	あてはまらない
① 企業の説明（座学）	1	0
② 業界の説明（座学）	1	0
③ 入社後の業務説明	1	0
④ 社員に対する質問会	1	0
⑤ 新規事業についてのワークやディスカッション	1	0
⑥ 社会課題やテーマについてのワークやディスカッション	1	0
⑦ 検討した事業・課題についての発表・プレゼンテーション	1	0
⑧ 企画・提案型の特別プロジェクト	1	0
⑨ 企画・実行型の特別プロジェクト	1	0
⑩ 実際の業務シミュレーション・実習・研修・体験	1	0



⑪ 職場や工場の見学	1	0
⑫ 業務の同行・同席	1	0
⑬ 補助的業務の一部を経験	1	0
⑭ 基幹業務の一部を経験	1	0
⑮ キャリア（自らの職業選択）に関する研修	1	0
⑯ 就職活動への直接的な支援（面接対策など）	1	0
⑰ 実施した内容の振り返り（企業で実施するもの）	1	0
⑱ 大学で実施する、インターン前後のフォローアップ	1	0
⑲ その他（ ）	1	0

Q41. 大学での学修行動などへ良い影響（大学で学んだ内容をインターンシップで活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定する）をもたらすために、望ましいインターンシップの時期はいつですか。望ましいと思う時期を1つだけ選んでください。

1. 大学1年生
2. 大学2年生
3. 大学3年生4～6月
4. 大学3年生7～9月
5. 大学3年生10～12月
6. 大学3年生1～3月
7. 大学4年生4～6月
8. 大学4年生7～9月
9. 大学4年生10～12月
10. 大学4年生1～3月
11. 大学院1年生4～6月
12. 大学院1年生7～9月
13. 大学院1年生10～12月
14. 大学院1年生1～3月
15. 大学院2年生4～6月
16. 大学院2年生7～9月
17. 大学院2年生10～12月
18. 大学院2年生1～3月
19. 卒業後
20. わからない

Q42. あなたが望ましいと思う1社あたりのインターンシップの長さはどれくらいですか。望ましいと思う期間を1つだけ選んでください。

1. 1日
2. 2日
3. 3～4日
4. 5日以上10日未満
5. 10日以上1か月未満
6. 1か月以上3か月未満
7. 3か月以上

Q43. 就職活動やインターンシップに関するお考えを自由にお書きください。



ご協力ありがとうございました。

## 第6章 結語

### 第1節 調査結果とインターンシップの課題

「インターンシップ」の概念が大学在学中の就業経験の意味でわが国に広く導入されたのは1997年である。以来、文部科学省を中心に政策的に推進され、また産業界の協力のものと、現在は大学生の3分の2が何らかのインターンシップを経験して経て卒業するに至っている。しかし、大学生の就職をめぐる社会的状況もインターンシップも変転が続いている。本調査研究はインターンシップを学生の就職活動全体との関連で現状と問題点を明らかにするために行なわれたもので、現状に関しては次の諸事項が明らかになった。

- インターンシップは文部省、労働省、通商産業省が1997年に共同で策定した「インターンシップ推進にあたっての基本的考え方」に沿って推進されてきたが、2014年改訂の際にあらためて「キャリア教育」に定位された。各大学はこれを受け、早期や長期のインターンシップ、あるいは産業連携や地域連携の枠組みでの具体化をいっそう展開するようになった。文部科学省としてもインターンシップ専門人材の育成・設置を推進している。また、専門人材や教員による概念整理、効果測定、プログラム開発事例は学術論文などを通して公開、普及が図られ、議論の結果が各大学のプログラム改訂に反映されるという循環が成立している（第1章、第2章）。
- ヒアリング調査先の各大学では、就職活動における学生の主体性を尊重しつつ各種の就職支援を実施しており、インターンシップが学生の社会性涵養に果たす役割が評価されていた。また、単位認定型のキャリア教育やインターンシップが何らかの形で実施されていた。山形大学は1年次からのキャリア教育と早期インターンシップに力を入れ、茨城大学は必修科目を原則置かないクォーターを3年生秋に設けて広義のインターンシップを収容する。福知山公立大学はその地域志向戦略にインターンシップを組み込んでいる。早稲田大学は20数年におよぶインターンシップ実施の蓄積を多様なプログラムに展開し、関西学院大学ではインターンシップ先の開拓と並行して少人数ゼミを多々設ける。大阪大学大学院工学研究科の「インターンシップ・オン・キャンパス」は民間企業との共同研究講座、協働研究所を基礎とするもので、インターンシップを本格的に組みこんだ新たな教育制度が始まったとも言える。山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院のキャリアデザイン科目も注目される（第3章）。
- 大学キャリアセンター教職員等へのアンケート調査は、対象の169大学中105大学から回答が得られた。ほとんどの大学が「教育課程に位置づけられた5日以上 of インターンシップ」を何らかの形で実施しており、そのための工夫は「人的配置の充実などの組織整備」「インターンシップの学内制度化」「学生とのコミュニケーションを中心とする機動性確保」に大別される。国公立大学と私立大学など社会的要因による相違が多少あるが、事前・事後の学習の組み込み、積極的な単位認定などは共通である。職員の推測では学生の約20%が5日以上 of インターンシップを経験している（第

4章)。

- 職員によるとインターンシップ実施上の最大の課題は担当教員、事務担当者の負担が大きいことであるが、受入れ企業の開拓が難しいとの訴えも高い率を示す。知名度が低い企業には学生が消極的という問題もある(第4章)。
- 卒業年次学生へのアンケート調査は大学キャリアセンター教職員等調査と同じ169大学で実施し、有効回収された1,196票を分析した。回答者でインターンシップに参加した者は3分の2近くに及ぶが、5日以上それに出た者は半数弱(全体の32.0%)である。5日以上インターンシップに参加している者の方が、5日未満の者に比べて満足度が高い。一方でインターンシップ参加、特に5日以上それへの参加は内定先企業規模を上昇させるが、野心的な学生がインターンシップにも積極的という「自己選抜」の可能性もある(第5章)。
- 5日以上参加者の経験したインターンシップ内容を5日未満のそれと比べると、「職場や工場の見学」「業務シミュレーション・実習・研修・体験」「業務同行・同席」「補助的業務の一部を経験」が顕著に多い。因子分析の結果、インターンシップ内容はこれらを中心とする「業務系」、プロジェクト従事やディスカッション、プレゼンテーションなどの「発表系」、企業や業務の説明などの「説明系」ほかから成ることがわかった。満足度は業務系の経験との関係が深い(第5章)。
- 学生の職業観における「貢献志向」(社会の役に立ちたい、働くことは生きがいだ)は学修行動変化の「関心深化」に強く影響し、「ベンチャー志向」(やりたいことをしたい、経営者になりたい)は同じく「行動活性化」に結びつきやすい。しかし、かかる学修行動変化は内定先企業規模にほとんど影響しない。影響するのは上記の「発表系」の経験である。また、インターンシップ参加は応募数や面接数を抑制しないが、内定時期を早める。もともと理系は文系より1か月半程度内定が早い、インターンシップ参加の効果も同程度である(第5章)。
- 学生は5日以上インターンシップを評価するが、望ましいとする期間は「3~4日」が最多で、密度を高める余地があると見ているようである。しかし1か月以上が適切とする学生も4~5%いる。なお、貢献志向が強いと企業や事業の理解、職場の雰囲気の把握をインターンシップ参加の目的とする傾向があり、ベンチャー志向の場合は能力開発が結びつきやすい。キャリア観の明確化は両志向に共通であるが、インターンシップの多様化も期待されるだろう(第5章)。

インターンシップをめぐる問題点として、まずヒアリング調査では現在の就職支援に関して就職活動の早期化とそれが学生の学修を圧迫していること、「ワンデーインターンシップ」が早期選考の正当化に利用され、インターンシップ全体に影響が及んでいるとの意見が聞かれた。大学キャリアセンター教職員等アンケート調査でもワンデーインターンシップの悪影響を懸念し、文部科学省の強力な指導を期待する意見が自由記述欄に高い頻度で見られる。一方、インターンシップを維持しつつ採用活動早期化を是正するには、4年生9月以前の内定承諾書や入社誓約書が法的に有効でないことを文部科学省がより明確に宣言するのが望ましいという指摘もあった。

ヒアリング調査では大学生が自らの力量涵養もそこそこに表層的な就職活動を余儀なく

されるのは望ましくないという意見、そもそも日本の若者が自分の将来を考える機会が乏しいまま就職活動に臨まなければならないことに無理があるという意見も聞かれた。就職制度やその運用に関する研究の文献調査では、①より拘束力の強いルールを制定して悪しき慣習や不用意な施策を慎む、②大学の卒業要件を厳しくし、③企業の採用が新卒に偏重するのを改めるなどの提言や（中島（2019））、①によって状況を改善できるというシミュレーション結果も見出されている（中島（2016））。実は大学人に限らず企業人も現在の就職制度が学生の力量向上を妨げかねないという認識を持っているが、それぞれの立場上の制約のため、現場だけでは解決できないという見方を示す大学キャリアセンター教職員等もいた。動機づけやスキル開発にとどまらないキャリア教育、大学のカリキュラムと衝突しないインターンシップのあり方を具体的に検討する中で合意点を突き止めることができるのではないかという意見も聞かれた。政府が産業界を交えた議論のイニシアチブを取ることに期待は大きいと言えるだろう。

ではこれをどのように進めていけばいいのだろうか。特にインターンシップに関しては、どのようなアプローチが望ましいのだろうか。

## 第2節 インターンシップの新しい方向性

現時点で最高水準のインターンシップ論を提供していると思われる文献の一つは『文部科学教育通信』（ジアース教育新社）の452号～471号（2019年1月28日～11月11日）に連載された「大学教育を変える、未来を拓くインターンシップ」シリーズである（2020年5月に同名の書籍として同社から刊行予定）。その第1回（2019年1月28日）の冒頭で、一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム代表理事の松高政氏（京都産業大学准教授）は、文部科学省のインターンシップに関する調査から、①大学の実施率が95%を超える中で、学生の50%は事前・事後教育を受けていないと回答し、②60%の大学が実施目的をすべての企業とすり合わせているとしているのに対し、そのように認識している企業側は25%にすぎないという。にもかかわらず、③インターンシップの効果に90%の大学が満足しているとして、大学側の認識が甘いことを指摘する。この程度で「できた」と勘違いしているというのである。松高准教授は現場でインターンシップの意義や教育的効果を真剣に考え、企業とすり合わせながら事前・事後教育に工夫を重ね、モニタリングを続ける実践者、人材育成に熱心な企業に接し、就職した学生の様子を把握しながら実践者を督励する学長が存在するとしつつ、大学の課題が少なくないことも指摘する。すなわち、多くの大学に共有されているインターンシップ観に問題があるというのである。

本調査の外部有識者に就任していただいた川島啓二氏（京都産業大学教授、元国立教育政策研究所高等教育研究部長）は、同じ「大学教育を変える、未来を拓くインターンシップ」シリーズの第3回（2019年2月28日）で、さらにわが国の大学教育改革の改革の流れに沿ってインターンシップをめぐる論点を次のように整理する。

### ① 組織的な質保証の体制

教育プログラムとしてのインターンシップが、各大学のカリキュラムにおいてどのように整合的に位置づけられているかを再確認する必要がある。正課の一角

を占めることとの関係においては、ディプロマポリシーとの関わりが明確にされなければならない。

## ② 「新しい能力」とインターンシップ

ジェネリックスキルやソフトスキルといった「新しい能力」の育成が大学教育の中で注目されるようになり、その育成方法の一つとしてアクティブラーニングが推奨されている。その中でインターンシップが他の体験的な学修と方法ないし期待されるアウトカムとの関係でどのような違いがあるのだろうか。

## ③ インターンシップ専門人材の位置づけ

インターンシップ専門人材の配置が推奨されているが、大学改革の文脈においては学長のリーダーシップ確立が重要である。また、それを支える「高度専門職」として、インターンシップ専門人材は産学官連携コーディネータに連なる者との理解も可能である。

## ④ 大学と社会の関わり

中央教育審議会答申『2040年に向けての高等教育のグランドデザイン』（2018年11月）においては、学生の学修と成長の場として大学と社会の往還的で融合的な相互関係が想定されている。ここでは産学「連携」から一歩進んだ次元が構想されており、その中でインターンシップの充実が求められる。

川島教授は大学教育改革とインターンシップ政策は相対的には独自に展開してきたが、今後交差するポイントが拡大し、関連性を構造的に明らかにすることが求められるという。その中でインターンシッププログラムも、単に職業世界を実体験するための就業体験の準備といった段階にとどまり続けることはできない。「大学教育改革にかかる諸問題が、理論的・概念的に整理されつつある現在、素朴経験主義は通用しない」というのが教授のメッセージである。

するとインターンシップは今、どこに向かっているのだろうか。それは人材像や育成方法に何らかの提案を行なうものだろうか。そう考えて、まずは川島啓二教授を訪問した。川島教授は国立教育政策研究所の部長職から九州大学教授を経て京都産業大学に迎えられ、その共通教育推進機構教授・初年次教育センター長を務める教育行政学者である。インターンシップは現在、産業社会の変動と大学改革の重畳の中に若干の混乱に直面しながらも、新しいものが生まれる過渡期にあるという。その意見を教授の主観でまとめた。

- インターンシップは3年生夏休みの実施が定着しているが、企業活動のグローバル化に伴う就職活動早期化の中で、2年生に移す動きが強まっている。3年生のそれはより就職活動に近いものに再構築される傾向で、企業が独自にプログラムを企画することが期待される。
- これまで大学教育は「人間形成」を看板にしてきたが、それが別のものに生きる形でなければ意味がない。学生の立場からすればインターンシップの目的はリーダーシップ能力を身につけることだったり、営業など企業活動の実態を知ることだったり、業界や職種の絞り込みだったりする。つまり「人間形成」が実現されるプロセスを学生個人レベルで捉えると就職活動になり、企業からすれば採用活動なのである。

- ここで念頭に置かなければならないのが産学連携の新しい形である。従来の産学連携は大学の科学、あるいは科学に基づく技術開発が企業に移転され、企業が特許の実施料その他を受益者負担するという前提であった。いわば企業と大学が切り離されているから「連携」もしなければならなかったのである。今後はそれがいっそう深化していく。なぜ企業が新人を採用するかといえば、むろん退職者の補充であるが、常に変転する環境の中で同じことをやっているといいわけではない。すなわち採用活動は企業という社会組織における「組織開発」の現われであり、インターンシップもその一端に位置づけられる。インターンシップを通した人間形成と組織開発の両立の必要性が企業にインターンシップ参画を呼びかける根拠になっている。
- 「産学連携の新しい形」というのは決して計画できるものではない。グローバル化に伴う就職活動早期化といっても、社会全体が動いている中でわかるのは、今までのやり方ではうまくいかないということだけだ。大学教育界と産業界、大学と企業のさまざまな取り決めやその遵守も重要だが、それに集中するあまり、インターンシップのいわば文明論的な意義が見えなくなっているのではないか。インターンシップを企業の採用活動に結びつけるというのではなく、人間形成を社会全体で担う、そのための役割分担をどうするかというのがあるべき捉え方である。
- 就職とは一人の人間の活躍の場が大学から企業に移ることである。そこでは大学の場で培ったものをいかに意味あらしめるかが問われる。就職・採用を大きな流れの中で捉えていけば、インターンシップがどうあるべきかも自ずと見えてくるだろう。

さて、インターンシップとして評価されている事例としてどのようなものがあるだろうか。2020年3月9日に予定されていた「インターンシップフォーラム」（主催：文部科学省）は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になったが、その特別講演に唯一招か

図6-1. 株式会社エム・エス・アイのインターンシップ内容

(2)仕事の仕方体験ではなく仕事の重さ体験カリキュラム

大分類	主な項目
社会人としての基盤養成	①挨拶の基本動作訓練 ②日本と外国の挨拶の違いと本質 ③敬語・謙譲語・丁寧語の基本 ④報連相の基本 ⑤名刺交換の基本 ⑥スマホと固定電話の対応マナー ⑦新聞の読み方と重要性 ⑧コンプライアンスの真の意義と重要性 ⑨民間と公務員の違い ⑩働く目的と本質 ⑪社会貢献・地域貢献の真の意味
業界知識と業務体験学習	①IT業界基本講座 ②業務体験学習(SE体験コース・営業体験コース・インストラクター体験コース・Webデザイナー体験コース等) ③他業他社見学ツアー
コミュニケーション力養成	①若手社員とのグループディスカッション ②各種グループワーク ③コミュニケーションゲーム ④Good&New発表会 ⑤コミュニケーションの意義
コミュニケーション力自己分析	①コミュニケーショントランプカードによる自己コミュニケーション力の分析 ②自身の強みと弱みを正確に知る自己SWOT分析と発表 ③自己否定・自己肯定体験学習
キャリアイメージ創生	①キャリアイメージ座談会 ②キャリアイメージシートの作成 ③キャリアイメージ発表会 ④実行宣言
その他	①各種ロールプレイング ②就活の成功・失敗事例 ③若手社員仕事体験発表 ④外国人との異文化交流 ⑤成果フィードバック ⑥評価公表と修了証交付式

(株式会社エム・エス・アイの許諾を得て収載)

れていた企業が株式会社エム・エス・アイ（本社：山形市）である。講演資料はその後、文部科学省のWebに掲載された。タイトルは「4年連続！従業員満足度大賞受賞企業の地域まるごとインターンシップとは？」、講演者は同社の執行役員・経営企画室室長で、グループ企業の取締役も務める前盛直人氏である。

株式会社エム・エス・アイは1992年創業、従業員数65名（グループ全体で90名）のIT企業で、流通、生産管理、自治体等の情報システム開発を主な事業としている。2004年からインターンシップを進めており、2010年の参加者が外国人留学生を含めて31名に達した後、東日本大震災後の激減を経て2017年に震災前水準に戻し、2019年には33名となった。講演資料に示されているインターンシップ内容が図6-1である。資料の別ページにはこれを具体化した5日間のプログラムも掲載されている。

同社はインターンシップの内的効果として、①会社をあげての運営による組織力の強化、②講師に若手社員を起用することによる社員教育、③学生との交流による社員コミュニケーション力向上、外的効果として、④質の高い運営で学生間的话题になり、⑤他業他社への情報提供による各企業の運営向上と学生の県内企業への関心度アップをあげる。④⑤はインターンシップによる企業および地域のブランディングであり、①②③と合わせて川島教授の強調する「組織開発」になっている。資料に掲載された5日間のプログラム例では「システムエンジニア体験コース」または「営業同行体験コース」、「カスタマエンジニア体験コース」または「インストラクター体験コース」が2時間ずつ組まれている。この時は14名を受け入れており、同じプログラムを年間2回程度実施しているのであろう。

「インターンシップは入社前の自社社員教育に変貌」と述べる講演は、同時に「『採用してあげるよインターンシップ』の蔓延」に警告を発する。企業人こそ衿を正せというのである。講演末尾の「企業は自社の弱みと強みを謙虚に学生に伝えよ」というコメントとあいまって、同社のフィロソフィーは明らかである。ここにも一つのビジョナリー・カンパニーが輝きを放っている。

### 第3節 調査方法に関する提言

今後の調査研究のために、特に学生調査を念頭に若干の提言を行ないたい。まず第一は厳密なサンプリングが望ましい。数十万人の全数調査を行なうことはコスト的に不可能であり、本調査では時間的な制約から調査対象を169大学に絞り込んで実施したが、配信日時のわずかな差で回収票が特定の大学に集中するおそれがあったため、サンプリングのうえの配信を調査先の大学に依頼した。しかし、依頼先がセンターとの接触も多い「就職優等生」に偏った可能性がある。学生への周知はWeb掲出でもよいことにしたが、2月という就職活動終了期にWebを見るのもかなり特異な層であろう。実態調査に期待される統計的一般化は高いサンプリング精度を前提にする。それには対象の「名簿」の事前確定が必要だが、学生調査に関しては事実上方法がない。その点で適切な観点から比較的少数の大学をまず抽出し、全数調査もしくはサンプリング調査に協力を得ることは十分考えられよう。

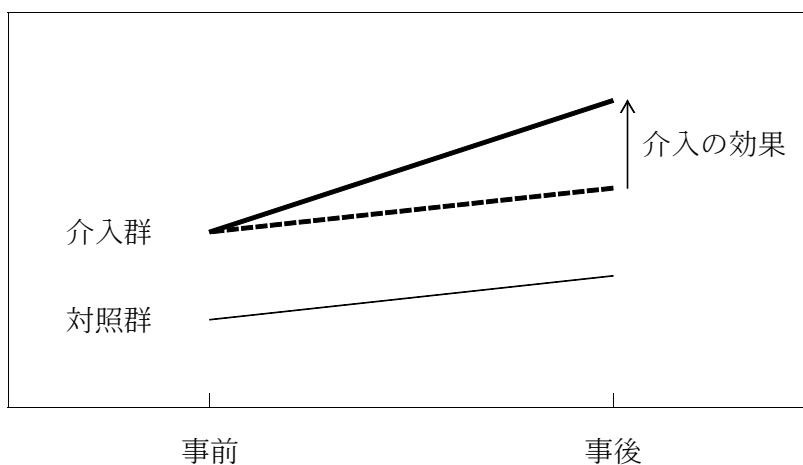
第二には調査票のていねいな設計である。今回の調査では発注時点で調査票がほぼ確定しており、近辺の大学で予備調査を行なう余裕もなかった。もとより就職活動という多様



な社会的束縛の中での複雑な行動を調査票で把握することはかなり難しい。その点、学生へのグループディスカッションやデプスインタビューを実施することで、現象をより深く把握できる。彼らがいかなるメンタルモデルをもって就職活動に臨み、何を考えてどのように行動し、インターンシップその他を通してどんな変貌を遂げ、結果をどう評価して自分の人生を再構築したかを把握したうえで、それを質問項目に置き換えていくという手順である。インタビューだけでも基本的な認識は得られるが、少数事例のため偏りは避けられない。それを可能な範囲でアンケート調査による検証することになる。

第三はパネル調査の実施である。アンケート調査でインターンシップ参加者と非参加者を比較し、参加者の方が何らかのパフォーマンスが良かったとして、それをインターンシップの効果とすることはできない。なぜならパフォーマンスの良い者がインターンシップに参加する「自己選抜」を否定できないからである。これをある程度回避する方法が、アンケート回答者を同定し、事前事後を比較するパネル調査である。一方でそれも本人の価値観や社会的バックグラウンドに規定される部分があると予想されることから、それらが類似している対象者を抽出し、そのうえでインターンシップを経験したか、いかなるそれを経験したかで効果を分析する手順となる。近年は介入群（この場合はインターンシップを経験した者）の中でも、各種属性が対照群（経験しなかった者）と近似する程度を計算に入れて効果推定の精度を高める「統計的因果推論」の方法が整備されつつあるが、その適用の可否も調査先大学との協議事項となるだろう。

図 6 - 2 . パネル調査における統計的因果推論の概念図



第四の方法はまだ実験的方法の範囲にあるが、就職活動中の学生の SNS 発言のビッグデータ解析である。各種の自然言語処理ツールを用いたいわゆる話題性分析により、まずは就職・採用の進行状況を把握し、次に他の語との共起関係やそれが生じる環境条件との関係による特徴を明らかにすることがある程度可能になっていると思われる。この際は各種の就職メディアの動き方も対象になる。これらは必要に応じて国としてリアルタイムに産業界や企業に何らかの呼びかけを実施する根拠にできるかもしれず、内閣府が 7～8 月に実施する学生調査と事後に照合して状況理解に役立たせることも視野に入る（SNS で把握された動向を調査票でチェックすることも考えられる）。

そして、企業を対象とする調査も重要である。インターンシップを受け入れる企業にと

って負担は小さくない。大手企業ならカバーしやすいとも言われるが、仮に学生の受入数を企業規模に比例させるなら容易なことではないだろう。中小企業では学生の就職に対する期待があると思われるが、それが充足される保証がないことは確かである。ただし、川島教授も述べるように企業の採用活動の本質は組織開発であり、インターンシップもその一端に位置づけうる。今後は新たな意味の産学連携を通して人間形成と組織開発を両立させつつ人間形成を社会全体で担う、そのための役割分担をどうするか議論の中でインターンシップのあり方も明らかになるであろう。

昨今、政府の政策、施策が効果の明確化を求められ、現状把握と目的・目標の明確化のうででロジックモデルを与え、データ等の根拠に基づいて必要性を検証しながら政策立案することが必要になっている。かかるEBPM (evidence based policy making) の流れにおいては実施済みの関連政策、施策の効果検証や、見出された問題点の整理、解決策の検討が特に必要となる。一般に政策、施策の検証は、①実施から効果発現までのリードタイムの長さのほか、②観測された相関関係から因果関係を識別、抽出できるかどうかが重要であるが、③政策分野においてデータの取得・分析手法等が異なることから個別に情報を収集・整理し、それぞれにふさわしい手法で実践を重ねる必要もある。就職支援政策、インターンシップ政策の立案・実施にも、それは必要になってくるだろう。

#### 第4節 長期インターンシップに向けて

提示された調査票から見通せた文部科学省の大きな課題は「長期インターンシップ」である。何をもって「長期」とするかの議論も行なわれていると思われるが、仮に2年生や3年生の夏休みでカバーできないほどの期間であるとしたら、大学のカリキュラムとの衝突は避けがたい。すなわち長期インターンシップは大学という社会制度の根幹に関わる大きな論点になるはずで、果たして企業側としてどの程度の人数を、それも入社するという保証がない学生を受け入れることができるかという問題も生じる。

第一の方法は「長期インターンシップ」を経験する人数を限定のうで、その者には大量の単位認定を行なう方法である。しかしこれでは効果の及ぶ範囲が限定され、大学教育の改革につながりにくいだろう。第二に考えられるのはギャップイヤー制度の段階的拡充、適用である。これには半年程度の人件費を国が供給することで実現し、特に不況期であれば浸透させやすい面があるかもしれないが、その期間が結局「就活」に投入されるとすれば意味はない。第三に現在の「3年3割離職」を事実上の長期インターンシップとして追認することであるが、当事者である若者に負担を強いる可能性がある。

仮に上記第3節で提案した各種調査が実施されるなら長期インターンシップもそのテーマになると思われるが、この場合は個人レベルの行動やその変容、さらにその意味を政策を含む社会状況との関連で分析していく必要がある。一方で川島啓二教授の指摘や株式会社エム・エス・アイの事例を省みれば、インターンシップを狭いフレームワークに閉じ込める必要はない。定めるべきは定め、問題があれば対処しつつ、すなわち人知の限界をふまえつつもこれを信頼し、さらなるプロセスを進めるべきであろう。各大学においてもインターンシップの学修効果の追求や、大学教育改革の一環として「あるべき人材像やその育成方法」の検討が進められることが期待される。

## 資料 1 . 文部科学省から大学に送付した依頼文書



各大学御担当者様

文部科学省高等教育局学生・留学生課

就職・採用活動の一環として実施されるインターンシップの実態に関する  
アンケート調査への協力について（依頼）

平素より文部科学行政に御理解・御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

インターンシップの望ましい在り方については、文部科学省、厚生労働省及び経済産業省の三省が合同で「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」において示しているところですが、実際のインターンシップの在り方は多種多様な状況にあります。ことに、いわゆる「ワンデーインターンシップ」も含め、事実上は企業説明会もしくは実質的に採用選考過程となっているものも多く存在すること、このため、就職活動の一環としてインターンシップに参加している学生も多いと考えられます。

こうした現状を踏まえ、文部科学省では、就職・採用活動に関連して実施されているインターンシップについて、実態等を把握し、今後の時代にふさわしい学生と企業の就職・採用の在り方について検討を行うための参考資料を得るため、独立行政法人日本学生支援機構とともに、下記のとおり委託調査を行うこととしております。

つきましては、貴学の教職員及び学生に調査に御回答いただきたいと考えており、御多忙のところ恐縮ではございますが、調査委託先の株式会社シー・ディー・アイの依頼文書に基づき、調査に御協力いただきますようお願いいたします。

記

- ・調査実施期間：令和2年2月7日（金）から令和2年2月29日（土）
- ・調査方法：インターネットによるアンケート調査
- ・調査対象：【大学に対する調査】大学キャリアセンター教職員等（**1大学1票**）  
【学生に対する調査】令和元年度卒業・修了予定者（卒業年次の学部生及び大学院生（修士課程・専門職学位課程・博士前期課程））
- ・調査実施体制：文部科学省の委託により株式会社シー・ディー・アイが実施する。
- ・その他：回答結果は調査目的以外に使用せず、また、回答者名等が特定されないようにする。

以上

【連絡先】

文部科学省高等教育局学生・留学生課  
就職指導係 □□・□□・□□  
TEL：03-5253-4111（内線□□□□）  
FAX：03-□□□□-□□□□

令和2年2月7日

各大学御担当者様

〒604-0863 京都市中京区夷川通室町東入巴町 83  
株式会社シー・ディー・アイ  
代表取締役 疋田正博

**文部科学省委託調査「就職・採用活動の一環として実施される  
インターンシップの実態に関するアンケート調査」へのご協力をお願い**

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび株式会社シー・ディー・アイでは、文部科学省からの委託を受け「就職・採用活動の一環として実施されるインターンシップの実態に関するアンケート調査」を実施させていただくこととなりました。この調査は、就職・採用活動に関連して実施されているインターンシップについて、実態等を把握し、今後の時代にふさわしい学生と企業の就職・採用の在り方について検討を行うための参考資料を得ることを目的として、下記の調査実施要領によって実施されるものです。

つきましては、貴学の教職員及び学生に調査に御回答いただきたいと考えており、御多忙のところ恐縮ではございますが、本調査への御協力をお願い申し上げます。

敬具

**実施要領**

**1. 調査の目的**

本調査は、就職・採用活動に関連して実施されているインターンシップについて、実態等を把握し、今後の時代にふさわしい学生と企業の就職・採用の在り方について検討を行うための参考資料を得ることを目的として実施します。

**2. 調査の実施体制**

文部科学省の委託を受け株式会社シー・ディー・アイが実施します。

**3. 調査実施期間**

令和2年2月7日（金）～令和2年2月29日（土）

**4. 調査の対象**

【大学に対する調査】 大学キャリアセンター教職員等（1大学1票）

【学生に対する調査】 調査対象大学の令和元年度卒業・修了予定者（卒業年次の学部生及び大学院生（修士課程・専門職学位課程・博士前期課程））

## 5. 調査の方法

【大学に対する調査】大学に対する調査については、貴学内で実態を理解されている方が記入（または記載担当者が各担当部署の教職員に確認した上で記入）していただきますようお願いいたします。記入方法はインターネット上に設置した専用フォーム（下記 URL）にアクセスし、指示に従ってクリック等をしていただくものです。1大学1票の回答となりますので、大学の状況を一つにまとめて回答してください。回答を中断してサイトを退出すると、最初から回答し直していただく必要があります。

<https://>

【学生に対する調査】学生に対する調査については、貴学の事情に応じて、就職支援のメーリングリストの活用、学部や研究室からの連絡、全学生に割り当てている大学のメールアドレスへの連絡、依頼文書の配布、掲示板への掲載などの方法を組み合わせて、対象学生に依頼の連絡をしていただきますようお願いいたします。ご案内いただく URL は次のとおりです。上記の大学向けアンケートとは異なる URL ですので、ご注意ください。

<https://>

なおこの際、就職内定しなかった学生も含めて令和元年度卒業・修了予定者全体の2%程度の学生に調査への協力についてご案内いただけますようお願いいたします。また、少なくとも5日以上インターンシップに参加した者が含まれることが望ましく、さらに1カ月以上のインターンシップに参加した者が含まれるとなお望ましい状況です。予想回収率を想定していますので、必ずしも案内先の全員が回答されなくても差し支えありませんが、多様な学生を調査する観点から、学科・専攻などバランスよく抽出し、特定のタイプの学生に偏ることがないようにお願いします。具体的な案内文や添付文書については、別添1および別添2をご参照ください。

## 6. 調査事項

【大学に対する調査】

- i. 大学の状況について（学校種別、設置学部、所在地等）
- ii. インターンシップとその運営について（学修行動の変化、工夫、課題等）
- iii. 今後のインターンシップについて（望ましい時期、内容等）

【学生に対する調査】

- i. 対象となる学生自身のことについて（性別、学年、学校情報、就職活動状況等）
- ii. インターンシップに関すること（参加日数、目的、内容等）
- iii. インターンシップに関する意見について（望ましいインターンシップ等について）

## 7. その他

- ・ 本調査は、インターンシップの現状を把握するために実施するものであり、回答結果は調査目的以外には利用いたしません。
- ・ 回答結果は、回答者名等が特定される形では公表されません。

【本件に関するご照会先】

株式会社シー・ディー・アイ □□

電話：075-253-0660

Mail：[\\*\\*\\*\\*\\*@\\*\\*\\*\\*.\\*\\*\\*](mailto:*****@****.***)

## 大学から学生へご案内いただく場合の文例

株式会社シー・ディー・アイ

本件調査のご担当部署から調査対象の学生（卒業予定年次の者の2%程度）にご案内いただく際の文例について、以下のようにご提案申し上げます。適宜ご利用ください。

### (1) 学生に文書を配布する場合

別添2「就職・採用活動の一環として実施されるインターンシップの実態に関するアンケート調査へのご協力をお願い」を学生に配布してください。

### (2) 学生にメールで案内する場合（※別添2を添付ファイルとして送ってください）

適切な数の学生にメールで配信していただく場合の文案を例示させていただきます。

SUB：文部科学省アンケート調査への回答のお願い

学生各位

このたび文部科学省から、学生の就職活動やインターンシップ参加実態に関するアンケート調査実施の案内がありました。本学としてこれに協力する立場から、本学学生を無作為抽出して調査会社（株式会社シー・ディー・アイ）からの依頼を転送しますので、回答へのご協力をお願いします。回答は個人として行なっていただくもので、無記名です。

ご協力いただける場合は、下記の電子調査票にアクセスして順次回答してください。回答時間は15分程度とのことです。調査に関する問合わせ先等は下記調査票の冒頭に記されています。なお、回答を中断してサイトから退出すると、最初から回答し直していただく必要があります。添付の案内文も参照してください。

<調査票サイト>

<https://>

### (3) ウェブ掲示板へ掲載する場合（※別添2を「こちら」にリンクしてください）

適切な学務系ウェブに掲載して回答を学生に呼びかけていただく場合の文案を例示させていただきます。別添2も下記文書の一部としてウェブに掲載（リンク）してください。



SUB：文部科学省アンケート調査への回答のお願い

学生各位

このたび文部科学省から、学生の就職活動やインターンシップ参加実態に関するアンケート調査実施の案内がありました。本学としてこれに協力する立場から、本学学生を無作為抽出して調査会社（株式会社シー・ディー・アイ）からの依頼を転送しますので、回答へのご協力をお願いします。回答は個人として行なっていただくもので、無記名です。

ご協力いただける場合は、下記の電子調査票にアクセスして順次回答してください。回答時間は15分程度とのことです。調査に関する問合わせ先等は下記調査票の冒頭に記されています。なお、回答を中断してサイトから退出すると、最初から回答し直していただく必要があります。こちらも参照してください。

<調査票サイト>

<https://>

【本件に関するご照会先】

株式会社シー・ディー・アイ □□

電話：075-253-0660

Mail：[\\*\\*\\*\\*\\*@\\*\\*\\*\\*.\\*\\*\\*](mailto:*****@****.***)

各大学の卒業年次学生の皆様

就職・採用活動の一環として実施されるインターンシップの  
実態に関するアンケート調査へのご協力をお願い

令和2年2月  
文部科学省高等教育局学生・留学生課  
独立行政法人日本学生支援機構  
(調査委託先) 株式会社シー・ディー・アイ

今後の時代にふさわしい学生と企業の就職・採用の在り方についての検討の参考とするため、令和元年度卒業・修了予定者（卒業年次の学部生及び大学院生（修士課程・専門職学位課程・博士前期課程）の方を対象とし、就職活動や就職・採用活動に関連して実施されているインターンシップについて、実態等を把握するためのアンケート調査を実施します。

この調査は文部科学省からの委託により、株式会社シー・ディー・アイが実施します。本調査におきましては個人が特定できるような情報は一切把握されず、公開もされません。また、個別の記載内容については秘密が保持されます。

所要時間の目安は回答内容によりますが、15分程度と思われます。御協力いただけますようお願いいたします。なお、回答を中断して退出すると、最初から回答し直していただく必要があります。

【対象者】 令和元年度卒業・修了予定者（卒業年次の学部生及び大学院生（修士課程・専門職学位課程・博士前期課程）

【回答方法】 次のウェブサイトアクセスの上、回答してください。

<https://>

【回答期日】 2月29日（土）23時59分

【本件調査に関するお問合せ先】

〒604-0863 京都市中京区夷川通り室町東入巴町 83

株式会社シー・ディー・アイ □□

Web : <http://www.cdi.j.org/wiki/>

電話 : 075-253-0660

Mail : [\\*\\*\\*\\*\\*@\\*\\*\\*\\*.\\*\\*\\*](mailto:*****@****.***)

なお、「回答出来ない」「ページが表示されない」等については、調査事務局の株式会社クロス・マーケティングをご紹介します。

## 資料 2 . 報告書に収載したグラフの数値



図 2 - 1. 雑誌記事索引に見る「インターンシップ」「キャリア教育」記事数

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
インターンシップ——	1	1	44	45	57	82	90	111	66	109	102	80
キャリア教育 .....	0	3	0	3	5	76	45	29	57	109	268	228
インターンシップ*キャリア教育 ——	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	4	3

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
インターンシップ——	113	74	100	75	58	88	104	90	120	133	111	106
キャリア教育 .....	288	290	241	290	312	262	251	257	230	222	213	166
インターンシップ*キャリア教育 ——	6	5	9	6	3	13	8	4	6	2	4	5

	2019
インターンシップ——	106
キャリア教育 .....	158
インターンシップ*キャリア教育 ——	0

図 4 - 3. 大学キャリアセンター教職員等が推測する学生のインターンシップ参加期間 (Q1 \* Q5)

【設置者別】

	参加していない	1日	2日以上 5日未満	5日以上 1か月未満	1か月以上	
国公立——	42.81	21.68	12.62	21.03	1.86	
私立 .....	38.88	31.22	14.32	14.77	0.82	
計	40.30	27.75	13.71	17.04	1.20	(%)

【文系理系別】

	参加していない	1日	2日以上 5日未満	5日以上 1か月未満	1か月以上	
文 .....	33.30	28.16	16.16	21.70	0.68	
文+理——	44.60	28.42	12.32	13.00	1.66	
理 ——	42.92	23.58	12.25	20.50	0.75	
計	40.30	27.75	13.71	17.04	1.20	(%)

図4-4. 大学キャリアセンター教職員等が見たインターンシップ参加後の学修行動変化 (Q1\*Q6)

【文系学生】 5日未満のインターンシップに参加した層

	⑤	⑬	⑧	⑨	⑥	③	④	⑦	②	①	⑫	⑩	⑪
国公立——	4.00	3.67	3.83	3.33	3.71	2.60	3.00	3.00	2.40	3.00	2.67	2.60	2.60
私立 .....	3.83	3.60	3.54	3.43	3.30	3.22	2.89	3.00	2.82	2.65	2.65	2.64	2.59
計	3.87	3.62	3.59	3.41	3.40	3.09	2.91	3.00	2.74	2.72	2.65	2.63	2.59

【文系学生】 5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層

	⑤	⑬	⑧	⑨	⑥	③	④	⑦	②	①	⑫	⑩	⑪
国公立——	4.00	3.89	3.86	3.95	3.57	3.67	3.42	3.23	3.42	2.90	3.18	3.00	2.73
私立 .....	4.27	3.95	3.91	3.87	3.57	3.52	3.48	3.45	3.15	3.25	3.00	2.96	2.96
計	4.18	3.93	3.90	3.89	3.57	3.57	3.46	3.38	3.24	3.15	3/06	2.97	2.89

【文系学生】 1か月以上のインターンシップに参加した層

	⑤	⑬	⑧	⑨	⑥	③	④	⑦	②	①	⑫	⑩	⑪
国公立——	3.83	3.82	3.56	3.82	3.50	3.50	3.86	3.57	3.57	3.00	2.86	2.71	2.57
私立 .....	4.29	3.79	3.92	4.07	3.83	3.70	3.70	3.60	3.36	3.20	3.00	3.00	3.00
計	4.08	3.80	3.77	3.96	3.70	3.61	3.76	3.59	3.44	3.13	2.94	2.88	2.82

【理系学生】 5日未満のインターンシップに参加した層

	⑤	⑨	⑬	③	⑥	⑧	④	⑦	②	⑫	①	⑩	⑪
国公立——	3.93	3.43	3.57	3.00	3.45	3.58	3.00	3.20	2.70	2.40	2.60	2.89	2.50
私立 .....	3.50	3.17	3.25	2.88	3.27	3.08	2.43	2.90	2.71	2.25	2.50	2.14	2.13
計	3.74	3.31	3.42	2.94	3.36	3.33	2.76	3.05	2.71	2.33	2.56	2.56	2.33

【理系学生】 5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層

	⑤	⑨	⑬	③	⑥	⑧	④	⑦	②	⑫	①	⑩	⑪
国公立——	4.22	4.00	3.95	3.77	3.79	3.78	3.64	3.53	3.14	3.00	3.00	3.00	2.77
私立 .....	4.33	4.25	4.08	4.00	3.71	3.50	3.80	3.43	3.75	3.40	3.25	2.50	2.60
計	4.26	4.09	4.00	3.84	3.76	3.68	3.68	3.50	3.28	3.11	3.06	2.88	2.72

【理系学生】 1か月以上のインターンシップに参加した層

	⑤	⑨	⑬	③	⑥	⑧	④	⑦	②	⑫	①	⑩	⑪
国公立——	4.23	4.17	4.08	4.11	3.67	3.64	3.44	3.56	3.33	2.75	2.56	2.75	2.44
私立 .....	4.20	4.00	3.80	4.00	3.75	4.00	4.00	3.00	3.50	3.00	3.00	3.00	3.00
計	4.22	4.12	4.00	4.08	3.69	3.75	3.55	3.45	3.36	2.80	2.60	2.80	2.55

図4-5. 大学キャリアセンター教職員等が望ましいと考えるインターンシップ内容 (Q1\*Q11)

【文系学生】

	⑰	⑩	⑫	⑲	⑦	⑭	⑧	⑨	⑪	④	⑬	⑱	⑤
国公立——	100	96.8	87.1	96.8	83.9	90.3	83.9	87.1	87.1	77.4	87.1	83.9	74.2
私立 ……	98.4	95.1	95.1	86.9	93.4	88.5	90.2	85.2	85.2	88.5	83.6	78.7	73.8
計	98.9	95.7	92.4	90.2	90.2	89.1	88.0	85.9	85.9	84.8	84.8	80.4	73.9

	⑥	②	⑮	①	③	⑯
国公立——	74.2	54.8	64.5	48.4	51.6	19.4
私立 ……	73.8	78.7	72.1	73.8	62.3	36.1
計	73.9	70.7	69.6	65.2	58.7	30.4

(%)

【理系学生】

	⑩	⑰	⑭	⑪	⑲	⑦	⑫	⑨	④	⑬	⑧	⑱	⑤
国公立——	97.1	97.1	91.4	94.3	85.7	91.4	82.9	85.7	80.0	85.7	85.7	80.0	77.1
私立 ……	96.9	93.8	90.6	84.4	90.6	81.3	87.5	84.4	87.5	81.3	78.1	75.0	75.0
計	97.0	95.5	91.0	89.6	88.1	86.6	85.1	85.1	83.6	93.6	82.1	77.6	76.1

	⑥	②	⑮	①	③	⑯
国公立——	77.1	65.7	65.7	54.3	57.1	25.7
私立 ……	68.8	71.9	62.5	65.6	59.4	40.6
計	73.1	68.7	64.2	59.7	58.2	32.8

(%)

図4-6. 大学キャリアセンター教職員等が想定する今後のインターンシップ手法 (Q1\*Q14)

【文系学生】

	⑤	④	⑦	①	③	⑥	⑧	⑨	②
国公立——	3.65	3.74	3.32	3.16	3.06	2.52	2.84	2.26	2.26
私立 ……	3.95	3.66	3.54	3.59	3.10	2.97	2.75	2.56	2.13
計	3.85	3.68	3.47	3.45	3.09	2.82	2.78	2.46	2.17

【理系学生】

	⑤	④	⑦	①	③	⑧	⑥	⑨	②
国公立——	3.71	3.51	3.49	3.20	3.11	2.89	2.60	2.31	2.20
私立 ……	3.59	3.44	3.19	3.09	2.84	2.56	2.81	2.63	2.31
計	3.66	3.48	3.34	3.15	2.99	2.73	2.70	2.46	2.25

図5-4. 大学群別累積内定率（企業就職）（Q5\*Q16）

【学部】

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
A群 ——	10.6	16.6	32.5	53.0	86.8	92.7	94.7	95.4	97.4	
B群 .....	5.9	10.1	25.8	45.1	73.4	83.2	87.4	90.5	94.4	
C群 ——	4.7	8.9	22.9	39.7	66.4	77.6	81.8	85.5	90.7	
計	6.8	11.2	26.7	44.9	73.7	83.1	87.0	89.9	93.9	(%)

【大学院】

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
A群 ——	13.8	20.7	27.6	55.2	82.8	86.2	93.1	96.6	96.6	
B群 .....	3.6	8.0	21.5	39.4	71.5	80.7	85.8	89.4	93.1	
C群 ——	4.4	8.9	23.2	39.4	66.0	77.8	82.3	86.2	91.1	
計	11.2	15.7	36.3	57.0	83.9	91.9	92.8	93.7	97.3	(%)

図5-9. 大学所在地、インターンシップ先所在地別の内定先企業規模分布（企業就職／IS参加）（Q6\*Q25\*Q14X）

【学部】

	99人以下	100-299人	300-999人	1000-4999人	5000人以上	
大学＝都市／IS＝都市—	9.9	12.4	20.7	24.8	32.2	
大学＝都市／IS＝地方…	15.5	21.4	21.4	20.2	21.4	
大学＝地方／IS＝都市—	7.7	17.9	30.8	33.3	10.3	
大学＝地方／IS＝地方…	17.1	20.7	26.1	18.0	18.0	
計	12.4	16.4	22.9	23.1	25.2	(%)

【大学院】

	99人以下	100-299人	300-999人	1000-4999人	5000人以上	
大学＝都市／IS＝都市—	3.6	9.5	13.1	28.6	45.2	
大学＝都市／IS＝地方…	5.9	5.9	10.3	22.1	55.9	
大学＝地方／IS＝都市—	0.0	7.1	17.9	35.7	39.3	
大学＝地方／IS＝地方…	15.2	6.1	15.2	21.2	42.4	
計	5.6	7.5	13.1	26.3	47.4	(%)



### 資料3. 「大学キャリアセンター教職員等へのアンケート調査」集計結果



まず、Q1～Q4で貴学についておたずねします。

Q1. 貴学の学校種別について、該当するものを1つ選んでください。

	該当数	国立大学	公立大学	私立大学
全体	105 100.0	33 31.4	4 3.8	68 64.8
国公立	37 100.0	33 89.2	4 10.8	0 0.0
私立	68 100.0	0 0.0	0 0.0	68 100.0

Q2. 貴学のすべての学部、学科や大学院研究科、専攻について、以下のそれぞれに該当するものが設置されているかどうか回答してください。

人文科学(教養含む)	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	41 39.0	64 61.0
国公立	37 100.0	15 40.5	22 59.5
私立	68 100.0	26 38.2	42 61.8

社会科学(国際関係含む)	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	25 23.8	80 76.2
国公立	37 100.0	10 27.0	27 73.0
私立	68 100.0	15 22.1	53 77.9

理学	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	70 66.7	35 33.3
国公立	37 100.0	15 40.5	22 59.5
私立	68 100.0	55 80.9	13 19.1

工学	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	56 53.3	49 46.7
国公立	37 100.0	3 8.1	34 91.9
私立	68 100.0	53 77.9	15 22.1

農学	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	81 77.1	24 22.9
国公立	37 100.0	18 48.6	19 51.4
私立	68 100.0	63 92.6	5 7.4

医学、歯学、看護学	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	67 63.8	38 36.2
国公立	37 100.0	14 37.8	23 62.2
私立	68 100.0	53 77.9	15 22.1

薬学	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	91 86.7	14 13.3
国公立	37 100.0	29 78.4	8 21.6
私立	68 100.0	62 91.2	6 8.8

保健(医学、歯学、看護学、薬学以外)	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	82 78.1	23 21.9
国公立	37 100.0	22 59.5	15 40.5
私立	68 100.0	60 88.2	8 11.8

商船	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	103 98.1	2 1.9
国公立	37 100.0	35 94.6	2 5.4
私立	68 100.0	68 100.0	0 0.0

家政	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	94 89.5	11 10.5
国公立	37 100.0	35 94.6	2 5.4
私立	68 100.0	59 86.8	9 13.2

教育	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	59 56.2	46 43.8
国公立	37 100.0	13 35.1	24 64.9
私立	68 100.0	46 67.6	22 32.4

芸術	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	88 83.8	17 16.2
国公立	37 100.0	29 78.4	8 21.6
私立	68 100.0	59 86.8	9 13.2

その他	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	87 82.9	18 17.1
国公立	37 100.0	28 75.7	9 24.3
私立	68 100.0	59 86.8	9 13.2

Q3. 貴学の所在地(本部事務局の所在地)の都道府県をお選びください。

	該当数	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県
全体	105 100.0	5 4.8	1 1.0	2 1.9	3 2.9	1 1.0	0 0.0	1 1.0	3 2.9	1 1.0	0 0.0	8 7.6	3 2.9	17 16.2	1 1.0	1 1.0	1 1.0	2 1.9	1 1.0
国公立	37 100.0	2 5.4	0 0.0	1 2.7	0 0.0	1 2.7	0 0.0	1 2.7	2 5.4	1 2.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 8.1	0 0.0	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7
私立	68 100.0	3 4.4	1 1.5	1 1.5	3 4.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	0 0.0	8 11.8	3 4.4	14 20.6	1 1.5	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0

		山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
全体		1 1.0	1 1.0	2 1.9	2 1.9	7 6.7	0 0.0	1 1.0	7 6.7	5 4.8	6 5.7	1 1.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	4 3.8	1 1.0	1 1.0
国公立		1 2.7	0 0.0	1 2.7	1 2.7	2 5.4	0 0.0	0 0.0	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7	1 2.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 5.4	0 0.0	1 2.7
私立		0 0.0	1 1.5	1 1.5	1 1.5	5 7.4	0 0.0	1 1.5	6 8.8	4 5.9	5 7.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.5	2 2.9	1 1.5	0 0.0

		香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
全体		0 0.0	1 1.0	0 0.0	4 3.8	1 1.0	0 0.0	2 1.9	2 1.9	1 1.0	2 1.9	0 0.0
国公立		0 0.0	1 2.7	0 0.0	2 5.4	1 2.7	0 0.0	1 2.7	1 2.7	1 2.7	2 5.4	0 0.0
私立		0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 2.9	0 0.0	0 0.0	1 1.5	1 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0

Q4. 卒業対象学年の学生数について、1つ選んでください。大学院を設置する大学については「学部生+大学院生(修士課程・専門職学位課程・博士前期課程)」の卒業・修了対象学年の学生数で回答してください。

	該当数	1 0 0 人 未 満	5 1 0 0 人 未 以 満 上	1 5 0 0 0 人 未 以 満 上	2 1 0 0 0 人 未 以 満 上	4 2 0 0 0 人 未 以 満 上	4 0 0 0 0 人 以 上
全体	105 100.0	2 1.9	27 25.7	17 16.2	27 25.7	20 19.0	12 11.4
国公立	37 100.0	0 0.0	3 8.1	5 13.5	10 27.0	11 29.7	8 21.6
私立	68 100.0	2 2.9	24 35.3	12 17.6	17 25.0	9 13.2	4 5.9

Q5～Q10では、貴学におけるインターンシップとその運営についておたずねします。以下では「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」で示されている教育的効果を目的としたインターンシップだけではなく、インターンシップという名称で実施されている活動についてご記入ください。ただし、本調査での「インターンシップ」には、教育実習や看護実習といった特定の資格取得を目的としたそれは対象に含みません。

Q5. 貴学の卒業年次の学生について、何の学生がどの程度の期間のインターンシップに参加しているか、合計が100になるように記入してください。複数参加している者については、最も長いものを想定してください。厳密なものではなく結構ですので、観察の結果を回答してください。

参加していない	該当数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
全体	102	0	97	40.30	29.85
国公立	37	0	97	42.81	32.22
私立	65	0	95	38.88	28.58

1日	該当数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
全体	102	0	90	27.75	24.13
国公立	37	0	75	21.68	23.07
私立	65	0	90	31.22	24.20

2日以上5日未満	該当数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
全体	102	0	98	13.71	14.48
国公立	37	0	50	12.62	11.33
私立	65	0	98	14.32	16.05

5日以上1か月未満	該当数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
全体	102	0	100	17.04	19.43
国公立	37	0	100	21.03	20.55
私立	65	0	100	14.77	18.54

1か月以上	該当数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
全体	102	0	10	1.20	1.88
国公立	37	0	10	1.86	2.50
私立	65	0	5	0.82	1.29

※ 回答不能としてダミーデータを記入したなどの3校を除く。

Q6. 貴学の学生はインターンシップに参加することで、学修行動などが変化する傾向がありますか。①～⑬の各項目について、次の6つのいずれに該当するか回答してください。文系、理系両方の学部がある場合には両者を分けて1つずつ選んでください。

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層 ①大学での授業への出席が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	86 100.0	4 4.7	0 0.0	20 23.3	1 1.2	0 0.0	61 70.9
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	5 16.7	0 0.0	0 0.0	25 83.3
私立	56 100.0	4 7.1	0 0.0	15 26.8	1 1.8	0 0.0	36 64.3

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層 ②興味関心のある内容が絞られ(変わり)、履修する科目の傾向が変わった	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	86 100.0	4 4.7	2 2.3	18 20.9	3 3.5	0 0.0	59 68.6
国公立	30 100.0	1 3.3	1 3.3	3 10.0	0 0.0	0 0.0	25 83.3
私立	56 100.0	3 5.4	1 1.8	15 26.8	3 5.4	0 0.0	34 60.7

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層 ③興味関心のある内容に対する学習時間が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	86 100.0	3 3.5	0 0.0	13 15.1	6 7.0	1 1.2	63 73.3
国公立	30 100.0	1 3.3	0 0.0	4 13.3	0 0.0	0 0.0	25 83.3
私立	56 100.0	2 3.6	0 0.0	9 16.1	6 10.7	1 1.8	38 67.9

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層 ④大学外での学習行動(例えば読書の機会や講演の聴取など)が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	86 100.0	3 3.5	0 0.0	16 18.6	4 4.7	0 0.0	63 73.3
国公立	30 100.0	1 3.3	0 0.0	2 6.7	2 6.7	0 0.0	25 83.3
私立	56 100.0	2 3.6	0 0.0	14 25.0	2 3.6	0 0.0	38 67.9

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層 ⑤企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	86 100.0	1 1.2	1 1.2	6 7.0	25 29.1	6 7.0	47 54.7
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	1 3.3	8 26.7	1 3.3	20 66.7
私立	56 100.0	1 1.8	1 1.8	5 8.9	17 30.4	5 8.9	27 48.2

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層 ⑥時事問題などに関する情報を見る時間が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	86 100.0	2 2.3	1 1.2	10 11.6	17 19.8	0 0.0	56 65.1
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	2 6.7	5 16.7	0 0.0	23 76.7
私立	56 100.0	2 3.6	1 1.8	8 14.3	12 21.4	0 0.0	33 58.9

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層 ⑦資格試験などに取り組みはじめた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	86 100.0	4 4.7	0 0.0	18 20.9	8 9.3	0 0.0	56 65.1
国公立	30 100.0	1 3.3	0 0.0	2 6.7	2 6.7	0 0.0	25 83.3
私立	56 100.0	3 5.4	0 0.0	16 28.6	6 10.7	0 0.0	31 55.4

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層 ⑧社会人などとの交流の機会が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	86 100.0	1 1.2	1 1.2	11 12.8	19 22.1	2 2.3	52 60.5
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	2 6.7	3 10.0	1 3.3	24 80.0
私立	56 100.0	1 1.8	1 1.8	9 16.1	16 28.8	1 1.8	28 50.0

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑨自らのキャリア観(生き方)が明確になった		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	86 100.0	2 2.3	2 2.3	14 16.3	20 23.3	1 1.2	47 54.7	
国公立	30 100.0	1 3.3	0 0.0	3 10.0	5 16.7	0 0.0	21 70.0	
私立	56 100.0	1 1.8	2 3.6	11 19.6	15 26.8	1 1.8	26 46.4	

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑩クラブ活動もしくはサークル活動への参加時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	86 100.0	5 5.8	1 1.2	20 23.3	1 1.2	0 0.0	59 68.6	
国公立	30 100.0	1 3.3	0 0.0	4 13.3	0 0.0	0 0.0	25 83.3	
私立	56 100.0	4 7.1	1 1.8	16 28.6	1 1.8	0 0.0	34 60.7	

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑪アルバイトへの参加時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	86 100.0	5 5.8	2 2.3	19 22.1	1 1.2	0 0.0	59 68.6	
国公立	30 100.0	1 3.3	0 0.0	4 13.3	0 0.0	0 0.0	25 83.3	
私立	56 100.0	4 7.1	2 3.6	15 26.8	1 1.8	0 0.0	34 60.7	

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑫ボランティアへの参加回数が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	86 100.0	3 3.5	3 3.5	20 23.3	0 0.0	0 0.0	60 69.8	
国公立	30 100.0	1 3.3	0 0.0	5 16.7	0 0.0	0 0.0	24 80.0	
私立	56 100.0	2 3.6	3 5.4	15 26.8	0 0.0	0 0.0	36 64.3	

【文系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑬就職活動に対してポジティブなイメージを持った		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	86 100.0	1 1.2	1 1.2	13 15.1	21 24.4	3 3.5	47 54.7	
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	3 10.0	6 20.0	0 0.0	21 70.0	
私立	56 100.0	1 1.8	1 1.8	10 17.9	15 26.8	3 5.4	26 46.4	

※ Q5で「1日」または「2日以上5日未満」のいずれかが0%でない回答した大学について集計。

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
①大学での授業への出席が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	84 100.0	1 1.2	1 1.2	25 29.8	6 7.1	1 1.2	50 59.5	
国公立	30 100.0	0 0.0	1 3.3	9 30.0	0 0.0	0 0.0	20 66.7	
私立	54 100.0	1 1.9	0 0.0	16 29.6	6 11.1	1 1.9	30 55.6	

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
②興味関心のある内容が絞られ(変わり)、履修する科目の傾向が変わった		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	84 100.0	2 2.4	0 0.0	24 28.6	11 13.1	1 1.2	46 54.8	
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	7 23.3	5 16.7	0 0.0	18 60.0	
私立	54 100.0	2 3.7	0 0.0	17 31.5	6 11.1	1 1.9	28 51.9	

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
③興味関心のある内容に対する学習時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	84 100.0	1 1.2	0 0.0	16 19.0	17 20.2	3 3.6	47 56.0	
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	4 13.3	8 26.7	0 0.0	18 60.0	
私立	54 100.0	1 1.9	0 0.0	12 22.2	9 16.7	3 5.6	29 53.7	

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
④大学外での学習行動(例えば読書の機会や講演の聴取など)が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	84 100.0	2 2.4	0 0.0	17 20.2	15 17.9	3 3.6	47 56.0	
国公立	30 100.0	1 3.3	0 0.0	5 16.7	5 16.7	1 3.3	18 60.0	
私立	54 100.0	1 1.9	0 0.0	12 22.2	10 18.5	2 3.7	29 53.7	

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑤企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	84 100.0	0 0.0	1 1.2	5 6.0	33 39.3	17 20.2	28 33.3	
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	2 6.7	15 50.0	2 6.7	11 36.7	
私立	54 100.0	0 0.0	1 1.9	3 5.6	18 33.3	15 27.8	17 31.5	

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑥時事問題などに関する情報を見る時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	や	ち	や	は	握
		ま	ら	や	ら	あ	ま	し
		ら	あ	あ	な	て	ら	て
		は	い	い	い	は	は	い
		は	は	と	と	は	は	い
全体	84 100.0	1 1.2	1 1.2	15 17.9	23 27.4	2 2.4	42 50.0	
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	6 20.0	8 26.7	0 0.0	16 53.3	
私立	54 100.0	1 1.9	1 1.9	9 16.7	15 27.8	2 3.7	26 48.1	

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑦資格試験などに取り組みはじめた	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	84 100.0	1 1.2	1 1.2	22 26.2	17 20.2	1 1.2	42 50.0
国公立	30 100.0	1 3.3	0 0.0	7 23.3	5 16.7	0 0.0	17 56.7
私立	54 100.0	0 0.0	1 1.9	15 27.8	12 22.2	1 1.9	25 46.3

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑧社会人などの交流の機会が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	84 100.0	0 0.0	0 0.0	12 14.3	29 34.5	7 8.3	36 42.9
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	3 10.0	10 33.3	1 3.3	16 53.3
私立	54 100.0	0 0.0	0 0.0	9 16.7	19 35.2	6 11.1	20 37.0

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑨自らのキャリア観(生き方)が明確になった	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	84 100.0	0 0.0	1 1.2	11 13.1	38 45.2	7 8.3	27 32.1
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	3 10.0	14 46.7	2 6.7	11 36.7
私立	54 100.0	0 0.0	1 1.9	8 14.8	24 44.4	5 9.3	16 29.6

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑩クラブ活動もしくはサークル活動への参加時間が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	84 100.0	1 1.2	3 3.6	28 33.3	4 4.8	0 0.0	48 57.1
国公立	30 100.0	0 0.0	2 6.7	7 23.3	2 6.7	0 0.0	19 63.3
私立	54 100.0	1 1.9	1 1.9	21 38.9	2 3.7	0 0.0	29 53.7

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑪アルバイトへの参加時間が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	84 100.0	1 1.2	4 4.8	30 35.7	2 2.4	0 0.0	47 56.0
国公立	30 100.0	0 0.0	3 10.0	8 26.7	0 0.0	0 0.0	19 63.3
私立	54 100.0	1 1.9	1 1.9	22 40.7	2 3.7	0 0.0	28 51.9

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑫ボランティアへの参加回数が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	84 100.0	1 1.2	2 2.4	27 32.1	4 4.8	1 1.2	49 58.3
国公立	30 100.0	0 0.0	1 3.3	7 23.3	3 10.0	0 0.0	19 63.3
私立	54 100.0	1 1.9	1 1.9	20 37.0	1 1.9	1 1.9	30 55.6

【文系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑬就職活動に対してポジティブなイメージを持った	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	84 100.0	0 0.0	1 1.2	12 14.3	34 40.5	10 11.9	27 32.1
国公立	30 100.0	0 0.0	0 0.0	4 13.3	12 40.0	2 6.7	12 40.0
私立	54 100.0	0 0.0	1 1.9	8 14.8	22 40.7	8 14.8	15 27.8

※ Q5で「5日以上1か月未満」が0%でないと回答した大学について集計。

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ①大学での授業への出席が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	48 100.0	0 0.0	0 0.0	14 29.2	2 4.2	0 0.0	32 66.7
国公立	21 100.0	0 0.0	0 0.0	6 28.6	0 0.0	0 0.0	15 71.4
私立	27 100.0	0 0.0	0 0.0	8 29.6	2 7.4	0 0.0	17 63.0

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ②興味関心のある内容が絞られ(変わり)、履修する科目の傾向が変わった	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	48 100.0	0 0.0	0 0.0	11 22.9	6 12.5	1 2.1	30 62.5
国公立	21 100.0	0 0.0	0 0.0	4 19.0	2 9.5	1 4.8	14 66.7
私立	27 100.0	0 0.0	0 0.0	7 25.9	4 14.8	0 0.0	16 59.3

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ③興味関心のある内容に対する学習時間が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	48 100.0	0 0.0	1 2.1	7 14.6	8 16.7	2 4.2	30 62.5
国公立	21 100.0	0 0.0	1 4.8	3 14.3	3 14.3	1 4.8	13 61.9
私立	27 100.0	0 0.0	0 0.0	4 14.8	5 18.5	1 3.7	17 63.0

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ④大学外での学習行動(例えば読書の機会や講演の聴取など)が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま ら や な あ い て は	い ど え ち ら な い と も	ま ら や あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	48 100.0	0 0.0	0 0.0	7 14.6	7 14.6	3 6.3	31 64.6
国公立	21 100.0	0 0.0	0 0.0	3 14.3	2 9.5	2 9.5	14 66.7
私立	27 100.0	0 0.0	0 0.0	4 14.8	5 18.5	1 3.7	17 63.0

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑤企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	48	0	1	3	15	7	22	
	100.0	0.0	2.1	6.3	31.3	14.6	45.8	
国公立	21	0	1	2	7	2	9	
	100.0	0.0	4.8	9.5	33.3	9.5	42.9	
私立	27	0	0	1	8	5	13	
	100.0	0.0	0.0	3.7	29.6	18.5	48.1	

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑥時事問題などに関する情報を見る時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	48	0	1	6	11	2	28	
	100.0	0.0	2.1	12.5	22.9	4.2	58.3	
国公立	21	0	1	3	3	1	13	
	100.0	0.0	4.8	14.3	14.3	4.8	61.9	
私立	27	0	0	3	8	1	15	
	100.0	0.0	0.0	11.1	29.6	3.7	55.6	

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑦資格試験などに取り組みはじめた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	48	0	0	7	10	0	31	
	100.0	0.0	0.0	14.6	20.8	0.0	64.6	
国公立	21	0	0	3	4	0	14	
	100.0	0.0	0.0	14.3	19.0	0.0	66.7	
私立	27	0	0	4	6	0	17	
	100.0	0.0	0.0	14.8	22.2	0.0	63.0	

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑧社会人などとの交流の機会が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	48	0	1	6	12	3	26	
	100.0	0.0	2.1	12.5	25.0	6.3	54.2	
国公立	21	0	1	3	4	1	12	
	100.0	0.0	4.8	14.3	19.0	4.8	57.1	
私立	27	0	0	3	8	2	14	
	100.0	0.0	0.0	11.1	29.6	7.4	51.9	

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑨自らのキャリア観(生き方)が明確になった		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	48	0	1	3	17	4	23	
	100.0	0.0	2.1	6.3	35.4	8.3	47.9	
国公立	21	0	1	2	6	2	10	
	100.0	0.0	4.8	9.5	28.6	9.5	47.6	
私立	27	0	0	1	11	2	13	
	100.0	0.0	0.0	3.7	40.7	7.4	48.1	

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑩クラブ活動もしくはサークル活動への参加時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	48	1	1	14	1	0	31	
	100.0	2.1	2.1	29.2	2.1	0.0	64.6	
国公立	21	1	1	4	1	0	14	
	100.0	4.8	4.8	19.0	4.8	0.0	66.7	
私立	27	0	0	10	0	0	17	
	100.0	0.0	0.0	37.0	0.0	0.0	63.0	

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑪アルバイトへの参加時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	48	1	1	15	0	0	31	
	100.0	2.1	2.1	31.3	0.0	0.0	64.6	
国公立	21	1	1	5	0	0	14	
	100.0	4.8	4.8	23.8	0.0	0.0	66.7	
私立	27	0	0	10	0	0	17	
	100.0	0.0	0.0	37.0	0.0	0.0	63.0	

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑫ボランティアへの参加回数が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	48	1	0	14	1	0	32	
	100.0	2.1	0.0	29.2	2.1	0.0	66.7	
国公立	21	1	0	5	1	0	14	
	100.0	4.8	0.0	23.8	4.8	0.0	66.7	
私立	27	0	0	9	0	0	18	
	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	

【文系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑬就職活動に対してポジティブなイメージを持った		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	48	0	1	6	15	3	23	
	100.0	0.0	2.1	12.5	31.3	6.3	47.9	
国公立	21	0	1	2	6	2	10	
	100.0	0.0	4.8	9.5	28.6	9.5	47.6	
私立	27	0	0	4	9	1	13	
	100.0	0.0	0.0	14.8	33.3	3.7	48.1	

※ Q5で「1か月以上」が0%でない回答した大学について集計。

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
①大学での授業への出席が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	63	4	0	11	1	0	47	
	100.0	6.3	0.0	17.5	1.6	0.0	74.6	
国公立	34	2	0	8	0	0	24	
	100.0	5.9	0.0	23.5	0.0	0.0	70.6	
私立	29	2	0	3	1	0	23	
	100.0	6.9	0.0	10.3	3.4	0.0	79.3	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
②興味関心のある内容が絞られ(変わり)、履修する科目の傾向が変わった		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	な	ち	あ	は	握
		ま	ら	あ	ら	て	ま	し
		ら	あ	て	い	も	る	て
		は	は	は	と	も	は	い
全体	63	3	2	9	3	0	46	
	100.0	4.8	3.2	14.3	4.8	0.0	73.0	
国公立	34	1	2	6	1	0	24	
	100.0	2.9	5.9	17.6	2.9	0.0	70.6	
私立	29	2	0	3	2	0	22	
	100.0	6.9	0.0	10.3	6.9	0.0	75.9	



【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
③興味関心のある内容に対する学習時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	3 4.8	0 0.0	10 15.9	5 7.9	0 0.0	45 71.4	
国公立	34 100.0	1 2.9	0 0.0	7 20.6	2 5.9	0 0.0	24 70.6	
私立	29 100.0	2 6.9	0 0.0	3 10.3	3 10.3	0 0.0	21 72.4	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
④大学外での学習行動(例えば読書の機会や講演の聴取など)が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	4 6.3	0 0.0	9 14.3	4 6.3	0 0.0	46 73.0	
国公立	34 100.0	2 5.9	0 0.0	4 11.8	4 11.8	0 0.0	24 70.6	
私立	29 100.0	2 6.9	0 0.0	5 17.2	0 0.0	0 0.0	22 75.9	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑤企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	2 3.2	0 0.0	4 6.3	18 28.6	3 4.8	36 57.1	
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	2 5.9	12 35.3	1 2.9	19 55.9	
私立	29 100.0	2 6.9	0 0.0	2 6.9	6 20.7	2 6.9	17 58.6	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑥時事問題などに関する情報を見る時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	2 3.2	0 0.0	8 12.7	12 19.0	0 0.0	41 65.1	
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	6 17.6	5 14.7	0 0.0	23 67.6	
私立	29 100.0	2 6.9	0 0.0	2 6.9	7 24.1	0 0.0	18 62.1	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑦資格試験などに取り組みはじめた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	3 4.8	0 0.0	11 17.5	5 7.9	1 1.6	43 68.3	
国公立	34 100.0	1 2.9	0 0.0	5 14.7	4 11.8	0 0.0	24 70.6	
私立	29 100.0	2 6.9	0 0.0	6 20.7	1 3.4	1 3.4	19 65.5	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑧社会人などとの交流の機会が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	2 3.2	0 0.0	10 15.9	12 19.0	0 0.0	39 61.9	
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	5 14.7	7 20.6	0 0.0	22 64.7	
私立	29 100.0	2 6.9	0 0.0	5 17.2	5 17.2	0 0.0	17 58.6	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑨自らのキャリア観(生き方)が明確になった		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	3 4.8	0 0.0	10 15.9	12 19.0	1 1.6	37 58.7	
国公立	34 100.0	1 2.9	0 0.0	6 17.6	6 17.6	1 2.9	20 58.8	
私立	29 100.0	2 6.9	0 0.0	4 13.8	6 20.7	0 0.0	17 58.6	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑩クラブ活動もしくはサークル活動への参加時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	4 6.3	0 0.0	11 17.5	1 1.6	0 0.0	47 74.6	
国公立	34 100.0	1 2.9	0 0.0	7 20.6	1 2.9	0 0.0	25 73.5	
私立	29 100.0	3 10.3	0 0.0	4 13.8	0 0.0	0 0.0	22 75.9	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑪アルバイトへの参加時間が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	5 7.9	2 3.2	11 17.5	0 0.0	0 0.0	45 71.4	
国公立	34 100.0	2 5.9	1 2.9	7 20.6	0 0.0	0 0.0	24 70.6	
私立	29 100.0	3 10.3	1 3.4	4 13.8	0 0.0	0 0.0	21 72.4	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑫ボランティアへの参加回数が増えた		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	5 7.9	3 4.8	9 14.3	1 1.6	0 0.0	45 71.4	
国公立	34 100.0	3 8.8	0 0.0	7 20.6	0 0.0	0 0.0	24 70.6	
私立	29 100.0	2 6.9	3 10.3	2 6.9	1 3.4	0 0.0	21 72.4	

【理系学生】5日未満のインターンシップに参加した層	該当数	な	あ	ま	い	ま	あ	な
⑬就職活動に対してポジティブなイメージを持った		あ	て	ま	い	ま	あ	な
		て	は	ら	え	ら	て	い
		は	ま	あ	ち	あ	は	握
		ま	ら	て	ら	て	ま	し
		ら	あ	は	と	は	る	て
					も			い
全体	63 100.0	2 3.2	0 0.0	11 17.5	11 17.5	2 3.2	37 58.7	
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	6 17.6	8 23.5	0 0.0	20 58.8	
私立	29 100.0	2 6.9	0 0.0	5 17.2	3 10.3	2 6.9	17 58.6	

※ Q5で「1日」または「2日以上5日未満」のいずれかが0%でない回答した大学について集計。

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ①大学での授業への出席が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	1 1.7	0 0.0	13 21.7	3 5.0	0 0.0	43 71.7
国公立	34 100.0	1 2.9	0 0.0	10 29.4	2 5.9	0 0.0	21 61.8
私立	26 100.0	0 0.0	0 0.0	3 11.5	1 3.8	0 0.0	22 84.6

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ②興味関心のある内容が*較られ(変わり)、履修する科目の傾向が変わった	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	0 0.0	1 1.7	11 18.3	6 10.0	0 0.0	42 70.0
国公立	34 100.0	0 0.0	1 2.9	10 29.4	3 8.8	0 0.0	20 58.8
私立	26 100.0	0 0.0	0 0.0	1 3.8	3 11.5	0 0.0	22 84.6

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ③興味関心のある内容に対する学習時間が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	0 0.0	0 0.0	7 11.7	8 13.3	4 6.7	41 68.3
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	5 14.7	6 17.6	2 5.9	21 61.8
私立	26 100.0	0 0.0	0 0.0	2 7.7	2 7.7	2 7.7	20 76.9

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ④大学外での学習行動(例えば読書の機会や講演の聴取など)が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	0 0.0	0 0.0	9 15.0	7 11.7	3 5.0	41 68.3
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	7 20.6	5 14.7	2 5.9	20 58.8
私立	26 100.0	0 0.0	0 0.0	2 7.7	2 7.7	1 3.8	21 80.8

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑤企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	0 0.0	0 0.0	2 3.3	22 36.7	11 18.3	25 41.7
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	1 2.9	16 47.1	6 17.6	11 32.4
私立	26 100.0	0 0.0	0 0.0	1 3.8	6 23.1	5 19.2	14 53.8

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑥時事問題などに関する情報を見る時間が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	0 0.0	0 0.0	7 11.7	12 20.0	2 3.3	39 65.0
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	5 14.7	7 20.6	2 5.9	20 58.8
私立	26 100.0	0 0.0	0 0.0	2 7.7	5 19.2	0 0.0	19 73.1

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑦資格試験などに取り組みはじめた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	0 0.0	0 0.0	13 21.7	7 11.7	2 3.3	38 63.3
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	8 23.5	6 17.6	1 2.9	19 55.9
私立	26 100.0	0 0.0	0 0.0	5 19.2	1 3.8	1 3.8	19 73.1

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑧社会人などとの交流の機会が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	1 1.7	0 0.0	9 15.0	15 25.0	3 5.0	32 53.3
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	6 17.6	10 29.4	2 5.9	16 47.1
私立	26 100.0	1 3.8	0 0.0	3 11.5	5 19.2	1 3.8	16 61.5

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑨自らのキャリア観(生き方)が明確になった	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	0 0.0	0 0.0	5 8.3	21 35.0	8 13.3	26 43.3
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	2 5.9	18 52.9	2 5.9	12 35.3
私立	26 100.0	0 0.0	0 0.0	3 11.5	3 11.5	6 23.1	14 53.8

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑩クラブ活動もしくはサークル活動への参加時間が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	1 1.7	2 3.3	12 20.0	2 3.3	0 0.0	43 71.7
国公立	34 100.0	0 0.0	2 5.9	9 26.5	2 5.9	0 0.0	21 61.8
私立	26 100.0	1 3.8	0 0.0	3 11.5	0 0.0	0 0.0	22 84.6

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑪アルバイトへの参加時間が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	1 1.7	3 5.0	14 23.3	0 0.0	0 0.0	42 70.0
国公立	34 100.0	0 0.0	3 8.8	10 29.4	0 0.0	0 0.0	21 61.8
私立	26 100.0	1 3.8	0 0.0	4 15.4	0 0.0	0 0.0	21 80.8

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑫ボランティアへの参加回数が増えた	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 い 握 し て い
全体	60 100.0	1 1.7	1 1.7	11 18.3	5 8.3	0 0.0	42 70.0
国公立	34 100.0	1 2.9	1 2.9	8 23.5	3 8.8	0 0.0	21 61.8
私立	26 100.0	0 0.0	0 0.0	3 11.5	2 7.7	0 0.0	21 80.8

【理系学生】5日以上1か月未満のインターンシップに参加した層 ⑬就職活動に対してポジティブなイメージを持った	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	60 100.0	0 0.0	0 0.0	7 11.7	20 33.3	7 11.7	26 43.3
国公立	34 100.0	0 0.0	0 0.0	4 11.8	15 44.1	3 8.8	12 35.3
私立	26 100.0	0 0.0	0 0.0	3 11.5	5 19.2	4 15.4	14 53.8

※ Q5で「5日以上1か月未満」が0%でないと回答した大学について集計。

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ①大学での授業への出席が増えた	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	38 100.0	2 5.3	0 0.0	8 21.1	0 0.0	0 0.0	28 73.7
国公立	23 100.0	2 8.7	0 0.0	7 30.4	0 0.0	0 0.0	14 60.9
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0	14 93.3

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ②興味関心のある内容が絞られ(変わり)、履修する科目の傾向が変わった	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	38 100.0	0 0.0	1 2.6	6 15.8	3 7.9	1 2.6	27 71.1
国公立	23 100.0	0 0.0	1 4.3	5 21.7	2 8.7	1 4.3	14 60.9
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	1 6.7	0 0.0	13 86.7

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ③興味関心のある内容に対する学習時間が増えた	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	38 100.0	0 0.0	0 0.0	3 7.9	5 13.2	4 10.5	26 68.4
国公立	23 100.0	0 0.0	0 0.0	2 8.7	4 17.4	3 13.0	14 60.9
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	1 6.7	1 6.7	12 80.0

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ④大学外での学習行動(例えば読書の機会や講演の聴取など)が増えた	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	38 100.0	1 2.6	0 0.0	5 13.2	2 5.3	3 7.9	27 71.1
国公立	23 100.0	1 4.3	0 0.0	4 17.4	2 8.7	2 8.7	14 60.9
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	0 0.0	1 6.7	13 86.7

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ⑤企業をはじめとした社会の仕組みへの関心が高まった	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	38 100.0	0 0.0	0 0.0	2 5.3	10 26.3	6 15.8	20 52.6
国公立	23 100.0	0 0.0	0 0.0	1 4.3	8 34.8	4 17.4	10 43.5
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	2 13.3	2 13.3	10 66.7

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ⑥時事問題などに関する情報を見る時間が増えた	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	38 100.0	0 0.0	0 0.0	5 13.2	7 18.4	1 2.6	25 65.8
国公立	23 100.0	0 0.0	0 0.0	4 17.4	4 17.4	1 4.3	14 60.9
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	3 20.0	0 0.0	11 73.3

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ⑦資格試験などに取り組みはじめた	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	38 100.0	0 0.0	0 0.0	7 18.4	3 7.9	1 2.6	27 71.1
国公立	23 100.0	0 0.0	0 0.0	5 21.7	3 13.0	1 4.3	14 60.9
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	13 86.7

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ⑧社会人などとの交流の機会が増えた	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	38 100.0	0 0.0	0 0.0	7 18.4	6 15.8	3 7.9	22 57.9
国公立	23 100.0	0 0.0	0 0.0	6 26.1	3 13.0	2 8.7	12 52.2
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	3 20.0	1 6.7	10 66.7

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ⑨自らのキャリア観(生き方)が明確になった	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	38 100.0	0 0.0	0 0.0	2 5.3	11 28.9	4 10.5	21 55.3
国公立	23 100.0	0 0.0	0 0.0	1 4.3	8 34.8	3 13.0	11 47.8
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	1 6.7	3 20.0	1 6.7	10 66.7

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層 ⑩クラブ活動もしくはサークル活動への参加時間が増えた	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は	あ て は ま る	な 把 握 し て い
全体	38 100.0	1 2.6	1 2.6	7 18.4	1 2.6	0 0.0	28 73.7
国公立	23 100.0	1 4.3	1 4.3	5 21.7	1 4.3	0 0.0	15 65.2
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	13 86.7

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は ま	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は ま	あ て は ま る	な 把 握 し て い ない
⑪アルバイトへの参加時間が増えた							
全体	38 100.0	2 5.3	1 2.6	8 21.1	0 0.0	0 0.0	27 71.1
国公立	23 100.0	2 8.7	1 4.3	6 26.1	0 0.0	0 0.0	14 60.9
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	13 86.7

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は ま	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は ま	あ て は ま る	な 把 握 し て い ない
⑫ボランティアへの参加回数が増えた							
全体	38 100.0	1 2.6	0 0.0	9 23.7	0 0.0	0 0.0	28 73.7
国公立	23 100.0	1 4.3	0 0.0	7 30.4	0 0.0	0 0.0	15 65.2
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	13 86.7

【理系学生】1か月以上のインターンシップに参加した層	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は ま	い ど ち ら な い と も	ま や ら あ て は ま	あ て は ま る	な 把 握 し て い ない
⑬就職活動に対してポジティブなイメージを持った							
全体	38 100.0	0 0.0	0 0.0	4 10.5	9 23.7	4 10.5	21 55.3
国公立	23 100.0	0 0.0	0 0.0	2 8.7	7 30.4	3 13.0	11 47.8
私立	15 100.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	2 13.3	1 6.7	10 66.7

※ Q5で「1か月以上」が0%でないで回答した大学について集計。

Q6X. 貴学において教育課程に位置づけられた5日以上のインターンシップを実施していますか。

	該当数	い 実 施 し て	い 実 施 し て い ない
全体	105 100.0	101 96.2	4 3.8
国公立	37 100.0	37 100.0	0 0.0
私立	68 100.0	64 94.1	4 5.9

Q7. 【Q6Xに「1」と回答した方のみ】貴学において教育課程に位置づけられた5日以上のインターンシップを行うにあたり、特に工夫されている点について、以下の各項目が当てはまるかどうか回答してください。

①授業の単位として積極的に認定している	該当数	ら あ て は ま	る あ て は ま
全体	101 100.0	4 4.0	97 96.0
国公立	37 100.0	1 2.7	36 97.3
私立	64 100.0	3 4.7	61 95.3

②企業との連絡などを行う専任職員の配置	該当数	ら あ て は ま	る あ て は ま
全体	101 100.0	30 29.7	71 70.3
国公立	37 100.0	15 40.5	22 59.5
私立	64 100.0	15 23.4	49 76.6

③学外アドバイザーなどの活用	該当数	ら あ て は ま	る あ て は ま
全体	101 100.0	75 74.3	26 25.7
国公立	37 100.0	24 64.9	13 35.1
私立	64 100.0	51 79.7	13 20.3

④学生への経済的支援(交通費やプロジェクト実施経費等)	該当数	ら あ て は ま	る あ て は ま
全体	101 100.0	84 83.2	17 16.8
国公立	37 100.0	24 64.9	13 35.1
私立	64 100.0	60 93.8	4 6.3

⑤学生と密なコミュニケーションがとれる体制(サイトなどの活用)の構築	該当数	ら あ て は ま	る あ て は ま
全体	101 100.0	48 47.5	53 52.5
国公立	37 100.0	15 40.5	22 59.5
私立	64 100.0	33 51.6	31 48.4

⑥担当教職員等が巡回指導を行うフォローアップ体制の構築	該当数	ら あ て は ま	る あ て は ま
全体	101 100.0	36 35.6	65 64.4
国公立	37 100.0	17 45.9	20 54.1
私立	64 100.0	19 29.7	45 70.3

⑦事前・事後の学習の組み込み	該当数	ら あ て は ま	る あ て は ま
全体	101 100.0	2 2.0	99 98.0
国公立	37 100.0	2 5.4	35 94.6
私立	64 100.0	0 0.0	64 100.0

⑧インターンシップ参加前後の成果の見える化	該当数	ら あ て は ま	る あ て は ま
全体	101 100.0	39 38.6	62 61.4
国公立	37 100.0	15 40.5	22 59.5
私立	64 100.0	24 37.5	40 62.5

⑨その他	該当数	ら あ て は ま	る あ て は ま
全体	7 100.0	0 0.0	7 100.0
国公立	3 100.0	0 0.0	3 100.0
私立	4 100.0	0 0.0	4 100.0

Q8. 【Q6Xに「1」と回答した方のみ】前問のインターンシップを実施、運営する際の課題等について、以下の各項目があてはまるかどうか回答してください。

①受入企業の開拓が難しい(企業の負担が大きいと受け入れてもらえない)	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	32 31.7	69 68.3
国公立	37 100.0	14 37.8	23 62.2
私立	64 100.0	18 28.1	46 71.9

②受入企業数を確保するために、プログラム内容を企業側に要求できない(企業に内容をお任せになる)	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	47 46.5	54 53.5
国公立	37 100.0	20 54.1	17 45.9
私立	64 100.0	27 42.2	37 57.8

③学生の参加意欲が低い	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	69 68.3	32 31.7
国公立	37 100.0	25 67.6	12 32.4
私立	64 100.0	44 68.8	20 31.3

④企業の知名度によって希望が大きく偏る	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	44 43.6	57 56.4
国公立	37 100.0	15 40.5	22 59.5
私立	64 100.0	29 45.3	35 54.7

⑤学生がインターンシップ参加によって学業に阻害があることから、教員からの反対が強い	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	97 96.0	4 4.0
国公立	37 100.0	33 89.2	4 10.8
私立	64 100.0	64 100.0	0 0.0

⑥当初の想定していた内容と違う内容のインターンシップが行われていた	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	82 81.2	19 18.8
国公立	37 100.0	34 91.9	3 8.1
私立	64 100.0	48 75.0	16 25.0

⑦インターンシップ開催後の企業のフォローアップがない	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	80 79.2	21 20.8
国公立	37 100.0	30 81.1	7 18.9
私立	64 100.0	50 78.1	14 21.9

⑧学生の専門性が活かせるプログラムが少ない	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	70 69.3	31 30.7
国公立	37 100.0	28 75.7	9 24.3
私立	64 100.0	42 65.6	22 34.4

⑨インターンシップ実施期間における安全対策や事故発生時への対応、協定書への理解が得られない	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	99 98.0	2 2.0
国公立	37 100.0	36 97.3	1 2.7
私立	64 100.0	63 98.4	1 1.6

⑩学生の経済的な負担が大きい	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	62 61.4	39 38.6
国公立	37 100.0	21 56.8	16 43.2
私立	64 100.0	41 64.1	23 35.9

⑪担当教員・事務担当者等の負担が大きい	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	101 100.0	28 27.7	73 72.3
国公立	37 100.0	9 24.3	28 75.7
私立	64 100.0	19 29.7	45 70.3

⑫その他	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1 100.0	0 0.0	1 100.0
国公立	1 100.0	0 0.0	1 100.0
私立	0 100.0	0 0.0	0 0.0

Q9. 貴学で実施しているインターンシップ参加支援のプログラムについて、下記それぞれの有無を回答してください。

①卒業年次より前の学生を対象とした、インターンシップ参加オリエンテーション	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	6 5.7	99 94.3
国公立	37 100.0	2 5.4	35 94.6
私立	68 100.0	4 5.9	64 94.1

②卒業年次より前の学生を対象とした、インターンシップ開催企業の個社説明会	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	82 78.1	23 21.9
国公立	37 100.0	30 81.1	7 18.9
私立	68 100.0	52 76.5	16 23.5

③卒業年次より前の学生を対象とした、インターンシップ開催企業の合同説明会	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	60 57.1	45 42.9
国公立	37 100.0	15 40.5	22 59.5
私立	68 100.0	45 66.2	23 33.8

④卒業年次より前の学生に対する、インターンシップに向けた個別相談	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	18 17.1	87 82.9
国公立	37 100.0	7 18.9	30 81.1
私立	68 100.0	11 16.2	57 83.8

⑤卒業年次の学生を対象とした、インターンシップ参加オリエンテーション	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	72 68.6	33 31.4
国公立	37 100.0	24 64.9	13 35.1
私立	68 100.0	48 70.6	20 29.4

⑥卒業年次の学生を対象とした、インターンシップ開催企業の個社説明会	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	97 92.4	8 7.6
国公立	37 100.0	33 89.2	4 10.8
私立	68 100.0	64 94.1	4 5.9

⑦卒業年次の学生を対象とした、インターンシップ開催企業の合同説明会	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	87 82.9	18 17.1
国公立	37 100.0	25 67.6	12 32.4
私立	68 100.0	62 91.2	6 8.8

⑧卒業年次の学生を対象とした、インターンシップに向けた個別相談	該当数	ない	ある
全体	105 100.0	55 52.4	50 47.6
国公立	37 100.0	21 56.8	16 43.2
私立	68 100.0	34 50.0	34 50.0

Q10. インターンシップに関し、学生から寄せられる相談内容のうち、下記の各項目にあてはまるものが顕著かどうか回答してください。

①大学の講義との両立について	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	105 100.0	48 45.7	57 54.3
国公立	37 100.0	13 35.1	24 64.9
私立	68 100.0	35 51.5	33 48.5

②研究室・ゼミナールとの両立について	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	105 100.0	57 54.3	48 45.7
国公立	37 100.0	13 35.1	24 64.9
私立	68 100.0	44 64.7	24 35.3

③部活動・サークル活動との両立について	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	105 100.0	69 65.7	36 34.3
国公立	37 100.0	25 67.6	12 32.4
私立	68 100.0	44 64.7	24 35.3

④インターンシップにかかる金銭的負担について	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	105 100.0	58 55.2	47 44.8
国公立	37 100.0	18 48.6	19 51.4
私立	68 100.0	40 58.8	28 41.2

⑤インターンシップの面接やエントリーシートに関する内容について	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	105 100.0	13 12.4	92 87.6
国公立	37 100.0	4 10.8	33 89.2
私立	68 100.0	9 13.2	59 86.8

⑥インターンシップの仕事内容や人間関係について	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	105 100.0	56 53.3	49 46.7
国公立	37 100.0	17 45.9	20 54.1
私立	68 100.0	39 57.4	29 42.6

⑦インターンシップ後の振り返りについて	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	105 100.0	68 64.8	37 35.2
国公立	37 100.0	20 54.1	17 45.9
私立	68 100.0	48 70.6	20 29.4

⑧インターンシップと採用選考の関係について	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	105 100.0	27 25.7	78 74.3
国公立	37 100.0	9 24.3	28 75.7
私立	68 100.0	18 26.5	50 73.5

⑨その他	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	5 100.0	0 0.0	5 100.0
国公立	2 100.0	0 0.0	2 100.0
私立	3 100.0	0 0.0	3 100.0

Q11～Q14では貴学における今後のインターンシップについておたずねします。

Q11. 学生にとって教育的効果の高いインターンシップはどのような内容を有するべきとお考えですか。文系、理系両方の学部がある場合には、それぞれについてあてはまるかどうかを回答してください。

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
①企業の説明(座学)	92 100.0	32 34.8	60 65.2
全体	31 100.0	16 51.6	15 48.4
私立	61 100.0	16 26.2	45 73.8

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
②業界の説明(座学)	92 100.0	27 29.3	65 70.7
全体	31 100.0	14 45.2	17 54.8
私立	61 100.0	13 21.3	48 78.7

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
③入社後の業務説明	92 100.0	38 41.3	54 58.7
全体	31 100.0	15 48.4	16 51.6
私立	61 100.0	23 37.7	38 62.3

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
④社員に対する質問会	92 100.0	14 15.2	78 84.8
全体	31 100.0	7 22.6	24 77.4
私立	61 100.0	7 11.5	54 88.5

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑤新規事業についてのワークやディスカッション	92 100.0	24 26.1	68 73.9
全体	31 100.0	8 25.8	23 74.2
私立	61 100.0	16 26.2	45 73.8

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑥社会課題やテーマについてのワークやディスカッション	92 100.0	24 26.1	68 73.9
全体	31 100.0	8 25.8	23 74.2
私立	61 100.0	16 26.2	45 73.8

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑦検討した事業・課題についての発表・プレゼンテーション			
全体	92 100.0	9 9.8	83 90.2
国公立	31 100.0	5 16.1	26 83.9
私立	61 100.0	4 6.6	57 93.4

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑧企画・提案型の特別プロジェクト			
全体	92 100.0	11 12.0	81 88.0
国公立	31 100.0	5 16.1	26 83.9
私立	61 100.0	6 9.8	55 90.2

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑨企画・実行型の特別プロジェクト			
全体	92 100.0	13 14.1	79 85.9
国公立	31 100.0	4 12.9	27 87.1
私立	61 100.0	9 14.8	52 85.2

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑩実際の業務シミュレーション・実習・研修・体験			
全体	92 100.0	4 4.3	88 95.7
国公立	31 100.0	1 3.2	30 96.8
私立	61 100.0	3 4.9	58 95.1

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑪職場や工場の見学			
全体	92 100.0	13 14.1	79 85.9
国公立	31 100.0	4 12.9	27 87.1
私立	61 100.0	9 14.8	52 85.2

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑫業務の同行・同席			
全体	92 100.0	7 7.6	85 92.4
国公立	31 100.0	4 12.9	27 87.1
私立	61 100.0	3 4.9	58 95.1

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑬補助的業務の一部を経験			
全体	92 100.0	14 15.2	78 84.8
国公立	31 100.0	4 12.9	27 87.1
私立	61 100.0	10 16.4	51 83.6

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑭基幹業務の一部を経験			
全体	92 100.0	10 10.9	82 89.1
国公立	31 100.0	3 9.7	28 90.3
私立	61 100.0	7 11.5	54 88.5

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑮キャリア(自らの職業選択)に関する研修			
全体	92 100.0	28 30.4	64 69.6
国公立	31 100.0	11 35.5	20 64.5
私立	61 100.0	17 27.9	44 72.1

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑯就職活動への直接的な支援			
全体	92 100.0	64 69.6	28 30.4
国公立	31 100.0	25 80.6	6 19.4
私立	61 100.0	39 63.9	22 36.1

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑰実施した内容の振り返り			
全体	92 100.0	1 1.1	91 98.9
国公立	31 100.0	0 0.0	31 100.0
私立	61 100.0	1 1.6	60 98.4

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑱大学の正規課程の科目への位置づけ			
全体	92 100.0	18 19.6	74 80.4
国公立	31 100.0	5 16.1	26 83.9
私立	61 100.0	13 21.3	48 78.7

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑲大学・企業が協働して行うもの			
全体	92 100.0	9 9.8	83 90.2
国公立	31 100.0	1 3.2	30 96.8
私立	61 100.0	8 13.1	53 86.9

【文系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑳その他			
全体	3 100.0	0 0.0	3 100.0
国公立	3 100.0	0 0.0	3 100.0
私立	0 100.0	0 0.0	0 0.0

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
①企業の説明(座学)			
全体	67 100.0	27 40.3	40 59.7
国公立	35 100.0	16 45.7	19 54.3
私立	32 100.0	11 34.4	21 65.6

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
②業界の説明(座学)			
全体	67 100.0	21 31.3	46 68.7
国公立	35 100.0	12 34.3	23 65.7
私立	32 100.0	9 28.1	23 71.9

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
③入社後の業務説明			
全体	67 100.0	28 41.8	39 58.2
国公立	35 100.0	15 42.9	20 57.1
私立	32 100.0	13 40.6	19 59.4

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
④社員に対する質問会			
全体	67 100.0	11 16.4	56 83.6
国公立	35 100.0	7 20.0	28 80.0
私立	32 100.0	4 12.5	28 87.5

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑤新規事業についてのワー クやディスカッション			
全体	67 100.0	16 23.9	51 76.1
国公立	35 100.0	8 22.9	27 77.1
私立	32 100.0	8 25.0	24 75.0

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑥社会課題やテーマについ てのワークやディスカッション			
全体	67 100.0	18 26.9	49 73.1
国公立	35 100.0	8 22.9	27 77.1
私立	32 100.0	10 31.3	22 68.8

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑦検討した事業・課題につい ての発表・プレゼンテーショ ン			
全体	67 100.0	9 13.4	58 86.6
国公立	35 100.0	3 8.6	32 91.4
私立	32 100.0	6 18.8	26 81.3

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑧企画・提案型の特別プロ ジェクト			
全体	67 100.0	12 17.9	55 82.1
国公立	35 100.0	5 14.3	30 85.7
私立	32 100.0	7 21.9	25 78.1

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑨企画・実行型の特別プロ ジェクト			
全体	67 100.0	10 14.9	57 85.1
国公立	35 100.0	5 14.3	30 85.7
私立	32 100.0	5 15.6	27 84.4

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑩実際の業務シミュレーショ ン・実習・研修・体験			
全体	67 100.0	2 3.0	65 97.0
国公立	35 100.0	1 2.9	34 97.1
私立	32 100.0	1 3.1	31 96.9

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑪職場や工場の見学			
全体	67 100.0	7 10.4	60 89.6
国公立	35 100.0	2 5.7	33 94.3
私立	32 100.0	5 15.6	27 84.4

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑫業務の同行・同席			
全体	67 100.0	10 14.9	57 85.1
国公立	35 100.0	6 17.1	29 82.9
私立	32 100.0	4 12.5	28 87.5

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑬補助的業務の一部を経験			
全体	67 100.0	11 16.4	56 83.6
国公立	35 100.0	5 14.3	30 85.7
私立	32 100.0	6 18.8	26 81.3

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑭基幹業務の一部を経験			
全体	67 100.0	6 9.0	61 91.0
国公立	35 100.0	3 8.6	32 91.4
私立	32 100.0	3 9.4	29 90.6

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑮キャリア(自らの職業選 択)に関する研修			
全体	67 100.0	24 35.8	43 64.2
国公立	35 100.0	12 34.3	23 65.7
私立	32 100.0	12 37.5	20 62.5

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑯就職活動への直接的な支 援			
全体	67 100.0	45 67.2	22 32.8
国公立	35 100.0	26 74.3	9 25.7
私立	32 100.0	19 59.4	13 40.6

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑰実施した内容の振り返り			
全体	67 100.0	3 4.5	64 95.5
国公立	35 100.0	1 2.9	34 97.1
私立	32 100.0	2 6.3	30 93.8

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑱大学の正規課程の科目へ の位置づけ			
全体	67 100.0	15 22.4	52 77.6
国公立	35 100.0	7 20.0	28 80.0
私立	32 100.0	8 25.0	24 75.0

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑲大学・企業が協働して行う もの			
全体	67 100.0	8 11.9	59 88.1
国公立	35 100.0	5 14.3	30 85.7
私立	32 100.0	3 9.4	29 90.6

【理系学生】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑳その他			
全体	4 100.0	0 0.0	4 100.0
国公立	3 100.0	0 0.0	3 100.0
私立	1 100.0	0 0.0	1 100.0



Q12. 大学での学修に良い影響(大学で学んだ内容をインターンシップで活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定する)をもたらすうえで、望ましいインターンシップの参加開始時期はいつでしょうか。学部生、大学院生それぞれについて1つずつ選んでください。

【学部】	該当数	大学1年生	大学2年生	大学3年生	大学4年生	大学5年生	大学6年生	大学7年生	大学8年生	大学9年生	大学10年生	卒業後	授業期間でもない	授業期間がいい	学部を設けていない
全体	105 100.0	9 8.6	40 38.1	3 2.9	29 27.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	23 21.9	0 0.0	
国公立	37 100.0	4 10.8	8 21.6	1 2.7	14 37.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.7	0 0.0	9 24.3	0 0.0	
私立	68 100.0	5 7.4	32 47.1	2 2.9	15 22.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	14 20.6	0 0.0	

【大学院】	該当数	大学院1年生	大学院2年生	大学院3年生	大学院4年生	大学院5年生	大学院6年生	大学院7年生	大学院8年生	大学院9年生	大学院10年生	卒業後	授業期間でもない	授業期間がいい	大学院を設けていない
全体	105 100.0	8 7.6	56 53.3	1 1.0	1 1.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	29 27.6	9 8.6	
国公立	37 100.0	3 8.1	23 62.2	0 0.0	1 2.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	10 27.0	0 0.0	
私立	68 100.0	5 7.4	33 48.5	1 1.5	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	19 27.9	9 13.2	

Q13. 大学での学修へ良い影響(大学で学んだ内容をインターンシップで活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定する)をもたらすために、インターンシップの期間はどのくらいが望ましいとお考えですか。番号を1つ選んでください。

	該当数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日以上
全体	105 100.0	0 0.0	0 0.0	8 7.6	62 59.0	26 24.8	6 5.7	3 2.9			
国公立	37 100.0	0 0.0	0 0.0	2 5.4	22 59.5	11 29.7	1 2.7	1 2.7			
私立	68 100.0	0 0.0	0 0.0	6 8.8	40 58.8	15 22.1	5 7.4	2 2.9			

Q14. 貴学のインターンシップについて、今後どのような方向に重点を置いていこうとお考えですか。次のそれぞれについて、番号を一つずつ選んでください。文系、理系両方の学部がある場合には、それぞれについて回答してください。

【文系学生】	該当数	なあってはまら	まやあては	ないちらでも	まやあては	あてはまる
①インターンシップのプログラム数を拡大して実施	92 100.0	5 5.4	3 3.3	40 43.5	34 37.0	10 10.9
全体						
国公立	31 100.0	4 12.9	0 0.0	14 45.2	13 41.9	0 0.0
私立	61 100.0	1 1.6	3 4.9	26 42.6	21 34.4	10 16.4

【文系学生】	該当数	なあってはまら	まやあては	ないちらでも	まやあては	あてはまる
②インターンシップのプログラム数を縮小して実施	92 100.0	28 30.4	21 22.8	42 45.7	1 1.1	0 0.0
全体						
国公立	31 100.0	8 25.8	7 22.6	16 51.6	0 0.0	0 0.0
私立	61 100.0	20 32.8	14 23.0	26 42.6	1 1.6	0 0.0

【文系学生】	該当数	なあってはまら	まやあては	ないちらでも	まやあては	あてはまる
③特定の学生に対するプログラムの開発(留学生、障害学生、博士課程学生等)	92 100.0	16 17.4	8 8.7	31 33.7	26 28.3	11 12.0
全体						
国公立	31 100.0	8 25.8	2 6.5	7 22.6	8 25.8	6 19.4
私立	61 100.0	8 13.1	6 9.8	24 39.3	18 29.5	5 8.2

【文系学生】	該当数	なあってはまら	まやあては	ないちらでも	まやあては	あてはまる
④特定の企業等に対するプログラムの開発(地元企業、大学所在地以外の企業、海外企業、専門課程との関連の高い業界等)	92 100.0	5 5.4	5 5.4	22 23.9	42 45.7	18 19.6
全体						
国公立	31 100.0	2 6.5	1 3.2	8 25.8	12 38.7	8 25.8
私立	61 100.0	3 4.9	4 6.6	14 23.0	30 49.2	10 16.4

【文系学生】	該当数	なあってはまら	まやあては	ないちらでも	まやあては	あてはまる
⑤正規の教育課程として実施	92 100.0	4 4.3	2 2.2	33 35.9	18 19.6	35 38.0
全体						
国公立	31 100.0	2 6.5	1 3.2	12 38.7	7 22.6	9 29.0
私立	61 100.0	2 3.3	1 1.6	21 34.4	11 18.0	26 42.6

【文系学生】	該当数	なあってはまら	まやあては	ないちらでも	まやあては	あてはまる
⑥正規の教育課程外として実施	92 100.0	20 21.7	7 7.6	42 45.7	16 17.4	7 7.6
全体						
国公立	31 100.0	9 29.0	3 9.7	13 41.9	6 19.4	0 0.0
私立	61 100.0	11 18.0	4 6.6	29 47.5	10 16.4	7 11.5

【文系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
⑦正規の教育課程及び正規の教育課程外両方で実施						
全体	92 100.0	12 13.0	3 3.3	29 31.5	26 28.3	22 23.9
国公立	31 100.0	3 9.7	2 6.5	12 38.7	10 32.3	4 12.9
私立	61 100.0	9 14.8	1 1.6	17 27.9	16 26.2	18 29.5

【文系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
⑧インターンシップの長期化(1か月以上)						
全体	92 100.0	18 19.6	7 7.6	47 51.1	17 18.5	3 3.3
国公立	31 100.0	5 16.1	2 6.5	18 58.1	5 16.1	1 3.2
私立	61 100.0	13 21.3	5 8.2	29 47.5	12 19.7	2 3.3

【文系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
⑨長期インターンシップの短期化(1か月未満)						
全体	92 100.0	26 28.3	11 12.0	45 48.9	7 7.6	3 3.3
国公立	31 100.0	10 32.3	3 9.7	18 58.1	0 0.0	0 0.0
私立	61 100.0	16 26.2	8 13.1	27 44.3	7 11.5	3 4.9

【理系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
①インターンシップのプログラム数を拡大して実施						
全体	67 100.0	9 13.4	2 3.0	31 46.3	20 29.9	5 7.5
国公立	35 100.0	4 11.4	1 2.9	16 45.7	12 34.3	2 5.7
私立	32 100.0	5 15.6	1 3.1	15 46.9	8 25.0	3 9.4

【理系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
②インターンシップのプログラム数を縮小して実施						
全体	67 100.0	22 32.8	8 11.9	35 52.2	2 3.0	0 0.0
国公立	35 100.0	11 31.4	6 17.1	18 51.4	0 0.0	0 0.0
私立	32 100.0	11 34.4	2 6.3	17 53.1	2 6.3	0 0.0

【理系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
③特定の学生に対するプログラムの開発(留学生、障害学生、博士課程学生等)						
全体	67 100.0	16 23.9	2 3.0	22 32.8	21 31.3	6 9.0
国公立	35 100.0	8 22.9	2 5.7	7 20.0	14 40.0	4 11.4
私立	32 100.0	8 25.0	0 0.0	15 46.9	7 21.9	2 6.3

【理系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
④特定の企業等に対するプログラムの開発(地元企業、大学所在地以外の企業、海外企業、専門課程との関連の高い業界等)						
全体	67 100.0	9 13.4	2 3.0	15 22.4	30 44.8	11 16.4
国公立	35 100.0	4 11.4	2 5.7	6 17.1	18 51.4	5 14.3
私立	32 100.0	5 15.6	0 0.0	9 28.1	12 37.5	6 18.8

【理系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
⑤正規の教育課程として実施						
全体	67 100.0	6 9.0	2 3.0	22 32.8	16 23.9	21 31.3
国公立	35 100.0	2 5.7	1 2.9	13 37.1	8 22.9	11 31.4
私立	32 100.0	4 12.5	1 3.1	9 28.1	8 25.0	10 31.3

【理系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
⑥正規の教育課程外として実施						
全体	67 100.0	17 25.4	4 6.0	31 46.3	12 17.9	3 4.5
国公立	35 100.0	10 28.6	1 2.9	17 48.6	7 20.0	0 0.0
私立	32 100.0	7 21.9	3 9.4	14 43.8	5 15.6	3 9.4

【理系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
⑦正規の教育課程及び正規の教育課程外両方で実施						
全体	67 100.0	11 16.4	1 1.5	22 32.8	20 29.9	13 19.4
国公立	35 100.0	4 11.4	1 2.9	11 31.4	12 34.3	7 20.0
私立	32 100.0	7 21.9	0 0.0	11 34.4	8 25.0	6 18.8

【理系学生】	該当数	な あ い て は ま ら	ま や ら な あ い て は	な ど ち ら で も	ま や る あ て は	あ て は ま る
⑧インターンシップの長期化(1か月以上)						
全体	67 100.0	13 19.4	6 9.0	36 53.7	10 14.9	2 3.0
国公立	35 100.0	5 14.3	4 11.4	17 48.6	8 22.9	1 2.9
私立	32 100.0	8 25.0	2 6.3	19 59.4	2 6.3	1 3.1

【理系学生】		な	ま	な	ま	あ
⑨長期インターンシップの短期化(1か月未満)	該当数	あ	や	い	や	て
		て	や	ち	や	は
		は	あ	ら	あ	ま
		ま	て	で	て	る
		ら	は	も	は	る
全体	67 100.0	19 28.4	5 7.5	38 56.7	3 4.5	2 3.0
国公立	35 100.0	12 34.3	2 5.7	19 54.3	2 5.7	0 0.0
私立	32 100.0	7 21.9	3 9.4	19 59.4	1 3.1	2 6.3

Q15以降は回答された方のインターンシップに対するお考えをおたずねします。

Q15. 本アンケートを中心となって回答した方の職種を1つ選んでください。

	該当数	役員	教員	トンキヤルリアンコ	事務職員	その他
全体	105 100.0	1 1.0	13 12.4	4 3.8	84 80.0	3 2.9
国公立	37 100.0	1 2.7	7 18.9	2 5.4	25 67.6	2 5.4
私立	68 100.0	0 0.0	6 8.8	2 2.9	59 86.8	1 1.5

Q16. ご回答くださった方の就職支援やインターンシップに関するお考えをおたずねします。以下の各項目について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

①就職支援やインターンシップの効果的な推進には、大学当局の一層のリーダーシップが必要だ	該当数	な	ま	な	ま	あ
		あ	や	い	や	て
		て	や	ち	や	は
		は	あ	ら	あ	ま
		ま	て	で	て	る
		ら	は	も	は	る
全体	105 100.0	3 2.9	2 1.9	15 14.3	52 49.5	33 31.4
国公立	37 100.0	2 5.4	0 0.0	5 13.5	18 48.6	12 32.4
私立	68 100.0	1 1.5	2 2.9	10 14.7	34 50.0	21 30.9

②就職支援やインターンシップの効果的な推進には、教員の一層の理解が必要だ	該当数	な	ま	な	ま	あ
		あ	や	い	や	て
		て	や	ち	や	は
		は	あ	ら	あ	ま
		ま	て	で	て	る
		ら	は	も	は	る
全体	105 100.0	1 1.0	1 1.0	6 5.7	50 47.6	47 44.8
国公立	37 100.0	1 2.7	0 0.0	2 5.4	17 45.9	17 45.9
私立	68 100.0	0 0.0	1 1.5	4 5.9	33 48.5	30 44.1

③就職支援やインターンシップの促進に向けて、就職エージェントを適宜活用していきたい	該当数	な	ま	な	ま	あ
		あ	や	い	や	て
		て	や	ち	や	は
		は	あ	ら	あ	ま
		ま	て	で	て	る
		ら	は	も	は	る
全体	105 100.0	14 13.3	21 20.0	39 37.1	30 28.6	1 1.0
国公立	37 100.0	4 10.8	7 18.9	19 51.4	7 18.9	0 0.0
私立	68 100.0	10 14.7	14 20.6	20 29.4	23 33.8	1 1.5

④就職支援やインターンシップの促進に照らすと、就職エージェントの学生接触のあり方には問題がある	該当数	な	ま	な	ま	あ
		あ	や	い	や	て
		て	や	ち	や	は
		は	あ	ら	あ	ま
		ま	て	で	て	る
		ら	は	も	は	る
全体	105 100.0	2 1.9	4 3.8	50 47.6	39 37.1	10 9.5
国公立	37 100.0	1 2.7	3 8.1	16 43.2	14 37.8	3 8.1
私立	68 100.0	1 1.5	1 1.5	34 50.0	25 36.8	7 10.3

⑤インターンシップは学生の社会性涵養に効果的である	該当数	な	ま	な	ま	あ
		あ	や	い	や	て
		て	や	ち	や	は
		は	あ	ら	あ	ま
		ま	て	で	て	る
		ら	は	も	は	る
全体	105 100.0	0 0.0	1 1.0	4 3.8	42 40.0	58 55.2
国公立	37 100.0	0 0.0	0 0.0	3 8.1	13 35.1	21 56.8
私立	68 100.0	0 0.0	1 1.5	1 1.5	29 42.6	37 54.4

⑥4年生9月以前の内定や内々定には法的根拠がないことを、国が企業に対して明確にしてほしい	該当数	な	ま	な	ま	あ
		あ	や	い	や	て
		て	や	ち	や	は
		は	あ	ら	あ	ま
		ま	て	で	て	る
		ら	は	も	は	る
全体	105 100.0	8 7.6	3 2.9	38 36.2	27 25.7	29 27.6
国公立	37 100.0	3 8.1	2 5.4	11 29.7	11 29.7	10 27.0
私立	68 100.0	5 7.4	1 1.5	27 39.7	16 23.5	19 27.9

⑦キャリア教育の深化には、初等中等教育を含めて教育のあり方を考え直すことが必要だ	該当数	な	ま	な	ま	あ
		あ	や	い	や	て
		て	や	ち	や	は
		は	あ	ら	あ	ま
		ま	て	で	て	る
		ら	は	も	は	る
全体	105 100.0	2 1.9	1 1.0	19 18.1	55 52.4	28 26.7
国公立	37 100.0	1 2.7	1 2.7	6 16.2	22 59.5	7 18.9
私立	68 100.0	1 1.5	0 0.0	13 19.1	33 48.5	21 30.9

⑧大卒者のかなりの部分が早々に転職するのは事実上のインターンシップであり、評価できる面もある	該当数	な	ま	な	ま	あ
		あ	や	い	や	て
		て	や	ち	や	は
		は	あ	ら	あ	ま
		ま	て	で	て	る
		ら	は	も	は	る
全体	105 100.0	52 49.5	17 16.2	32 30.5	3 2.9	1 1.0
国公立	37 100.0	21 56.8	6 16.2	10 27.0	0 0.0	0 0.0
私立	68 100.0	31 45.6	11 16.2	22 32.4	3 4.4	1 1.5



## 資料4. 「卒業年次学生を対象とするアンケート調査」集計結果





	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
全体	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 0.2	80 6.7	0 0.0	0 0.0	27 2.3	30 2.5	24 2.0	0 0.0	22 1.8	0 0.0	0 0.0	8 0.7	13 1.1	4 0.3	3 0.3
国公立	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 0.3	51 8.6	0 0.0	0 0.0	7 1.2	11 1.9	0 0.0	0 0.0	19 3.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	11 1.9	4 0.7	3 0.5
私立	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	29 4.8	0 0.0	0 0.0	20 3.3	19 3.1	24 4.0	0 0.0	3 0.5	0 0.0	0 0.0	8 1.3	2 0.3	0 0.0	0 0.0

	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
全体	0 0.0	1 0.1	0 0.0	48 4.0	10 0.8	0 0.0	5 0.4	19 1.6	26 2.2	6 0.5	27 2.3
国公立	0 0.0	1 0.2	0 0.0	2 0.3	9 1.5	0 0.0	2 0.3	10 1.7	26 4.4	6 1.0	27 4.6
私立	0 0.0	0 0.0	0 0.0	46 7.6	1 0.2	0 0.0	3 0.5	9 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0

Q7. あなたが卒業する(大学院生の場合は卒業した)大学に合格した際、どのような入学試験を受験しましたか。1つだけ選んでください。

	該当数	一般入試	推薦入試	A O 入試	その他
全体	1196 100.0	834 69.7	189 15.8	89 7.4	84 7.0
国公立	592 100.0	479 80.9	66 11.1	32 5.4	15 2.5
私立	604 100.0	355 58.8	123 20.4	57 9.4	69 11.4

Q8. あなたの職業観をおたずねします。下記の各設問について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

①安定した職について無難に生きていきたい	該当数	なあっては まら	まや らや な あ て は	な い ち ら で も	ま や ら あ て は	あ て は ま る
全体	1196 100.0	42 3.5	71 5.9	128 10.7	440 36.8	515 43.1
国公立	592 100.0	28 4.7	37 6.3	61 10.3	230 38.9	236 39.9
私立	604 100.0	14 2.3	34 5.6	67 11.1	210 34.8	279 46.2

②リスク(収入が少なくなる可能性)があっても自分のやりたいことをやっていきたい	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な い ち ら で も	ま や ら あ て は	あ て は ま る
全体	1196 100.0	127 10.6	306 25.6	234 19.6	371 31.0	158 13.2
国公立	592 100.0	52 8.8	153 25.8	120 20.3	193 32.6	74 12.5
私立	604 100.0	75 12.4	153 25.3	114 18.9	178 29.5	84 13.9

③できるなら働かずに生きていきたい	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な い ち ら で も	ま や ら あ て は	あ て は ま る
全体	1196 100.0	223 18.6	219 18.3	161 13.5	254 21.2	339 28.3
国公立	592 100.0	100 16.9	101 17.1	84 14.2	133 22.5	174 29.4
私立	604 100.0	123 20.4	118 19.5	77 12.7	121 20.0	165 27.3

④自分の郷土に貢献したい	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な い ち ら で も	ま や ら あ て は	あ て は ま る
全体	1196 100.0	218 18.2	181 15.1	275 23.0	341 28.5	181 15.1
国公立	592 100.0	112 18.9	89 15.0	114 19.3	187 31.6	90 15.2
私立	604 100.0	106 17.5	92 15.2	161 26.7	154 25.5	91 15.1

⑤生きることはやりがいのある仕事をする事だと思う	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な い ち ら で も	ま や ら あ て は	あ て は ま る
全体	1196 100.0	138 11.5	168 14.0	257 21.5	409 34.2	224 18.7
国公立	592 100.0	67 11.3	85 14.4	127 21.5	206 34.8	107 18.1
私立	604 100.0	71 11.8	83 13.7	130 21.5	203 33.6	117 19.4

⑥雇われるより自分が経営者・事業主になりたい	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な い ち ら で も	ま や ら あ て は	あ て は ま る
全体	1196 100.0	332 27.8	329 27.5	310 25.9	148 12.4	77 6.4
国公立	592 100.0	146 24.7	179 30.2	152 25.7	76 12.8	39 6.6
私立	604 100.0	186 30.8	150 24.8	158 26.2	72 11.9	38 6.3



⑦雇われるより自分が経営者・事業主になりたい	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら や あ て は な い	な ど ち ら で も	ま や ら あ て は	あ て は ま る
全体	1196 100.0	40 3.3	28 2.3	126 10.5	524 43.8	478 40.0
国公立	592 100.0	19 3.2	17 2.9	72 12.2	259 43.8	225 38.0
私立	604 100.0	21 3.5	11 1.8	54 8.9	265 43.9	253 41.9

⑧社会の役に立ちたい	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら や あ て は な い	な ど ち ら で も	ま や ら あ て は	あ て は ま る
全体	1196 100.0	38 3.2	27 2.3	118 9.9	442 37.0	571 47.7
国公立	592 100.0	15 2.5	12 2.0	58 9.8	218 36.8	289 48.8
私立	604 100.0	23 3.8	15 2.5	60 9.9	224 37.1	282 46.7

Q9. あなたの就職活動の現在の状況は次のどれでしょうか。最も近いものを1つだけ選んでください。

	該当数	む ろ 中 を 定 選 企 活	招 業 へ を 就 職 選 企 活	内 定 を 終 了 し 職 得 活	内 定 を 終 了 し 職 得 活	い る を 続 け て 活	内 定 を 終 了 し 職 得 に し た	し な が 内 定 を 終 了 し 職 得 に し た	け 職 お 内 定 を 終 了 し 職 得 に し た	終 了 し 職 得 に し た	内 定 を 終 了 し 職 得 に し た	留 学 へ の 進 行 が 進 ま な か ら な い	就 職 に あ ら ず に 留 学 へ の 進 行 が 進 ま な か ら な い	そ の 他
全体	1196 100.0	958 80.1	13 1.1	4 0.3	15 1.3	18 1.5	167 14.0	21 1.8						
国公立	592 100.0	421 71.1	8 1.4	3 0.5	5 0.8	16 2.7	130 22.0	9 1.5						
私立	604 100.0	537 88.9	5 0.8	1 0.2	10 1.7	2 0.3	37 6.1	12 2.0						

Q10. あなたのこれまでの就職活動について、1つだけ選んでください。

	該当数	た 就 職 活 動 の み に	を 員 公 職 企 業 活 動 へ の 就 職 活 動 に あ ら ず	行 の 員 公 職 企 業 活 動 へ の 就 職 活 動 に あ ら ず	し 就 職 活 動 に あ ら ず	そ の 他
全体	1196 100.0	756 63.2	153 12.8	117 9.8	150 12.5	20 1.7
国公立	592 100.0	325 54.9	71 12.0	71 12.0	114 19.3	11 1.9
私立	604 100.0	431 71.4	82 13.6	46 7.6	36 6.0	9 1.5

Q11. 【Q10に「1」「2」と回答した方のみ】あなたは何社の企業等に応募(エントリーシートや履歴書の送付)をしましたか。

【「企業だけに就職活動した」「企業への就職活動をする」とともに公務員・教員採用試験を受験した者】	該当数	最 小 値	最 大 値	平 均 値	標 準 偏 差
全体	909	0	119	13.10	13.95
国公立	396	0	80	10.17	10.28
私立	513	0	119	15.35	15.86

※ 大学院生を含む。

Q12. 【Q10に「1」「2」と回答した方のみ】あなたは何社の企業の面接を受けましたか。公務員・教員試験の面接は含みません。

【「企業だけに就職活動した」「企業への就職活動をする」とともに公務員・教員採用試験を受験した者】	該当数	最 小 値	最 大 値	平 均 値	標 準 偏 差
全体	909	0	78	7.83	8.35
国公立	396	0	40	6.26	6.18
私立	513	0	78	9.05	9.53

※ 大学院生を含む。

Q13. 内定先について、1つだけ選んでください。複数の内定先がある人は、就職を予定している企業・団体について回答してください。

	該当数	民 間 企 業	自 治 体	官 公 庁	学 校 法 人 等	財 団 法 人 等	N G O	い し な	就 職 し な い	そ の 他
全体	1196 100.0	752 62.9	156 13.0	61 5.1	4 0.3	185 15.5	38 3.2			
国公立	592 100.0	320 54.1	85 14.4	28 4.7	3 0.5	147 24.8	9 1.5			
私立	604 100.0	432 71.5	71 11.8	33 5.5	1 0.2	38 6.3	29 4.8			

Q14. 【Q13に「1」と回答した方のみ】内定先の企業の業界について、1つだけ選んでください。複数の内定先がある人は、就職を予定している企業・団体について回答してください。

【民間企業就職者】	該当数	技術・ベンチャー	金融	建設・不動産	物流・運送	エネルギー・資源	自動車・機械	電機・精密	食品	小売・卸売	アパレル	その他製造	IT・インターネット・メディア・広告	事務所等	士業・コンサルタント	専門サービス	飲食	エンターテインメント	介護・福祉
全体	752 100.0	10 1.3	52 6.9	50 6.6	33 4.4	18 2.4	73 9.7	77 10.2	35 4.7	48 6.4	4 0.5	60 8.0	153 20.3		15 2.0		4 0.5	15 2.0	9 1.2
国公立	320 100.0	6 1.9	17 5.3	17 5.3	10 3.1	9 2.8	50 15.6	43 13.4	17 5.3	10 3.1	0.3	12.2	63 19.7		4 1.3		0 0.0	5 1.6	1 0.3
私立	432 100.0	4 0.9	35 8.1	33 7.6	23 5.3	9 2.1	23 5.3	34 7.9	18 4.2	38 8.8	3 0.7	21 4.9	90 20.8		11 2.5		4 0.9	10 2.3	8 1.9

【民間企業就職者】	該当数	接客・サービス業（美容・理髪・エステ・クリーニング・クリーニング・クリーニング）	生活関連サービス（清掃・メンテナンス）	その他
全体		3 0.4	48 6.4	45 6.0
国公立		1 0.3	12 3.8	15 4.7
私立		2 0.5	36 8.3	30 6.9

Q14X. 【Q13に「1」と回答した方のみ】あなたが内定している企業の規模（従業員数）について、1つだけ選んでください。

【民間企業就職者】	該当数	9人以下	10人〜19人	20人〜49人	50人〜99人	100人以上	わからない
全体	752 100.0	71 9.4	94 12.5	137 18.2	166 22.1	221 29.4	63 8.4
国公立	320 100.0	18 5.6	37 11.6	54 16.9	77 24.1	107 33.4	27 8.4
私立	432 100.0	53 12.3	57 13.2	83 19.2	89 20.6	114 26.4	36 8.3

Q15. 【Q13に「1」と回答した方のみ】就職先におけるあなたの身分について、1つだけ選んでください。

【民間企業就職者】	該当数	正社員	社会人（会社員）を含む登録	契約社員・パート・アルバイト	その他
全体	752 100.0	742 98.7	5 0.7	2 0.3	3 0.4
国公立	320 100.0	318 99.4	1 0.3	0 0.0	1 0.3
私立	432 100.0	424 98.1	4 0.9	2 0.5	2 0.5

Q16. 【Q13に「1」と回答した方のみ】あなたが就職を予定している会社から内定（内々定を含む）が出たのはいつですか。

【民間企業就職者】	該当数	2017年3月	2017年4月	2017年8月	2018年2月	2018年4月	2018年5月	2018年6月	2018年7月	2018年8月	2018年9月	2018年10月	2018年11月	2018年12月	2019年1月	2019年2月	2019年3月	2019年4月	2019年5月
全体	752 100.0	1 0.1	1 0.1	1 0.1	1 0.1	4 0.5	8 1.1	7 0.9	1 0.1	1 0.1	0 0.0	2 0.3	3 0.4	6 0.8	7 0.9	8 1.1	33 4.4	117 15.6	137 18.2
国公立	全体	320 100.0	1 0.3	0 0.0	1 0.3	1 0.3	4 1.3	7 2.2	3 0.9	0 0.0	0 0.0	1 0.3	1 0.3	3 0.9	3 0.9	1 0.3	17 5.3	62 19.4	67 20.9
	学部	135 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.5	1 0.7	0 0.0	7 5.2	23 17.0	31 23.0
	大学院	185 100.0	1 0.5	0 0.0	1 0.5	1 0.5	3 1.6	7 3.8	3 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.5	1 0.5	1 1.1	2 0.5	10 5.4	39 21.1	36 19.5
私立	全体	432 100.0	0 0.0	1 0.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.2	4 0.9	1 0.2	1 0.2	0 0.0	2 0.5	3 0.7	4 0.9	7 1.6	16 3.7	55 12.7	70 16.2
	学部	394 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.3	3 0.8	1 0.3	1 0.3	0 0.0	2 0.5	3 1.0	4 1.0	6 1.5	16 4.1	48 12.2	60 15.2
	大学院	38 100.0	0 0.0	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.6	0 0.0	7 18.4	10 26.3

【民間企業就職者】		2019年 6月	2019年 7月	2019年 8月	2019年 9月	2019年 10月	2019年 11月	2019年 12月	2020年 1月	2020年 2月	2020年 3月
全体		216 28.7	71 9.4	29 3.9	22 2.9	30 4.0	13 1.7	12 1.6	7 0.9	8 1.1	6 0.8
国公立	全体	85 26.6	27 8.4	8 2.5	5 1.6	12 3.8	4 1.3	0 0.0	2 0.6	3 0.9	2 0.6
	学部	31 23.0	13 9.6	7 5.2	4 3.0	7 5.2	3 2.2	0 0.0	2 1.5	1 0.7	2 1.5
	大学院	54 29.2	14 7.6	1 0.5	1 0.5	5 2.7	1 0.5	0 0.0	0 0.0	2 1.1	0 0.0
私立	全体	131 30.3	44 10.2	21 4.9	17 3.9	18 4.2	9 2.1	12 2.8	5 1.2	5 1.2	4 0.9
	学部	125 31.7	40 10.2	20 5.1	16 4.1	15 3.8	9 2.3	12 3.0	4 1.0	4 1.0	3 0.8
	大学院	6 15.8	4 10.5	1 2.6	1 2.6	3 7.9	0 0.0	0 0.0	1 2.6	1 2.6	1 2.6

Q17からはインターンシップに関する質問です。大学が正課として提供するインターンシップのほか、企業等がワンデーインターンシップなどの名称で募集・実施している短期のものについても、回答してください。なお、教育実習や看護実習など特定の資格取得を目的としたインターンシップは対象外です。

Q17. あなたは大学に入学したあと(大学院生は大学院に進学したあと)、インターンシップに参加しましたか(ワンデーインターンシップを含む)。下記から1つだけ選んでください。

	該当数	インターン に参加 した	インターン に参加 しな い
全体	1196 100.0	775 64.8	421 35.2
国公立	592 100.0	347 58.6	245 41.4
私立	604 100.0	428 70.9	176 29.1

Q18. 【Q17に「1」と回答した方のみ】あなたは大学に入学したあと(大学院生は大学院に進学したあと)、全部で何社のインターンシップに参加しましたか。その企業数を回答してください。

【インターンシップ参加者】	該当数	最小 値	最大 値	平均 値	標準 偏差
全体	775	1	70	4.28	5.07
国公立	347	1	30	3.46	3.58
私立	428	1	70	4.95	5.93

Q19. 【Q17に「1」と回答した方のみ】あなたが大学に入学したあと(大学院生は大学院に進学したあと)、参加したインターンシップの日数は合計で何日になりますか。下記から1つだけ選んでください。

【インターンシップ参加者】	該当数	1 日	2 日	3 日 4 日	5 日 未 以 上	6 日 未 以 上	7 日 未 以 上	8 日 未 以 上
全体	775 100.0	85 11.0	53 6.8	109 14.1	220 28.4	236 30.5	53 6.8	19 2.5
国公立	347 100.0	40 11.5	26 7.5	49 14.1	98 28.2	99 28.5	28 8.1	7 2.0
私立	428 100.0	45 10.5	27 6.3	60 14.0	122 28.5	137 32.0	25 5.8	12 2.8

Q20. 【Q17に「1」と回答した方のみ】あなたが参加したインターンシップの中で最も日数が長かったものについて、その日数を下記から1つだけ選んでください。

【インターンシップ参加者】	該当数	1日	2日	3日 4日	5日 以上 未 満	10日 以上 未 満	1ヵ月 以上 未 満	3ヵ月 以上 未 満	3ヵ月 以上
全体	775 100.0	216 27.9	79 10.2	97 12.5	243 31.4	107 13.8	15 1.9	18 2.3	
国公立	347 100.0	92 26.5	31 8.9	45 13.0	100 28.8	65 18.7	8 2.3	6 1.7	
私立	428 100.0	124 29.0	48 11.2	52 12.1	143 33.4	42 9.8	7 1.6	12 2.8	

Q21. 【Q20に「4」「5」「6」「7」と回答した方のみ】あなたは他企業の1～4日間のインターンシップにも参加しましたか。

【5日以上インターンシップに参加した者】	該当数	参加した	い参加して
全体	383 100.0	250 65.3	133 34.7
国公立	179 100.0	109 60.9	70 39.1
私立	204 100.0	141 69.1	63 30.9

Q22. 【Q21に「1」と回答した方のみ】学生時代に参加したインターンシップのうち最も長い期間のインターンシップを、1～4日の期間のインターンシップと比較した際の満足度を回答してください。

【5日以上インターンシップの参加者で他企業の1～4日のインターンシップにも参加した者】	該当数	最も長い期間の満足度が高い	最も長い期間の満足度が低い	どちらでもない	最も長い期間の満足度が高い	最も長い期間の満足度が低い
全体	250 100.0	69 27.6	100 40.0	64 25.6	11 4.4	6 2.4
国公立	109 100.0	36 33.0	38 34.9	28 25.7	4 3.7	3 2.8
私立	141 100.0	33 23.4	62 44.0	36 25.5	7 5.0	3 2.1

Q23～Q37は、あなたが参加した最も長いインターンシップについておたずねします。1～2日の短期のものでも、それが最も長かった場合は、特定企業のインターンシップを念頭に回答してください。インターンシップに参加しなかった人は、Q38に進んでください。

Q23. あなたが参加した最も長いインターンシップを提供した企業の規模(従業員数)について、1つだけ選んでください。

【インターンシップ参加者】	該当数	9人 以下	10人 以上 19人 以下	20人 以上 29人 以下	30人 以上 39人 以下	40人 以上 49人 以下	50人 以上	わからない
全体	775 100.0	114 14.7	62 8.0	106 13.7	140 18.1	186 24.0	167 21.5	
国公立	347 100.0	44 12.7	25 7.2	37 10.7	65 18.7	103 29.7	73 21.0	
私立	428 100.0	70 16.4	37 8.6	69 16.1	75 17.5	83 19.4	94 22.0	

Q24. その企業の本社所在地はどこですか。わからない場合は「わからない」と書いてください。

【インターンシップ参加者】	該当数	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県
全体	775 100.0	11 1.4	1 0.1	4 0.5	11 1.4	6 0.8	1 0.1	12 1.5	11 1.4	1 0.1	3 0.4	20 2.6	9 1.2	360 46.5	26 3.4	16 2.1	7 0.9	6 0.8	11 1.4
国公立	347 100.0	9 2.6	0 0.0	0 0.0	9 2.6	6 1.7	1 0.3	10 2.9	8 2.3	1 0.3	1 0.3	3 0.9	3 0.9	128 36.9	9 2.6	13 3.7	4 1.2	3 0.9	11 3.2
私立	428 100.0	2 0.5	1 0.2	4 0.9	2 0.5	0 0.0	0 0.0	2 0.5	3 0.7	0 0.0	2 0.5	17 4.0	6 1.4	232 54.2	17 4.0	3 0.7	3 0.7	3 0.7	0 0.0

【インターンシップ参加者】		山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
全体		4 0.5	6 0.8	4 0.5	8 1.0	28 3.6	1 0.1	3 0.4	12 1.5	34 4.4	7 0.9	0 0.0	3 0.4	1 0.1	1 0.1	1 0.1	6 0.8	7 0.9	2 0.3
国公立		2 0.6	4 1.2	2 0.6	3 0.9	14 4.0	1 0.3	2 0.6	6 1.7	14 4.0	3 0.9	¥ - 0.0	3 0.9	1 0.3	1 0.3	0 0.0	4 1.2	5 1.4	2 0.6
私立		2 0.5	2 0.5	2 0.5	5 1.2	14 3.3	0 0.0	1 0.2	6 1.4	20 4.7	4 0.9	¥ - 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.2	2 0.5	2 0.5	0 0.0

【インターンシップ参加者】		香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	いづからな
全体		2 0.3	1 0.1	2 0.3	25 3.2	10 1.3	0 0.0	3 0.4	8 1.0	10 1.3	1 0.1	10 1.3	59 7.6
国公立		2 0.6	1 0.3	0 0.0	3 0.9	8 2.3	0 0.0	0 0.0	1 0.3	10 2.9	1 0.3	9 2.6	26 7.5
私立		0 0.0	0 0.0	2 0.5	22 5.1	2 0.5	0 0.0	3 0.7	7 1.6	0 0.0	0 0.0	1 0.2	33 7.7

Q25. あなたがインターンシップをした場所はどこですか。複数の都道府県にわたる場合は最も滞在時間が長かった場所を回答してください。

【インターンシップ参加者】	該当数	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県
全体	775 100.0	16 2.1	1 0.1	4 0.5	19 2.5	7 0.9	1 0.1	17 2.2	19 2.5	5 0.6	3 0.4	18 2.3	12 1.5	323 41.7	36 4.6	14 1.8	7 0.9	7 0.9	11 1.4
国公立	347 100.0	16 4.6	0 0.0	0 0.0	18 5.2	7 2.0	1 0.3	15 4.3	14 4.0	5 1.4	1 0.3	2 0.6	4 1.2	84 24.2	16 4.6	13 3.7	5 1.4	4 1.2	11 3.2
私立	428 100.0	0 0.0	1 0.2	4 0.9	1 0.2	0 0.0	0 0.0	2 0.5	5 1.2	0 0.0	2 0.5	16 3.7	8 1.9	239 55.8	20 4.7	1 0.2	2 0.5	3 0.7	0 0.0

【インターンシップ参加者】		山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
全体		4 0.5	7 0.9	5 0.6	8 1.0	40 5.2	1 0.1	5 0.6	8 1.0	52 6.7	10 1.3	0 0.0	4 0.5	0 0.0	1 0.1	3 0.4	9 1.2	8 1.0	4 0.5
国公立		2 0.6	4 1.2	4 1.2	5 1.4	21 6.1	1 0.3	3 0.9	2 0.6	20 5.8	7 2.0	0 0.0	4 1.2	0 0.0	1 0.3	0 0.0	7 2.0	6 1.7	3 0.9
私立		2 0.5	3 0.7	1 0.2	3 0.7	19 4.4	0 0.0	2 0.5	6 1.4	32 7.5	3 0.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 0.7	2 0.5	2 0.5	1 0.2

【インターンシップ参加者】		香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
全体		2 0.3	1 0.1	2 0.3	37 4.8	11 1.4	2 0.3	4 0.5	9 1.2	9 1.2	1 0.1	8 1.0
国公立		2 0.6	1 0.3	0 0.0	7 2.0	8 2.3	2 0.6	1 0.3	2 0.6	9 2.6	1 0.3	8 2.3
私立		0 0.0	0 0.0	2 0.5	30 7.0	3 0.7	0 0.0	3 0.7	7 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0

Q26. そのインターンシップの形態について、あてはまるものを1つだけ選んでください。

【インターンシップ参加者】	該当数	企業がして正業調、整し大目したと	参加する学大は正人る学な課と企がイ科目介、で	たに1の治体等主	自シに探をた	自シに探をた	その他
全体	775 100.0	161 20.8	95 12.3	62 8.0	447 57.7	10 1.3	
国公立	347 100.0	64 18.4	41 11.8	28 8.1	208 59.9	6 1.7	
私立	428 100.0	97 22.7	54 12.6	34 7.9	239 55.8	4 0.9	

Q27. そのインターンシップに参加した時期を回答してください。

【インターンシップ参加者】学部	該当数	大学1年生 4～6月	大学1年生 7～9月	大学1年生 10～12月	大学1年生 1～3月	大学2年生 4～6月	大学2年生 7～9月	大学2年生 10～12月	大学2年生 1～3月	大学3年生 4～6月	大学3年生 7～9月	大学3年生 10～12月	大学3年生 1～3月	大学4年生 4～6月	大学4年生 7～9月	大学4年生 10～12月	大学4年生 1～3月
全体	572	0	4	2	3	4	36	10	11	20	317	52	64	6	19	5	19
	100.0	0.0	0.7	0.3	0.5	0.7	6.3	1.7	1.9	3.5	55.4	9.1	11.2	1.0	3.3	0.9	3.3
国公立	175	0	4	2	2	2	9	3	4	3	97	17	19	1	5	1	6
	100.0	0.0	2.3	0.0	1.1	1.1	5.1	1.7	2.3	1.7	55.4	9.7	10.9	0.6	2.9	0.6	3.4
私立	397	0	0	0	1	2	27	7	7	17	220	35	45	5	14	4	13
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	6.8	1.8	1.8	4.3	55.4	8.8	11.3	1.3	3.5	1.0	3.3

【インターンシップ参加者】大学院	該当数	大学1年生	大学2年生	大学3年生	大学4年生	大学院1年生 4～6月	大学院1年生 7～9月	大学院1年生 10～12月	大学院1年生 1～3月	大学院2年生 4～6月	大学院2年生 7～9月	大学院2年生 10～12月	大学院2年生 1～3月
全体	203	15	6	5	3	2	71	20	47	4	15	3	12
	100.0	7.4	3.0	2.5	1.5	1.0	35.0	9.9	23.2	2.0	7.4	1.5	5.9
国公立	172	13	6	4	2	2	62	17	41	3	10	3	9
	100.0	7.6	3.5	2.3	1.2	1.2	36.0	9.9	23.8	1.7	5.8	1.7	5.2
私立	31	2	0	1	1	0	9	3	6	1	5	0	3
	100.0	6.5	0.0	3.2	3.2	0.0	29.0	9.7	19.4	3.2	16.1	0.0	9.7

※ 設問設定の関係で、「大学1年生」「大学2年生」に大学院の学年を含む可能性がある。

【インターンシップ参加者】学部	該当数	大学1年生 4～6月	大学1年生 7～9月	大学1年生 10～12月	大学1年生 1～3月	大学2年生 4～6月	大学2年生 7～9月	大学2年生 10～12月	大学2年生 1～3月	大学3年生 4～6月	大学3年生 7～9月	大学3年生 10～12月	大学3年生 1～3月	大学4年生 4～6月	大学4年生 7～9月	大学4年生 10～12月	大学4年生 1～3月
全体	572	0	4	2	2	1	27	12	12	7	265	49	112	9	23	5	42
	100.0	0.0	0.7	0.3	0.3	0.2	4.7	2.1	2.1	1.2	46.3	8.6	19.6	1.6	4.0	0.9	7.3
国公立	175	0	4	2	1	0	10	2	6	1	85	15	30	3	5	1	10
	100.0	0.0	2.3	1.1	0.6	0.0	5.7	1.1	3.4	0.6	48.6	8.6	17.1	1.7	2.9	0.6	5.7
私立	397	0	0	0	1	1	17	10	6	6	180	34	82	6	18	4	32
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	4.3	2.5	1.5	1.5	45.3	8.6	20.7	1.5	4.5	1.0	8.1

【インターンシップ参加者】大学院	該当数	大学1年生	大学2年生	大学3年生	大学4年生	大学院1年生 4～6月	大学院1年生 7～9月	大学院1年生 10～12月	大学院1年生 1～3月	大学院2年生 4～6月	大学院2年生 7～9月	大学院2年生 10～12月	大学院2年生 1～3月
全体	203	14	8	3	3	1	60	18	49	5	16	4	22
	100.0	6.9	3.9	1.5	1.5	0.5	29.6	8.9	24.1	2.5	7.9	2.0	10.8
国公立	172	13	7	3	2	0	53	15	44	4	11	4	16
	100.0	7.6	4.1	1.7	1.2	0.0	30.8	8.7	25.6	2.3	6.4	2.3	9.3
私立	31	1	1	0	1	1	7	3	5	1	5	0	6
	100.0	3.2	3.2	0.0	3.2	3.2	22.6	9.7	16.1	3.2	16.1	0.0	19.4

※ 設問設定の関係で、「大学1年生」「大学2年生」に大学院の学年を含む可能性がある。

Q28. あなたがインターンシップに参加した目的は何ですか。あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。また、最も近いものを1つだけ選んでください。

【インターンシップ参加者】	該当数	業界の理解	企業内容の理解	入社後の業務内容の理解	企業・職場の雰囲気	仕事の理解	自分極めスキ	開身のため力	自分自身の観の	直結した採用内	参加企業との関係	社会人としての	業生との就活活動	位取得等の単	報酬	ため験した動	業生との就活活動	加するたため	特になし	その他
全体	775	326	339	222	371	246	87	60	141	72	30	9	76	7	114	96	37	7	12	
	100.0	42.1	43.7	28.6	47.9	31.7	11.2	7.7	18.2	9.3	3.9	1.2	9.8	0.9	14.7	12.4	4.8	0.9	1.5	
国公立	347	140	146	112	164	111	29	23	64	37	15	6	39	5	50	44	12	2	6	
	100.0	40.3	42.1	32.3	47.3	32.0	8.4	6.6	18.4	10.7	4.3	1.7	11.2	1.4	14.4	12.7	3.5	0.6	1.7	
私立	428	186	193	110	207	135	58	37	77	35	15	3	37	2	64	52	25	5	6	
	100.0	43.5	45.1	25.7	48.4	31.5	13.6	8.6	18.0	8.2	3.5	0.7	8.6	0.5	15.0	12.1	5.8	1.2	1.4	

【インターンシップ参加者】	該当数	業界の理解	企業内容の理解	入社後の業務内容の理解	企業・職場の雰囲気	仕事の理解	自分極めスキ	開身のため力	自分自身の観の	直結した採用内	参加企業との関係	社会人としての	業生との就活活動	位取得等の単	報酬	ため験した動	業生との就活活動	加するたため	特になし	その他
全体	775	120	105	80	154	54	25	25	48	31	3	2	26	3	37	30	15	7	10	
	100.0	15.5	13.5	10.3	19.9	7.0	3.2	3.2	6.2	4.0	0.4	0.3	3.4	0.4	4.8	3.9	1.9	0.9	1.3	
国公立	347	49	45	37	72	21	9	13	23	17	0	1	12	2	18	15	6	2	5	
	100.0	14.1	13.0	10.7	20.7	6.1	2.6	3.7	6.6	4.9	0.0	0.3	3.5	0.6	5.2	4.3	1.7	0.6	1.4	
私立	428	71	60	43	82	33	16	12	25	14	3	1	14	1	19	15	9	5	5	
	100.0	16.6	14.0	10.0	19.2	7.7	3.7	2.8	5.8	3.3	0.7	0.2	3.3	0.2	4.4	3.5	2.1	1.2	1.2	

Q29. そのインターンシップにはどのような内容が含まれていたでしょうか。それぞれ回答してください。

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
①企業の説明(座学)			
全体	775 100.0	48 6.2	727 93.8
国公立	347 100.0	20 5.8	327 94.2
私立	428 100.0	28 6.5	400 93.5

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
②業界の説明(座学)			
全体	775 100.0	144 18.6	631 81.4
国公立	347 100.0	65 18.7	282 81.3
私立	428 100.0	79 18.5	349 81.5

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
③入社後の業務説明			
全体	775 100.0	196 25.3	579 74.7
国公立	347 100.0	73 21.0	274 79.0
私立	428 100.0	123 28.7	305 71.3

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
④社員に対する質問会			
全体	775 100.0	123 15.9	652 84.1
国公立	347 100.0	53 15.3	294 84.7
私立	428 100.0	70 16.4	358 83.6

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑤新規事業についてのワークやディスカッション			
全体	775 100.0	403 52.0	372 48.0
国公立	347 100.0	193 55.6	154 44.4
私立	428 100.0	210 49.1	218 50.9

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑥社会課題やテーマについてのワークやディスカッション			
全体	775 100.0	412 53.2	363 46.8
国公立	347 100.0	198 57.1	149 42.9
私立	428 100.0	214 50.0	214 50.0

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑦検討した事業・課題についての発表・プレゼンテーション			
全体	775 100.0	307 39.6	468 60.4
国公立	347 100.0	136 39.2	211 60.8
私立	428 100.0	171 40.0	257 60.0

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑧企画・提案型の特別プロジェクト			
全体	775 100.0	506 65.3	269 34.7
国公立	347 100.0	245 70.6	102 29.4
私立	428 100.0	261 61.0	167 39.0

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑨企画・実行型の特別プロジェクト			
全体	775 100.0	628 81.0	147 19.0
国公立	347 100.0	290 83.6	57 16.4
私立	428 100.0	338 79.0	90 21.0

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑩実際の業務シミュレーション・実習・研修・体験			
全体	775 100.0	286 36.9	489 63.1
国公立	347 100.0	125 36.0	222 64.0
私立	428 100.0	161 37.6	267 62.4

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑪職場や工場の見学			
全体	775 100.0	230 29.7	545 70.3
国公立	347 100.0	73 21.0	274 79.0
私立	428 100.0	157 36.7	271 63.3

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑫業務の同行・同席			
全体	775 100.0	435 56.1	340 43.9
国公立	347 100.0	186 53.6	161 46.4
私立	428 100.0	249 58.2	179 41.8

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑬補助的業務の一部を経験			
全体	775 100.0	479 61.8	296 38.2
国公立	347 100.0	215 62.0	132 38.0
私立	428 100.0	264 61.7	164 38.3

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑭基幹業務の一部を経験			
全体	775 100.0	611 78.8	164 21.2
国公立	347 100.0	272 78.4	75 21.6
私立	428 100.0	339 79.2	89 20.8

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑮キャリア(自らの職業選択)に関する研修			
全体	775 100.0	603 77.8	172 22.2
国公立	347 100.0	270 77.8	77 22.2
私立	428 100.0	333 77.8	95 22.2

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑯就職活動への直接的な支援(面接対策など)			
全体	775 100.0	595 76.8	180 23.2
国公立	347 100.0	278 80.1	69 19.9
私立	428 100.0	317 74.1	111 25.9

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑰就職活動への直接的な支援(面接対策など)			
全体	775 100.0	286 36.9	489 63.1
国公立	347 100.0	133 38.3	214 61.7
私立	428 100.0	153 35.7	275 64.3

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれて	含まれて
⑱大学で実施する、インターン前後のフォローアップ			
全体	775 100.0	583 75.2	192 24.8
国公立	347 100.0	270 77.8	77 22.2
私立	428 100.0	313 73.1	115 26.9

【インターンシップ参加者】	該当数	含まれていない	含まれている
⑩その他			
全体	5 100.0	1 20.0	4 80.0
国公立	2 100.0	0 0.0	2 100.0
私立	3 100.0	1 33.3	2 66.7

Q30. Q29で最も中心的だった内容はどれでしょうか。番号を1つだけ選んでください。

【インターンシップ参加者】	該当数	(企業・座学の説明)	(業界・座学の説明)	務入社後の業	る社員に對する質問	シデイイノスカツ	新規事業に	カクイテマシヨンス	社会課題や	ン表テシヨ	業検討した事	ロ型エト	企画・特別	シミュレ	体習・実	シミュレ	実務の	の職場や工場	行業務の同	験の補	一基
全体	774 100.0	178 23.0	26 3.4	18 2.3	21 2.7	47 6.1	43 5.6	55 7.1	35 4.5	25 3.2	165 21.3	55 7.1	45 5.8	31 4.0	24 3.1						
国公立	347 100.0	70 20.2	7 2.0	9 2.6	8 2.3	17 4.9	20 5.8	22 6.3	14 4.0	9 2.6	84 24.2	42 12.1	15 4.3	13 3.7	15 4.3						
私立	427 100.0	108 25.3	19 4.4	9 2.1	13 3.0	30 7.0	23 5.4	33 7.7	21 4.9	16 3.7	81 19.0	13 3.0	30 7.0	18 4.2	9 2.1						

【インターンシップ参加者】	該当数	開業へキヤリ	対支の就	の実り容実	アのタす大	その他
全体		1 0.1	5 0.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
国公立		1 0.3	1 0.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
私立		0 0.0	4 0.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0

※ Q29の全設問に「含まれていない」と回答した1名を除く。

Q31. そのインターンシップに参加することで、大学でのあなたの学修行動などは変化しましたか。下記の各設問に関し、あなたの考えに最も近いものを選んでください。

【インターンシップ参加者】	該当数	なあっては	まややあ	な	ま	あ
①大学での授業への出席が増えた						
全体	775 100.0	437 56.4	42 5.4	246 31.7	27 3.5	23 3.0
国公立	347 100.0	206 59.4	10 2.9	106 30.5	13 3.7	12 3.5
私立	428 100.0	231 54.0	32 7.5	140 32.7	14 3.3	11 2.6

【インターンシップ参加者】	該当数	なあっては	まややあ	な	ま	あ
②興味関心のある内容が絞られ(変わり)、履修する科目の傾向が変わった						
全体	775 100.0	382 49.3	56 7.2	168 21.7	121 15.6	48 6.2
国公立	347 100.0	188 54.2	21 6.1	73 21.0	46 13.3	19 5.5
私立	428 100.0	194 45.3	35 8.2	95 22.2	75 17.5	29 6.8

【インターンシップ参加者】	該当数	なあっては	まややあ	な	ま	あ
③興味関心のある内容に対する学習時間が増えた						
全体	775 100.0	279 36.0	39 5.0	148 19.1	209 27.0	100 12.9
国公立	347 100.0	135 38.9	20 5.8	59 17.0	93 26.8	40 11.5
私立	428 100.0	144 33.6	19 4.4	89 20.8	116 27.1	60 14.0

【インターンシップ参加者】	該当数	なあっては	まややあ	な	ま	あ
④大学外での学習行動(例えば読書の機会や講演聴講など)が増えた						
全体	775 100.0	291 37.5	58 7.5	175 22.6	158 20.4	93 12.0
国公立	347 100.0	135 38.9	23 6.6	73 21.0	84 24.2	32 9.2
私立	428 100.0	156 36.4	35 8.2	102 23.8	74 17.3	61 14.3

【インターンシップ参加者】	該当数	なあっては	まややあ	な	ま	あ
⑤企業をはじめとする社会の仕組みへの関心が高まった						
全体	775 100.0	99 12.8	16 2.1	77 9.9	351 45.3	232 29.9
国公立	347 100.0	49 14.1	9 2.6	42 12.1	154 44.4	93 26.8
私立	428 100.0	50 11.7	7 1.6	35 8.2	197 46.0	139 32.5

【インターンシップ参加者】	該当数	なあっては	まややあ	な	ま	あ
⑥時事問題などに関する情報を見る時間が増えた						
全体	775 100.0	190 24.5	41 5.3	118 15.2	275 35.5	151 19.5
国公立	347 100.0	93 26.8	23 6.6	50 14.4	110 31.7	71 20.5
私立	428 100.0	97 22.7	18 4.2	68 15.9	165 38.6	80 18.7



【インターンシップ参加者】	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な ど ち ら で も	ま や あ て は	あ て は ま る
⑦資格試験などに取組みはじめた						
全体	775 100.0	300 38.7	67 8.6	162 20.9	141 18.2	105 13.5
国公立	347 100.0	159 45.8	27 7.8	71 20.5	51 14.7	39 11.2
私立	428 100.0	141 32.9	40 9.3	91 21.3	90 21.0	66 15.4

【インターンシップ参加者】	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な ど ち ら で も	ま や あ て は	あ て は ま る
⑧社会人などとの交流の機会が増えた						
全体	775 100.0	263 33.9	74 9.5	160 20.6	188 24.3	90 11.6
国公立	347 100.0	128 36.9	32 9.2	69 19.9	78 22.5	40 11.5
私立	428 100.0	135 31.5	42 9.8	91 21.3	110 25.7	50 11.7

【インターンシップ参加者】	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な ど ち ら で も	ま や あ て は	あ て は ま る
⑨自らのキャリア観(生き方)が明確になった						
全体	775 100.0	130 16.8	47 6.1	143 18.5	295 38.1	160 20.6
国公立	347 100.0	64 18.4	7 1.9	68 19.6	128 36.9	60 17.3
私立	428 100.0	66 15.4	20 4.7	75 17.5	167 39.0	100 23.4

【インターンシップ参加者】	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な ど ち ら で も	ま や あ て は	あ て は ま る
⑩クラブ活動やサークル活動への参加時間が増えた						
全体	775 100.0	458 59.1	72 9.3	181 23.4	35 4.5	29 3.7
国公立	347 100.0	216 62.2	29 8.4	80 23.1	12 3.5	10 2.9
私立	428 100.0	242 56.5	43 10.0	101 23.6	23 5.4	19 4.4

【インターンシップ参加者】	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な ど ち ら で も	ま や あ て は	あ て は ま る
⑪アルバイトへの参加時間が増えた						
全体	775 100.0	409 52.8	67 8.6	183 23.6	65 8.4	51 6.6
国公立	347 100.0	213 61.4	29 8.4	70 20.2	20 5.8	15 4.3
私立	428 100.0	196 45.8	38 8.9	113 26.4	45 10.5	36 8.4

【インターンシップ参加者】	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な ど ち ら で も	ま や あ て は	あ て は ま る
⑫ボランティアへの参加回数が増えた						
全体	775 100.0	475 61.3	52 6.7	176 22.7	55 7.1	17 2.2
国公立	347 100.0	227 65.4	20 5.8	73 21.0	21 6.1	6 1.7
私立	428 100.0	248 57.9	32 7.5	103 24.1	34 7.9	11 2.6

【インターンシップ参加者】	該当数	な あ て は ま ら	ま や ら な あ て は	な ど ち ら で も	ま や あ て は	あ て は ま る
⑬就職活動に対してポジティブなイメージを持った						
全体	775 100.0	155 20.0	70 9.0	197 25.4	250 32.3	103 13.3
国公立	347 100.0	75 21.6	27 7.8	87 25.1	115 33.1	43 12.4
私立	428 100.0	80 18.7	43 10.0	110 25.7	135 31.5	60 14.0

Q32. そのインターンシップに参加してよかったと思いますか。1つだけ選んでください。

	該当数	か 非 つ 常 た に よ	よ か つ た	い ど ち ら な ら い と も	た よ く な か っ	な 非 常 つ た よ く
全体	775 100.0	321 41.4	342 44.1	72 9.3	24 3.1	16 2.1
国公立	347 100.0	147 42.4	157 45.2	25 7.2	9 2.6	9 2.6
私立	428 100.0	174 40.7	185 43.2	47 11.0	15 3.5	7 1.6

Q33. 【Q32に「1」「2」と回答した方のみ】それはなぜですか。理由について、下記のそれぞれに回答してください。

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】	該当数	ら あ な て は ま	る あ て は ま
①将来のキャリアプランが明らかになったから			
全体	663 100.0	245 37.0	418 63.0
国公立	304 100.0	112 36.8	192 63.2
私立	359 100.0	133 37.0	226 63.0

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】	該当数	ら あ な て は ま	る あ て は ま
②自分がやりたいことがわかったから			
全体	663 100.0	203 30.6	460 69.4
国公立	304 100.0	97 31.9	207 68.1
私立	359 100.0	106 29.5	253 70.5

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】	該当数	ら あ な て は ま	る あ て は ま
③社会で達成したい具体的な目標ができたから			
全体	663 100.0	382 57.6	281 42.4
国公立	304 100.0	179 58.9	125 41.1
私立	359 100.0	203 56.5	156 43.5

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】 ④興味のある業界・企業・職種の絞り込みができたから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	663 100.0	148 22.3	515 77.7
国公立	304 100.0	71 23.4	233 76.6
私立	359 100.0	77 21.4	282 78.6

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】 ⑤自分の強み・弱みを知ることができたから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	663 100.0	272 41.0	391 59.0
国公立	304 100.0	148 48.7	156 51.3
私立	359 100.0	124 34.5	235 65.5

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】 ⑥自分の適性が分かったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	663 100.0	264 39.8	399 60.2
国公立	304 100.0	145 47.7	159 52.3
私立	359 100.0	119 33.1	240 66.9

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】 ⑦会社の社風を知ることができたから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	663 100.0	95 14.3	568 85.7
国公立	304 100.0	45 14.8	259 85.2
私立	359 100.0	50 13.9	309 86.1

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】 ⑧内定獲得に直結したから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	663 100.0	530 79.9	133 20.1
国公立	304 100.0	241 79.3	63 20.7
私立	359 100.0	289 80.5	70 19.5

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】 ⑨学業に良い影響があったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	663 100.0	529 79.8	134 20.2
国公立	304 100.0	245 80.6	59 19.4
私立	359 100.0	284 79.1	75 20.9

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】 ⑩フィードバックが十分にあったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	663 100.0	329 49.6	334 50.4
国公立	304 100.0	170 55.9	134 44.1
私立	359 100.0	159 44.3	200 55.7

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】 ⑪社員と密接にコミュニケーションができたから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	663 100.0	199 30.0	464 70.0
国公立	304 100.0	93 30.6	211 69.4
私立	359 100.0	106 29.5	253 70.5

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】 ⑫社員と密接にコミュニケーションができたから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	663 100.0	470 70.9	193 29.1
国公立	304 100.0	209 68.8	95 31.3
私立	359 100.0	261 72.7	98 27.3

【インターンシップ参加が「非常に良かった」「よかった」と回答した者】 ⑬その他	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	12 100.0	0 0.0	12 100.0
国公立	7 100.0	0 0.0	7 100.0
私立	5 100.0	0 0.0	5 100.0

Q34. 【Q32に「4」「5」と回答した方のみ】それはなぜですか。理由について、下記のそれぞれに回答してください。

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ①業界・企業について詳しく知ることができなかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	24 60.0	16 40.0
国公立	18 100.0	10 55.6	8 44.4
私立	22 100.0	14 63.6	8 36.4

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ②将来のキャリアプランが明確にならなかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	20 50.0	20 50.0
国公立	18 100.0	9 50.0	9 50.0
私立	22 100.0	11 50.0	11 50.0

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ③興味のある業界・企業・職種を絞り込みできなかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	20 50.0	20 50.0
国公立	18 100.0	7 38.9	11 61.1
私立	22 100.0	13 59.1	9 40.9

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ④自分の強み・弱みを把握できなかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	25 62.5	15 37.5
国公立	18 100.0	11 61.1	7 38.9
私立	22 100.0	14 63.6	8 36.4

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑤企業が広報していた内容と違っていたから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	28 70.0	12 30.0
国公立	18 100.0	13 72.2	5 27.8
私立	22 100.0	15 68.2	7 31.8

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑥採用との結びつきの強いインターンシップだったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	33 82.5	7 17.5
国公立	18 100.0	15 83.3	3 16.7
私立	22 100.0	18 81.8	4 18.2

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑦採用との結びつきの弱いインターンシップだったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	28 70.0	12 30.0
国公立	18 100.0	12 66.7	6 33.3
私立	22 100.0	16 72.7	6 27.3

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑧就業体験がなく業務内容が十分に理解できる内容ではなかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	18 45.0	22 55.0
国公立	18 100.0	8 44.4	10 55.6
私立	22 100.0	10 45.5	12 54.5

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑨社員とコミュニケーションが十分とれるものではなかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	17 42.5	23 57.5
国公立	18 100.0	9 50.0	9 50.0
私立	22 100.0	8 36.4	14 63.6

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑩当初の想定よりも負担(時間、労力、お金)がかかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	20 50.0	20 50.0
国公立	18 100.0	11 61.1	7 38.9
私立	22 100.0	9 40.9	13 59.1

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑪他の参加者との関係がうまくいかなかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	33 82.5	7 17.5
国公立	18 100.0	16 88.9	2 11.1
私立	22 100.0	17 77.3	5 22.7

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑫企業の雰囲気当初の想像と違ったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	20 50.0	20 50.0
国公立	18 100.0	12 66.7	6 33.3
私立	22 100.0	8 36.4	14 63.6

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑬フィードバックが十分になかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	22 55.0	18 45.0
国公立	18 100.0	12 66.7	6 33.3
私立	22 100.0	10 45.5	12 54.5

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑭自分の専門性を活かせなかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	26 65.0	14 35.0
国公立	18 100.0	16 88.9	2 11.1
私立	22 100.0	10 45.5	12 54.5

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑮企業説明会と変わらなかったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	27 67.5	13 32.5
国公立	18 100.0	12 66.7	6 33.3
私立	22 100.0	15 68.2	7 31.8

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑯働き手として使われ、アルバイトと変わらないものだったから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	27 67.5	13 32.5
国公立	18 100.0	14 77.8	4 22.2
私立	22 100.0	13 59.1	9 40.9

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑰学業に取り組む時間が削られたから	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	40 100.0	29 72.5	11 27.5
国公立	18 100.0	13 72.2	5 27.8
私立	22 100.0	16 72.7	6 27.3

【インターンシップ参加が「よくなかった」「非常によくなかった」と回答した者】 ⑱その他	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	4 100.0	0 0.0	4 100.0
国公立	2 100.0	0 0.0	2 100.0
私立	2 100.0	0 0.0	2 100.0

Q35. ここで念頭に置いている企業からあなたに内定は出ましたか。

	該当数	内 定 が 出 た	か 内 定 は 出 な	出 ま て だ い 結 な 果 い が
全体	775 100.0	333 43.0	424 54.7	18 2.3
国公立	347 100.0	157 45.2	181 52.2	9 2.6
私立	428 100.0	176 41.1	243 56.8	9 2.1

Q36. 【Q35に「1」と回答した方のみ】その企業に就職しますか。

【インターンシップ先から内定が出た者】	該当数	就 職 す る	い 就 職 し な	い わ か ら な
全体	333 100.0	257 77.2	73 21.9	3 0.9
国公立	157 100.0	121 77.1	33 21.0	3 1.9
私立	176 100.0	136 77.3	40 22.7	0 0.0

Q37. 【Q36に「2」と回答した方のみ】なぜインターンシップの参加企業を就職先としなかったのですか。理由について、下記のそれぞれに回答してください。

【内定が出たインターンシップ先に就職しない者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
①業界・企業について詳しく知ることができなかったから			
全体	73 100.0	70 95.9	3 4.1
国公立	33 100.0	31 93.9	2 6.1
私立	40 100.0	39 97.5	1 2.5

【内定が出たインターンシップ先に就職しない者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
②元々志望している企業や業界とは異なっていた			
全体	73 100.0	53 72.6	20 27.4
国公立	33 100.0	25 75.8	8 24.2
私立	40 100.0	28 70.0	12 30.0

【内定が出たインターンシップ先に就職しない者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
③会社の内容が分かったことで興味がなくなった			
全体	73 100.0	58 79.5	15 20.5
国公立	33 100.0	26 78.8	7 21.2
私立	40 100.0	32 80.0	8 20.0

【内定が出たインターンシップ先に就職しない者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
④事業の内容がわかったことで業界への関心が薄れた			
全体	73 100.0	59 80.8	14 19.2
国公立	33 100.0	28 84.8	5 15.2
私立	40 100.0	31 77.5	9 22.5

【内定が出たインターンシップ先に就職しない者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑤就職活動中に他職種に関心が移った			
全体	73 100.0	45 61.6	28 38.4
国公立	33 100.0	21 63.6	12 36.4
私立	40 100.0	24 60.0	16 40.0

【内定が出たインターンシップ先に就職しない者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑥希望したが内定を得られなかった			
全体	73 100.0	71 97.3	2 2.7
国公立	33 100.0	33 100.0	0 0.0
私立	40 100.0	38 95.0	2 5.0

※ 内定が得られなかった者は回答対象外のため、本設問に「あてはまる」のは回答エラーである。

【内定が出たインターンシップ先に就職しない者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑦その他			
全体	12 100.0	0 0.0	12 100.0
国公立	7 100.0	0 0.0	7 100.0
私立	5 100.0	0 0.0	5 100.0

Q38以降ではインターンシップについてのご意見をうかがいます。インターンシップに参加していない方を含めて、全員回答してください。

Q38. 後輩にインターンシップへの参加を勧めますか。

	該当数	強く 勧める	勧める	いど えち なら とも	勧め ない	絶対 勧め ない
全体	1196 100.0	338 28.3	429 35.9	367 30.7	41 3.4	21 1.8
国公立	592 100.0	148 25.0	220 37.2	199 33.6	19 3.2	6 1.0
私立	604 100.0	190 31.5	209 34.6	168 27.8	22 3.6	15 2.5

Q39. 【Q38が「1」「2」の方のみ】インターンシップを勧めるのはなぜですか。理由について、それぞれに回答してください。

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
①将来のキャリアプランが明らかになるから			
全体	767 100.0	273 35.6	494 64.4
国公立	368 100.0	135 36.7	233 63.3
私立	399 100.0	138 34.6	261 65.4

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
②自分がやりたいことがわかるから			
全体	767 100.0	162 21.1	605 78.9
国公立	368 100.0	81 22.0	287 78.0
私立	399 100.0	81 20.3	318 79.7

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
③社会で達成したい具体的な目標ができたから			
全体	767 100.0	466 60.8	301 39.2
国公立	368 100.0	226 61.4	142 38.6
私立	399 100.0	240 60.2	159 39.8

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
④興味のある業界・企業・職種の絞り込みができるから			
全体	767 100.0	85 11.1	682 88.9
国公立	368 100.0	40 10.9	328 89.1
私立	399 100.0	45 11.3	354 88.7

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑤自分の強み・弱みを知ることができるから			
全体	767 100.0	270 35.2	497 64.8
国公立	368 100.0	144 39.1	224 60.9
私立	399 100.0	126 31.6	273 68.4

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑥自分の適性が分かるから			
全体	767 100.0	191 24.9	576 75.1
国公立	368 100.0	98 26.6	270 73.4
私立	399 100.0	93 23.3	306 76.7

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑦会社の社風を知ることができるから			
全体	767 100.0	85 11.1	682 88.9
国公立	368 100.0	39 10.6	329 89.4
私立	399 100.0	46 11.5	353 88.5

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑧内定獲得に直結するから			
全体	767 100.0	419 54.6	348 45.4
国公立	368 100.0	193 52.4	175 47.6
私立	399 100.0	226 56.6	173 43.4

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑨学業に良い影響があるから			
全体	767 100.0	589 76.8	178 23.2
国公立	368 100.0	279 75.8	89 24.2
私立	399 100.0	310 77.7	89 22.3

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑩フィードバックが十分にあるから			
全体	767 100.0	416 54.2	351 45.8
国公立	368 100.0	210 57.1	158 42.9
私立	399 100.0	206 51.6	193 48.4

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑪社員と密接にコミュニケーションできるから			
全体	767 100.0	170 22.2	597 77.8
国公立	368 100.0	74 20.1	294 79.9
私立	399 100.0	96 24.1	303 75.9

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑫自分の専門性を活かすことができるから			
全体	767 100.0	516 67.3	251 32.7
国公立	368 100.0	245 66.6	123 33.4
私立	399 100.0	271 67.9	128 32.1

【後輩にインターンシップを「強く勧める」「勧める」者】	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
⑬その他			
全体	15 100.0	1 6.7	14 93.3
国公立	10 100.0	1 10.0	9 90.0
私立	5 100.0	0 0.0	5 100.0

Q40. あなたが改めてインターンシップ参加を検討するとして、どのようなインターンシップなら参加しますか。下記のそれぞれに回答してください。

①企業の説明(座学)	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	279 23.3	917 76.7
国公立	592 100.0	148 25.0	444 75.0
私立	604 100.0	131 21.7	473 78.3

②業界の説明(座学)	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	372 31.1	824 68.9
国公立	592 100.0	195 32.9	397 67.1
私立	604 100.0	177 29.3	427 70.7

③入社後の業務説明	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	208 17.4	988 82.6
国公立	592 100.0	108 18.2	484 81.8
私立	604 100.0	100 16.6	504 83.4

④社員に対する質問会	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	247 20.7	949 79.3
国公立	592 100.0	130 22.0	462 78.0
私立	604 100.0	117 19.4	487 80.6

⑤新規事業についてのワークやディスカッション	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	604 50.5	592 49.5
国公立	592 100.0	290 49.0	302 51.0
私立	604 100.0	314 52.0	290 48.0

⑥社会課題やテーマについてのワークやディスカッション	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	655 54.8	541 45.2
国公立	592 100.0	326 55.1	266 44.9
私立	604 100.0	329 54.5	275 45.5

⑦検討した事業・課題についての発表・プレゼンテーション	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	603 50.4	593 49.6
国公立	592 100.0	304 51.4	288 48.6
私立	604 100.0	299 49.5	305 50.5

⑧企画・提案型の特別プロジェクト	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	625 52.3	571 47.7
国公立	592 100.0	321 54.2	271 45.8
私立	604 100.0	304 50.3	300 49.7

⑨企画・実行型の特別プロジェクト	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	633 52.9	563 47.1
国公立	592 100.0	312 52.7	280 47.3
私立	604 100.0	321 53.1	283 46.9

⑩実際の業務シミュレーション・実習・研修・体験	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	200 16.7	996 83.3
国公立	592 100.0	90 15.2	502 84.8
私立	604 100.0	110 18.2	494 81.8

⑪職場や工場の見学	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	195 16.3	1001 83.7
国公立	592 100.0	88 14.9	504 85.1
私立	604 100.0	107 17.7	497 82.3

⑫業務の同行・同席	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	279 23.3	917 76.7
国公立	592 100.0	130 22.0	462 78.0
私立	604 100.0	149 24.7	455 75.3

⑬補助的業務の一部を経験	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	329 27.5	867 72.5
国公立	592 100.0	159 26.9	433 73.1
私立	604 100.0	170 28.1	434 71.9

⑭基幹業務の一部を経験	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	401 33.5	795 66.5
国公立	592 100.0	180 30.4	412 69.6
私立	604 100.0	221 36.6	383 63.4

⑮キャリア(自らの職業選択)に関する研修	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	487 40.7	709 59.3
国公立	592 100.0	247 41.7	345 58.3
私立	604 100.0	240 39.7	364 60.3

⑯就職活動への直接的な支援(面接対策など)	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	401 33.5	795 66.5
国公立	592 100.0	232 39.2	360 60.8
私立	604 100.0	169 28.0	435 72.0

⑰実施した内容の振り返り(企業で実施するもの)	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	415 34.7	781 65.3
国公立	592 100.0	221 37.3	371 62.7
私立	604 100.0	194 32.1	410 67.9

⑱大学で実施する、インターン前後のフォローアップ	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	1196 100.0	624 52.2	572 47.8
国公立	592 100.0	322 54.4	270 45.6
私立	604 100.0	302 50.0	302 50.0

⑲その他	該当数	らあ なて いは ま	るあ ては ま
全体	11 100.0	1 9.1	10 90.9
国公立	9 100.0	0 0.0	9 100.0
私立	2 100.0	1 50.0	1 50.0

Q41. 大学での学修行動などへ良い影響(大学で学んだ内容をインターンシップで活かすとともに、今後大学で学ぶ内容を決定する)をもたらすために、望ましいインターンシップの時期はいつですか。望ましいと思う時期を1つだけ選んでください。

	該当数	大学1年生	大学2年生	大学3年生	大学4年生	大学5年生	大学6年生	大学7年生	大学8年生	大学9年生	大学10年生	大学院1年生	大学院2年生	大学院3年生	大学院4年生	大学院5年生	大学院6年生	大学院7年生	大学院8年生	大学院9年生	大学院10年生
全体	1196 100.0	50 4.2	234 19.6	159 13.3	340 28.4	67 5.6	53 4.4	8 0.7	10 0.8	5 0.4	2 0.2	6 0.5	79 6.6	23 1.9	16 1.3	8 0.7	8 0.7	0 0.0	0 0.0	1 0.1	
国公立	592 100.0	30 5.1	107 18.1	61 10.3	140 23.6	26 4.4	21 3.5	4 0.7	5 0.8	2 0.3	2 0.3	6 1.0	70 11.8	19 3.2	14 2.4	7 1.2	8 1.4	0 0.0	0 0.0	1 0.2	
私立	604 100.0	20 3.3	127 21.0	98 16.2	200 33.1	41 6.8	32 5.3	4 0.7	5 0.8	3 0.5	0 0.0	0 0.0	9 1.5	4 0.7	2 0.3	1 0.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0		

		卒業後	わからない
全体		17 1.4	110 9.2
国公立		10 1.7	59 10.0
私立		7 1.2	51 8.4

Q42. あなたが望ましいと思う1社あたりのインターンシップの長さはどれぐらいですか。望ましいと思う期間を1つだけ選んでください。

	該当数	1日	2日	3 ~ 4日	15 0日 以上 未 満	1 1 カ 0 日 未 満 上	3 1 カ カ 月 未 満 上	3 カ 月 以 上
全体	1196 100.0	188 15.7	167 14.0	428 35.8	268 22.4	92 7.7	36 3.0	17 1.4
国公立	592 100.0	68 11.5	82 13.9	223 37.7	125 21.1	62 10.5	21 3.5	11 1.9
私立	604 100.0	120 19.9	85 14.1	205 33.9	143 23.7	30 5.0	15 2.5	6 1.0

---

令和元年度文部科学省先導的<sub>1</sub>大学改革推進委託事業  
就職・採用活動に関連して実施されているインターンシップに関する調査研究 報告書

令和2年3月

委託元：文部科学省高等教育局学生・留学生課

発行：株式会社シー・ディー・アイ

〒604-0863 京都市中京区室町東入巴町83番地

TEL.075-253-0660

---